川越市障害者支援計画アンケート調査報告書

平成 26 年 3 月

川　越　市

目 次

Ⅰ 調査概要
1 調査目的…… 1
2 調査対象…… 1
3 調査時期…… 1
4 調査方法…… 1
5 回収状況…… 1
6 調査項目…… 2

Ⅱ 調査結果

[身体障害者]
1 基本的な属性…… 3
2 介助・援助の状況 …… 7
3 外出や余暇活動等の状況 …… 9
4 健康状態や医療について…… 16
5 日中の過ごし方 …… 18
6 幼稚園・保育園・学校について…… 19
7 雇用・就労について …… 20
8 相談・情報入手について…… 25
9 福祉サービスについて…… 30
10 将来の希望…… 33
11 災害対策について …… 34
12 差別・疎外感、権利擁護について…… 38
13 行政への要望等…… 42

[知的障害者]
1 基本的な属性…… 50
2 介助・援助の状況 …… 54
3 外出や余暇活動等の状況 …… 57
4 健康状態や医療について…… 63
5 日中の過ごし方 …… 65
6 幼稚園・保育園・学校について…… 66
7 雇用・就労について …… 67
8 相談・情報入手について…… 72
9 福祉サービスについて…… 76
10 将来の希望…… 79
11 災害対策について …… 80
12 差別・疎外感、権利擁護について…… 83
13 行政への要望等…… 86

[精神障害者]

1　基本的な属性…… 92
2　介助・援助の状況 …… 96
3　外出や余暇活動等の状況 …… 98
4　健康状態や医療について…… 102
5　日中の過ごし方 …… 104
6　幼稚園・保育園・学校について…… 105
7　雇用・就労について …… 106
8　相談・情報入手について…… 111
9　福祉サービスについて…… 116
10　将来の希望…… 119
11　災害対策について …… 120
12　差別・疎外感、権利擁護について…… 123
13　行政への要望等…… 126

[難病患者]

1　基本的な属性…… 131
2　介助・援助の状況 …… 133
3　外出や余暇活動等の状況 …… 135
4　健康状態や医療について…… 141
5　日中の過ごし方 …… 142
6　幼稚園・保育園・学校について…… 143
7　雇用・就労について …… 143
8　相談・情報入手について…… 148
9　福祉サービスについて…… 152
10　将来の希望…… 154
11　災害対策について …… 155
12　差別・疎外感、権利擁護について…… 157
13　行政への要望等…… 161

[施設入所者]

1　基本的な属性…… 165
2　施設入所の状況…… 167
3　施設での生活状況…… 168
4　将来の希望…… 175

[特別支援学校高等部]

1　基本的な属性…… 181
2　介助・援助の状況 …… 183
3　学校卒業後について …… 184

[グループホーム・ケアホーム入居者]

1　基本的な属性…… 188
2　介助・援助の状況 …… 190
3　雇用・就労について …… 192
4　福祉サービスについて…… 193
5　将来の希望…… 196
6　差別・疎外感、権利擁護について …… 197
7　行政への要望等 …… 199

[高次脳機能障害者・発達障害者]

1　基本的な属性…… 200
2　介助・援助の状況 …… 201
3　外出や余暇活動等の状況 …… 202
4　健康状態や医療について…… 203
5　日中の過ごし方 …… 203
6　幼稚園・保育園・学校について…… 204
7　雇用・就労について …… 204
8　相談・情報入手について…… 205
9　福祉サービスについて…… 206
10　将来の希望…… 207
11　災害対策について …… 207
12　差別・疎外感、権利擁護について…… 208
13　行政への要望等…… 209

資料：調査票

1　調査目的

障害者支援計画（第３次障害者計画・第３期障害福祉計画）の見直しを行い、次期計画を策定するにあたり、障害者の生活上の課題・住民ニーズを明らかにするため市民意識調査を行い、その分析データを活用する。

2　調査対象

対象者	抽出方法
身体障害者調査	身体障害者手帳所持者から 1,500 人を無作為抽出
知的障害者調査	みどりの手帳（療育手帳）所持者から 400 人を無作為抽出
精神障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から 400 人を無作為抽出
難病患者調査	特定疾患医療給付制度利用者から 350 人を無作為抽出
高次脳機能障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から９人を抽出
発達障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から 25 人を抽出
施設入所者調査	施設入所者全員 261 人
特別支援学校高等部３年生調査	特別支援学校高等部３年生全員 71 人
グループホーム・ケアホーム入居者調査	グループホーム・ケアホーム入居者全員 122 人

3　調査時期

平成 25 年９月～12 月

4　調査方法

身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、高次脳機能障害者、発達障害者については、郵送配布・郵送回収により調査を実施した。施設入所者、特別支援学校高等部３年生、グループホーム・ケアホーム入居者については、学校及び各施設等を通じて配布・回収を行った。

5　回収状況

調査区分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者調査	1,500	920	61.3%
知的障害者調査	400	231	57.8%
精神障害者調査	400	228	57.0%
難病患者調査	350	212	60.6%
高次脳機能障害者調査	9	1	11.1%
発達障害者調査	25	11	44.0%
施設入所者調査	261	248	95.0%
特別支援学校高等部３年生調査	71	51	71.8%
グループホーム・ケアホーム入居者調査	122	118	96.7%

6　調査項目

- 基本的な属性
- 介助・援助の状況
- 外出や余暇活動等の状況
- 健康状態や医療について
- 日中の過ごし方
- 幼稚園・保育園・学校について
- 雇用・就労について
- 相談・情報入手について
- 福祉サービスについて
- 将来の希望
- 災害対策について
- 差別・疎外感、権利擁護について
- 行政への要望等
- 施設入所の状況　※ 施設入所者のみ
- 施設での生活状況　※ 施設入所者のみ
- 学校卒業後について　※ 特別支援学校高等部３年生調査のみ

《この報告書における調査結果の見方》

○ 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は TOTAL 及び n で示している。

○ 回答率(%)については、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも 100%とはならない場合がある。

○ 回答には、単一回答（○は１つ）と複数回答（○はいくつでも）の 2 種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は 100%を超える場合がある。

○ 図表の問のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な問のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。

○ 自由回答を掲載する場合は、年齢・性別・障害者の種類（身体障害のみ）もあわせて掲載しているが、紙面の都合上、以下のように省略して表記している。

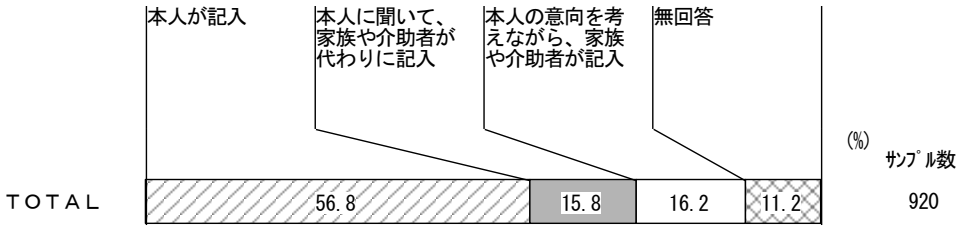
「視覚障害」→「視覚」
「聴覚障害」→「聴覚」
「平衡機能障害」→「平衡」
「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」→「音声」
「上肢・下肢機能障害、脳病変による運動機能障害」→「上下肢」
「体幹機能障害」→「体幹」
「心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸などの機能障害」→「内部」

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

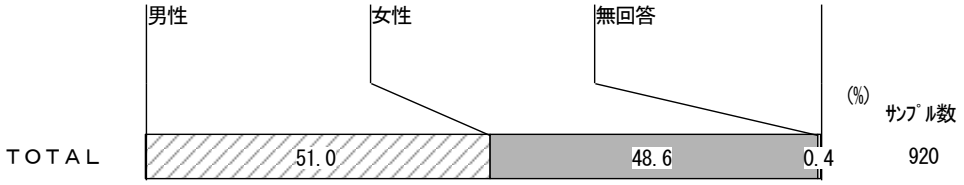
「本人が記入」が 56.8%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 15.8%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 16.2%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

男性が 51.0%、女性が 48.6%である。

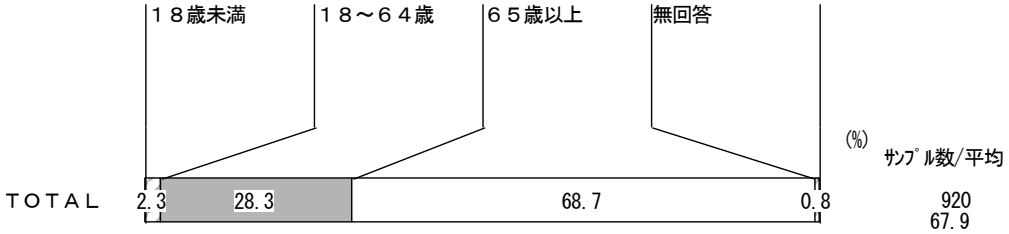


（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

65 歳以上が約７割（68.7%）を占め、平均年齢は 67.9 歳である。

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
n=920	1.1%	1.6%	1.5%	2.2%	4.9%	8.2%	25.2%	32.6%	22.0%	0.8%



（４）居住場所

問４ 現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は１つ）

約９割（88.5%）が、「自宅」で暮らしている。

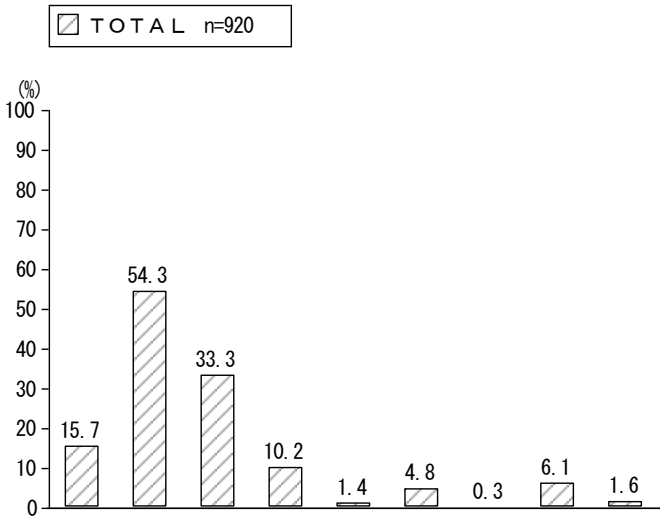
	自宅	グループホーム	ケアホーム	病院に入院している	施設に入所している	その他	無回答
n=920	88.5%	0.3%	0.7%	4.3%	3.6%	1.8%	0.8%

（５）同居者

問５ 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「配偶者」と暮らしている人は 54.3%、「子ども」と暮らしている人は 33.3%である。

年代別にみると、「自分一人だけで暮らしている」人の割合は、50 代では 16.0%、60 代では 14.2%、70 代では 17.7%、80 歳以上では 17.3%となっている。

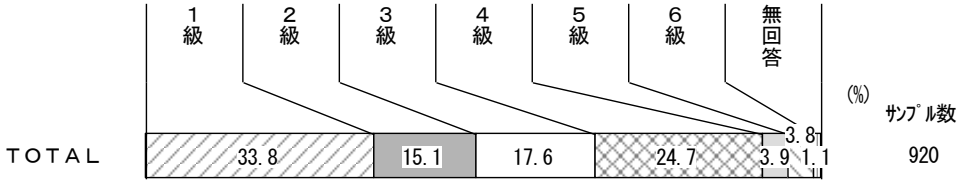


	問３ 年齢（１０歳刻み）	n	1 自分一人だけで暮らしている	2 配偶者（夫または妻）	3 子ども（子どもの配偶者も含む）	4 父、母	5 祖父、祖母	6 兄弟、姉妹	7 その他の親せき	8 その他	9 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	15.7	54.3	33.3	10.2	1.4	4.8	0.3	6.1	1.6
1	１０歳未満	10	0.0	0.0	0.0	100.0	30.0	60.0	0.0	0.0	0.0
2	１０代	15	0.0	6.7	0.0	86.7	26.7	80.0	0.0	6.7	0.0
3	２０代	14	7.1	0.0	0.0	78.6	14.3	21.4	0.0	7.1	7.1
4	３０代	20	20.0	25.0	20.0	40.0	0.0	10.0	0.0	5.0	0.0
5	４０代	45	8.9	28.9	26.7	55.6	2.2	13.3	0.0	4.4	2.2
6	５０代	75	16.0	50.7	28.0	22.7	2.7	6.7	0.0	5.3	0.0
7	６０代	232	14.2	72.4	34.1	3.0	0.4	2.2	0.4	4.7	0.4
8	７０代	300	17.7	65.3	32.7	0.7	0.0	1.0	0.0	4.7	1.3
9	８０歳以上	202	17.3	38.6	44.6	0.5	0.0	1.0	1.0	10.9	2.5
10	無回答	7	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9

（６）障害程度

問６ 「身体障害者手帳」に記載された障害の程度をお答えください。（○は１つ）

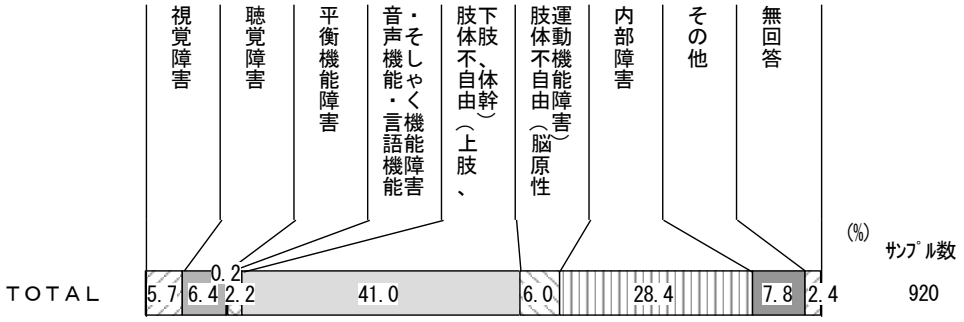
身体障害者手帳に記載されている障害の程度は、「１級」が 33.8%と最も多い。



（７）障害種別

問７ 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。主な障害１つをお答えください。（○は１つ）

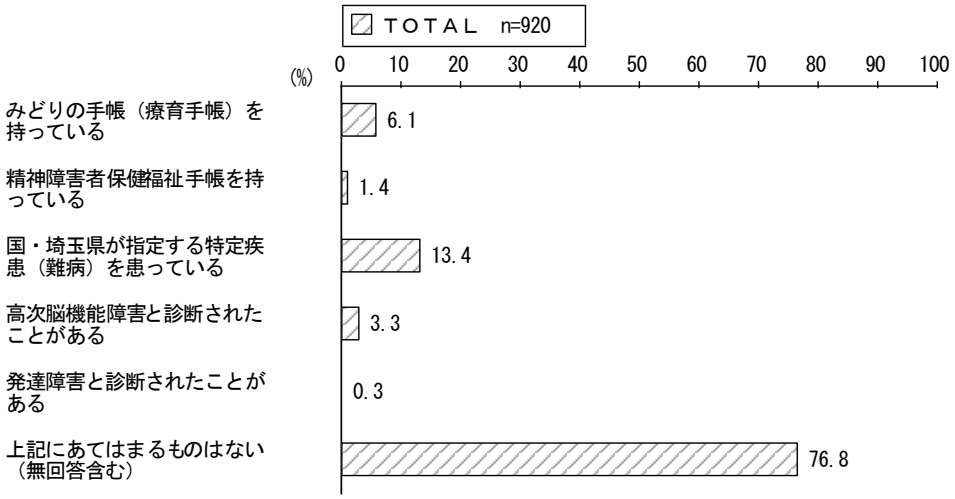
身体障害者手帳に記載されている主な障害は、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹）」が 41.0%と最も多く、「内部障害」が 28.4%で続いている。



（８）他の障害の状況

問８ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

身体障害以外の障害との重複状況をみると、13.4%の人は「国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている」、6.1%の人は「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」と回答している。

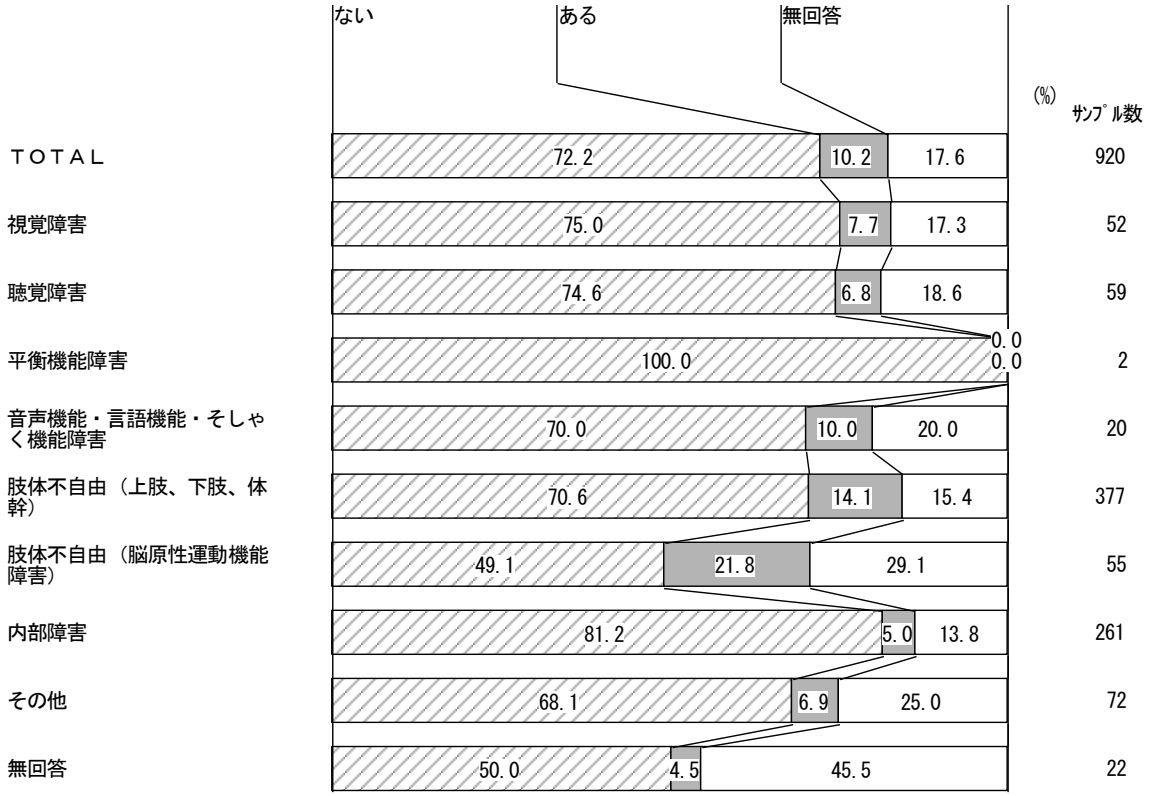


（９）障害程度区分

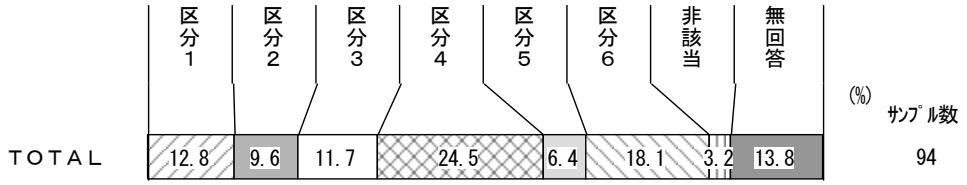
問９ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」人は約１割（10.2%）で、区分としては「区分４」が24.5%と最も多い。

主な障害の種類別にみると、「肢体不自由（脳原性運動機能障害）」の人では、約２割（21.8%）が認定を受けたことが「ある」と回答している。



《認定区分内訳》



《身体障害者手帳の障害程度と認定区分との関係》

障害程度	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	無回答
１級	45	15.6%	6.7%	11.1%	17.8%	6.7%	24.4%	4.4%	13.3%
２級	18	22.2%	22.2%	5.6%	22.2%	－	16.7%	－	11.1%
３級	8	12.5%	12.5%	37.5%	25.0%	－	－	－	12.5%
４級	16	－	6.3%	－	56.3%	－	6.3%	6.3%	25.0%
５級	4	－	－	25.0%	－	75.0%	－	－	－
６級	3	－	－	33.3%	－	－	66.7%	－	－

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問 10 ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は約４割（38.8%）で、約６割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は「配偶者」が 25.5%と最も多い。なお、具体的な介助・援助者を選択した人でみると、「配偶者」が 46.0%を占めている。

年代別にみると、40 代までは「親」が主な介助・援助者である割合が最も高いが、50 代から 70 代では「配偶者」、80 歳以上では「子ども」の割合が最も高くなっている。

	n	特に介助・援助は受けていない	親	配偶者	子ども	子どもの配偶者	兄弟姉妹	その他の親せき	近隣の人、知人・友人	ホームヘルパー	その他	無回答
TOTAL	920	38.8%	5.7%	25.5%	10.7%	1.6%	1.3%	0.4%	0.4%	4.7%	5.2%	5.7%
10歳未満	10	10.0%	90.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－
10代	15	33.3%	66.7%	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20代	14	50.0%	42.9%	－	－	－	－	－	－	－	－	7.1%
30代	20	40.0%	20.0%	10.0%	5.0%	5.0%	－	－	－	5.0%	5.0%	10.0%
40代	45	44.4%	31.1%	11.1%	2.2%	－	－	－	－	2.2%	6.7%	2.2%
50代	75	62.7%	10.7%	12.0%	2.7%	－	2.7%	1.3%	－	4.0%	2.7%	1.3%
60代	232	48.3%	0.4%	31.5%	3.9%	－	2.2%	0.4%	－	3.9%	5.2%	4.3%
70代	300	37.0%	－	34.3%	11.3%	0.7%	1.7%	0.3%	0.7%	4.3%	3.7%	6.0%
80歳以上	202	22.8%	－	20.8%	24.3%	5.9%	－	0.5%	1.0%	7.9%	9.4%	7.4%
無回答	7	－	－	14.3%	28.6%	－	－	－	－	－	－	57.1%

	親	配偶者	子ども	子どもの配偶者	兄弟姉妹	その他の親せき	近隣の人、知人・友人	ホームヘルパー	その他
主な介助・援助者に記入あり n=511	10.2%	46.0%	19.2%	2.9%	2.3%	0.8%	0.8%	8.4%	9.4%

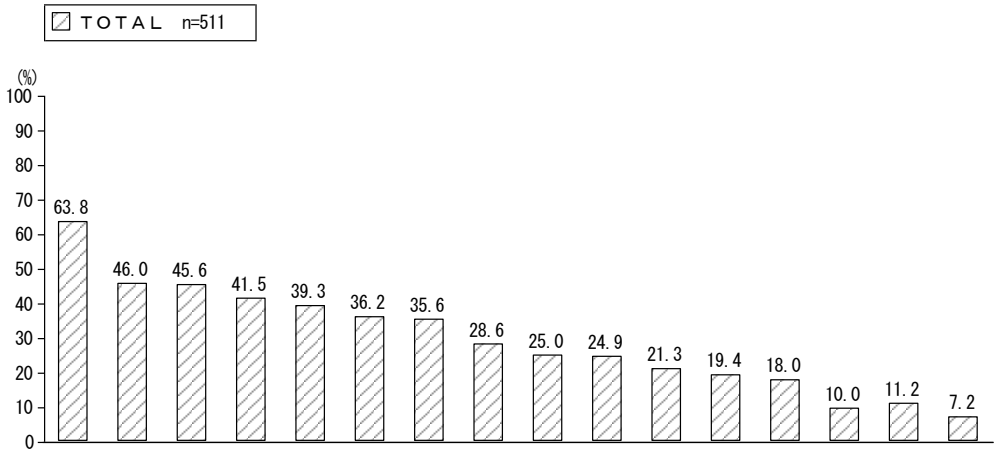
（２）介助・援助を受けている場面

問 11 どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「外出をするとき」が 63.8%と最も多く、次いで「簡単な買物をするとき」（46.0%）、「洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき」（45.6%）と続いている。

主な障害の種類別にみると、それぞれの障害で半数を超える人が介助・援助を受けている場面は、「外出をするとき」を除き、聴覚障害では「電話の応対をするとき」（58.3%）、音声機能・言語機能・そしゃく機能障害では「電話の応対をするとき」（55.6%）、「人とコミュニケーションをとるとき」（55.6%）、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「入浴するとき」（67.4%）、「洗濯をするとき」（58.7%）、「着替えをするとき」（58.7%）、「簡単な買物をするとき」（56.5%）である。



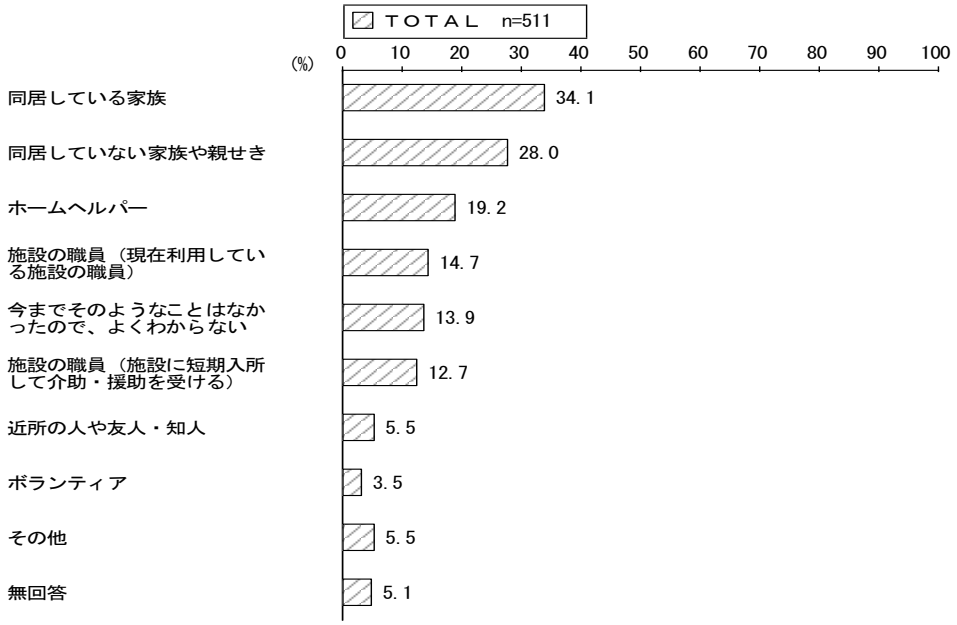
問7 身体障害者手帳に記載の主な障害		n	13 外出をするとき	8 簡単な買物をするとき	9 洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき	2 食事をつくるとき	5 入浴をするとき	10 お金の管理をするとき	4 着替えをするとき	11 電話の応対をするとき	3 トイレを使用するとき	1 食事をするとき	12 室内で移動するとき	14 人とコミュニケーションをとるとき	6 洗顔・歯磨きのとき	7 寝返りをするとき	15 その他	16 無回答
0	TOTAL	511	63.8	46.0	45.6	41.5	39.3	36.2	35.6	28.6	25.0	24.9	21.3	19.4	18.0	10.0	11.2	7.2
1	視覚障害	33	66.7	42.4	48.5	45.5	27.3	36.4	18.2	24.2	12.1	18.2	18.2	21.2	12.1	9.1	12.1	9.1
2	聴覚障害	36	52.8	27.8	25.0	16.7	13.9	36.1	22.2	58.3	13.9	19.4	13.9	47.2	16.7	0.0	5.6	8.3
3	平衡機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	18	55.6	33.3	50.0	38.9	44.4	38.9	44.4	55.6	27.8	50.0	5.6	55.6	16.7	5.6	5.6	5.6
5	肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	218	68.8	50.0	46.3	44.0	46.3	35.3	41.3	24.3	31.2	23.4	25.7	13.8	19.3	12.4	9.2	6.4
6	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	46	65.2	56.5	58.7	41.3	67.4	47.8	58.7	37.0	45.7	45.7	34.8	26.1	34.8	23.9	13.0	2.2
7	内部障害	112	60.7	40.2	41.1	41.1	22.3	33.9	19.6	21.4	9.8	17.0	8.9	11.6	4.5	1.8	15.2	9.8
8	その他	35	57.1	57.1	65.7	57.1	45.7	34.3	48.6	28.6	31.4	25.7	31.4	22.9	40.0	17.1	20.0	2.9
9	無回答	11	54.5	36.4	18.2	27.3	36.4	27.3	27.3	27.3	18.2	27.3	27.3	9.1	18.2	9.1	0.0	27.3

（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

問 12 あなたを主に介助・援助している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、替わりに誰に介助・援助してもらいたいと思いますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

主な介助・援助者が不在のときには、替わりに「同居している家族」の介助・援助を希望する人が 34.1%と最も多く、次いで「同居していない家族や親せき」（28.0%）、「ホームヘルパー」（19.2%）と続いている。



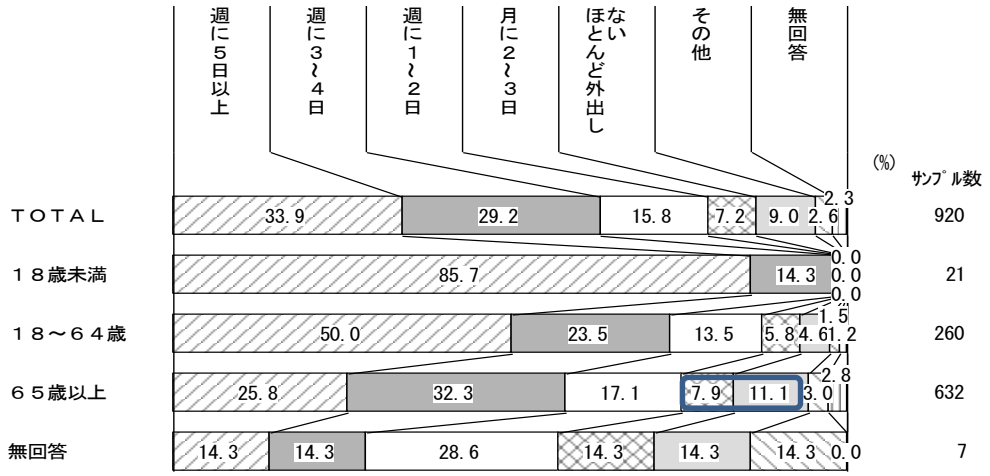
3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

問 13 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。（○は１つ）

外出の頻度は、「週に５日以上」が 33.9%、「週に３～４日」が 29.2%で、「ほとんど外出しない」人は 9.0%となっている。

年代別にみると、65 歳以上では「月２～３日」が 7.9%、「ほとんど外出しない」が 11.1%となっており、外出が週に１回未満である人が約２割を占めている状況である。



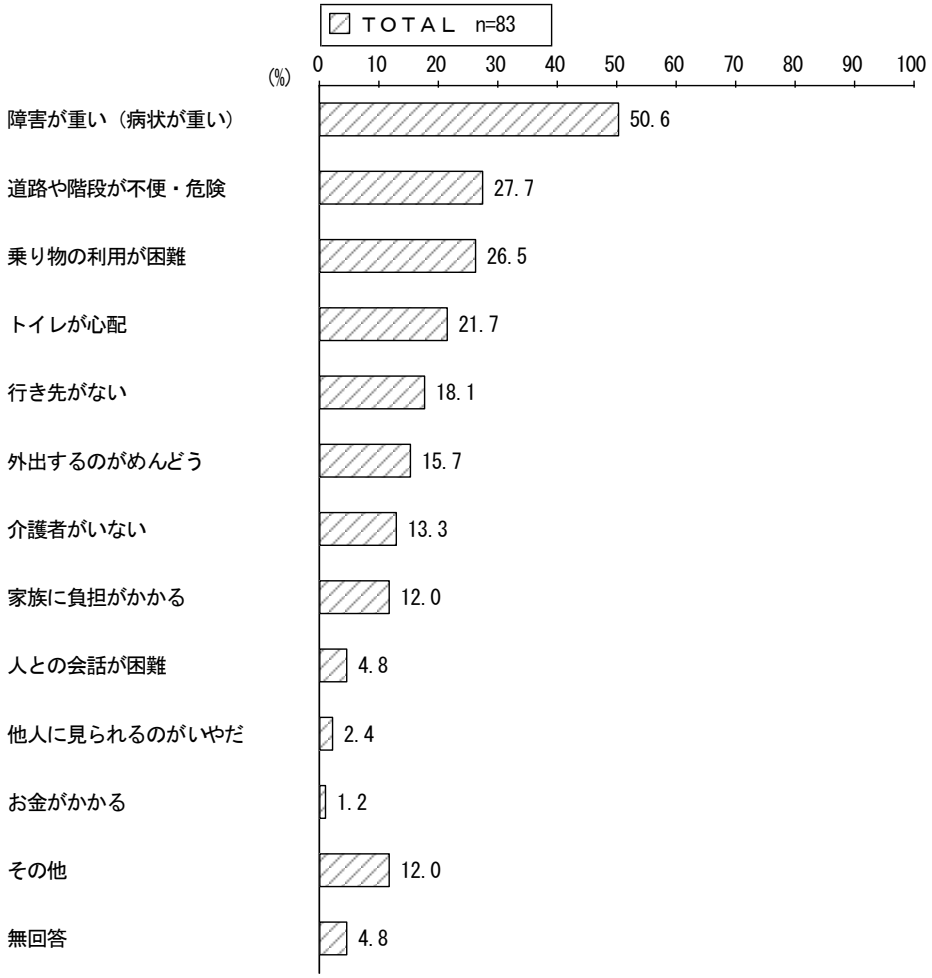
（２）外出をしない理由

問 14 外出をしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［ほとんど外出しない方におききします］

外出をしない理由としては、「障害が重い（病状が重い）」ことをあげる人が 50.6%と最も多く、次いで「道路や階段が不便・危険」（27.7%）、「乗り物の利用が困難」（26.5%）と続いている。なお、「行き先がない」と回答した人が 18.1%みられる。

なお、「行き先がない」と回答した 15 人の年代をみると、50 代 1 人、60 代 2 人、70 代 3 人、80 歳以上 9 人となっている。

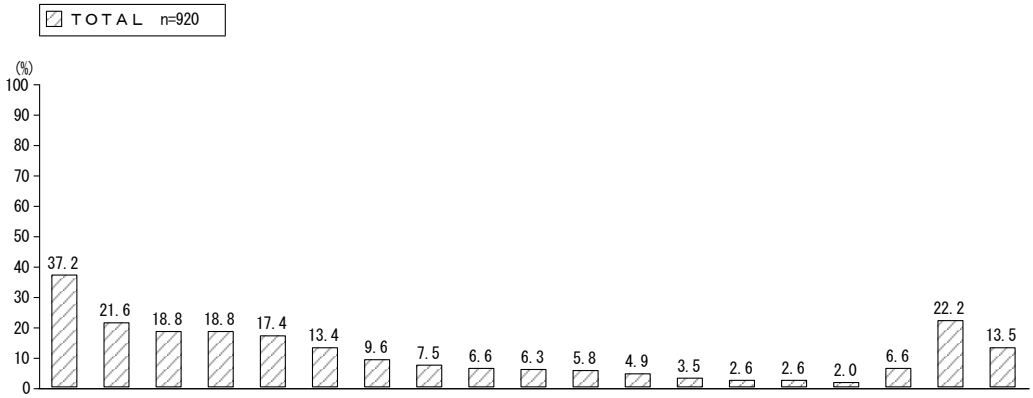


（３）外出の際に困っていること

問 15　外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」をあげる人が 37.2%と最も多い。

主な障害の種類別にみると、視覚障害では 26.9%の人が「視覚障害者用誘導ブロックや音響式信号が不十分である」と感じていることがわかる。また、聴覚障害者では 32.2%の人が「聴覚障害者のための音声情報以外の情報が少ない」と回答している。



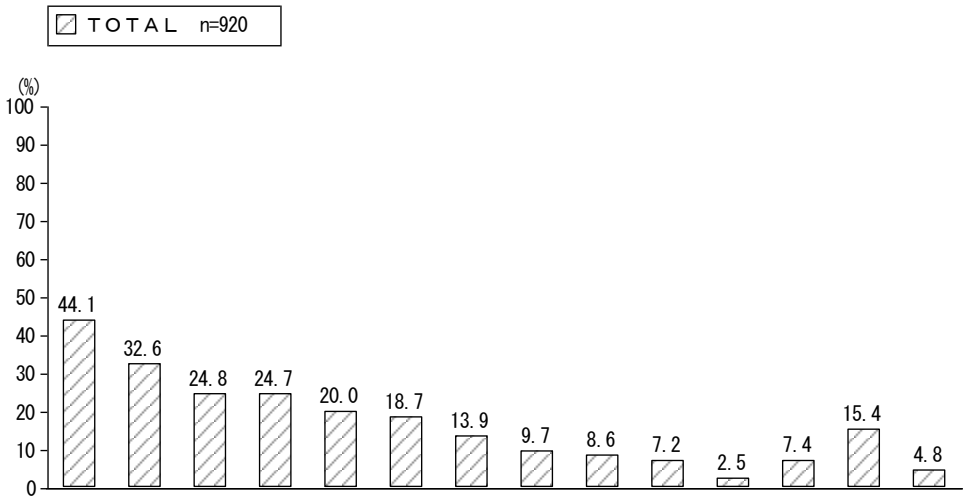
	問７　身体障害者手帳に記載の主な障害	n	2 道が多い建物・駅に階段や段差	3 バスや電車の乗り降りが困難	1 障害者用トイレが少ない	5 ない障害者用の駐車スペースが少	4 歩道が整備されていない	7 障害物があって通りにくい通路上に自転車や看板などの	12 建物の出入り口が狭かったり、開けにくい	11 低い操作盤等のついた福祉対応のエレベーターが少ない	16 困ったときに手助けしてもらえない	14 外出時に利用したい福祉サービスを使うことができない	15 自分の意思を理解してもらえない	13 公衆ファクシミリや障害者用電話が少ない	9 聴覚障害者のための音声情報以外の情報が少ない	6 バスや電車内で運行状況の案内表示がない	8 視覚障害者用誘導ブロックや音響式信号が不十分である	10 建物の出入り口に音声ガイドシステム等の設置が少ない	17 その他	18 特に困っていることはない	19 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	37.2	21.6	18.8	18.8	17.4	13.4	9.6	7.5	6.6	6.3	5.8	4.9	3.5	2.6	2.6	2.0	6.6	22.2	13.5
1	視覚障害	52	48.1	30.8	17.3	11.5	21.2	34.6	11.5	11.5	15.4	13.5	15.4	3.8	9.6	0.0	26.9	23.1	11.5	13.5	15.4
2	聴覚障害	59	8.5	6.8	5.1	3.4	3.4	1.7	0.0	5.1	5.1	3.4	8.5	10.2	32.2	8.5	0.0	0.0	8.5	32.2	20.3
3	平衡機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	20	30.0	20.0	20.0	30.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	20.0	35.0	15.0	5.0	0.0	5.0	0.0	10.0	5.0	15.0
5	肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	377	45.9	29.4	24.4	25.5	22.8	14.9	14.3	9.8	6.9	7.2	4.5	2.9	0.8	2.4	1.3	1.1	5.8	16.4	11.4
6	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	55	34.5	27.3	36.4	23.6	23.6	23.6	14.5	10.9	14.5	7.3	9.1	12.7	1.8	3.6	3.6	0.0	12.7	9.1	12.7
7	内部障害	261	31.8	13.0	12.3	13.4	11.5	10.3	4.6	4.2	3.4	3.8	3.1	5.4	0.8	2.7	0.8	0.8	4.2	34.9	11.1
8	その他	72	34.7	12.5	15.3	15.3	18.1	6.9	6.9	4.2	5.6	4.2	1.4	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	23.6	20.8
9	無回答	22	22.7	27.3	9.1	18.2	13.6	4.5	9.1	0.0	9.1	4.5	9.1	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	9.1	9.1	31.8

（４）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

問 16 どのような生涯学習活動や余暇活動をしていますか。（○はいくつでも）

現在行っている生涯学習活動・余暇活動としては、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人が 44.1%と最も多く、次いで「近所を散歩する」（32.6%）、「趣味の活動をする」（24.8%）、「友人・知人と会って交流を深める」（24.7%）と続いている。なお、「特に何もしてない」人が 15.4%みられる。

年代別にみると、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」や「図書館・博物館等に行く」は、年代が低いほど活動している人の割合が高く、反対に「近所を散歩する」は年代が高いほど活動する人の割合が高い。また、65 歳以上では「特に何もしていない」人が 17.9%となっている。



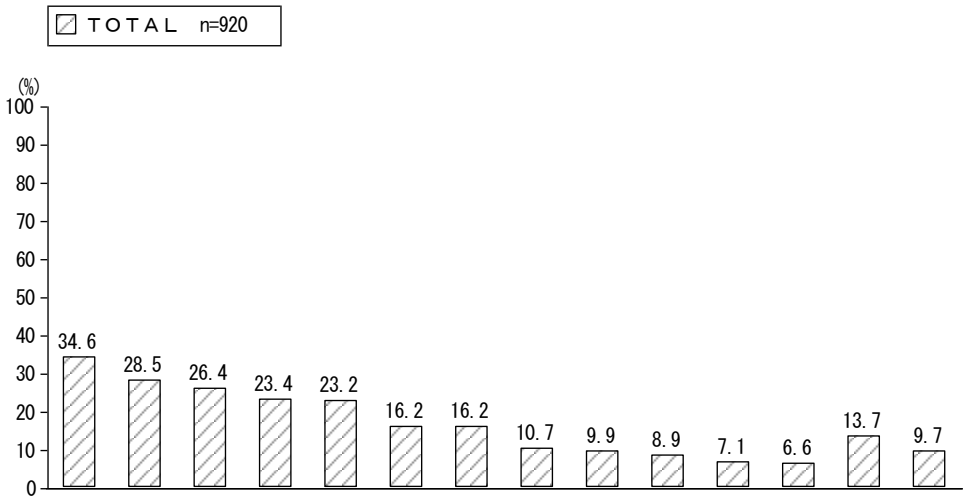
	問３ 年齢（３区分）	n	11 テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	3 近所を散歩する	1 趣味の活動をする	4 友人・知人と会って交流を深める	5 デパートや店等を見て歩く	8 旅行に出かける	6 ライブ・ケ等に行く観劇・映画・コンサート・カ	10 図書館・博物館等に行く	9 地域の行事や活動に参加する	7 スポーツをする	2 教養・資格取得等に関する学習をする	12 その他	13 特に何もしてない	14 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	44.1	32.6	24.8	24.7	20.0	18.7	13.9	9.7	8.6	7.2	2.5	7.4	15.4	4.8
1	１８歳未満	21	76.2	23.8	14.3	23.8	19.0	19.0	19.0	19.0	23.8	23.8	4.8	0.0	14.3	9.5
2	１８～６４歳	260	54.6	28.5	33.1	26.9	28.5	24.2	21.2	12.3	6.9	6.9	4.6	5.8	10.0	2.7
3	６５歳以上	632	38.6	34.3	22.0	23.9	16.5	16.3	10.8	8.2	8.9	6.8	1.6	8.2	17.9	5.5
4	無回答	7	57.1	57.1	0.0	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

（５）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

問 17　今後、どのような生涯学習活動や余暇活動をしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、「旅行に出かける」をあげる人が 34.6%と最も多い。

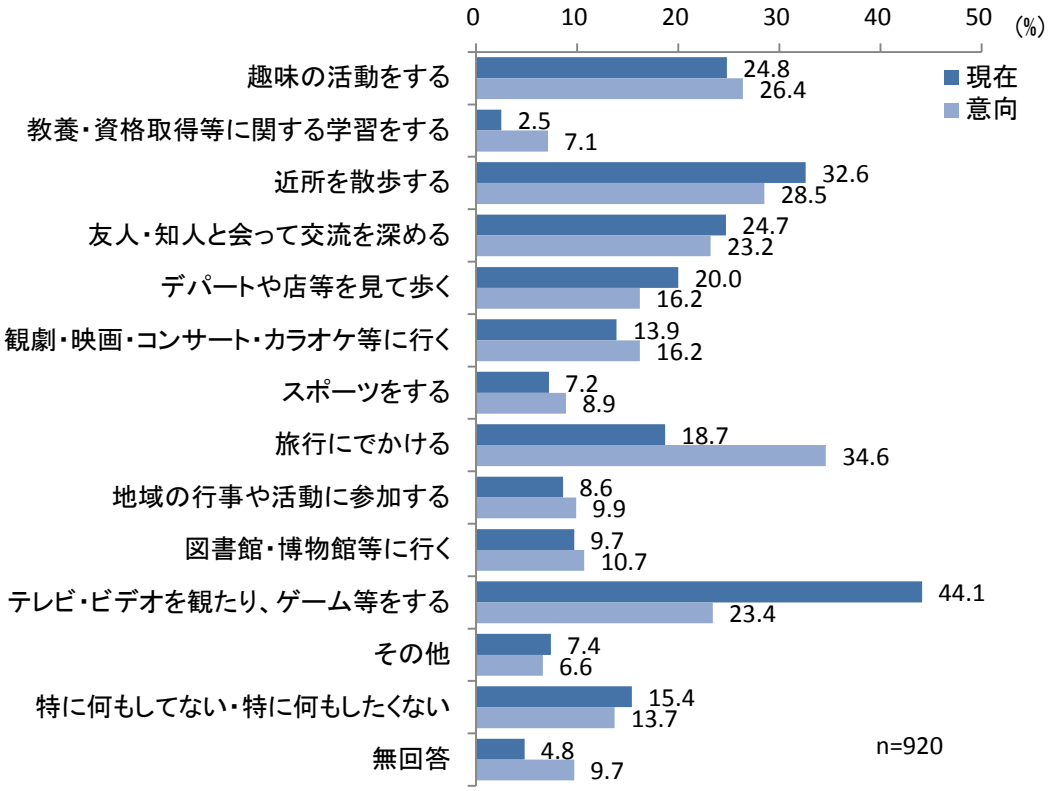
年代別にみると、「旅行に出かける」をあげる人の割合は、「18 歳未満」、「18～64 歳」では４割を超えている。また、多くの項目では、年代が低いほど活動の意向が高い傾向にあり、「18 歳未満」では「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」（38.1%）や「観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く」（38.1%）、「スポーツをする」（33.3%）などを希望する人の割合が３割以上と高くなっている。一方、「65 歳以上」では「特に何もしたくない」と回答した人が 16.3%みられる。



	問３　年齢（３区分）	n	8 旅行に出かける	3 近所を散歩する	1 趣味の活動をする	11 テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	4 友人・知人と会って交流を深める	5 デパートや店等を見て歩く	6 観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	10 図書館・博物館等に行く	9 地域の行事や活動に参加する	7 スポーツをする	2 教養・資格取得等に関する学習をする	12 その他	13 特に何もしたくない	14 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	34.6	28.5	26.4	23.4	23.2	16.2	16.2	10.7	9.9	8.9	7.1	6.6	13.7	9.7
1	１８歳未満	21	42.9	19.0	28.6	38.1	28.6	28.6	38.1	14.3	23.8	33.3	14.3	4.8	9.5	19.0
2	１８～６４歳	260	46.2	26.9	35.0	28.8	23.5	23.8	24.6	14.6	11.9	11.9	14.6	5.4	8.1	6.9
3	６５歳以上	632	29.6	29.4	23.1	20.6	22.6	12.5	11.9	8.9	8.7	7.0	3.8	7.1	16.3	10.4
4	無回答	7	28.6	28.6	0.0	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3

実際の活動状況と今後の意向を比べてみると、「旅行」については、実際に出かけている人は 18.7%（意向は 34.6%）にとどまっており、「旅行に出かけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。

《実際の活動状況と今後の意向の比較》



また、現在「特に何もしていない」と回答した人について、今後の意向をみてみると、142 人中 82 人（57.7%）は今後も「特に何もしたくない」と回答しているが、「無回答」を除く残り 53 人（37.3%）は、今後は何らかの活動を行っていきたいと考えていることがわかる。

《現在「特に何もしてない」人の今後の意向》

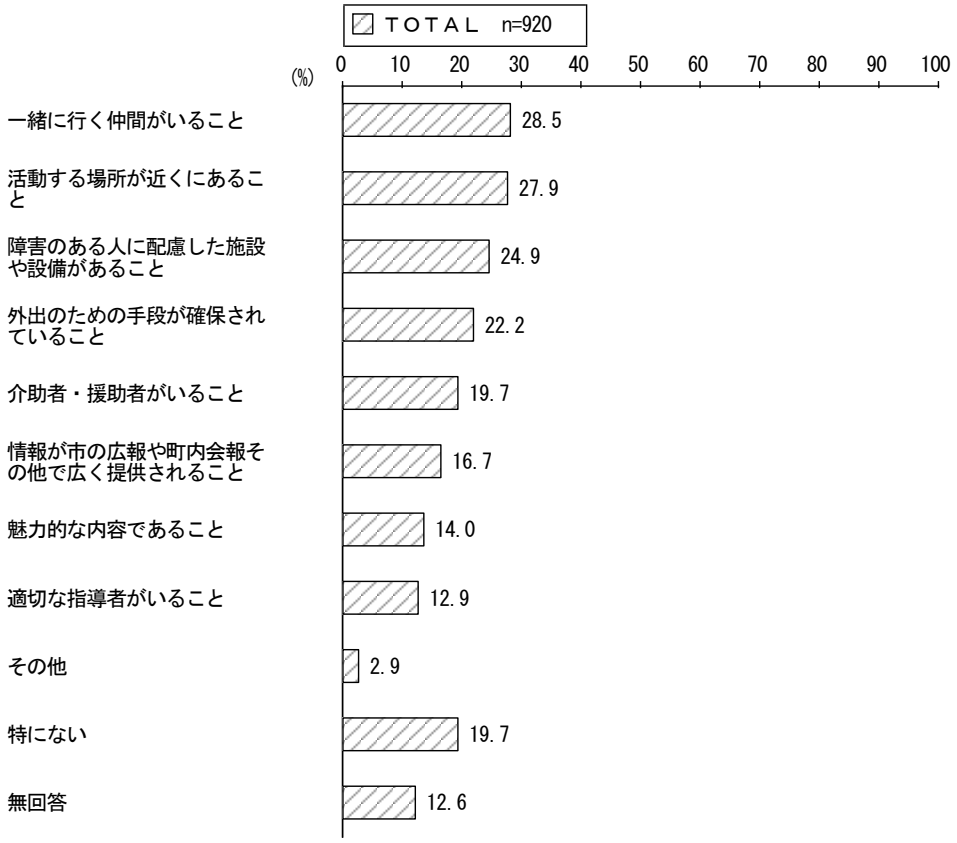
	近所を散歩する	旅行に出かける	デパートや店等を見て歩く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	趣味の活動をする	友人・知人と会って交流を深める	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	教養・資格取得等に関する学習をする	図書館・博物館等に行く	その他	特に何もしたくない	無回答
現在「特に何もしていない」と回答 n=142	15.5%	12.0%	6.3%	5.6%	4.9%	4.9%	4.2%	0.7%	0.7%	7.7%	57.7%	4.9%

142 人中 53 人は「今後は活動したい」と回答

（６）希望する活動を行うために必要な条件

問 18 あなたは、上記のような活動をするために、どのような条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

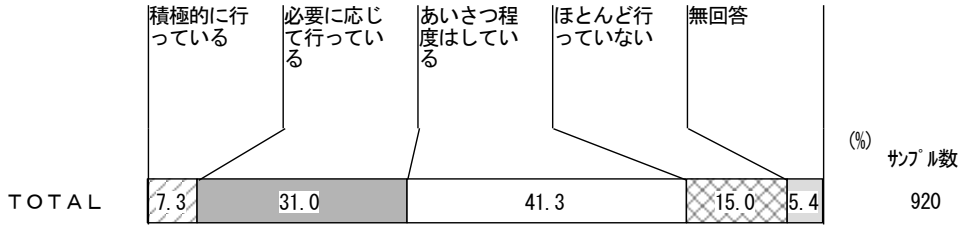
希望する活動を行うために必要な条件としては、「一緒に行く仲間がいること」をあげる人が 28.5%と最も多く、次いで「活動する場所が近くにあること」（27.9%）、「障害のある人に配慮した施設や設備があること」（24.9%）と続いている。



（７）近所とのつきあいの程度

問 19 ご近所とのおつきあいは、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

近所とのつきあいの程度は、「あいさつ程度はしている」が 41.3%と最も多く、次いで「必要に応じて行っている」が 31.0%で続いている。

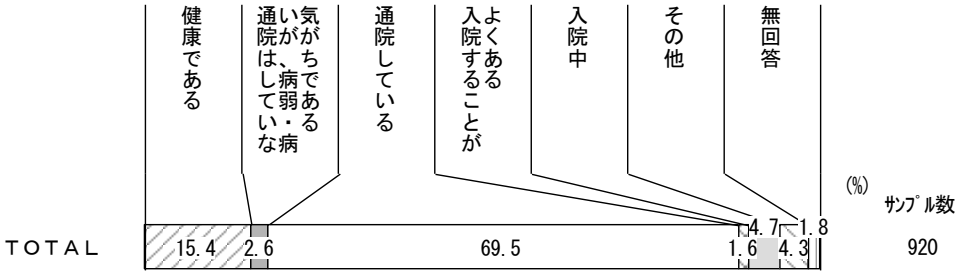


4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

問 20 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は１つ）

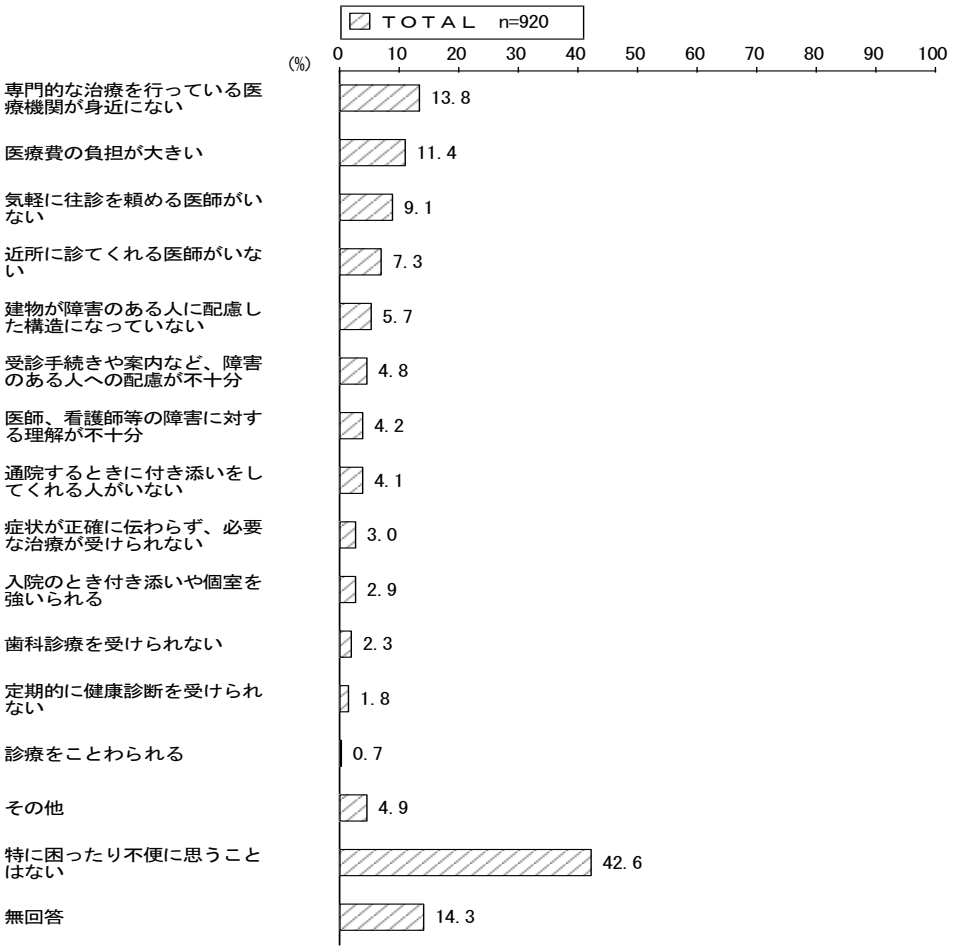
約７割の人が現在「通院している」（69.5%）。



（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 21 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。（○はいくつでも）

健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、42.6%の人が「特にない」と回答しているが、１割以上の人があげている項目には、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（13.8%）、「医療費の負担が大きい」（11.4%）の２項目がある。

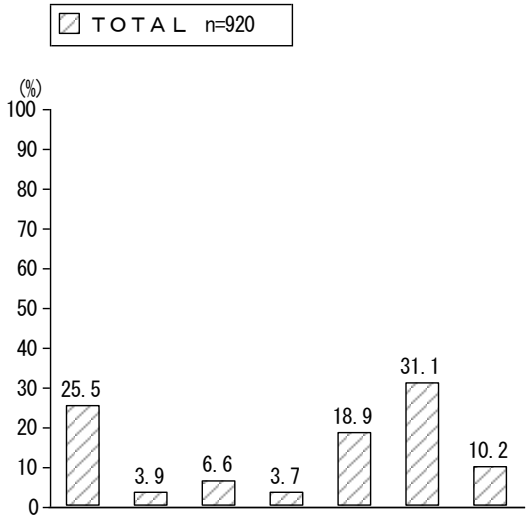


（３）健康診断（健康診査）の受診状況

問 22 過去１年間に健康診断（健康診査）を受けましたか。（○は１つ）

過去１年間に、「市の健診・検診を受けた」人は 25.5%、「その他（勤務先・学校・施設等以外）で健康診断を受けた」人は 18.9%で、約３割の人は「健康診断は受けていない」（31.1%）状況である。

年代別にみると、10 歳未満と 10 代では「学校や福祉施設で健康診断を受けた」人が８割以上、20 代～50 代では「勤務先で健康診断を受けた」人が約３割（20 代～50 代,計 45 人,29.2%）、60 代～80 歳以上では「市の健診・検診を受けた」人が約３割となっている。



	問３ 年齢（１０歳刻み）	n	1 市の健診・検診を受けた	2 人間ドック等を受けた	3 勤務先で健康診断を受けた	4 学校や福祉施設で健康診断を受けた	5 その他の場所で健康診断を受けた	6 健康診断は受けていない	7 無回答
0	TOTAL	920	25.5	3.9	6.6	3.7	18.9	31.1	10.2
1	１０歳未満	10	0.0	0.0	0.0	80.0	10.0	10.0	0.0
2	１０代	15	0.0	0.0	0.0	86.7	6.7	6.7	0.0
3	２０代	14	14.3	0.0	21.4	0.0	14.3	50.0	0.0
4	３０代	20	5.0	10.0	25.0	0.0	10.0	45.0	5.0
5	４０代	45	15.6	4.4	35.6	6.7	17.8	15.6	4.4
6	５０代	75	5.3	6.7	28.0	2.7	14.7	37.3	5.3
7	６０代	232	24.6	4.3	6.9	2.2	17.7	34.9	9.5
8	７０代	300	33.0	4.3	0.0	0.3	21.3	28.3	12.7
9	８０歳以上	202	31.7	2.0	0.0	1.0	20.8	31.7	12.9
10	無回答	7	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3

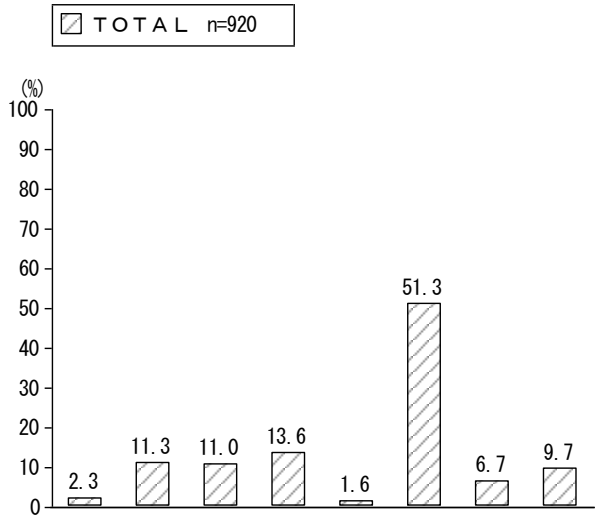
5 日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方

問 23 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。（利用しているものに○）

全体でみると、約半数の人は日中「自宅にいることが多い」（51.3%）状況である。

年代別にみると、「18～64 歳」では、35.4%が「働いている」、41.9%が「自宅にいることが多い」と回答している。また、「65 歳以上」では、「自宅にいることが多い」人が 57.0%と最も多いが、「福祉の施設（サービス）に通っている」人が 12.7%、「病院や施設などで看護・介護を受けている」人が 12.2%みられる。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 幼稚園や保育園、学校などに通っている	2 福祉の施設（サービス）に通っている	3 病院や施設などで看護・介護を受けている	4 働いている	5 求職中である	6 自宅にいることが多い	7 その他	8 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	2.3	11.3	11.0	13.6	1.6	51.3	6.7	9.7
1	１８歳未満	21	90.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0
2	１８～６４歳	260	0.8	8.8	8.8	35.4	5.0	41.9	4.6	2.7
3	６５歳以上	632	0.0	12.7	12.2	5.2	0.3	57.0	7.6	12.7
4	無回答	7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	28.6

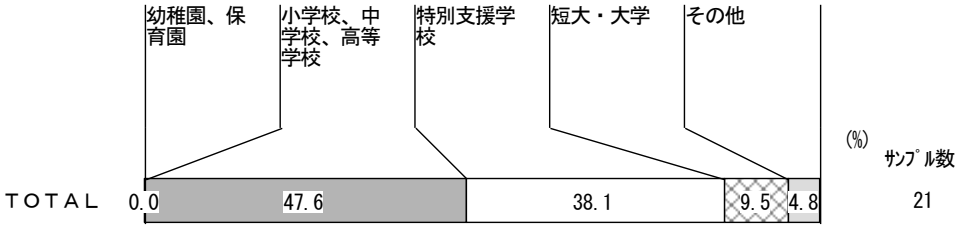
6 幼稚園・保育園・学校について

（１）通園・通学先

問 24 通っているのは次のうちどれですか。（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

幼稚園や保育園、学校などに通っている 21 人の通園・通学先は、10 人が「小学校、中学校、高等学校」（47.6%）、8 人が「特別支援学校」（38.1%）である。

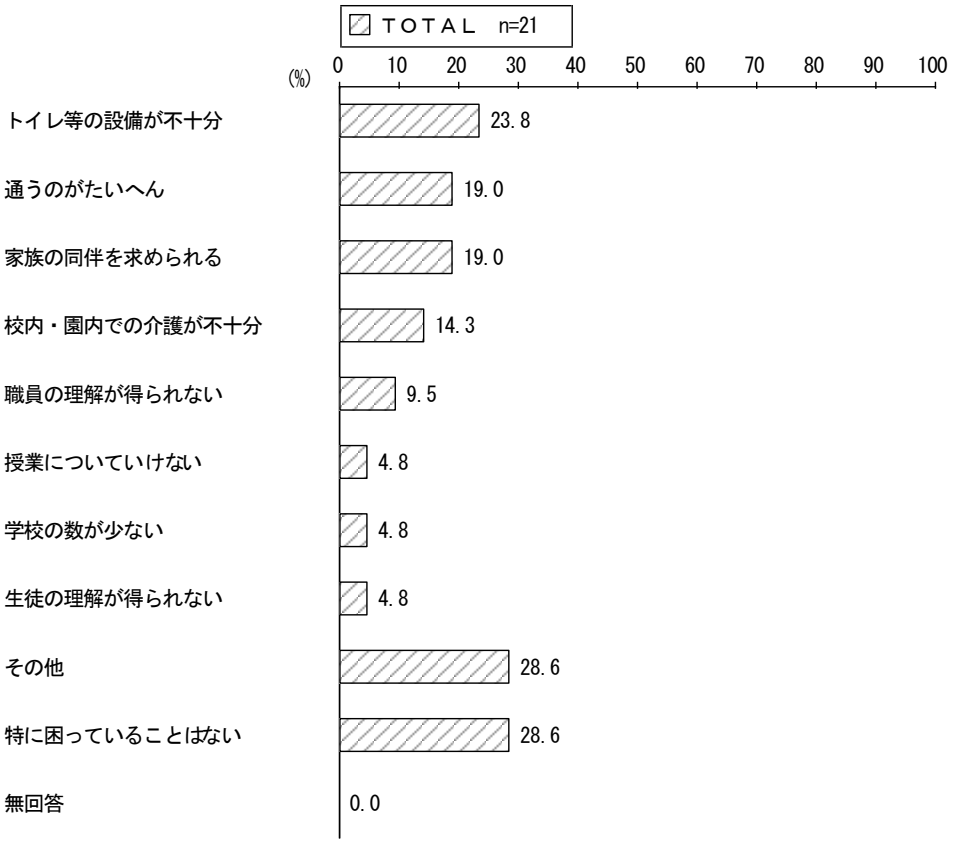


（２）幼稚園・保育園・学校に関して困っていること

問 25 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。（○はいくつでも）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

幼稚園や学校などで困ることとしては、「トイレ等の設備が不十分」をあげる人が 5 人（23.8%）となっている。

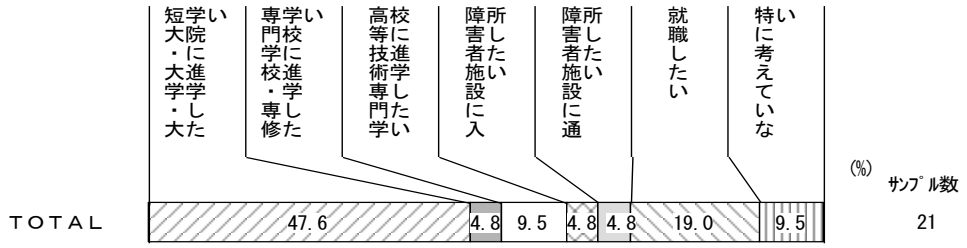


（３）学校教育終了後の希望

問 26 将来、学校教育を修了後の希望を教えてください。（ご本人がまだわからない場合は保護者の方がお答えください。）（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

学校教育修了後の希望としては、10 人が「短大・大学・大学院に進学したい」（47.6%）と考えている。



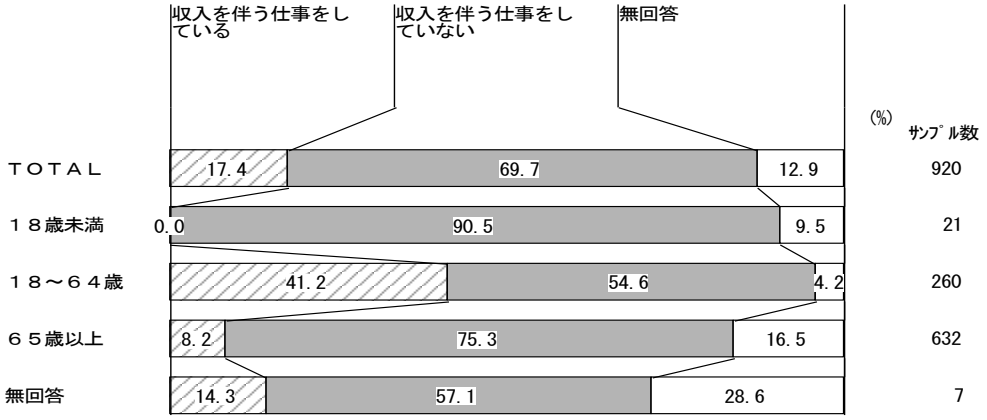
7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問 27 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、「収入を伴う仕事をしている」人は 17.4%である。

年代別にみると、「18～64 歳」で「収入を伴う仕事をしている」人は約４割（41.2%）である。

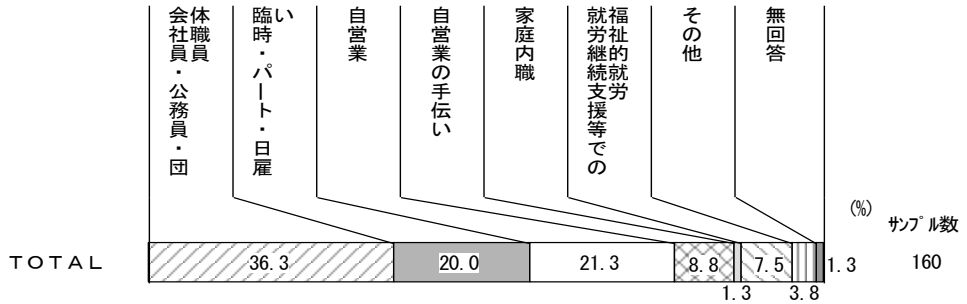


（２）仕事の形態

問 28 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事の形態は、「会社員・公務員・団体職員」が 36.3%、「自営業」が 21.3%、「臨時・パート・日雇い」が 20.0%となっている。



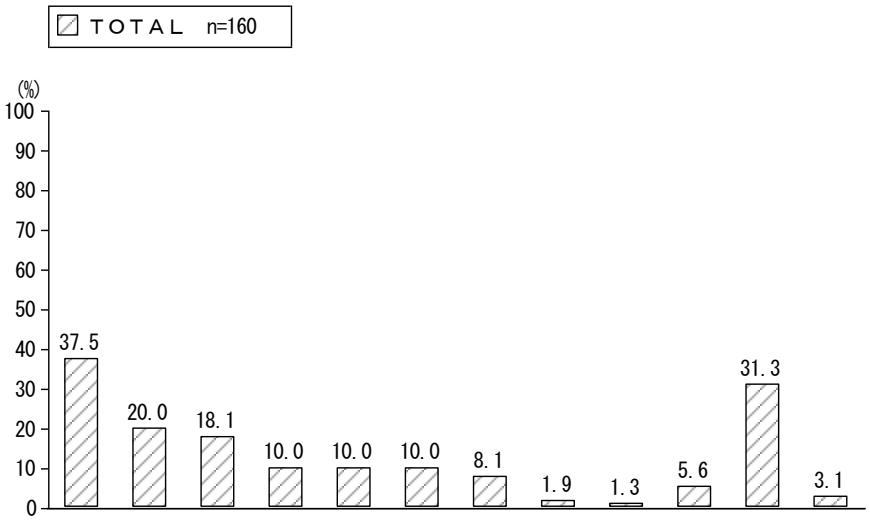
（３）仕事で困ること、つらいこと

問 29 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事をする上で困ったり、つらいこととしては、「収入が少ない」ことをあげる人が 37.5%と最も多く、次いで「通勤がたいへん」（20.0%）、「体調のコントロールが難しい」（18.1%）と続いている。

仕事の形態別にみると、「会社員・公務員・団体職員」では、「通勤がたいへん」をあげる人が 31.0%と最も多い。また、「就労継続支援等での福祉的就労」では、12 人中 8 人が「収入が少ない」（66.7%）と回答している。



	問２８ 就労形態	n	2 収入が少ない	1 通勤がたいへん	9 体調のコントロールが難しい	3 仕事がきつい	5 職場の人間関係	6 職場の中の環境（トイレ、休憩室等）の未整備	8 コミュニケーションができない	4 仕事が合わない	7 職場の中で介護者をみつけにくい	10 その他	11 特に困ったり、つらいことはない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	160	37.5	20.0	18.1	10.0	10.0	10.0	8.1	1.9	1.3	5.6	31.3	3.1
1	会社員・公務員・団体職員	58	24.1	31.0	13.8	12.1	19.0	13.8	10.3	3.4	0.0	5.2	29.3	0.0
2	臨時・パート・日雇い	32	50.0	18.8	31.3	9.4	6.3	6.3	3.1	0.0	0.0	3.1	37.5	0.0
3	自営業	34	55.9	11.8	14.7	11.8	2.9	5.9	2.9	2.9	0.0	5.9	26.5	0.0
4	自営業の手伝い	14	14.3	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	28.6	28.6
5	家庭内職	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
6	就労継続支援等での福祉的就労	12	66.7	25.0	25.0	8.3	16.7	25.0	33.3	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
7	その他	6	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
8	無回答	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

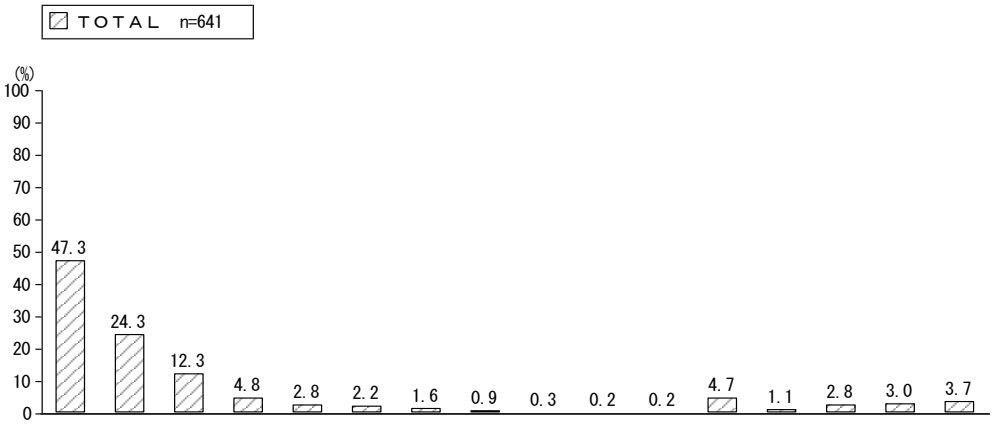
（４）仕事をしていない理由

問 30 仕事をしていない主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

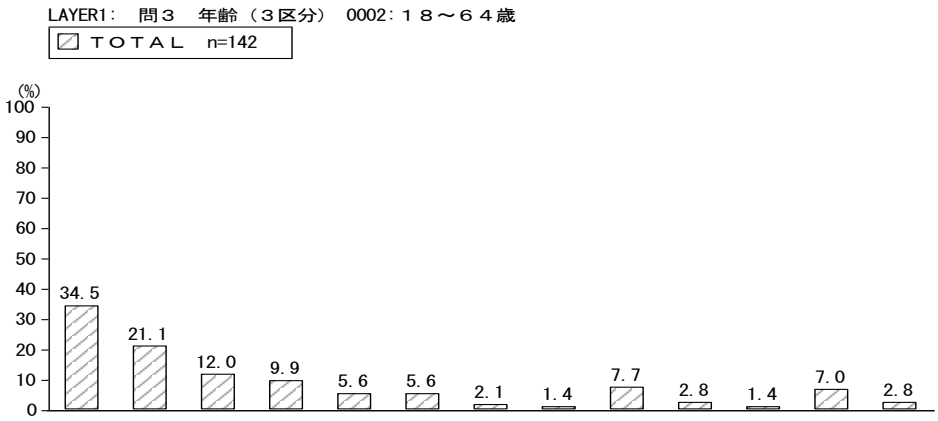
仕事をしていない理由としては、「高齢」が 47.3%と最も多く、次いで「障害が重い」（24.3%）、「病気」（12.3%）と続いている。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「障害が重い」が 34.5%と最も多く、次いで「病気」が 21.1%、「職場がない」が 12.0%で続いている。



	問３ 年齢（３区分）	n	10 高齢	1 障害が重い	2 病気	4 職場がない	8 就学中・技能研修中	9 家事・妊娠・育児	7 通勤が困難	3 施設に入所していて、行う作業がない	6 労働条件が悪いから	5 賃金が低いから	11 経営上の理由等	12 その他	13 仕事をしたくない	14 仕事をする必要がない	15 自分の希望する仕事が見つからない	16 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	641	47.3	24.3	12.3	4.8	2.8	2.2	1.6	0.9	0.3	0.2	0.2	4.7	1.1	2.8	3.0	3.7
1	１８歳未満	19	0.0	0.0	0.0	0.0	78.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0	5.3	0.0	0.0
2	１８～６４歳	142	9.9	34.5	21.1	12.0	2.1	5.6	5.6	0.0	1.4	0.0	0.0	7.7	2.8	1.4	7.0	2.8
3	６５歳以上	476	60.5	22.3	10.1	2.9	0.0	1.3	0.4	1.3	0.0	0.2	0.2	3.4	0.6	3.2	1.9	4.0
4	無回答	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

「18～64 歳」の人について、障害の程度別にみてみると、「重度」では「障害が重い」が 52.4%と特に多いが、「中度」では、「障害が重い」ことを理由としてあげている人は、1 割未満（8.9%）である。



	問６ 身体障害者手帳に記載の障害の程度（３区分）	n	1 障害が重い	2 病気	4 職場がない	10 高齢	7 通勤が困難	9 家事・妊娠・育児	8 就学中・技能研修中	6 労働条件が悪いから	12 その他	13 仕事をしたくない	14 仕事をする必要がない	15 自分の希望する仕事が見つからない	16 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	142	34.5	21.1	12.0	9.9	5.6	5.6	2.1	1.4	7.7	2.8	1.4	7.0	2.8
1	重度（１級、２級）	84	52.4	17.9	10.7	6.0	4.8	3.6	1.2	2.4	8.3	1.2	0.0	4.8	2.4
2	中度（３級、４級）	45	8.9	28.9	15.6	13.3	6.7	8.9	4.4	0.0	4.4	4.4	4.4	11.1	4.4
3	軽度（５級、６級）	13	7.7	15.4	7.7	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0

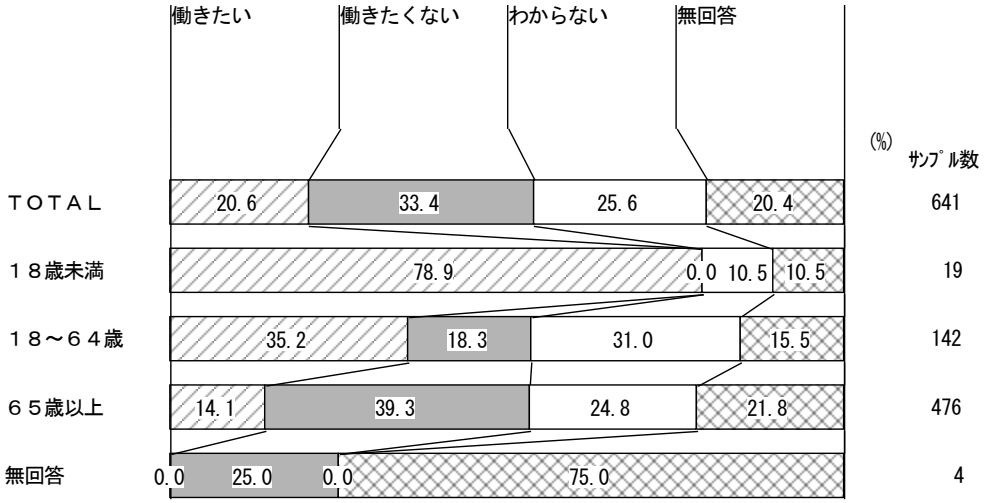
（５）就労意向

問 31 今後、自分の健康や通勤の可能性等、条件が整っていれば働きたいと思いますか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

現在、収入を伴う仕事をしていない人のうち約２割は、条件が整えば「働きたい」（20.6%）と考えている。

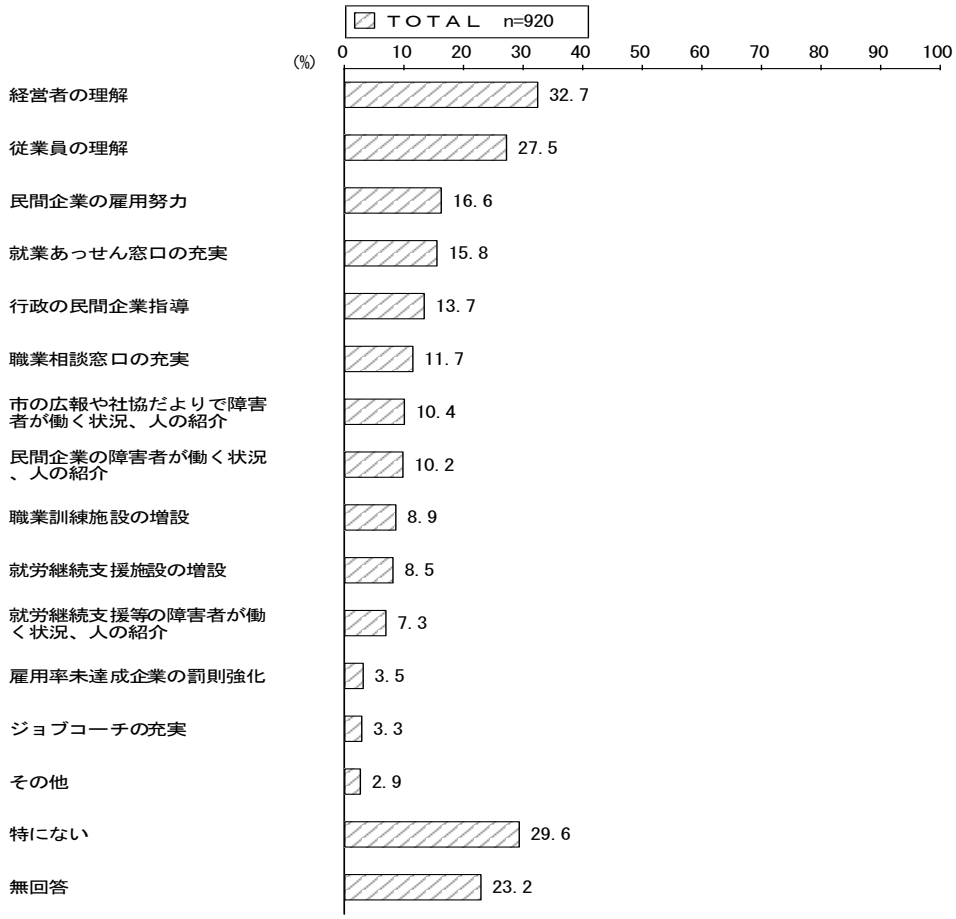
年代別にみると、「18～64 歳」では、35.2%の人が「働きたい」と考えていることがわかる。また、「18 歳未満」では、今後「働きたくない」と回答した人は１人もいなかった。



（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

問 32 障害のある人の就業を促進するために、あなたはどのようなことを希望されますか。（○はいくつでも）

障害のある人の就業促進のために希望することとしては、「経営者の理解」をあげる人が32.7%と最も多く、次いで「従業員の理解」（27.5%）、「民間企業の雇用努力」（16.6%）と続いている。

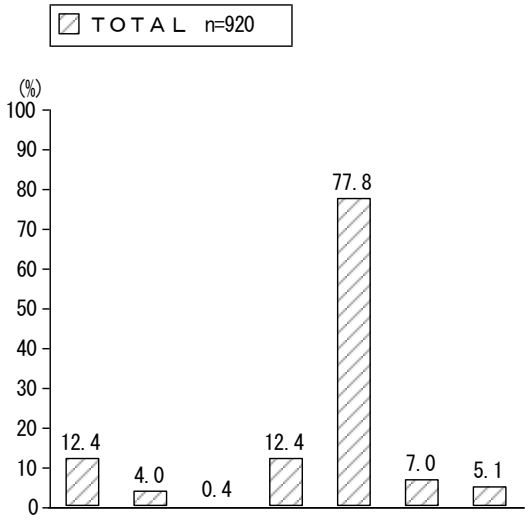


（７）生活を支える収入

問 33 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支えている収入としては、77.8%の人が「年金、障害者年金、生活保護など」をあげている。

年代別にみると、「18～64歳」では、「年金、障害者年金、生活保護など」をあげる人が60.0%と多いが、「給与・賃金」をあげる人も 32.3%みられる。



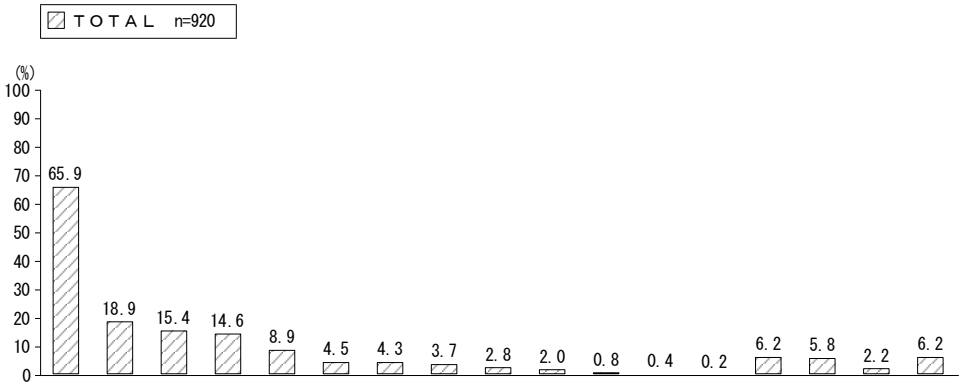
	問３ 年齢（３区分）	n	1 給与・賃金	2 事業収入	3 授産所や作業所の工賃	4 家族からの仕送り・援助	5 年金、障害者年金、生活保護など	6 その他	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	12.4	4.0	0.4	12.4	77.8	7.0	5.1
1	１８歳未満	21	9.5	0.0	0.0	52.4	9.5	23.8	9.5
2	１８～６４歳	260	32.3	4.2	1.5	15.4	60.0	14.6	3.1
3	６５歳以上	632	4.4	4.0	0.0	10.0	87.5	3.3	5.5
4	無回答	7	0.0	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0	28.6

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

問 34 普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（○はいくつでも）

悩みや困ったことなどの相談先としては、「家族等の同居人」をあげる人が 65.9%と最も多く、次いで「友人・知人・近所の人」（18.9%）、「病院・医師・看護師等」（15.4%）と続いている。なお、「相談する人がいない」人が 20 人（2.2%）みられる。



	問３ 年齢（１０歳刻み）	n	1 家族等の同居人	3 友人・知人・近所の人	10 病院・医師・看護師等	2 親戚	11 市役所の担当窓口	9 相談支援事業所の相談員	5 施設や作業所の職員	8 民生委員	4 職場や学校の人	6 身体障害者・知的障害者相談員	12 保健所	7 ボランティア	13 リハビリテーションセンター等（県の担当窓口）	14 その他	15 ある誰かに相談することはまれで	16 相談する人がいない	17 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	65.9	18.9	15.4	14.6	8.9	4.5	4.3	3.7	2.8	2.0	0.8	0.4	0.2	6.2	5.8	2.2	6.2
1	１０歳未満	10	100.0	20.0	40.0	30.0	20.0	0.0	10.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	１０代	15	93.3	53.3	40.0	26.7	26.7	6.7	6.7	6.7	53.3	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
3	２０代	14	85.7	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0
4	３０代	20	70.0	55.0	30.0	20.0	15.0	5.0	5.0	0.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	15.0	0.0	5.0
5	４０代	45	66.7	22.2	15.6	6.7	11.1	2.2	6.7	2.2	8.9	4.4	0.0	0.0	0.0	2.2	6.7	8.9	2.2
6	５０代	75	57.3	29.3	13.3	13.3	8.0	2.7	5.3	0.0	2.7	1.3	0.0	0.0	0.0	5.3	16.0	1.3	2.7
7	６０代	232	67.7	19.8	14.7	15.1	6.9	3.4	3.9	0.9	1.3	2.2	0.4	0.4	0.0	6.0	5.2	3.4	3.9
8	７０代	300	67.0	18.7	16.3	15.3	10.7	4.0	2.7	6.0	0.0	2.0	1.0	0.7	0.3	5.7	4.3	1.7	6.0
9	８０歳以上	202	60.9	6.9	10.9	11.4	6.9	7.9	6.4	5.9	0.5	1.0	0.5	0.5	0.5	8.9	4.5	1.0	11.9
10	無回答	7	28.6	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3

（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 35 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。（自由記入）

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

【相談先】

- 訪問看護（川越市医師会）の人（80 歳以上・その他）
- 市役所の担当窓口、民生委員などに相談する。（60 代・上下肢）

・ 公共機関の窓口相談室（70 代・内部）
・ 会社の上司（40 代・内部）
・ 自分の障害について専門的な知識をもっていて、リハビリや生活上の注意点などを指導してくれる人。（50 代・上下肢）
・ 相談支援事業所の相談員の方にすると思う。（70 代・聴覚）
・ ケアマネージャー（80 歳以上・内部）
・ ヘルパーさん、市役所（80 歳以上・上下肢）
・ 自分と同じ障害の人（60 代・内部）
・ 健康面…病院。その他…弁護士、司法書士。できれば市で定期的に相談窓口を開いていただければありがたいです。（70 代・上下肢）

【相談体制】
・ 相談が気楽にできる人や窓口があると嬉しい。（例えば相続・遺言、入院等の保証人等々、電話相談受付窓口があれば。）（60 代・内部）
・ 専門的な問題でもわかりやすく答えてくれる電話相談。（60 代・上下肢）
・ スマホから相談できる方法を確立し広める活動をして欲しい。（40 代・上下肢）
・ 市の相談窓口の充実。無料の弁護士相談等の枠をもうけてほしい。（60 代・上下肢）
・ 個別に担当者がいて、定期的にコミュニケーションをとる（会社などで認められる）。（40 代・音声）
・ 福祉の窓口に伺ったら相談者のデータが市役所＝共用できるシステムを希望します。あっちこっちの担当窓口にまわさないでほしい。（60 代・内部）
・ 健康の相談、職の探しなどが相談を受け入れる体制になっていないので、もう少し交流を広げて、相談を充実してほしい。（30 代・聴覚）
・ 専門の相談窓口が必要。縦割の一辺倒な窓口ではなく、広いネットワークが整備されていないと意味がないと思う。（50 代・上下肢）
・ 市役所に地域担当の相談員がいるといい（10 歳未満・上下肢）
・ 精神的カウンセリングが行える所があり、そこから各々に合った相談所を紹介してもらえたりすると良いかと思います。（60 代・その他）
・ いま元気だが妻の介護等将来の事が心配。将来の相談はどこでするのか、どの様な窓口が有るのか全く不明。出来れば医療機関と、公営の窓口が一体になったような組織が有れば助かる。（60 代・その他）

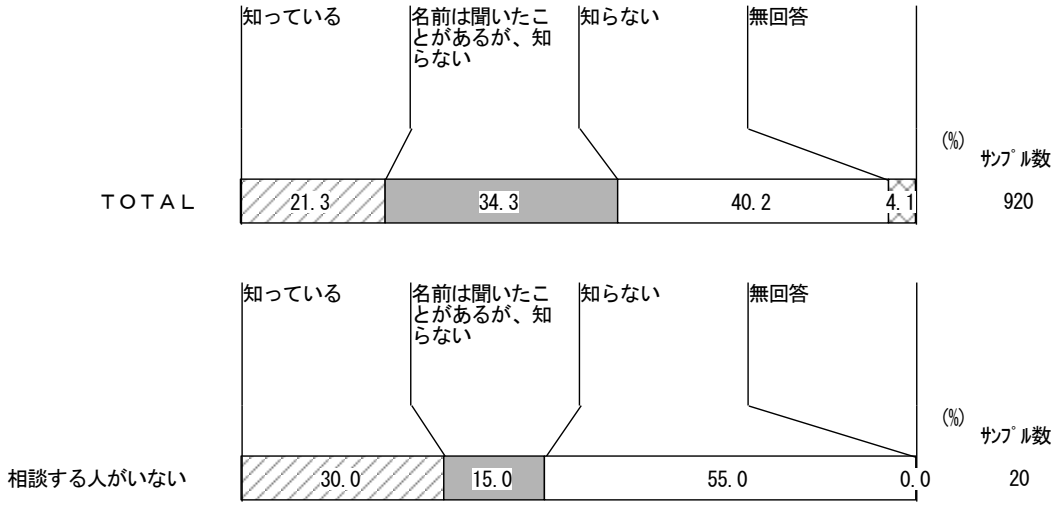
【その他】
・ 相談しても、納得できる結果がえられない。もっといろいろな支援策がないと利用できず、悩み事は解決しない。（10 代・上下肢）
・ 身体障害者と分かっている通院先の医師や市役所の人から相談支援センターなどがある事を伝えて欲しかった。（80 歳以上・上下肢）
・ 親戚に障害者は 1 人もいないので相談はできない。誰に相談すれば良いかわからない。（50 代・上下肢）
・ 心療内科等のカウンセリングに相談したい。しかし、保険がきかず、料金も高い為、無理。（40 代・内部）
・ 相談する場所を知らないので、相談出来ない。本人が知っていないと出来ない事なので、そういう場所があるのなら、対象の人に、相談出来る場所があると教えて欲しい。（10 歳未満・聴覚）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

問 36 あなたは、「川越市障害者相談支援センター」を知っていますか。（○は１つ）

「川越市障害者相談支援センター」を「知っている」人は約２割（21.3%）である。

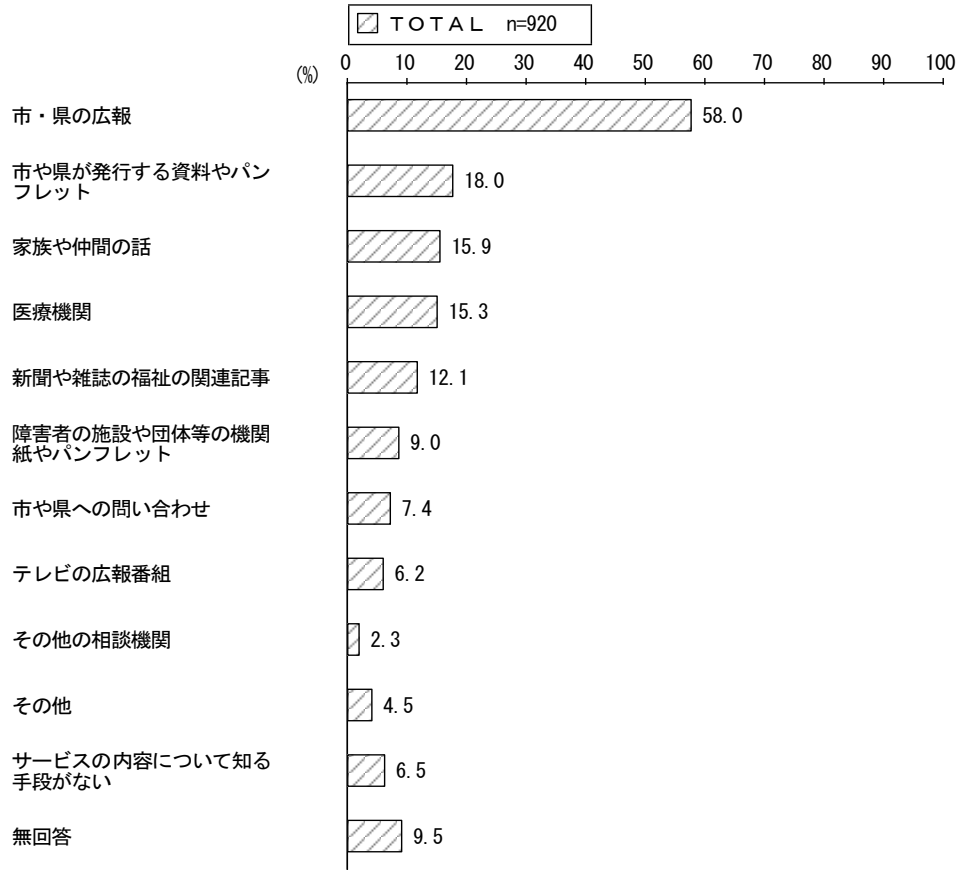
なお、問 34 で「相談する人がいない」と回答した 20 人について、「川越市障害者相談支援センター」の認知状況をみてみると、11 人（55.0%）の人が「知らない」と回答していることがわかる。



（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

問 37 障害のある人のための福祉サービス内容について、どのようなもので知ることが多いですか。（○はいくつでも）

福祉サービスについては、58.0%の人が「市・県の広報」で知ることが多いと回答している。そのほかには、「市や県が発行する資料やパンフレット」（18.0%）、「家族や仲間の話」（15.9%）、「医療機関」（15.3%）などが比較的多くあげられている。

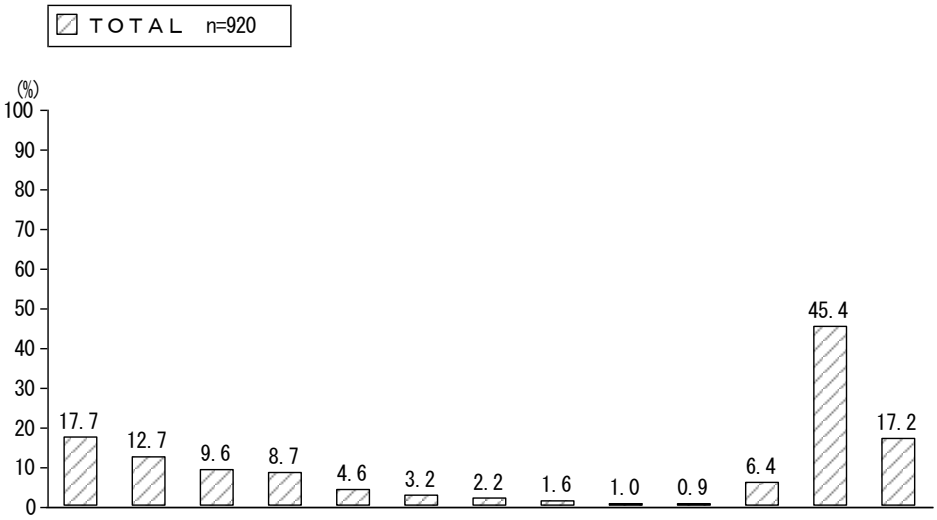


（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

問 38 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。（○はいくつでも）

情報の入手やコミュニケーションで困ることは、45.4%の人が「特にない」と回答しているが、17.7%の人は「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」、12.7%の人は「複雑な文章表現がわかりにくい」ことをあげている。

主な障害の種類別にみると、視覚障害では、「案内表示がわかりにくい」（17.3%）や「音声情報が少ない」（13.5%）ことで困っている人が１割以上いる。また、聴覚障害では、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」と感じている人が 35.6%、「文字情報が少ない」ことで困っている人が 22.0%いることがわかる。



	問７ 身体障害者手帳に記載の主な障害	n	10 難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	9 複雑な文章表現がわかりにくい	7 話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	1 案内表示がわかりにくい	3 文字情報が少ない	2 音声情報が少ない	4 問い合わせ先の情報にＦＡＸ番号等の記載がない	8 相手が介助者と話してしまう	6 公共施設に手話通訳者がいない	5 公共施設にＯＨＰ、ＯＨＣなどの設備が少ない	11 その他	12 特に困ることはない	13 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	17.7	12.7	9.6	8.7	4.6	3.2	2.2	1.6	1.0	0.9	6.4	45.4	17.2
1	視覚障害	52	7.7	7.7	5.8	17.3	7.7	13.5	3.8	0.0	0.0	0.0	9.6	30.8	17.3
2	聴覚障害	59	35.6	16.9	13.6	6.8	22.0	8.5	11.9	6.8	13.6	1.7	13.6	22.0	10.2
3	平衡機能障害	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	20	25.0	15.0	45.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0	25.0
5	肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	377	18.0	13.3	7.7	6.9	2.7	2.1	0.8	1.3	0.0	0.8	4.8	49.9	18.3
6	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	55	16.4	16.4	20.0	14.5	3.6	1.8	3.6	5.5	1.8	1.8	10.9	29.1	23.6
7	内部障害	261	14.2	11.1	6.1	9.6	3.8	1.9	2.3	0.8	0.0	1.1	5.4	52.5	13.4
8	その他	72	16.7	12.5	9.7	6.9	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	48.6	20.8
9	無回答	22	27.3	9.1	18.2	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4	27.3

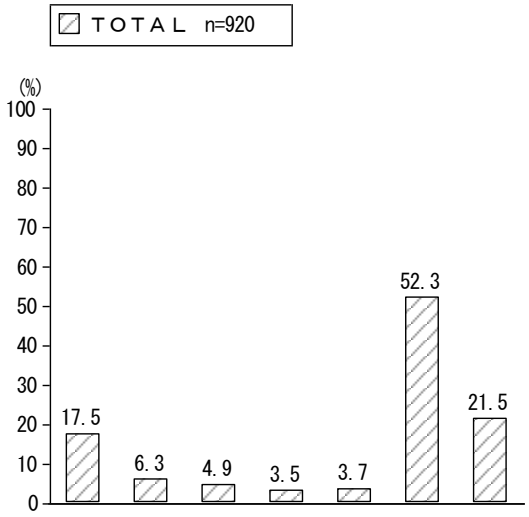
（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

問 39 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。（○はいくつでも）

「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 17.5%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 6.3%で、半数以上の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」（52.3%）と回答している。

年代別にみると、「18～64 歳」では、36.2%が「パソコンを利用して、情報を入手している」が、「65 歳以上」で「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 9.3%にとどまっている。

主な障害の種類別にみると、視覚障害では「パソコンを利用して、情報を入手している」人の割合が 25.0%と他の障害に比べて高い。また、聴覚障害では、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」（11.9%）人、「電子メールを利用して、友人などから情報を入手している」（10.2%）人がそれぞれ約１割いることがわかる。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 パソコンを利用して、情報を入手している	2 スマートフォン等を利用して、情報を入手している	3 携帯電話を利用して、情報を入手している	4 電子メールを利用して、友人などから情報を得ている	5 その他	6 パソコンなどを利用して情報を得ることはない	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	920	17.5	6.3	4.9	3.5	3.7	52.3	21.5
1	１８歳未満	21	38.1	19.0	4.8	9.5	4.8	42.9	9.5
2	１８～６４歳	260	36.2	16.9	10.4	6.9	4.6	38.5	9.6
3	６５歳以上	632	9.3	1.6	2.5	1.9	3.2	58.5	26.6
4	無回答	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	42.9

（別掲）主な障害の種類別

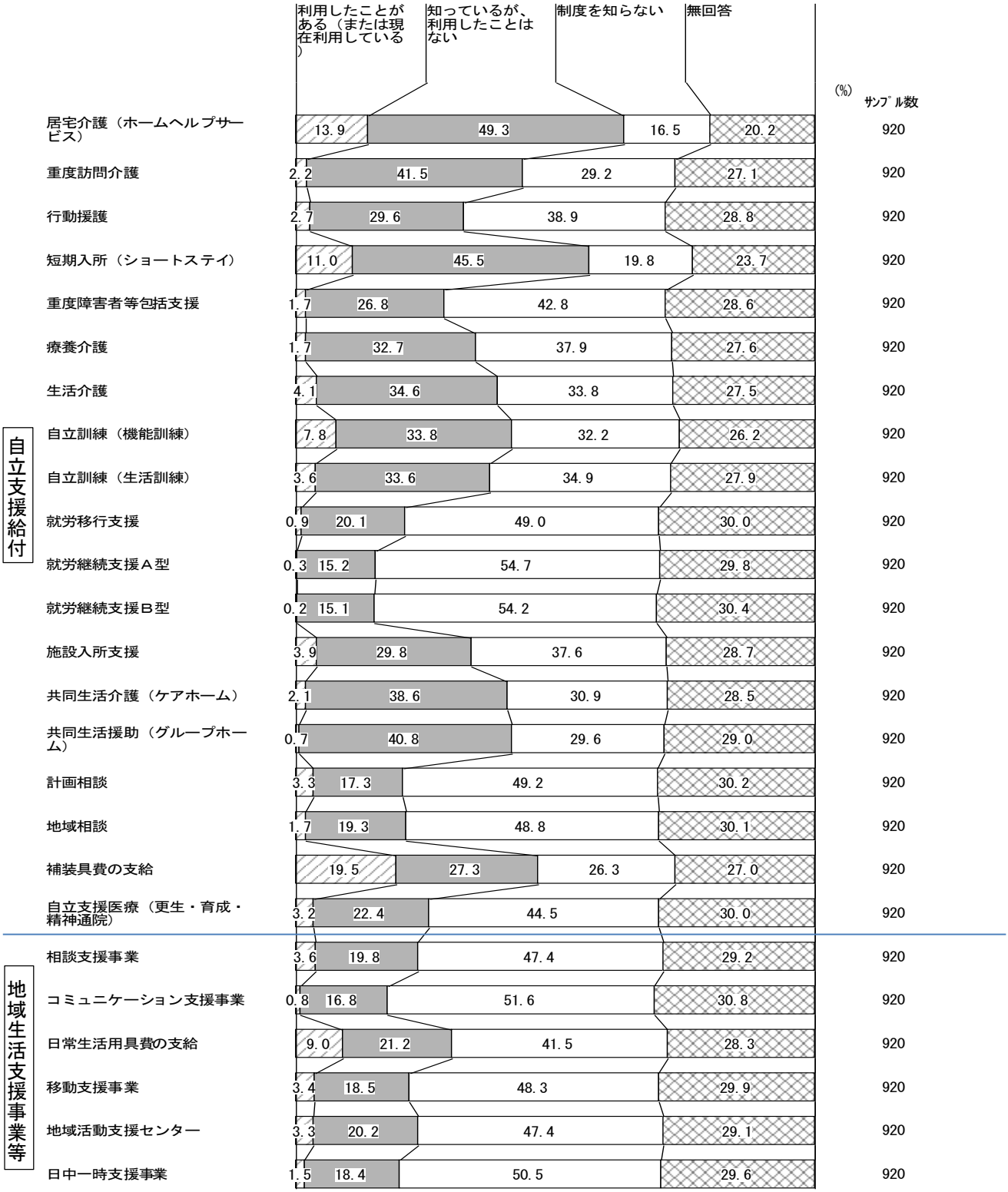
0	ＴＯＴＡＬ	920	17.5	6.3	4.9	3.5	3.7	52.3	21.5
1	視覚障害	52	25.0	5.8	3.8	5.8	5.8	46.2	23.1
2	聴覚障害	59	16.9	11.9	5.1	10.2	5.1	45.8	20.3
3	平衡機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	20	20.0	5.0	15.0	0.0	5.0	50.0	20.0
5	肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	377	18.0	7.2	6.9	3.4	3.7	50.7	21.0
6	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	55	12.7	3.6	0.0	3.6	5.5	60.0	21.8
7	内部障害	261	20.7	5.0	3.8	3.1	1.5	52.9	21.8
8	その他	72	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	65.3	18.1
9	無回答	22	4.5	4.5	4.5	0.0	9.1	40.9	40.9

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 40 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

利用した経験のある人の割合が最も高いサービスは、「補装具費の支給」で、19.5%の人が「利用したことがある（または現在利用している）」と回答している。



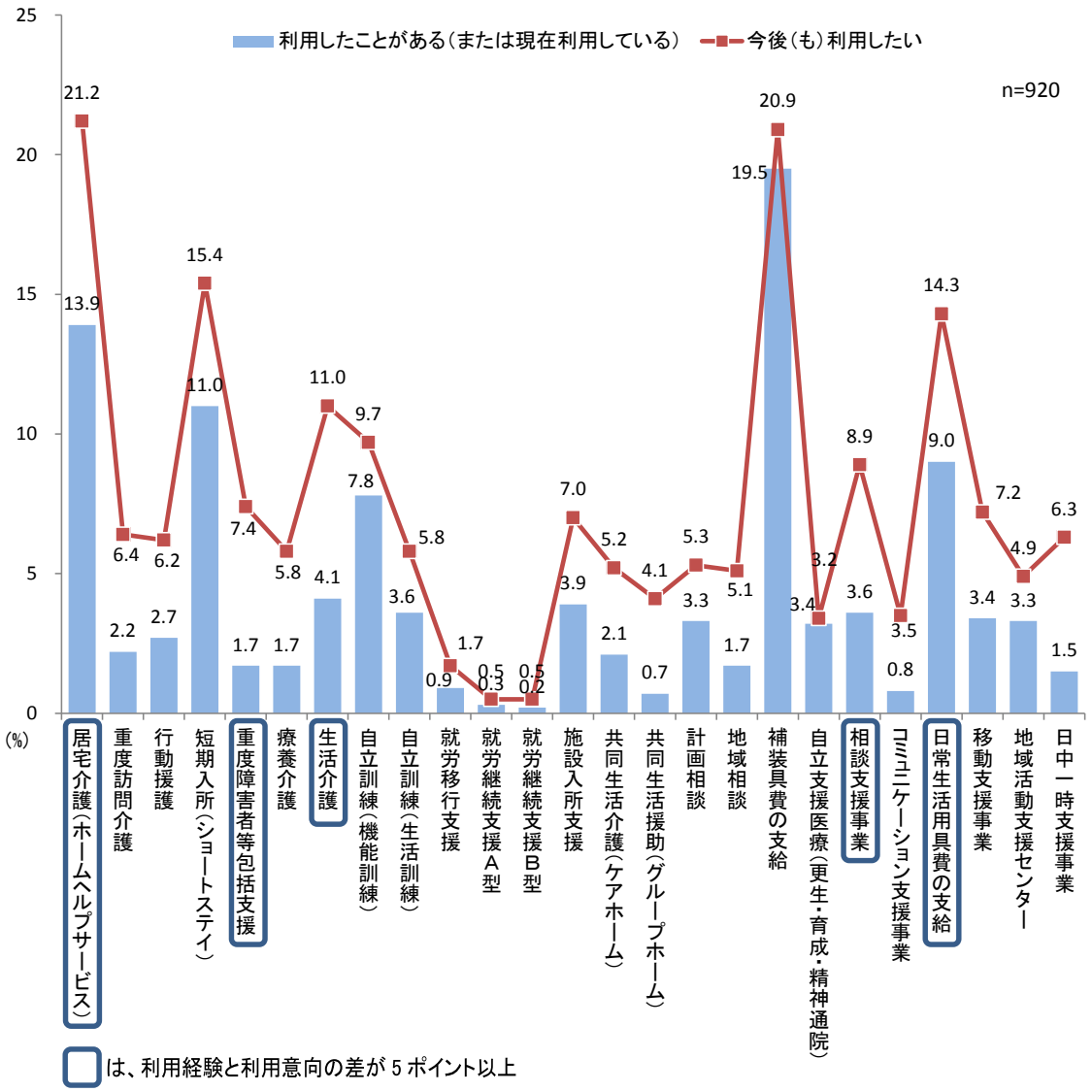
（２）福祉サービスの利用意向

問 41　次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは、「居宅介護（ホームヘルプサービス）」で、21.2%の人が利用したいサービスとしてあげている。

実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較してみると、両者の差が５ポイント以上あるのは、「居宅介護」（経験 13.9%、意向 21.2%）、「重度障害者等包括支援」（経験 1.7%、意向7.4%）、「生活介護」（経験4.1%、意向11.0%）、「相談支援事業」（経験3.6%、意向8.9%）、「日常生活用具費の支給」（経験 9.0%、意向 14.3%）の 5 事業である。これらの事業は、実際に利用したことがある人よりも、今後利用したいと思っている人の数が特に多くなっていることから、潜在的なニーズが大きいと考えられる。

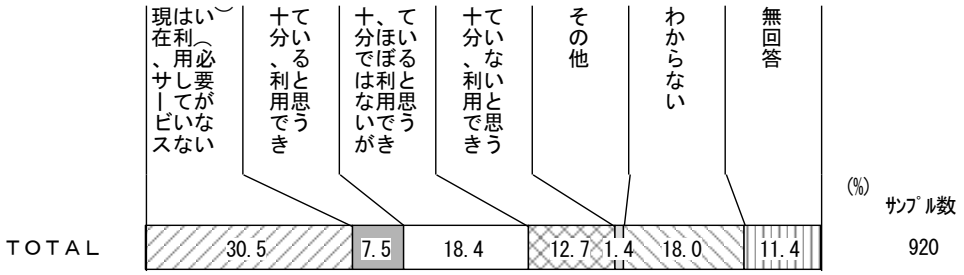
《サービスの利用経験と利用意向》



（３）サービス利用についての充足度

問 42 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人が 12.7%みられる。

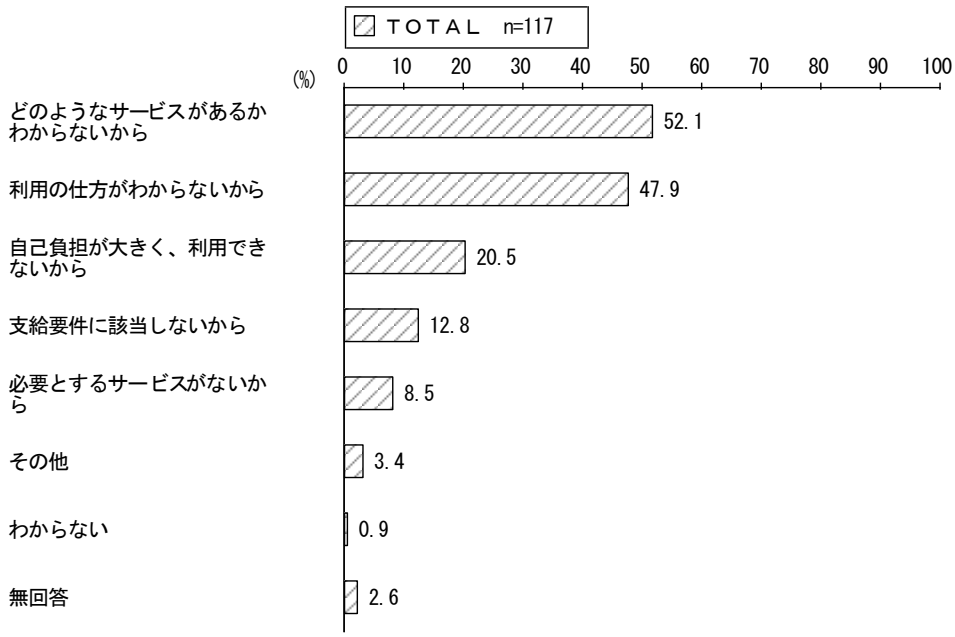


（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 43 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」（52.1%）と「利用の仕方がわからないから」（47.9%）と回答した人が特に多くなっており、情報不足により利用が進んでいない状況がうかがえる。



（５）必要とするサービス

問 44 必要とするサービスとはどのようなものですか。

［「必要とするサービスがないから」と回答した方におききします］

「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

- 身体の障害の人だけが利用する短期入所（ショートステイ）。（60 代・上下肢）
- 母親が病気の時は通学出来ないので、そういう時に学校に送迎するサービス。（10 歳未満・聴覚）
- 要約筆記要員がいて、要約してもらったとしても、意味そのものを理解できなければ意味がない。理解できるまで話をしてくれない。（30 代・聴覚）

10 将来の希望

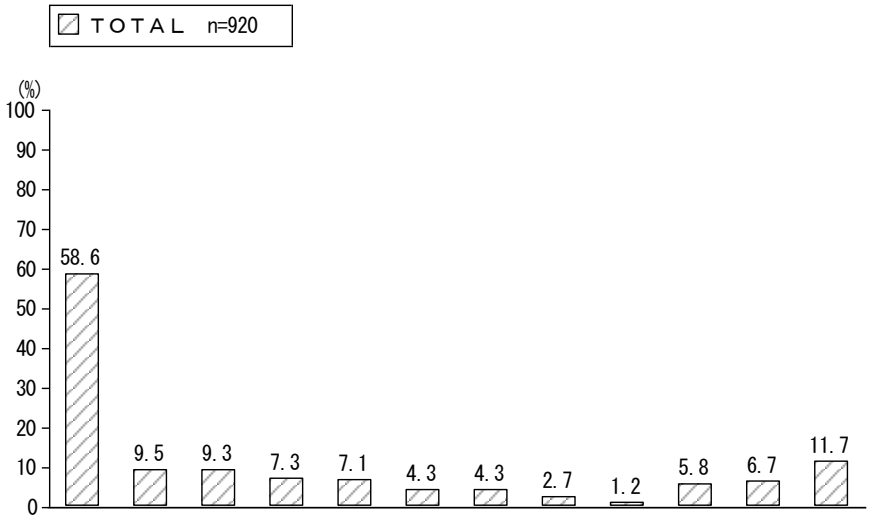
（１）希望する日中の過ごし方

問 45 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後、希望する日中の過ごし方としては、約６割の人が「自宅でのんびり過ごしたい」（58.6%）と回答している。

現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」人のうち 74.4%は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」と考えているが、「身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい」と回答した人が 8.7%、「医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい」と回答した人が 7.0%みられる。

年代別にみると、「18～64 歳」では、18.8%の人が、「一般企業などで働きたい」と回答している。



	問２３ 日中の過ごし方（複数回答）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	2 一般企業などで働きたい	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	9 学校に通いたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	TOTAL	920	58.6	9.5	9.3	7.3	7.1	4.3	4.3	2.7	1.2	5.8	6.7	11.7
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	21	9.5	33.3	9.5	9.5	42.9	14.3	14.3	52.4	19.0	0.0	9.5	9.5
2	福祉の施設（サービス）に通っている	104	56.7	25.0	24.0	22.1	0.0	6.7	7.7	1.0	0.0	5.8	3.8	10.6
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	101	41.6	11.9	25.7	19.8	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	2.0	10.9	11.9
4	働いている	125	46.4	4.0	2.4	2.4	26.4	4.0	4.0	4.0	1.6	9.6	8.0	11.2
5	求職中である	15	26.7	6.7	0.0	0.0	53.3	33.3	0.0	0.0	13.3	6.7	6.7	0.0
6	自宅にいることが多い	472	74.4	8.7	7.0	4.2	2.3	4.0	4.9	1.3	0.8	4.2	4.4	8.7
7	その他	62	45.2	8.1	8.1	8.1	3.2	1.6	9.7	0.0	0.0	17.7	8.1	11.3
8	無回答	89	48.3	3.4	2.2	5.6	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	3.4	11.2	30.3
（別掲）年代別														
1	１８歳未満	21	4.8	33.3	9.5	9.5	33.3	14.3	14.3	57.1	19.0	0.0	14.3	9.5
2	１８～６４歳	260	47.7	11.5	6.9	4.6	18.8	9.2	3.8	2.7	2.3	8.5	8.8	7.7
3	６５歳以上	632	64.9	7.9	10.1	8.2	1.4	2.1	4.3	0.9	0.2	4.7	5.5	13.4

（２）希望する暮らし方

問 46 将来（今後）、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来、希望する暮らし方としては、約７割の人が「現在と同じように暮らしたい」（71.5%）と回答している。

居住場所別にみると、現在「自宅」で暮らしている人のうち 2.7%は「施設に入りたい」と回答している。

同居者別にみると、現在「自分一人だけで暮らしている」人のうち、11.8%は「誰かと一緒に暮らしたい」と考えていることがわかる。

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	共同生活する住居(グループホーム等)で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	920	71.5%	1.3%	5.0%	1.3%	3.2%	1.5%	7.7%	8.5%
自宅	814	75.8%	1.2%	4.2%	1.2%	2.7%	1.1%	6.5%	7.2%
グループホーム	3	33.3%	－	－	－	－	－	33.3%	33.3%
ケアホーム	6	16.7%	－	16.7%	－	16.7%	－	33.3%	16.7%
病院に入院している	40	37.5%	－	7.5%	2.5%	5.0%	7.5%	17.5%	22.5%
施設に入所している	33	30.3%	3.0%	15.2%	3.0%	6.1%	6.1%	15.2%	21.2%
その他	17	64.7%	5.9%	11.8%	－	11.8%	－	－	5.9%
無回答	7	42.9%	－	14.3%	－	－	－	42.9%	－
（別掲）同居者別（自分一人だけで暮らしている人のみ表示）									
自分一人だけで暮らしている	144	58.3%	2.8%	11.8%	－	4.9%	0.7%	12.5%	9.0%

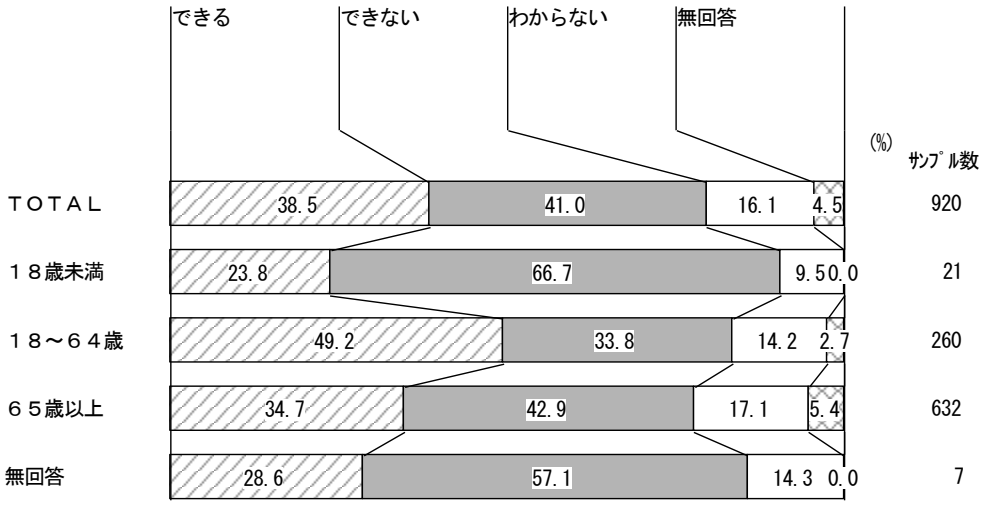
11 災害対策について

（１）災害時の避難について

問 47 火事や地震等の災害時に、あなたは一人で避難できますか。（○は１つ）

約４割の人は、災害時に一人で避難「できない」（41.0%）と考えている。

年代別にみると、「18～64 歳」では約半数が一人で避難「できる」（49.2%）と回答しているが、33.8%の人は「できない」と考えている。

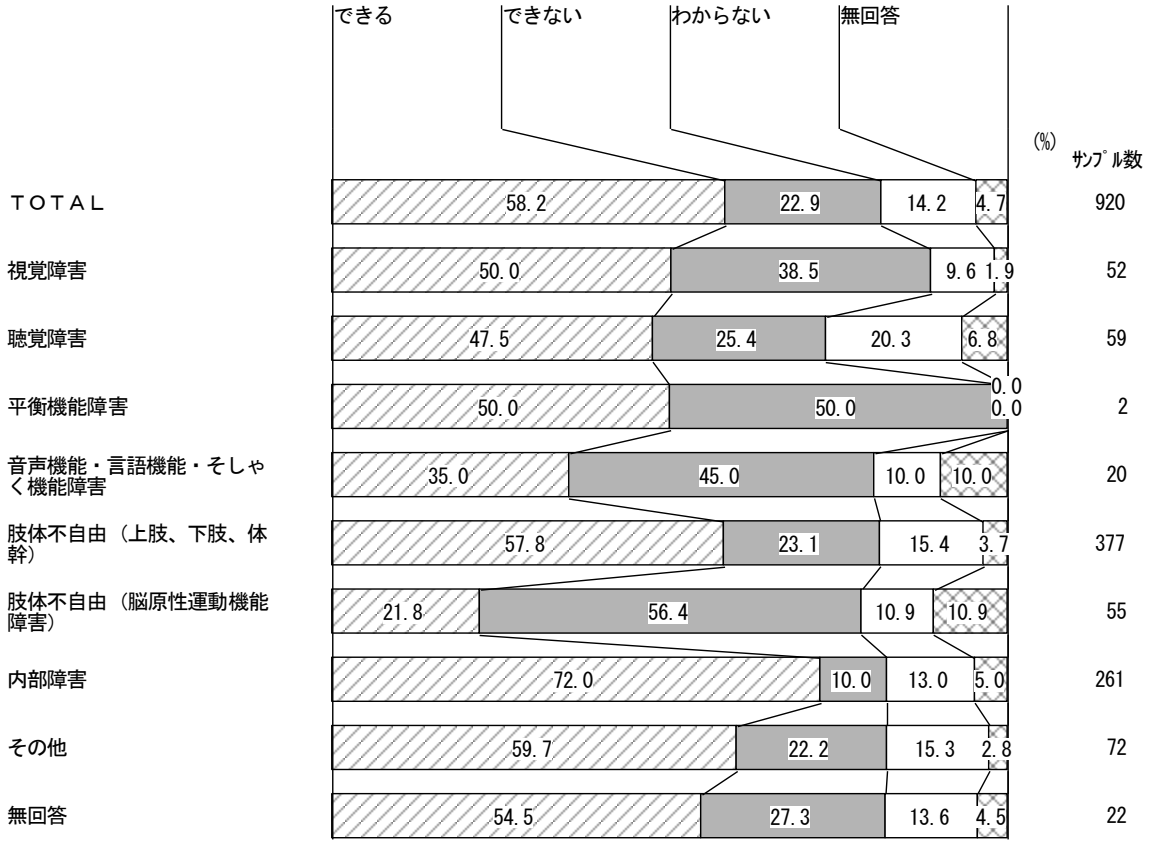


（２）災害時の周囲への連絡・通報について

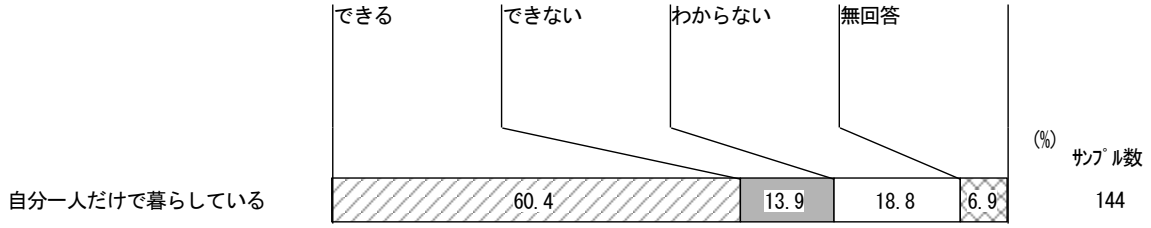
問 48 火事等の非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（○は１つ）

約６割の人は、非常時に周囲に知らせることが「できる」（58.2%）と考えているが、22.9%の人は知らせることが「できない」と考えている。

主な障害の種類別にみると、肢体不自由（脳原性運動機能障害）の人では、知らせることが「できる」人は約２割（21.8%）で、半数以上が「できない」（56.4%）と回答している。



同居者別にみると、現在「自分一人だけで暮らしている」人のうち 13.9%は、非常時に周囲に知らせることが「できない」と考えていることがわかる。

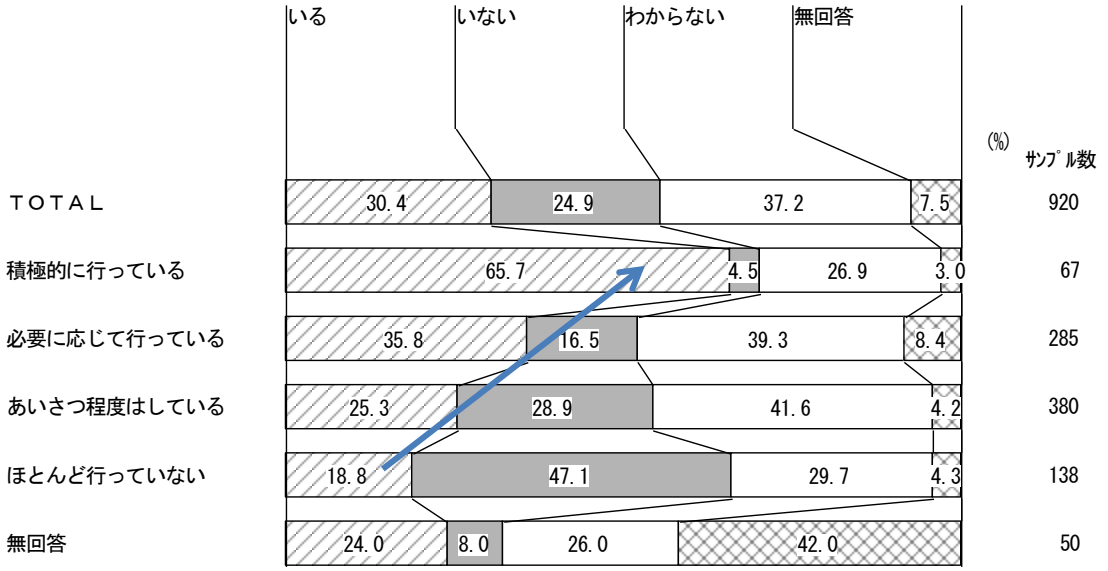


（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

問 49 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。（○は１つ）

近所に助けてくれる人が「いる」人は３割（30.4%）で、24.9%の人は近所には助けてくれる人が「いない」と回答している。

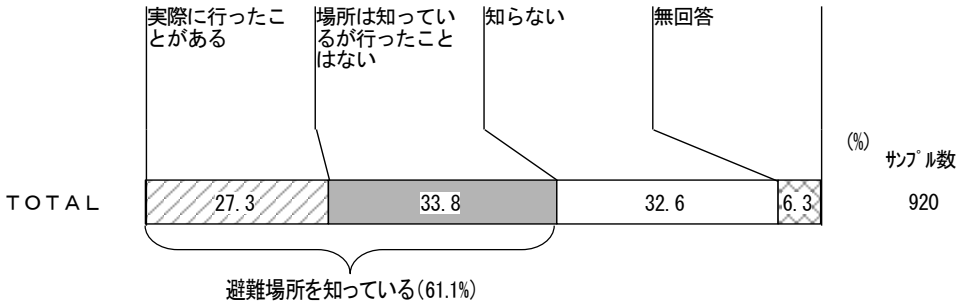
近所とのつきあいの程度別にみると、近所づきあいを「積極的に行っている」人では 65.7%が助けてくれる人が「いる」と回答しているが、「ほとんど行っていない」人では助けてくれる人が「いる」人は 18.8%にとどまっている。



（４）避難場所の認知状況

問 50 お住まいの周辺の災害時の避難場所を知っていますか。（○は１つ）

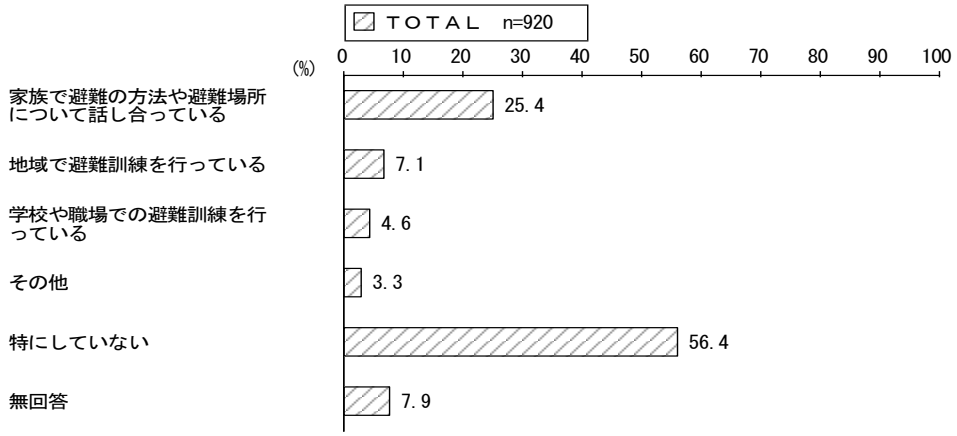
約６割の人は災害時の避難場所を知っているが、「実際に行ったことがある」人は 27.3%である。



（５）避難に関する準備状況

問 51 災害時の避難について、以下のようなことをしていますか。（○はいくつでも）

「家族で避難の方法や避難場所について話し合っている」人は25.4%で、56.4%の人は、災害時の避難準備を「特にしていない」状況である。

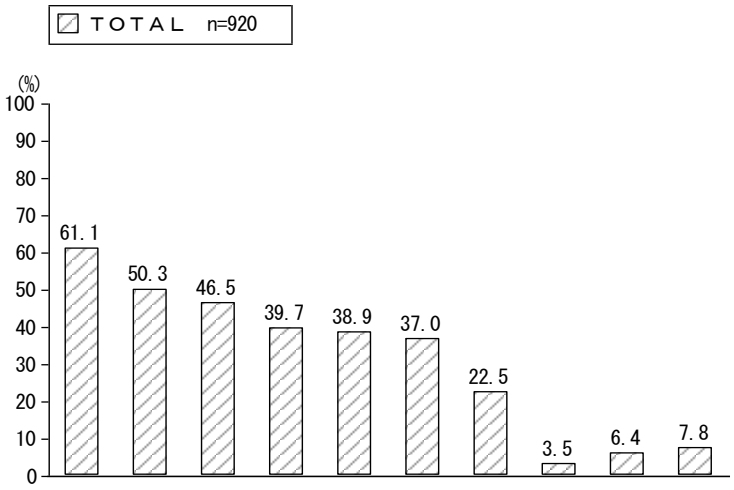


（６）災害時に必要とする支援・援助

問 52 災害時にどのような支援・援助があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

災害時にあるとよいと思う支援・援助としては、「必要な投薬や治療が受けられる」ことが 61.1%と最も多い。

主な障害の種類別にみると、「必要な投薬や治療が受けられる」は内部障害で特に高く、73.2%の人が希望している。また、聴覚障害では「被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる」（50.8%）が、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「避難するのを手助けしてくれる」（61.8%）が、それぞれ他の障害に比べて特に高くなっている。



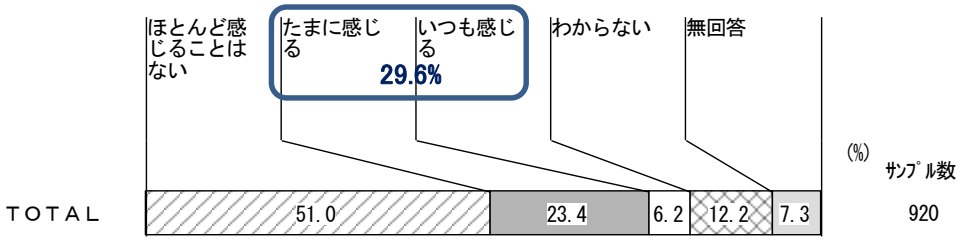
	問７ 身体障害者手帳に記載の主な障害	n	1 必要な投薬や治療が受けられる	7 充実させる避難所の設備（トイレ等）を	4 避難するのを手助けしてくれる	2 必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる	3 救助や避難時に声かけをしてくれる	5 被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる	6 コミュニケーションがとれるよう手助けしてくれる	8 その他	9 特にない	10 無回答
0	TOTAL	920	61.1	50.3	46.5	39.7	38.9	37.0	22.5	3.5	6.4	7.8
1	視覚障害	52	48.1	36.5	50.0	25.0	38.5	32.7	25.0	7.7	11.5	11.5
2	聴覚障害	59	40.7	42.4	40.7	40.7	47.5	50.8	44.1	1.7	5.1	10.2
3	平衡機能障害	2	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	20	55.0	35.0	50.0	30.0	45.0	20.0	20.0	5.0	0.0	25.0
5	肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	377	58.9	55.7	54.4	41.4	40.8	37.9	20.7	3.2	6.1	7.4
6	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	55	58.2	50.9	61.8	47.3	41.8	34.5	21.8	7.3	3.6	7.3
7	内部障害	261	73.2	48.3	35.2	41.0	34.9	37.2	20.7	2.7	6.9	5.4
8	その他	72	61.1	54.2	41.7	36.1	36.1	31.9	23.6	4.2	8.3	6.9
9	無回答	22	59.1	31.8	27.3	31.8	27.3	31.8	13.6	0.0	4.5	18.2

12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 53 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

約半数の人は、障害があることによる差別や疎外感を「ほとんど感じることはない」（51.0%）と回答しているが、「たまに感じる」（23.4%）と「いつも感じる」（6.2%）を合わせると、約３割の人は差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 54 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

【言葉や視線】

- 身体的特徴を指摘される。手術あとの傷を見て「何それ」といわれる。（10 代・上下肢）
- 医療（病院、医院）にて受診時、他の患者の前で大きな声で“障害はどこですか”、“そんな風には見えません”ｅｔｃ、無神経すぎる。（70 代・内部）
- 普通に話しているのだろうが、本人にしたら、ひそひそ話をしている様だ。（60 代・聴覚）
- 学校で「きもい（気持ち悪い）」とよその児童から言われる時。（10 歳未満・上下肢）
- 健康を持続する為に外歩きをすると、毎日がきまったコースになり、目障りだと人づてに聞かされた。（80 歳以上・上下肢）
- 買い物に行った時とか、歩行困難なので、後ろにいる人が早く歩けみたいな事を言う。（70 代・上下肢）
- じっと見られる。こっちを見てこそこそ話す。（20 代・視覚）
- 目と耳が不自由で、耳の場合、聞こえにくいとわかると、何となく嫌な顔をされたり、目も同じで、読むことなどに普通の人の何倍もの時間がかかることをわかってもらえずに、普通の人と同じような扱い方（途中までしか読みきれていないのに）をされたりする。（60 代・視覚）
- 外を歩いている時、車いすなのに自転車がスピードを出して過ぎ去る。道路のみぞに車いすの輪がはまっていても知らん顔で過ぎ去る。医者での出入りが段差がありすぎて入りにくい。見ていても声を出してお願いしないと助けてもらえない。（60 代・上下肢）
- 不思議なものを見るような目でジロジロ見られる。（20 代・上下肢）

【就労・職場】

- 職場でちゃんと教えてくれない（20 代・上下肢）
- 勤務していた時に協力者はいない。重い物を持つのを助けてくれず数ヶ月で退社した。（60 代・上下肢）

・ 職場で会議等の時、会話がつかめない。（30 代・聴覚）
・ 他の人と同じ仕事ができない。（40 代・内部）
・ 病院等の事を考えて（通院）、こちらの労働条件を話すと、「健康になったら」とか「病気が治ったら」とか面接で言われたりする。完治できないから、障害認定を受けているのに…。これでは働く気力もなくなるし、面接に行きたくない。（30 代・内部）
・ 私の場合、見た目には障害者とは見られないので会社、従業員の理解にたまに、差別、疎外感を感じることがあります。（40 代・内部）
・ もう４、５年位前の話ですが、勤務中に、ある女性職員から私とその方の二人だけの時間を見計らって、「あなたは障害者だから家にいればいいのになぜ仕事に出てくるの？」と言われました。（50 代・上下肢）
・ 障害者だからと言って仕事をことわられる時に。（20 代・上下肢）

【外出時や交通機関】

・ 歩いている（杖をついている）時、車や自転車がスピードをゆるめることなく、すごいスピードで横を通り過ぎたり、ひどい時はクラクションを鳴らして早くしろとどなられる時も何回もあった。（70 代・上下肢）
・ 車いすなので自分で自由に外出できない（70 代・上下肢）
・ 「車イス席がないから…」と断わられる事が多い（10 代・上下肢）
・ タクシーに乗る時、動作が遅く車椅子の積み下しもあり、運転手にいやな顔をされた時もしばしば。タクシーに乗るのが“こわい”と恐れる時さえあった。介護タクシーは混んでいて（予約で）、急の発熱などはタクシーに頼らざるを得ない。（70 代・上下肢）
・ 公共交通機関に乗る時、白い目で見られる事がある。タクシーに乗車拒否される。（30 代・視覚）
・ 外出時なれない場所での行動の際に感じる事がある。切符購入の際時間がかかる（運賃確認コイン投入等）。（40 代・視覚）
・ 車イスなので人ごみ、飲食店などで面倒な顔をされたり、車イス数人で行くと断わられたりする。賃貸の契約を断わられたりする。（50 代・上下肢）
・ 公共交通機関の利用時、のりかえの不便さ、階段、エスカレーター・エレベーターの位置など。（80 歳以上・上下肢）
・ 動きが遅いので、ジロッと見られる。自分自身も迷惑をかけてはいけないと思い外出をひかえる。公共交通を使うのをためらう。（60 代・上下肢）

【交流の機会】

・ 友人等の集まりに外されたりする。（自治会等）（60 代・上下肢）
・ 話の輪の中に入れないから。（60 代・聴覚）
・ 自分の体力がどの程度の動きに耐えうるのが不安である。団体行動で「もしも」のことがあったらと思うと積極的になれない。（70 代・内部）
・ 友人の会話についていけず、私だけ取り残されるとき。健聴者と障害者（聴覚障害）で接する態度が変わるとき。（10 代・聴覚）
・ 歩行が困難で長く歩けないので、どうしてもいろいろなことに参加しようという気がなくなる（気持ちは行きたい）。（50 代・上下肢）
・ スポーツ等、大きく体を使うこと、力を使うことを行うとき。必要な区別と考えるが多少の疎外感を感じることがある。（20 代・上下肢）

・ 会話によるコミュニケーション困難のため、会話に入っていけない。食事（飲食）できないので、飲み会や食事に行けない。（40 代・音声）
・ 近所の人に出会っても、あいさつ程度の声かけでそれ以上の会話にならない。（20 代・内部）
・ 近所のお友達が出来ない。（10 歳未満・聴覚）

【障害に対する理解不足や誤解】

・ 相手の話が聞こえない。相手は障害を見るだけで、人間的な部分までは見ないでおしまいにする。目で見える形、筆談や手振り、身振りで、コミュニケーションを表わして欲しい。（60 代・聴覚）
・ 軽度の障害は見た目に出ないため、困っていることに気づかれない。（40 代・上下肢）
・ 早口で話されたりすると聞き取れない時もある（70 代・聴覚）
・ 病気の理解がむずかしい。（60 代・内部）
・ 体が悪いから、やるからゆっくりしていてとか、何かやりたいが休んでいてと言われる。（30 代・内部）
・ 細かい文字が読めず周りの人に聞いた時、不親切な対応があった。（60 代・視覚）
・ トイレに行く回数が多い為、またかという顔をされる時が有る。（60 代・内部）
・ 言葉が不自由の為、自分の思う事が正確に通じない。（80 歳以上・音声）
・ 耳がきこえないので人と話をする時。（70 代・聴覚）

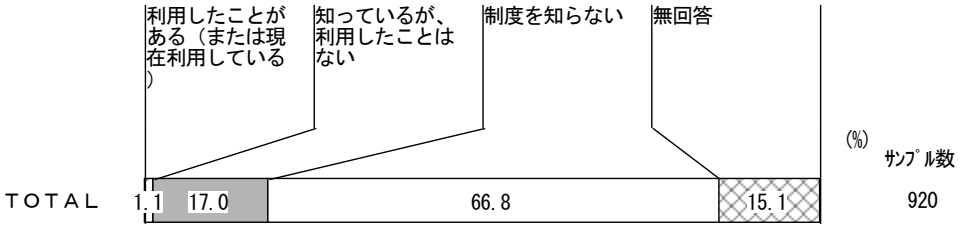
【その他】

・ 幼児期よりの障がいのため、慣れてしまっていることもあるし、あきらめている。（50 代・視覚）
・ １人では何もすることができないと感じた場面や必要とされていないと感じた時。（70 代・平衡）
・ 広い範囲が見えない為、左側の人の行動がわかりにくく、別行動をとってしまい声をかけてもらわないとわからずはじをかく。（70 代・内部）
・ 友人、知人と話しをしていて、事故に会った人や障害者について同情的な話はするが、それは身勝手な同情論（自分でなくてよかったという）が多い。（70 代・内部）
・ 生まれ育った所なので、町内の人達皆さん知っていまして、言話をやられて言葉がしょうがいになって少し疎外感があります。（70 代・その他）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 55 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

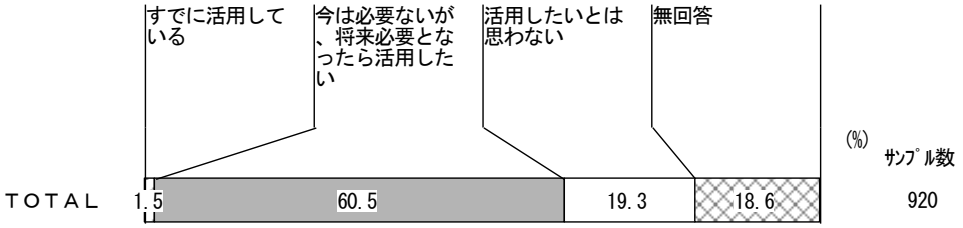
「あんしんサポートねっと」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 10 人（1.1%）、「知っているが、利用したことはない」人は 17.0%で、合わせると事業のことを知っている人は約２割（18.1%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 56 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

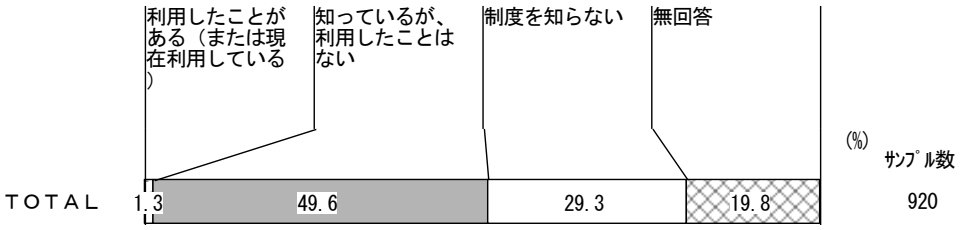
「あんしんサポートねっと」については、約６割の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」（60.5%）と考えている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 57 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

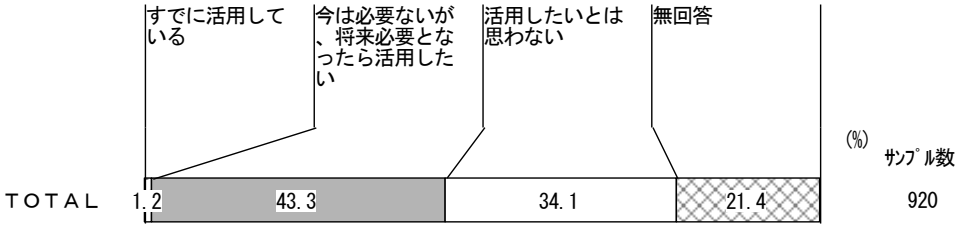
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 12 人（1.3%）、「知っているが、利用したことはない」人は 49.6%で、合わせると制度のことを知っている人は約５割（50.9%）である。



（６）成年後見制度の利用意向

問 58 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、43.3%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。

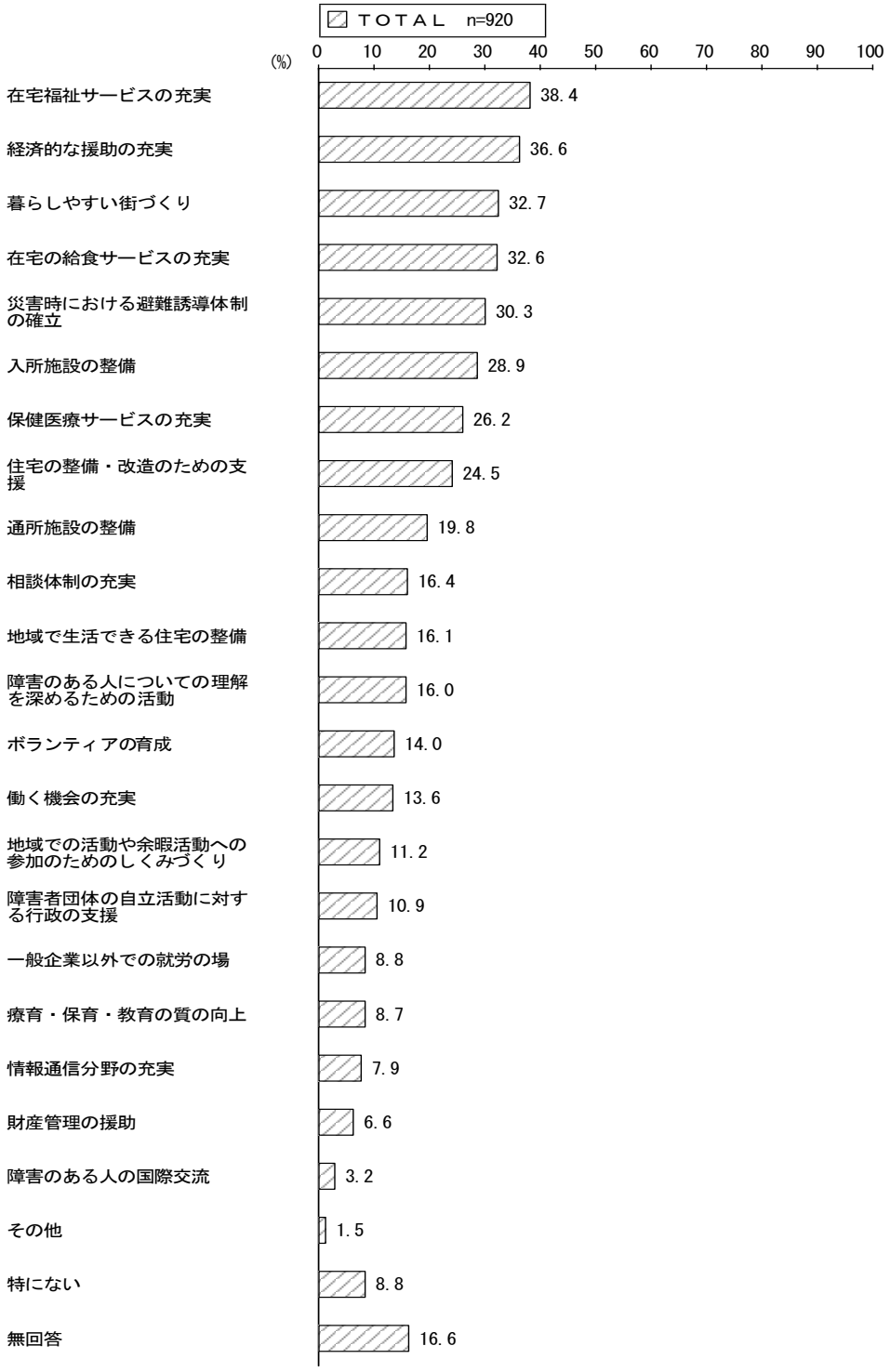


13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

問 59 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

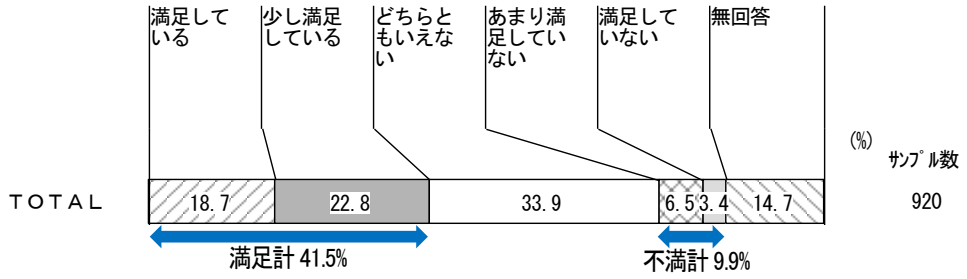
市が充実させていくべきこととしては、「在宅福祉サービスの充実」をあげる人が 38.4%と最も多く、次いで「経済的な援助の充実」（36.6%）、「暮らしやすい街づくり」（32.7%）、「在宅の給食サービスの充実」（32.6%）と続いている。



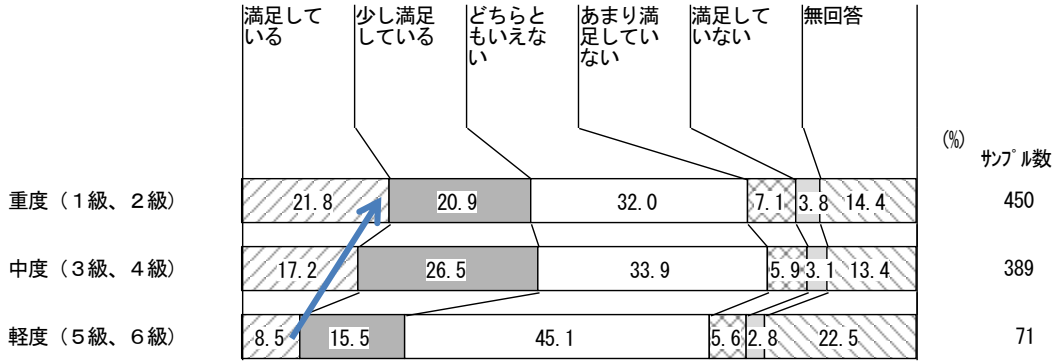
（２）福祉サービス全般の満足度

問 60 川越市の福祉サービス全般について、満足していますか。（○は１つ）

福祉サービス全般について、「満足している」人は 18.7%、「少し満足している」人は 22.8%で、合わせると約４割の人は概ね満足していることがわかる。一方、「満足していない」は 3.4%、「あまり満足していない」は 6.5%で、満足していない人は約１割となっている。



障害の程度別にみると、「満足している」と回答した人の割合は、重度（１級、２級）、中度（３級、４級）、軽度（５級、６級）で比べると、程度が重いほど大きくなっている。



（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【環境整備などに関すること】

- 市内に病院は沢山あるが、市の総合病院みたいのがあると大変いいと思います。（70 代・上下肢）
- スーパーや道路に腰掛けるいすが欲しい。バス停留所にもベンチがほしい。（80 歳以上・上下肢）
- 近くにシャトルの乗る所がない。外出するのがおっくうです。たまには歌でも聞きたいが近くにない。市民会館が遠い。（80 歳以上・上下肢）

- 街中の道路建物の入口、出口、駅、バスの乗り降りするところでは、段差の解消をお願いします。不安で出掛けたくてもおっくうになってしまいます。（70 代・その他）
- 役所関係の場所にもう少し障害者用の駐車場を増してほしいと思う。（70 代・上下肢）
- 本川越駅につながるシャトルバスを作ってほしい。（40 代・上下肢）
- 目と耳が悪いけど、川越に越して来て思ったこととしては、まず点字ブロックはほとんど、どこを歩いてもきちんとしていることには、うれしく思いました。（60 代・視覚）
- 市内商店街等ベンチがないので外出時に困ります。（60 代・上下肢）
- 特に歩道でのちょっとした段差等、できれば補修をお願い致します。（70 代・上下肢）
- 川越は用水路が道路になっている所が多く、歩道が平らではなく、車イスを押してもらっての移動もたいへん。装具をつけて杖をついて歩くのはもっと困難。中心部だけでなく、歩道を整備していただきたい。（60 代・上下肢）
- 自宅の近くで車がよく通るのですが、スピードが出ているのでとても危ない。耳がきこえないので背後からスピードを出している車に気づきません。また、防犯灯のないところは暗いので取りつけてほしい。（10 歳未満・聴覚）
- 川越駅西口駅前広場改修後には、2 階通路を使うようになっているが、駅への距離が長くなり、下肢障害者である者には、わずかな距離でも不便である。（50 代・上下肢）

【相談に関すること】

- 障害者本人についての支援や相談はあるのに、援助している者に対しての相談窓口があるのか分からない。相談できる所を明確にしてほしい。（50 代・上下肢）
- 現在、障害を持つ婚約者がいます。お互い障害者ですが一緒に暮らしたいと思っています。でもなかなか県営、市営に当たらないことや、私は仕事をしておらず一緒に住むとなれば 2 人の年金、婚約者の給与になると思うのですが、その辺こまかく相談にのってほしいなと考えています。（30 代・上下肢）
- 今後、もし生活をしていく上で困った事ができたら、相談にのっていただけたらと思います。（60 代・その他）

【手続きに関すること】

- 障害者手帳の取得、級の変更をやりやすくしてほしい。本人の体の状況は、本人しかわからず、規則どおりの項目にはあてはまらなくても柔軟に対応してほしい。（50 代・上下肢）
- 各種援助や補助を受けるのに、申請しないといけないシステムが多い。情報を見落とすと申請が出来ない。申請の内容、方法がわかりづらい（丁寧にいっぱい書いてあるので読むのが大変）。（60 代・上下肢）
- 重度障害者手当が支給条件から外れる連絡を受け、中止となった。市の財政負担が厳しいとの理由で手当は廃止となったと思っていたが、病院仲間から今も支給されている事を知り、市役所へ出向き、調べてもらった結果支給条件ＯＫとの事で来月より支給されると言われた。但し条件がＯＫになった月次まで手当は遡れないとの事。条件が整った事を市から連絡してもらいたかった、その時点で再申請出来たのに。（70 代・内部）
- 大腿骨頸部骨折による左股関節人工骨頭（関節）置換により４級を取得しているが、病院から教えてもらえず、数年後に友人から教わり、あわてて手術した病院に行き、４級をいただいた。現在脳梗塞の為、胃ろうで体は全く動けず、これでなんで４級なんだろうと疑問を持ち、長く治療をしている。眼科に今ほとんど見えない状態なので級の申請（１年間かかりました）し、市役所に提出中です。総合的にスムーズに見てもらえるようにしていただきたいです。（80 歳以上・上下肢）
- 補聴器の申請を行ったが、まだ許可が出ないので早くしてほしい。（約３ヶ月まっている）（50 代・聴覚）
- 市の福祉支援内容、手続きがよくわからない。（60 代・上下肢）

【情報提供に関すること】

- 障害者手帳のしおりみたいなものがありましたら欲しいです。交付を受けてから 10 年になろうとしています。その間、制度の変わったところもあるのでは。（80 歳以上・上下肢）
- 障害者の手続きの際、小さなサービスでも、全て教えてほしいです。具体的に本人がわかる様にお願いします。（60 代・聴覚）
- 今後病気が進行した場合に利用できるサービスを積極的に紹介してほしい。（60 代・上下肢）
- アンケートに記入し、障害者に対するサービスが、色々あるなと感じました。こうした障害者サービスの情報をどこから入手するか、よくわからないです。サービスを知らずに、受けることがないままの方もいるかと思います。障害を持つ本人、家族だれもが共有出来る情報網の充実を是非お願いしたいです。我家にはインターネットはありません。高齢の所帯には直接足をはこんで、定期的に情報提供するのも必要です。障害者のだれもが、より簡単に、よりスムーズに、その人にマッチしたサービスを受けられるようお願いします。（80 歳以上・上下肢）
- 現状の障がい程度では行政からの支援は該当するものがないと思っています。できれば「あなたはこのような制度が利用できます」のような「おしらせ」的なものを教えていただければ良いと思います。（50 代・視覚）
- 使用できるサービスの情報が入るようにしてほしい。どんなサービスかわからないため。（60 代・視覚）
- 福祉サービスの内容をもっとわかりやすい言葉で説明して、そのサービスがすぐわかるようにしてほしい。パソコン、スマートフォンができない人もいるということもわかってください。（70 代・その他）

【各種サービスに関すること】

- 身体障害者手帳のプラスチックのカードも作ってほしい。バスなどで提示する時に、今の手帳では、バックに入れるしかない。足がわるいと、手ぶらでないと、歩けないので。（50 代・上下肢）
- 内部疾患者でも安心して診療の受けられる総合病院で、何時でも、紹介状が無くても、救急車で行かなくても、急を要する時には診察していただけたら良いと考えています。（70 代・内部）
- 川越市内循環バス特別乗車証で通院に役立てています。とても助かります。今後も続けていただける様願います。（70 代・内部）
- １人暮らしをしていますが、市の担当（福祉の担当）者や民生委員のどなたか１人でも、年に１度位は顔を出してくださると心強いです。（70 代・上下肢）
- タクシー券を毎年送って頂いていますが、肢体不自由で車イスも大きい物を使用しているので、タクシーには乗れず自家用車での移動です。タクシー券を一枚も使わず終わる事がほとんど。タクシー券ではなくガソリンの補助券にしてほしいです。他の市ではどちらかを選べる所がほとんどと聞きました。（10 代・上下肢）
- タクシー利用券をもらいましたが、県内でしか使えないとのこと。病院は都内にあるので使えない。車を運転するので、タクシーより自分の車の方が便利。ガソリン代の援助をしてほしい。（40 代・内部）
- 医療の進歩により重度重複かつ医療的ケアを必要とする子ども（大人も）が増えています。訪問看護を居宅に限らず学校や外出先にも派遣できると、もう少し暮らしやすくなると思います。（20 代・上下肢）
- 86 歳と 80 歳の２人暮しですが、安否について１度も訪問を受けた事はありません。時には配食も利用できればずい分助かるのと思うのですが。（80 歳以上・上下肢）
- 現在パソコン等の情報機器は使っていないが（以前少し使っていたが身体の障害が重くなりやめた）、使ってみようかという気持ちがでてきたので、指導してくれる人を紹介してもらいたい。（60 代・上下肢）
- 介護保険を利用し、生活援助を受け、自立した生活にむけて、自分なりに努力してきたが、２年後に生活援助がなくなると聞いて困っている。自立支援の居宅介護がなくなることがないことを願う。（60 代・上下肢）
- 雪の降った日でも、契約日であればケアセンターが朝迎えに来るが、玄関から道路まで、ほんの数メートルの雪かきが出来ない。腰痛の妻も出来ず、あぶないし、ゴミ出しにも行けず本当に困る。（70 代・聴覚）

- 地域包括支援センター主催の教室に要約筆記者派遣を認めて下さい。（60 代・聴覚）
- 老々介護でとても疲れていますが、マッサージ券が届いてもそこまで行けません。（70 代・上下肢）
- 自宅訪問を２～３日して、どんな生活をしているか見学してほしい。障害者の立場に立って臨機応変に対応してほしい。（40 代・上下肢）
- タクシーを利用する事が多いのですが、一部のタクシー会社では割引をしてくれません。乗務員の方は割引制度を知っていると思うのですが、二度三度云うと嫌な顔をしながら割引してくれます。もちろんきちんとしてくれるタクシー会社もあります。行政の方から、指導して頂ければありがたいです。（60 代・上下肢）
- 聴覚障害は日本語の獲得も難しい。筆談でも意味が伝えづらい場合もあり、手話でのコミュニケーションを必要とする人が多数いる。公共施設には最低１人手話通訳者を配置してほしい。（10 歳未満・聴覚）
- 交通事故で障害者になりました。外傷性だと45 才になっても介護保険が使えないそうです。リハビリ、ショートステイなど利用できないことがあります。とくにショートステイをしたいと思っても、近所にあるものは介護保険がないと利用できません。介護している者が急用ができた時など、どうしていいのかわかりません。（40 代・上下肢）

【施設の整備などに関すること】

- 市として優先して整備し、介護労働者の労働条件向上、賃金、保証アップ等、改善の支援制度を考えて下さい。低賃金では、施設職員は集りません。（80 歳以上・音声）
- 医療的ケアを必要とする子どもが通ったり、ショートステイを利用できるような施設を市内にも作ってください。（20 代・上下肢）
- 重度訪問介護、重度障害者等包括支援の事業をやっている事業所が市内に１ケ所もないなんて。国の制度にあっても、川越市民は利用できないのは、なぜなのでしょうか。（20 代・上下肢）
- 入浴などもヘルパーを利用していますが、ヘルパーの方々も若くて体力のある方が少なくとても大変です。決められている月 10 日のショートステイも充分にとれなく、介護がとても大変です。どうか重身施設の取りくみに着手して下さい。（40 代・上下肢）
- 市の福祉サービスについてありがたいと思っていますが、予算等の関係もあり福祉事業所の職員、特に休日等は人員が足りなくなるように思います。パートの人も勤務できるよう出来れば、入所者はありがたいと思います。排せつなど、職員さんのお世話になることも多く、人手不足を感じることあります。（80 歳以上・内部）

【経済的な援助に関すること】

- 障害者の医療費は、できるだけ援助してほしいです。（60 代・聴覚）
- ４級ですが、普通に働いていて収入もあります。非課税ということで医療費が無料となってしまうのが心苦しく思います。制度はありがたいのですが、もう少し許容範囲をせばめないと、市の財政を圧迫してしまうのではないかと心配です。（60 代・上下肢）
- 医療機関に入所していて月１泊２日の外泊に対してヘルパーが使えません。家族等の介助だけで病院から自宅への介護がとても大変です。ぜひともヘルパーを使えるようにして下さい。（20 代・上下肢）
- 家での介護は家族全員に負担がかかり、介護者は仕事もできず、経済的にも大変です。以前は介護する人にも支援金が支給されて少しは励みにもなりましたが、今では廃止されて残念です。（80 歳以上・上下肢）
- デイリハセンターに通っています。移動や体を動かすための器具、道具等に対してお金がかかります。生活が苦しいため、無料にしてほしいです。（60 代・上下肢）
- 身体不自由でも体を動かせる場所があればいいなと思っています。なかなか普通のスポーツする場所があっても料金のこと等も大変。設備も障害者の人用に充実させてほしい。気軽に運動したいです。（30 代・上下肢）

・ 時々ショートステイを利用し、助かっておりますが、1泊2日で居住費が 6000 円かかります。以前（数年前）は1泊2日で 2000 円位の負担ですみました。居住費が安いと助かるのですが。（50 代・音声）
・ 障害4級者に対しての助成金が廃止され、低所得者の私には、非常に困っています。（60 代・上下肢）
・ 難聴の為、補聴器を使用しています。購入時に代金の一部を補助していただきましたが、なぜ全額補助出来ないのか不思議です。（40 代・聴覚）
・ 補聴器の5年の交換を2度ほど行いましたが、本人の負担が多すぎますし、高額の補聴器を買うとなると手が出ません。他市では全額市が負担してくれる所もあると聞いています。（60 代・聴覚）
・ ストマ支援を受けているが、5回手術しており、ストマの大きさが合ったものが限られているため、支援受けている費用の 1.5 倍から2倍かかる。ストマ費用は全額支給してほしいです。（60 代・内部）
・ 補聴器の電池は、毎日使うもので、消耗も激しいので、電池代の補助をお願いしたい。（10 歳未満・聴覚）

【教育、就労に関すること】

・ 勉強を支援する体制があると良いと思います。塾や学習教室には行けない人が、学校で学んだことを理解できないという状態になると、その単元につながる勉強は苦手になります。（10 代・聴覚）
・ 難聴児（未就学児）に対するフォローがなさすぎる（育成医療などの金銭的なことではなく、教育、情緒面）。難聴学級も市内に1つだけでは、親の負担が大きい。小学校1校だけでなく、もっと必要だと思うが、それ以前に中学校の難聴学級も必要。（10 歳未満・聴覚）
・ 特別支援学校へ通っていて、来年度卒業予定。卒業後の就職先を探しています。家から近い所を希望。なぜならば持病の発作（けいれん）あったり、体力がなかったり、排泄の問題などがあるから。（10 代・その他）
・ 現在就職活動中ですが、川越市内では障害者向けの正社員求人がほとんどないので、安心して働けるように障害者への理解を進めて欲しいです。（20 代・上下肢）
・ 就労できても、賃金は安く、正社員のように長く勤務できないので、どうしてもハンデを負ってしまうこの現状をわかってもらいたいと思います。（50 代・上下肢）

【障害に対する理解や権利擁護に関すること】

・ 家族が病気を理解してくれないです。体調の悪い時に痛いとか言うとうるさいといわれる。（60 代・その他）
・ 成年後見制度に関して。今後の日本は高齢化がさらに進み、高齢者のひとり暮らしも益々増えていきます。判断能力が不十分な高齢者も増える中、財産を守る成年後見制度は必要と感じる。（80 歳以上・上下肢）
・ オアシスの交流会に参加時、「保護者同伴でないと」と言われた。（10 代・上下肢）
・ 内部障害のため、障害者用駐車スペースに車を駐車すると、見た目は健常者と変わらないため、皆に、「変な目」で見られる。内部障害者でも利用できる駐車スペースを確保してほしい。（30 代・内部）
・ 障害者マークの表示の理解や難病・発達障害などの理解が残念ながら十分に浸透していません。その要因はいくつかあります。1つは広報かわごえへ掲載していないこと。ＨＰも不十分です。また、講演会・交流会・催しのお知らせが少なかったり、実施していなかったのが問題です。（30 代・聴覚）
・ 電車、バスには高齢者、障害者の席が設けてありますが、席をゆずる人はあまりおりません。これは指導的立場の人の怠慢と思いますのでご指導下さい。ペースメーカーをしている人には一般の人に見えるようなバッチ等を配付して下さればと思います。そうすれば他の人々も気付いて注意して下さると思います。以上のことが実現すれば電車、バス等の乗車も遠慮なく出来て気兼ねなく生活できます。（80 歳以上・内部）
・ 日常で一番困る事は役所・病院・ホテル等の受付の人の声が非常に小さいこと。（70 代・聴覚）
・ 障害者が地域で生活していくためには、まわりの人の理解がとても必要である。これからの人々に対しての教育や人権教育等をしっかり行え、又、障害に理解のある教員を育てて（採用）ほしい。（10 代・上下肢）

- 障害者について、学校等でも指導があるが、重度であったり、介助を多く必要とする人のことと思っている子が多い。障害者と接する日常生活ではないため、障害を特別視している。目に見えない障害を持って暮らしている人も多い事に理解を深めるべきだ。普通に接してもらえる事が障害者にとってどれほど心地良い空間であるか。何かしてあげる、気配りをするのではなくごく普通に接することが出来る子供は少ない。（10 代・上下肢）
- 身体障害者にとって、その立場に立たされた時にはじめて気がつくように、人間は身勝手であるように思います。それ故に健常者に対しては幼児期より教育する必要があります。（70 代・内部）

【非常時、緊急時の対策に関すること】

- 非常時に備え、避難訓練の実習は出来ないものでしょうか。（70 代・その他）
- 防災無線が聞こえないので早目の準備とか出来ないのが不安です。（60 代・その他）
- この度救急車のお世話になってしまった。土曜日の夜だったため、受入れ先が決まらず長い時間がかかった。命には別条なかったものの、本人は苦しみ家族の不安は大変なものでした。体験者として救急対策に一考をお願い致します（80 歳以上・内部）
- 血液透析。災害など、緊急時に最善の処置をお願いします。（60 代・内部）
- 災害時救出の手助け登録が完了したとの知らせを受けました。有難いと思うのですが、救出の後はどうなってどこ迄頼れるのか不安です。1 人では何も出来ない者の扱いについて教えてほしいです。（80 歳以上・上下肢）
- 現在、人工透析をしています。職場が熊谷なので、月・水・金の夕方 16 時 40 分に早退させていただき、勤務しながら近くの病院に通院している状況です。自分の都合なのですが、非常事態の際には、近くの病院で人工透析ができれば、安心が保てると思っているのです。（50 代・内部）
- 当地域（萱沼）は水害が心配。高台に移動する指示だが、受入れ場所が不明。（60 代・内部）
- 身体に障害があるので、地震等の災害時の避難場所に身体ケアをする個室は必要です。トイレも設けてほしい。（80 歳以上・内部）

【将来の不安などに関すること】

- うまく自分の意思を伝えられないことが一番大変。現在介助をしてくれている母が今後介助できなくなったときに不安。（40 代・上下肢）
- 今は親族がいるので、1 人になった時は、誰に何をどれだけ頼っていいかはわかりません。（70 代・内部）
- 両足ひざ人工関節ですが、認知病の姑の介護をしています。リュウマチという病気もあり自分自身もいつ介護をしてもらう方になるかわかりません。あまり私も動ける方ではないので、少し姑の介護の方に力を入れてもらえるとありがたいのですが。（60 代・上下肢）

【交流の機会に関すること】

- 目や、耳などの不自由な人々の集まりのようなものがあれば是非教えてもらいたいです。特に越してきて 1 年もたたないので、いろいろなことで情報とか同じ立場の人々との交流をしたいと思っています。（60 代・視覚）
- 同じような障害をもった人と話せる場所がほしいです。（60 代・上下肢）

【アンケートに関すること】

- アンケートは大切で、いいことだと思いますが、回答する数が多すぎると思います。もう少し絞り込んで設問して下さい。（50 代・内部）
- この様に身体障害の人達を気にかけて下さるのは心強く思います。皆の意見をまとめて少しでも充実した支援が出来るよう頑張って下さい。（70 代・上下肢）

・ 障害者と知られたくないのに、担当欄に障害者福祉課と記されているのは配慮が足らない。（50 代・視覚）
・ 右手マヒの人へのアンケートは配慮してほしい。アンケートの書けない人々のことも考えてほしいと思う。この記入に 1 時間余、疲れてしまいました。（80 歳以上・音声）
・ 視覚障害者なので、アンケート自体を点字のもので送ってほしかった。（70 代・視覚）

【その他】

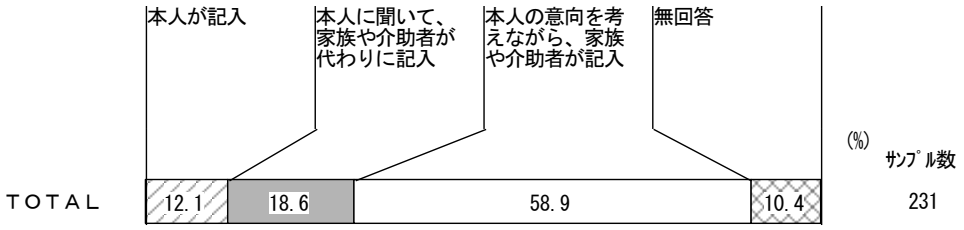
・ 窓口でやさしく教えていただいてほっとします。これからもよろしくお願い致します。（80 歳以上・その他）
・ 電話にしても、市役所の窓口にしても、とても親切にしていただき、感謝しています。（60 代・内部）
・ 川越市役所の障害福祉課の方々には大変お世話になっています。いつも親切でやさしく応対して頂いています ありがとうございます。（70 代・上下肢）
・ 福祉課に行くことがあるが、職員によって把握してない内容があったりするので、改善していただきたい。（30 代・上下肢）
・ 医療、福祉関係の財源削減はしてはいけない。弱者切捨ての恒常的考え方、姿勢の定着、当然の意識はあってはならない。（60 代・内部）
・ 自宅で 24 時間完全介護するということは、重労働である。これは、経験したことのある人でなければわからないことである。（80 歳以上・その他）
・ 自分でしたい事の一つでも見つけて、意欲のある生活を送りたい。出来ることがない現在の自分に自信の持てるものを探して、少しでも、生きていることを感じたい。（70 代・上下肢）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

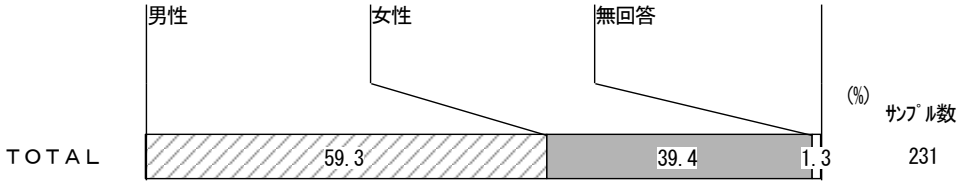
「本人が記入」が 12.1%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 18.6%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 58.9%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

男性が 59.3%、女性が 39.4%である。

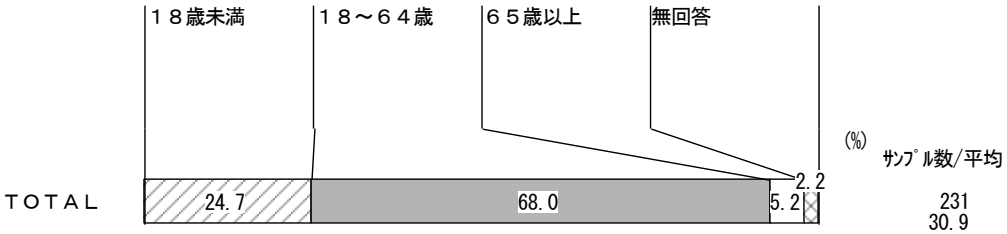


（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

年齢構成は、「10 歳未満」8.2%、「10 代」19.9%、「20 代」20.8%、「30 代」22.5%、「40 代」14.7%で、平均年齢は 30.9 歳である。また、18 歳未満が 24.7%を占めている。

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
n=231	8.2%	19.9%	20.8%	22.5%	14.7%	4.8%	3.9%	2.2%	0.9%	2.2%



（４）居住場所

問４　現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は１つ）

「自宅」で暮らしている人が、約８割（81.0%）を占める。

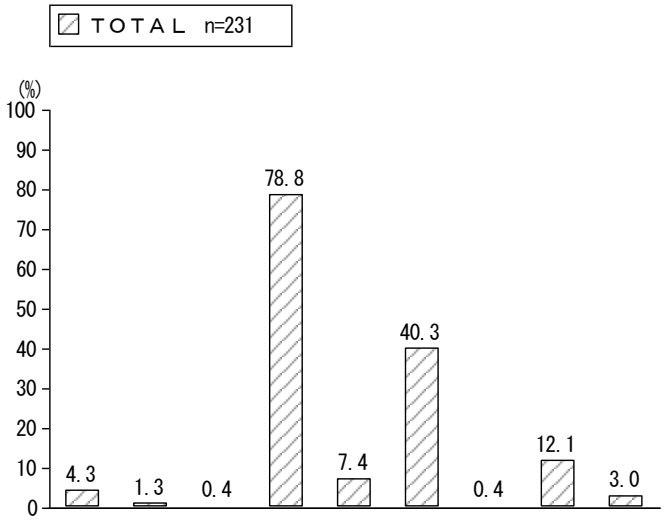
	自宅	グループホーム	ケアホーム	病院に入院している	施設に入所している	その他	無回答
n=231	81.0%	1.3%	3.0%	1.7%	10.0%	2.2%	0.9%

（５）同居者

問５　現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

約８割の人は、「父、母」（78.8%）と一緒に暮らしている。

年代別にみると、「自分一人だけで暮らしている」人の割合は、20 代では 6.3%、30 代では 3.8%、40 代では 5.9%、50 歳以上では 11.1%となっている。また、10 歳未満・10 代では、６割以上が「兄弟、姉妹」と一緒に暮らしていることがわかる。

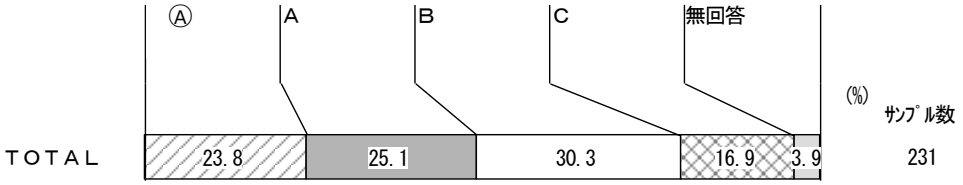


	問３　年齢（１０歳刻み）６区分	n	1 自分一人だけで暮らしている	2 配偶者（夫または妻）	3 子ども（子どもの配偶者も含む）	4 父、母	5 祖父、祖母	6 兄弟、姉妹	7 その他の親せき	8 その他	9 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	4.3	1.3	0.4	78.8	7.4	40.3	0.4	12.1	3.0
1	１０歳未満	19	0.0	0.0	0.0	100.0	26.3	68.4	5.3	5.3	0.0
2	１０代	46	0.0	0.0	0.0	100.0	10.9	60.9	0.0	2.2	0.0
3	２０代	48	6.3	0.0	0.0	85.4	12.5	47.9	0.0	10.4	2.1
4	３０代	52	3.8	3.8	1.9	82.7	1.9	28.8	0.0	5.8	1.9
5	４０代	34	5.9	2.9	0.0	73.5	0.0	23.5	0.0	14.7	0.0
6	５０歳以上	27	11.1	0.0	0.0	25.9	0.0	22.2	0.0	44.4	7.4
7	無回答	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0

（６）障害程度

問６ お持ちのみどりの手帳の程度をおたずねします。（○は１つ）

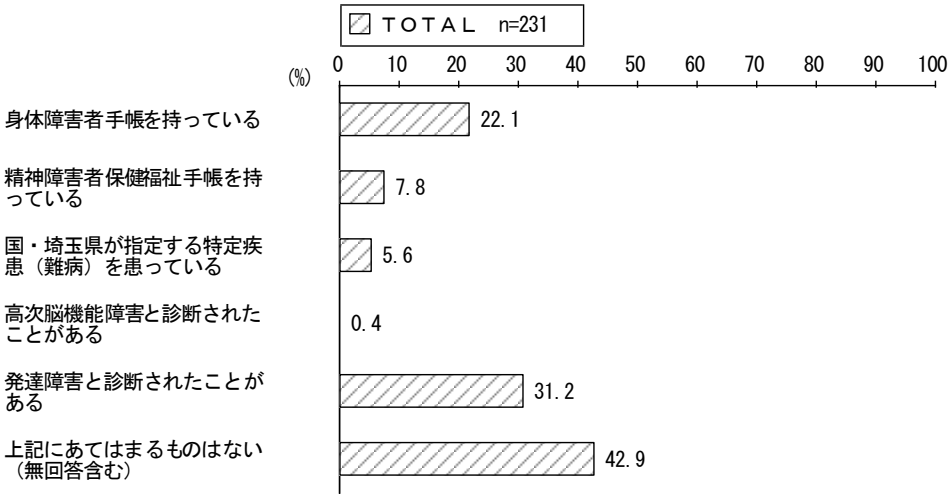
みどりの手帳に記載されている障害の程度は、「Ⓐ」が 23.8%、「A」が 25.1%、「B」が 30.3%、「C」が 16.9%となっている。



（７）他の障害の状況

問７ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

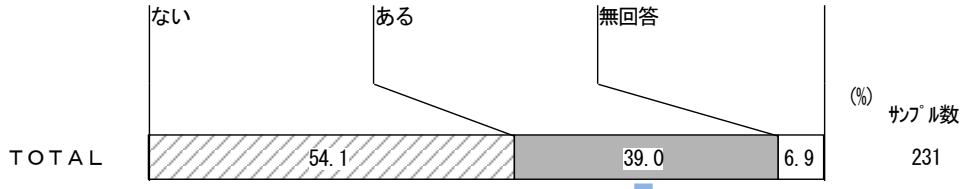
知的障害以外の障害との重複状況をみると、「発達障害と診断されたことがある」人は 31.2%、「身体障害者手帳を持っている」人が 22.1%いることがわかる。



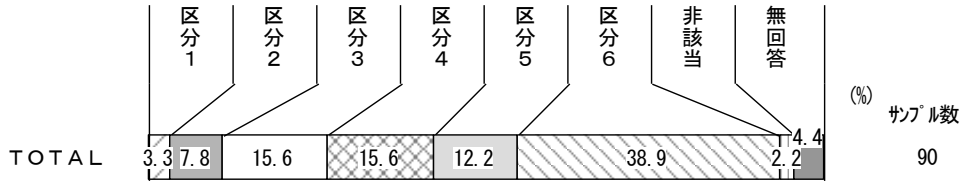
（８）障害程度区分

問８ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことがある人は 39.0%で、区分としては「区分６」が 38.9%と最も多い。



《認定区分内訳》



《みどりの手帳の障害程度と認定区分との関係》

障害程度 ＼ 認定区分	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	無回答
Ⓐ	34	5.9%	－	2.9%	11.8%	11.8%	67.6%	－	－
A	30	－	6.7%	26.7%	13.3%	20.0%	26.7%	－	6.7%
B	14	－	21.4%	14.3%	28.6%	7.1%	21.4%	7.1%	－
C	9	11.1%	22.2%	22.2%	22.2%	－	－	11.1%	11.1%

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問９ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は 8.7%で、約９割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「親」が 71.4%である。なお、具体的な介助・援助者を選択した人でみると、「親」が 81.7%を占めている。

年代別にみると、40 代までは「親」が主な介助・援助者である割合が最も高いが、50 歳以上では「兄弟姉妹」（25.9%）が「親」と同率となっている。

	n	特に介助・援助は受けていない	親	兄弟姉妹	その他の親せき	ホームヘルパー	その他	無回答
TOTAL	231	8.7%	71.4%	3.5%	0.4%	1.3%	10.8%	3.9%
10歳未満	19	－	100.0%	－	－	－	－	－
10代	46	4.3%	91.3%	－	－	－	2.2%	2.2%
20代	48	12.5%	70.8%	－	－	－	8.3%	8.3%
30代	52	13.5%	76.9%	－	－	3.8%	5.8%	－
40代	34	5.9%	58.8%	2.9%	2.9%	2.9%	14.7%	11.8%
50歳以上	27	11.1%	25.9%	25.9%	－	－	37.0%	－
無回答	5	－	60.0%	－	－	－	40.0%	－

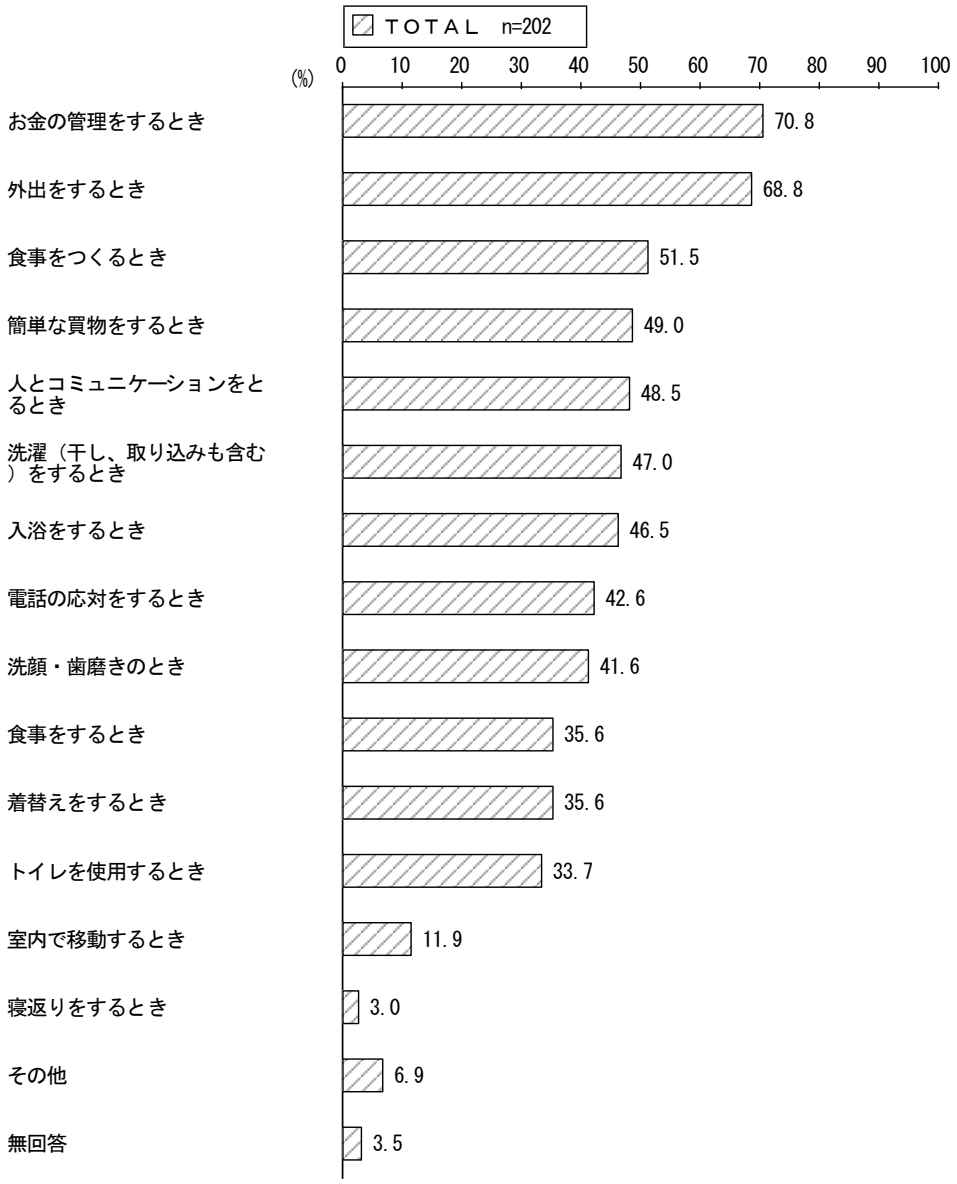
	親	兄弟姉妹	その他の親せき	ホームヘルパー	その他
主な介助・援助者に記入あり n=202	81.7%	4.0%	0.5%	1.5%	12.4%

（２）介助・援助を受けている場面

問 10 どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「お金の管理をするとき」が 70.8%と最も多く、次いで「外出をするとき」（68.8%）、「食事をつくるとき」（51.5%）、「簡単な買物をするとき」（49.0%）、「人とコミュニケーションをとるとき」（48.5%）と続いている。

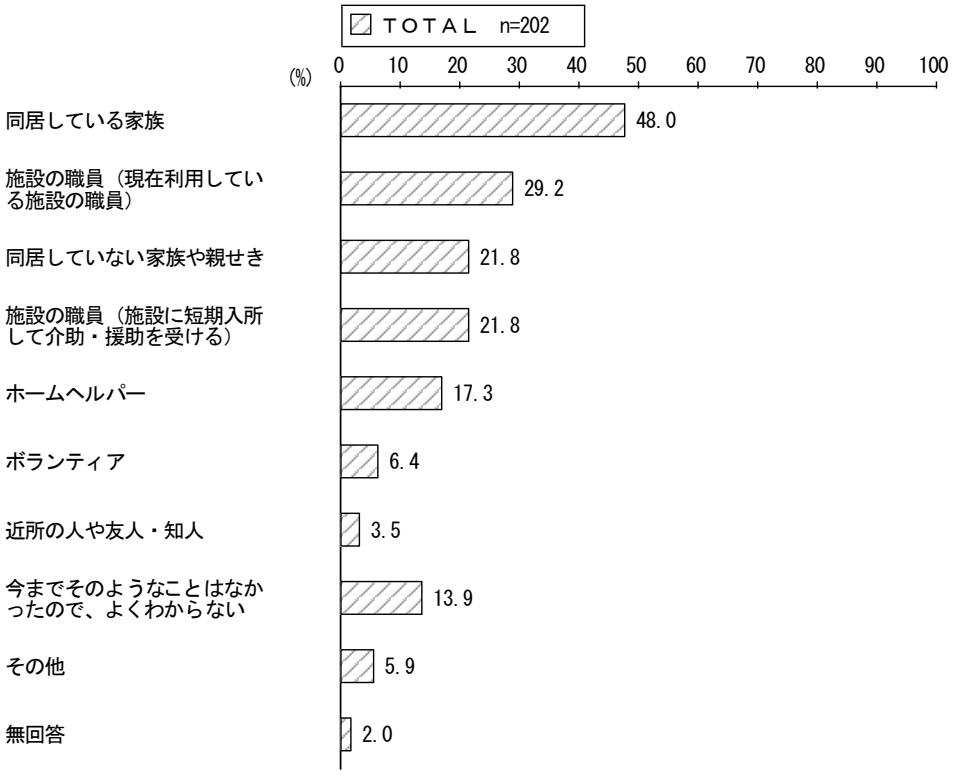


（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

問 11 あなたを主に介助・援助している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、替わりに誰に介助・援助してもらいたいと思いますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

主な介助・援助者が不在のときには、替わりに「同居している家族」の介助・援助を希望する人が 48.0%と最も多く、次いで「施設の職員（現在利用している施設の職員）」が 29.2%、「同居していない家族や親せき」と「施設の職員（施設に短期入所して介助・援助をうける）」がそれぞれ 21.8%で続いている。



3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

問 12 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。（○は１つ）

外出の頻度は、「週に５日以上」が約７割（69.3%）を占める。

年代別にみると、「18～64歳」では、「週に５日以上」が66.9%、「週に３～４日」が10.8%、「週に１～２日」が 5.1%となっており、８割以上の人は週に１回以上外出しているが、「ほとんど外出しない」人も約１割（8.9%）みられる。

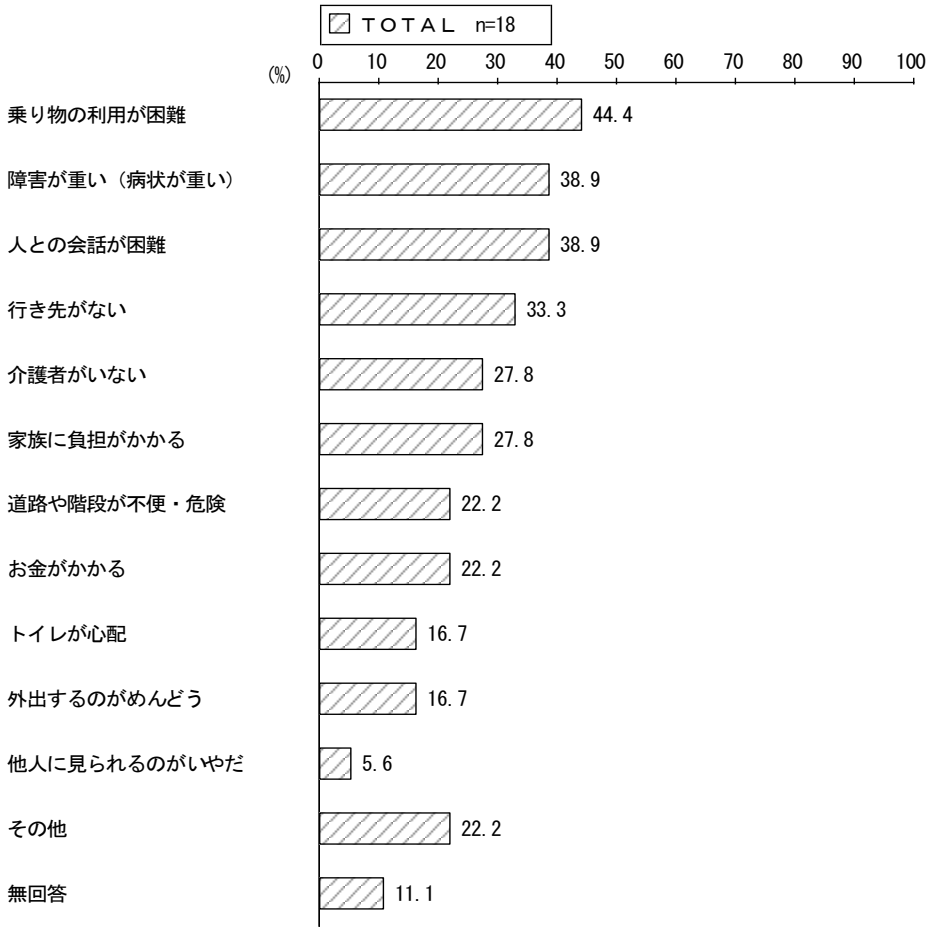
	n	週に5日以上	週に3～4日	週に1～2日	月に2～3日	ほとんど外出しない	その他	無回答
TOTAL	231	69.3%	10.0%	5.6%	5.2%	7.8%	0.9%	1.3%
18歳未満	57	91.2%	7.0%	－	－	－	1.8%	－
18～64歳	157	66.9%	10.8%	5.1%	6.4%	8.9%	0.6%	1.3%
65歳以上	12	8.3%	8.3%	33.3%	8.3%	33.3%	－	8.3%
無回答	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	－	－	－

（２）外出をしない理由

問 13 外出をしない理由はなんですか。（○はいくつでも）

［ほとんど外出しない方におききします］

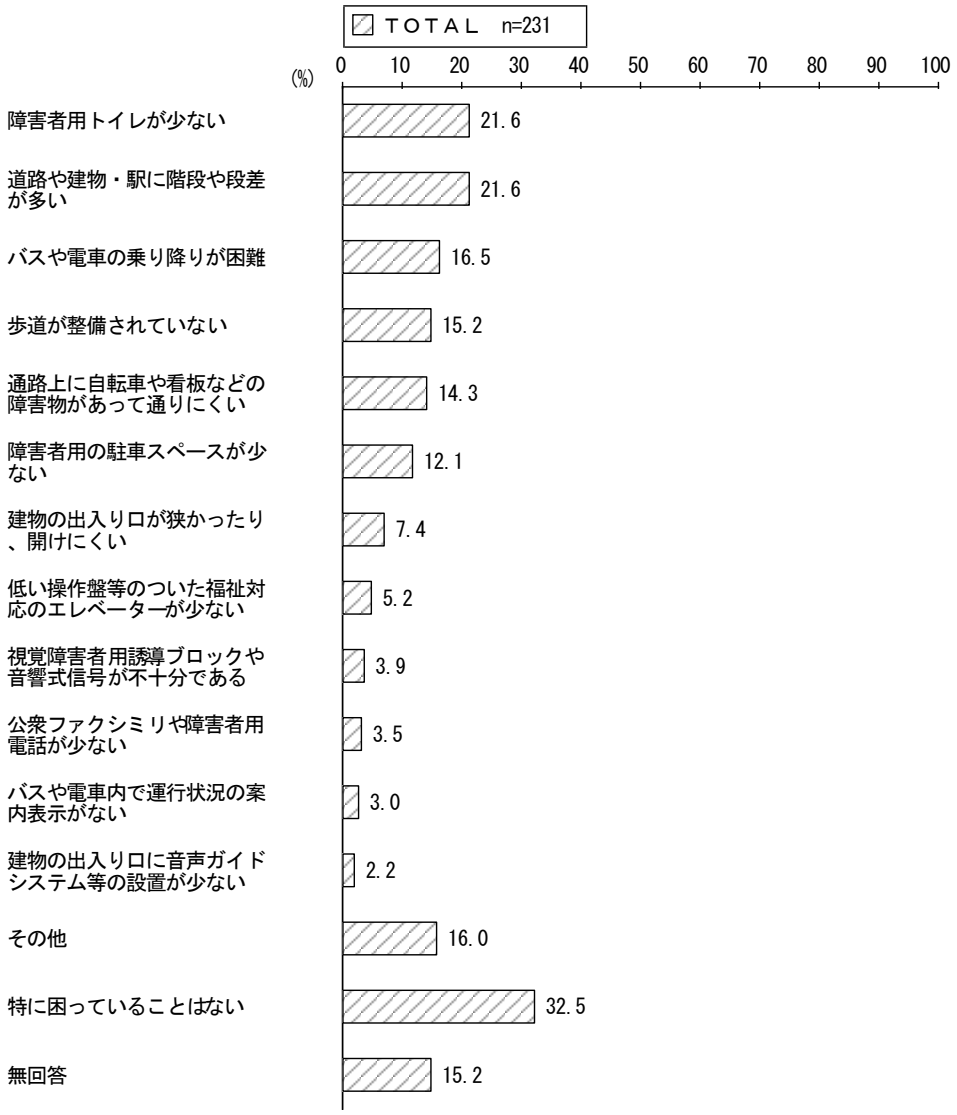
外出をしない理由としては、「乗り物の利用が困難」をあげる人が 18 人中 8 人（44.4%）、「障害が重い（病状が重い）」と「人との会話が困難」がそれぞれ７人（38.9%）となっている。



（３）外出の際に困っていること

問 14 外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることは、32.5%の人が「特にない」と回答しているものの、困っていることとしては、「障害者用トイレが少ない」と「道路や建物・駅に階段や段差が多い」がそれぞれ 21.6%と比較的多くあげられている。



なお、「その他」の回答としては、次のような記入があった。

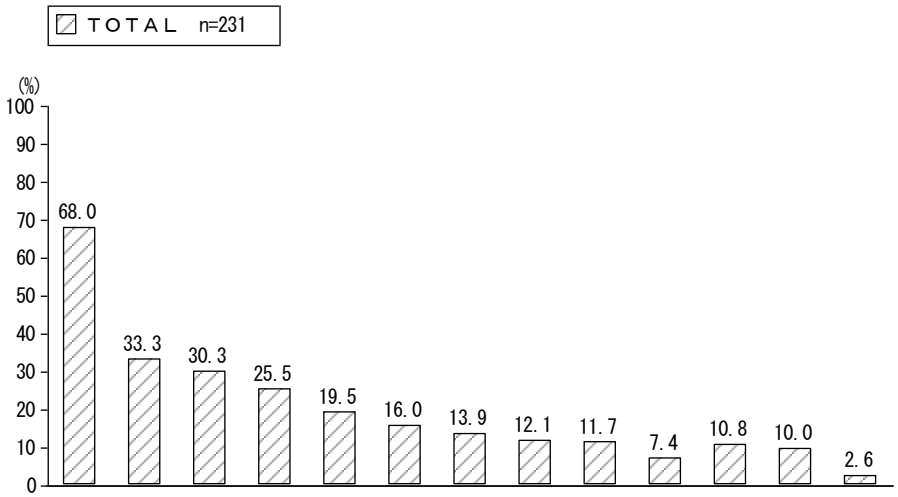
- 長時間の移動を公共の交通機関ですると、あきて騒いでしまう。（10 歳未満）
- 公共の場（駅など）で困っています、とサインを出しても理解してくれない。（10 代）
- 入院していると行動援護が制度上受けられない。タクシー券の交付がないので外出が困難。付き添ってくれる人がいないと外出できない。（30 代）
- 切符の買い方、乗りかえなどにとまどう。（10 代）
- 案内表示や放送の理解が難しい。（10 代）
- 慣れていない所には行けない（通勤先や近所のスーパー等以外）。（20 代）

（４）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

問 15 どのような生涯学習活動や余暇活動をしていますか。（○はいくつでも）

現在行っている生涯学習活動や余暇活動としては、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人が 68.0%と最も多く、次いで「近所を散歩する」（33.3%）、「デパートや店等を見て歩く」（30.3%）と続いている。

年代別にみると、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人の割合は、年代が低いほど高い。また、「友人・知人と会って交流を深める」ことをあげる人は、10 代では２割以上、20 代では１割以上みられるが、30 代以上では１割未満にとどまっている。なお、「特に何もしてない」人の割合は、20 代までは１割未満だが、30 代では 13.5%、40 代では 14.7%、50 歳以上では 18.5%と年代が上がるほど高くなっている。



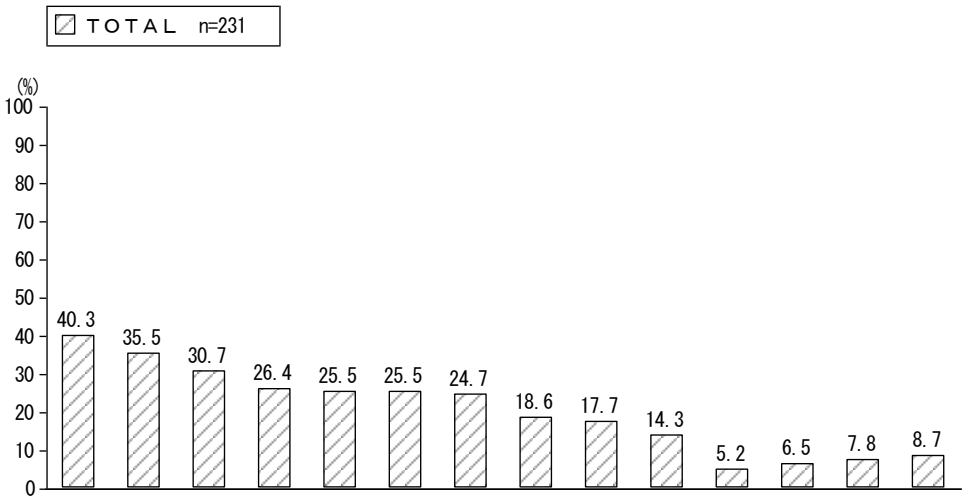
問３ 年齢（１０歳刻み）６区分		n	11 テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	3 近所を散歩する	5 デパートや店等を見て歩く	6 観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	8 旅行に出かける	1 趣味の活動をする	4 友人・知人と会って交流を深める	7 スポーツをする	10 図書館・博物館等に行く	9 地域の行事や活動に参加する	12 その他	13 特に何もしてない	14 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	68.0	33.3	30.3	25.5	19.5	16.0	13.9	12.1	11.7	7.4	10.8	10.0	2.6
1	１０歳未満	19	84.2	52.6	31.6	21.1	47.4	31.6	26.3	15.8	15.8	10.5	5.3	5.3	0.0
2	１０代	46	73.9	41.3	37.0	28.3	23.9	17.4	23.9	19.6	19.6	19.6	15.2	2.2	4.3
3	２０代	48	72.9	22.9	35.4	37.5	25.0	27.1	16.7	14.6	14.6	2.1	12.5	8.3	0.0
4	３０代	52	65.4	26.9	30.8	21.2	9.6	7.7	7.7	5.8	7.7	7.7	9.6	13.5	0.0
5	４０代	34	61.8	38.2	20.6	23.5	14.7	8.8	8.8	14.7	8.8	2.9	11.8	14.7	8.8
6	５０歳以上	27	51.9	29.6	14.8	11.1	3.7	3.7	3.7	0.0	3.7	0.0	7.4	18.5	3.7
7	無回答	5	60.0	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（５）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

問 16 今後、どのような生涯学習活動や余暇活動をしたいと思いますか。（○はいくつでも）

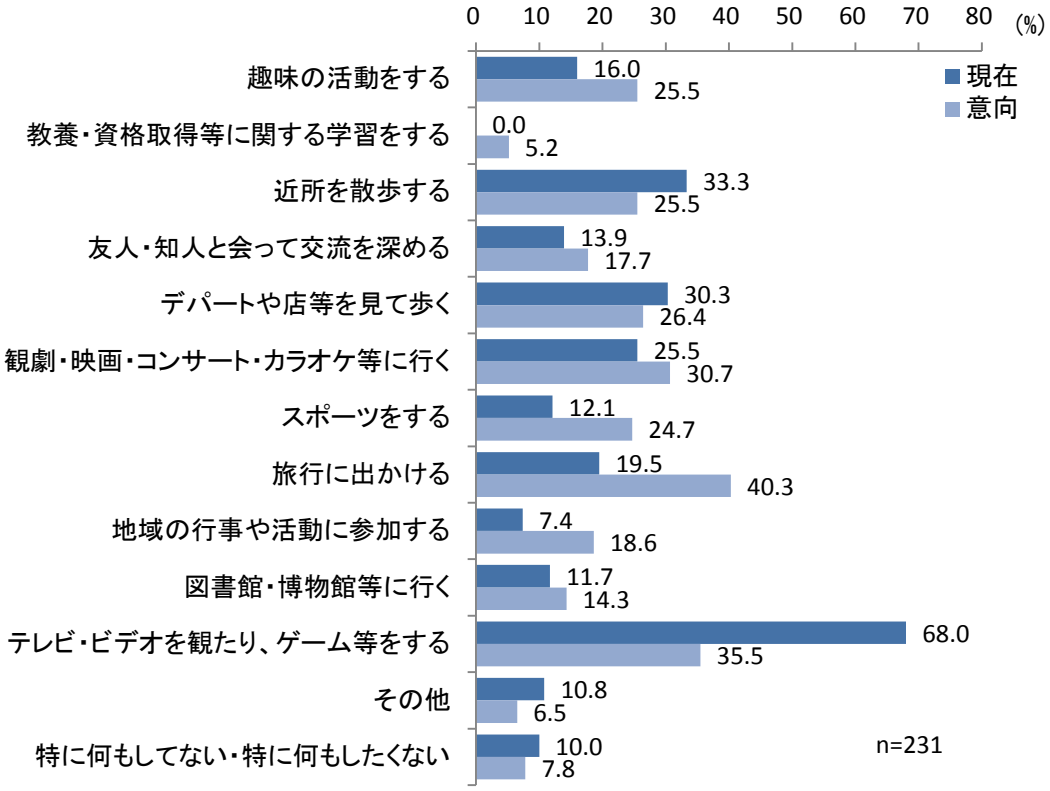
今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、「旅行に出かける」をあげる人が 40.3%と最も多い。

年代別にみると、10 代では、「スポーツをする」をあげる人が 52.2%と最も多く、40 代・50 歳以上では、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」をあげる人が最も多くなっている。



問３ 年齢（１０歳刻み）６ 区分		n	8 旅行に出かける	11 テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	6 観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	5 デパートや店等を見て歩く	1 趣味の活動をする	3 近所を散歩する	7 スポーツをする	9 地域の行事や活動に参加する	4 友人・知人と会って交流を深める	10 図書館・博物館等に行く	2 教養・資格取得等に関する学習をする	12 その他	13 特に何もしたくない	14 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	40.3	35.5	30.7	26.4	25.5	25.5	24.7	18.6	17.7	14.3	5.2	6.5	7.8	8.7
1	１０歳未満	19	47.4	26.3	26.3	21.1	36.8	31.6	47.4	36.8	31.6	31.6	10.5	5.3	0.0	15.8
2	１０代	46	47.8	37.0	47.8	34.8	32.6	28.3	52.2	37.0	28.3	21.7	13.0	6.5	2.2	6.5
3	２０代	48	47.9	37.5	31.3	20.8	41.7	22.9	18.8	10.4	18.8	12.5	2.1	8.3	6.3	4.2
4	３０代	52	46.2	38.5	28.8	26.9	17.3	28.8	19.2	19.2	15.4	13.5	3.8	1.9	5.8	7.7
5	４０代	34	26.5	32.4	26.5	26.5	11.8	20.6	8.8	11.8	8.8	5.9	0.0	11.8	14.7	14.7
6	５０歳以上	27	14.8	29.6	11.1	22.2	7.4	22.2	3.7	0.0	3.7	3.7	0.0	7.4	22.2	11.1
7	無回答	5	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

実際の活動状況と今後の意向を比べてみると、「旅行」については、実際に出かけている人は 19.5%（意向は 40.3%）にとどまっており、「旅行に出かけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。同様に、「スポーツをする」（現状 12.1%、意向 24.7%）、「地域の行事や活動に参加する」（現状 7.4%、意向 18.6%）などは、特に意向に比べて実際に行っている人が少ない状況となっている。



また、現在「特に何もしてない」と回答した人について、今後の意向をみてみると、23 人中 9 人（39.1%）は今後も「特に何もしたくない」と回答しているが、「無回答」を除く残り 13 人（56.5%）は、今後は何らかの活動を行っていきたいと考えていることがわかる。

《現在「特に何もしてない」人の今後の意向》

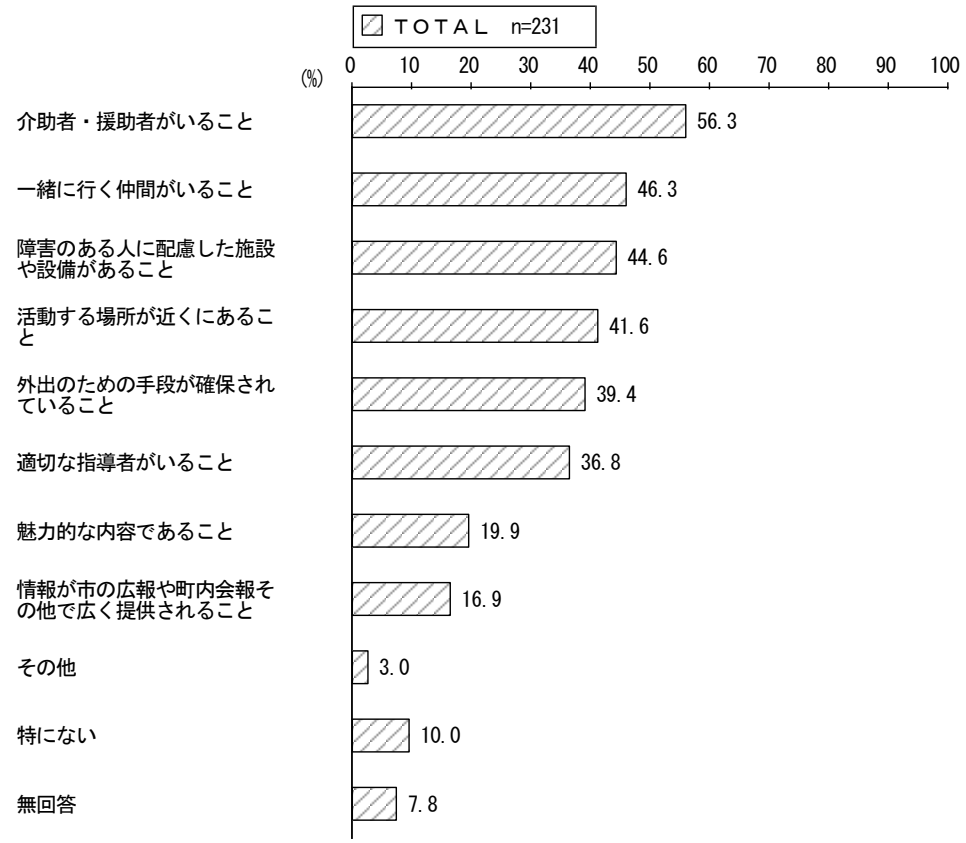
	旅行に出かける	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	地域の行事や活動に参加する	近所を散歩する	趣味の活動をする	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	スポーツをする	図書館・博物館等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	教養・資格取得等に関する学習をする	その他	特に何もしたくない	無回答
現在「特に何もしてない」と回答 n=23	30.4%	21.7%	17.4%	13.0%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	4.3%	8.7%	39.1%	4.3%

23 人中 13 人は「今後は活動したい」と回答

（６）希望する活動を行うために必要な条件

問 17 あなたは、上記のような活動をするために、どのような条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

希望する活動を行うために必要な条件としては、「介助者・援助者がいること」をあげる人が 56.3%と最も多く、次いで「一緒に行く仲間がいること」（46.3%）、「障害のある人に配慮した施設や設備があること」（44.6%）と続いている。

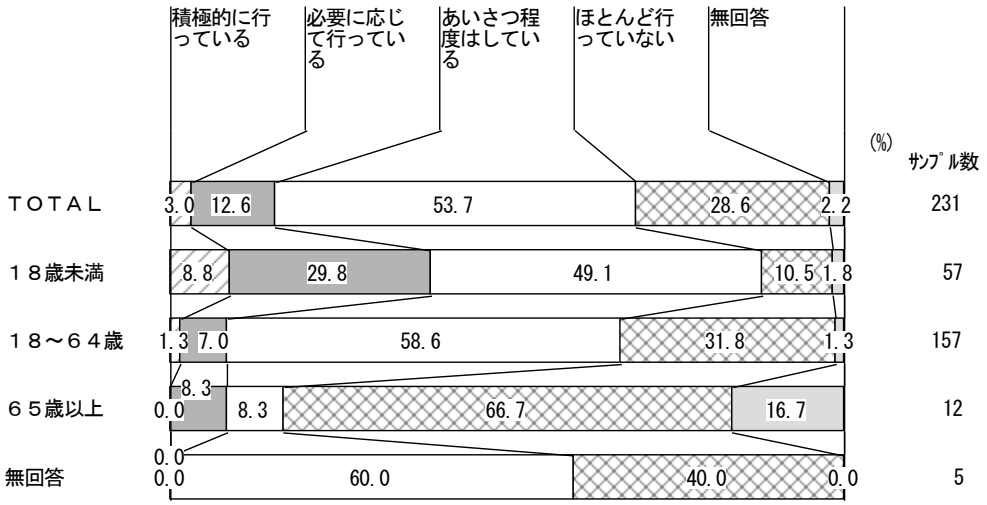


（７）近所とのつきあいの程度

問 18 ご近所とのおつきあいは、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

近所とのつきあいの程度は、「あいさつ程度はしている」が 53.7%と最も多いが、「ほとんど行っていない」人が 28.6%みられる。

年代別にみると、「18～64 歳」では、31.8%の人が「ほとんど行っていない」と回答している。

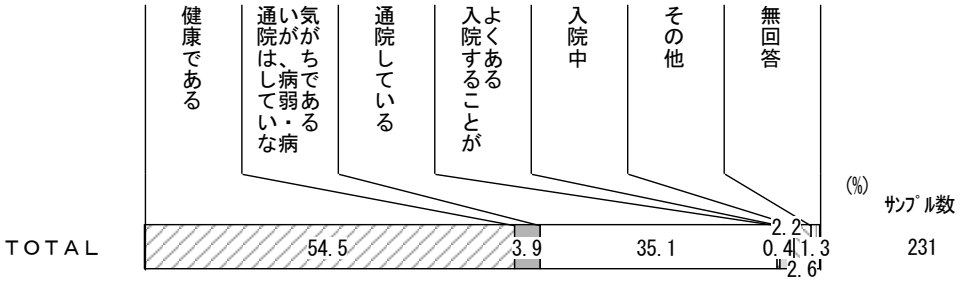


4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

問 19 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は１つ）

54.5%の人は「健康である」と回答しているが、35.1%の人は「通院している」状況である。

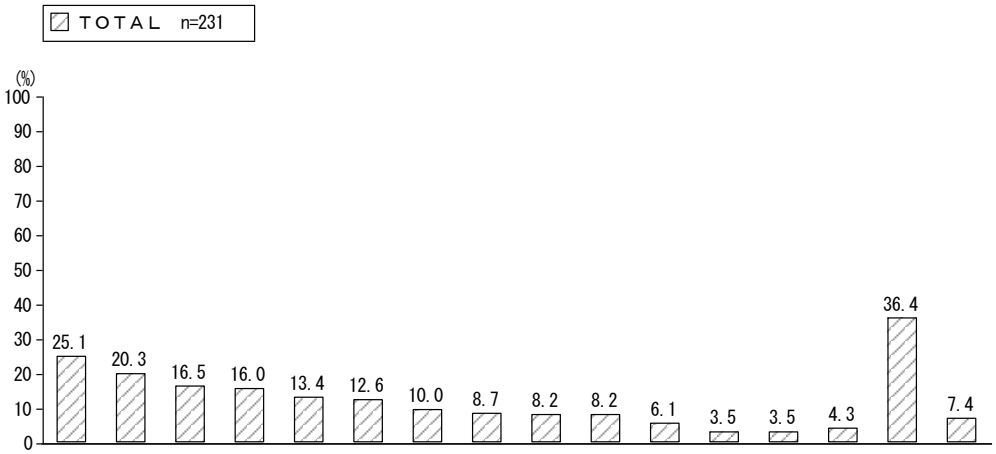


（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 20 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。（○はいくつでも）

健康管理や医療について、困ったり不便に思うこととしては、36.4%の人が「特にない」と回答しているが、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（25.1%）や「症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」（20.3%）の２項目は２割以上の人にあげられている。

他の障害の状況別にみると、「身体障害者手帳を持っている」人では、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」をあげる人は 37.3%と全体に比べて高くなっている。



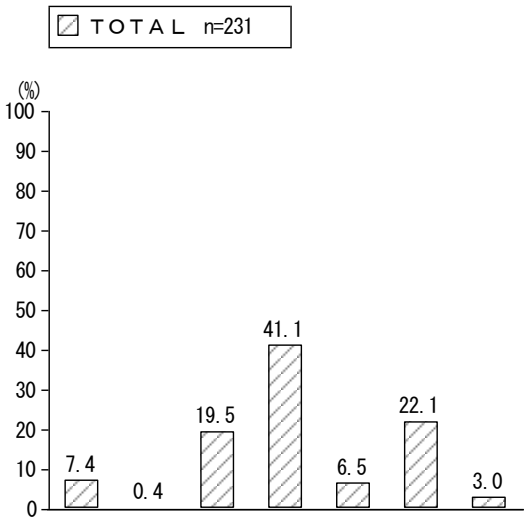
問７ 他の障害、疾病状況（複数回答）		n	2 専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	8 症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	9 医師、看護師等の障害に対する理解が不十分	5 気軽に往診を頼める医師がいない	1 近所に診てくれる医師がいない	11 受診手続きや案内など、障害のある人への配慮が不十分	12 建物が障害のある人に配慮した構造になっていない	3 通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	10 入院のとき付き添いや個室を強いられる	13 医療費の負担が大きい	4 診療をことわられる	6 歯科診療を受けられない	7 定期的に健康診断を受けられない	14 その他	15 特にない	16 無回答
0	TOTAL	231	25.1	20.3	16.5	16.0	13.4	12.6	10.0	8.7	8.2	8.2	6.1	3.5	3.5	4.3	36.4	7.4
1	身体障害者手帳を持っている	51	37.3	21.6	11.8	21.6	21.6	13.7	15.7	13.7	11.8	11.8	3.9	7.8	5.9	5.9	19.6	11.8
2	精神障害者保健福祉手帳を持っている	18	16.7	22.2	16.7	5.6	22.2	16.7	16.7	11.1	5.6	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0	44.4	5.6
3	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	13	46.2	7.7	23.1	23.1	23.1	7.7	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7	15.4	15.4
4	高次脳機能障害と診断されたことがある	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
5	発達障害と診断されたことがある	72	31.9	26.4	22.2	22.2	15.3	16.7	13.9	4.2	12.5	12.5	11.1	5.6	2.8	6.9	25.0	8.3
6	上記にあてはまるものはない	76	17.1	13.2	11.8	10.5	7.9	7.9	3.9	9.2	3.9	3.9	3.9	2.6	3.9	1.3	48.7	6.6
7	無回答	23	13.0	21.7	21.7	17.4	8.7	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0	56.5	0.0

（３）健康診断（健康診査）の受診状況

問 21 過去１年間に健康診断（健康診査）を受けましたか。（○は１つ）

過去１年間に、「学校や福祉施設で健康診断を受けた」人は 41.1%、「勤務先で健康診断を受けた人」が 19.5%で、22.1%の人は「健康診断は受けていない」状況である。

年代別にみると、20 代・30 代では２割以上の人が「健康診断は受けていない」（20 代 22.9%、30 代 26.9%）ことがわかる。



	問３ 年齢（１０歳刻み）６区分	n	1 市の健診・検診を受けた	2 人間ドック等を受けた	3 勤務先で健康診断を受けた	4 学校や福祉施設で健康診断を受けた	5 その他の場所で健康診断を受けた	6 健康診断は受けていない	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	7.4	0.4	19.5	41.1	6.5	22.1	3.0
1	１０歳未満	19	0.0	0.0	0.0	42.1	5.3	47.4	5.3
2	１０代	46	0.0	0.0	0.0	80.4	4.3	13.0	2.2
3	２０代	48	0.0	0.0	41.7	31.3	4.2	22.9	0.0
4	３０代	52	3.8	1.9	25.0	30.8	9.6	26.9	1.9
5	４０代	34	20.6	0.0	23.5	29.4	5.9	17.6	2.9
6	５０歳以上	27	29.6	0.0	11.1	25.9	11.1	14.8	7.4
7	無回答	5	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0

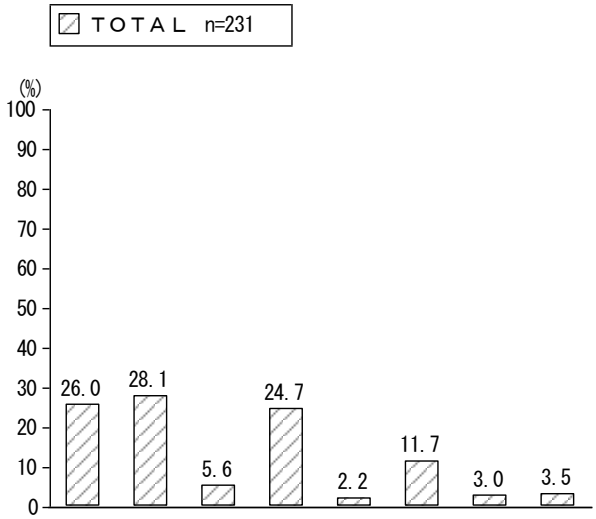
5 日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方

問 22 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。（利用しているものに○）

全体でみると、「福祉の施設（サービス）に通っている」人が 28.1%、「幼稚園や保育園、学校などに通っている」人が 26.0%、「働いている」人が 24.7%である。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「福祉の施設（サービス）に通っている」人が 37.6%、「働いている」人が 35.7%だが、14.6%は「自宅にいることが多い」と回答している。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 幼稚園や保育園、学校などに通っている	2 福祉の施設（サービス）に通っている	3 病院や施設などで看護・介護を受けている	4 働いている	5 求職中である	6 自宅にいることが多い	7 その他	8 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	26.0	28.1	5.6	24.7	2.2	11.7	3.0	3.5
1	１８歳未満	57	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
2	１８～６４歳	157	2.5	37.6	5.7	35.7	3.2	14.6	3.2	3.2
3	６５歳以上	12	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7
4	無回答	5	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0

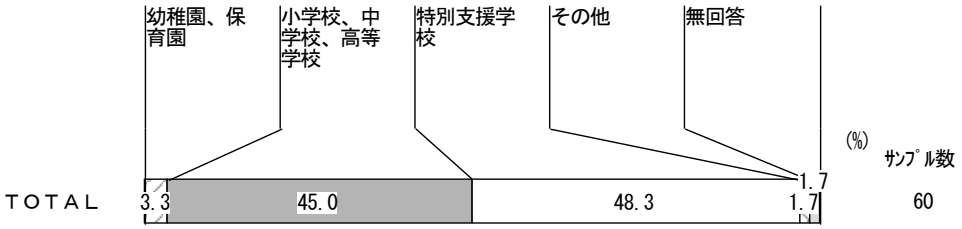
6 幼稚園・保育園・学校について

（１）通園・通学先

問 23 通っているのは次のうちどれですか。（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

通園・通学先は、「特別支援学校」が 48.3%、「小学校、中学校、高等学校」が 45.0%である。



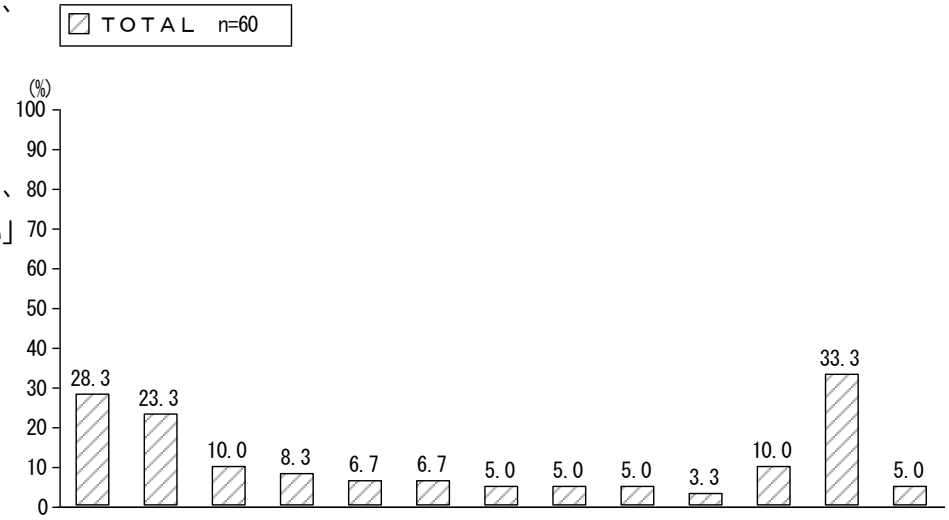
（２）幼稚園・保育園・学校に関して困っていること

問 24 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。（○はいくつでも）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

幼稚園や学校などで困ることとしては、「通うのがたいへん」をあげる人が 28.3%と最も多く、次いで「学校の数が少ない」が 23.3%で続いている。

通園・通学先別にみると、「小学校、中学校、高等学校」に通っている児童・生徒 27 人中 10 人は「通うのがたいへん」（37.0%）、6 人は「学校の数が少ない」（22.2%）、4 人は「家族の同伴を求められる」（14.8%）ことをあげている。



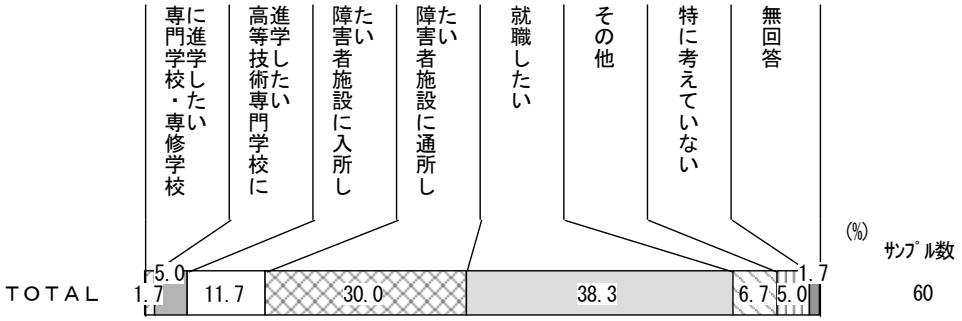
	問２３ 通園・通学先	n	1 通うのがたいへん	7 学校の数が少ない	11 家族の同伴を求められる	6 職員の理解が得られない	3 トイレ等の設備が不十分	10 普通学級に入れない	2 授業についていけない	4 校内・園内での介護が不十分	5 友だちができない	8 生徒の理解が得られない	12 その他	13 特に困っていることはない	14 無回答
0	TOTAL	60	28.3	23.3	10.0	8.3	6.7	6.7	5.0	5.0	5.0	3.3	10.0	33.3	5.0
1	幼稚園、保育園	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
2	小学校、中学校、高等学校	27	37.0	22.2	14.8	7.4	11.1	11.1	11.1	0.0	3.7	3.7	11.1	18.5	3.7
3	特別支援学校	29	24.1	27.6	6.9	10.3	3.4	3.4	0.0	6.9	6.9	0.0	10.3	41.4	6.9
6	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
7	無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

（３）学校教育終了後の希望

問 25 将来、学校教育を修了後の希望を教えてください。（ご本人がまだわからない場合は保護者の方がお答えください。）（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

学校教育修了後の希望は、「就職したい」が 38.3%、「障害者施設に通所したい」が 30.0%となっている。



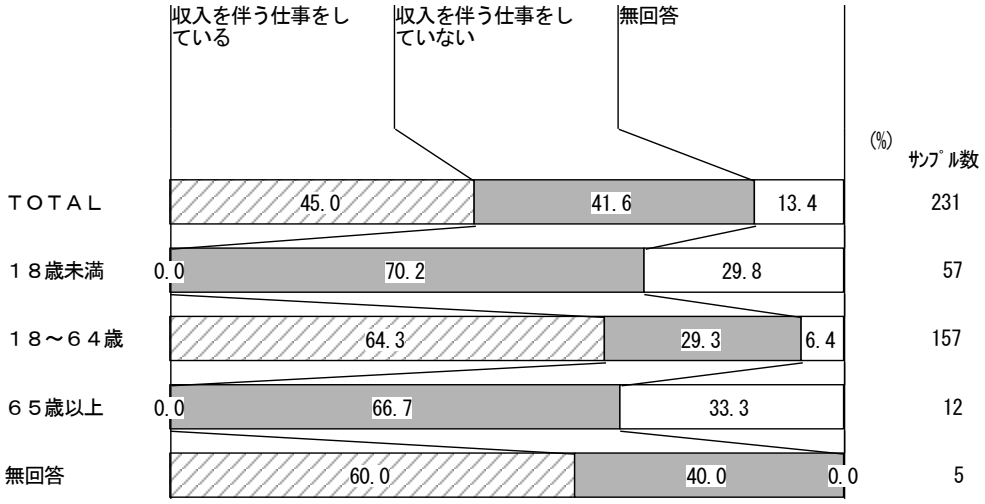
7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問 26 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、「収入を伴う仕事をしている」人は 45.0%である。

年代別にみると、「18～64 歳」では、64.3%の人が「収入を伴う仕事をしている」。

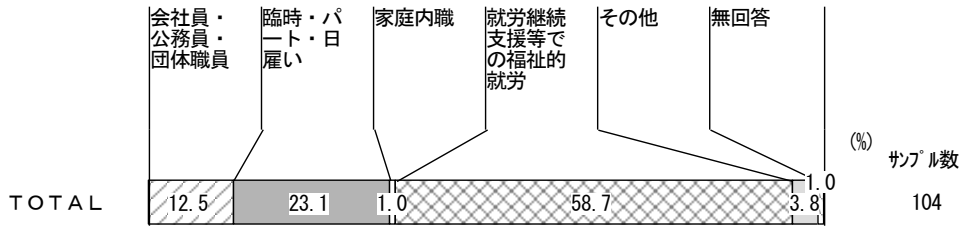


（２）仕事の形態

問 27 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 58.7%、「臨時・パート・日雇い」が 23.1%、「会社員・公務員・団体職員」が 12.5%となっている。



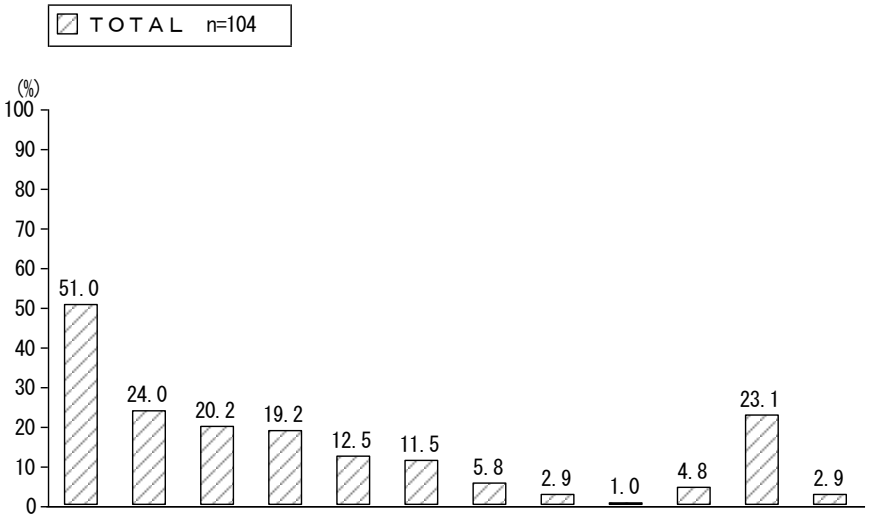
（３）仕事で困ること、つらいこと

問 28 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事をする上で困ったり、つらいこととしては、「収入が少ない」が 51.0%と最も多く、次いで「コミュニケーションができない」（24.0%）、「職場の人間関係」（20.2%）、「体調のコントロールが難しい」（19.2%）と続いている。

仕事の形態別にみると、「就労継続支援等での福祉的就労」で働いている人では、「収入が少ない」ことをあげる人が 59.0%、「コミュニケーションができない」が 31.1%、「体調のコントロールが難しい」が 29.5%となっている。



	問２７ 就労形態	n	2 収入が少ない	8 いコミュニケーションができな	5 職場の人間関係	9 体調のコントロールが難しい	3 仕事がきつい	1 通勤がたいへん	6 イレ職場の中の環境の未整備（休憩室等）	4 仕事が合わない	7 くい職場の中で介護者をみつけに	10 その他	11 ない特に困ったり、つらいことは	12 無回答
0	TOTAL	104	51.0	24.0	20.2	19.2	12.5	11.5	5.8	2.9	1.0	4.8	23.1	2.9
1	会社員・公務員・団体職員	13	30.8	23.1	30.8	0.0	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	23.1	0.0
2	臨時・パート・日雇い	24	41.7	8.3	20.8	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
5	家庭内職	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	就労継続支援等での福祉的就労	61	59.0	31.1	19.7	29.5	11.5	11.5	9.8	3.3	1.6	4.9	13.1	3.3
7	その他	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
8	無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

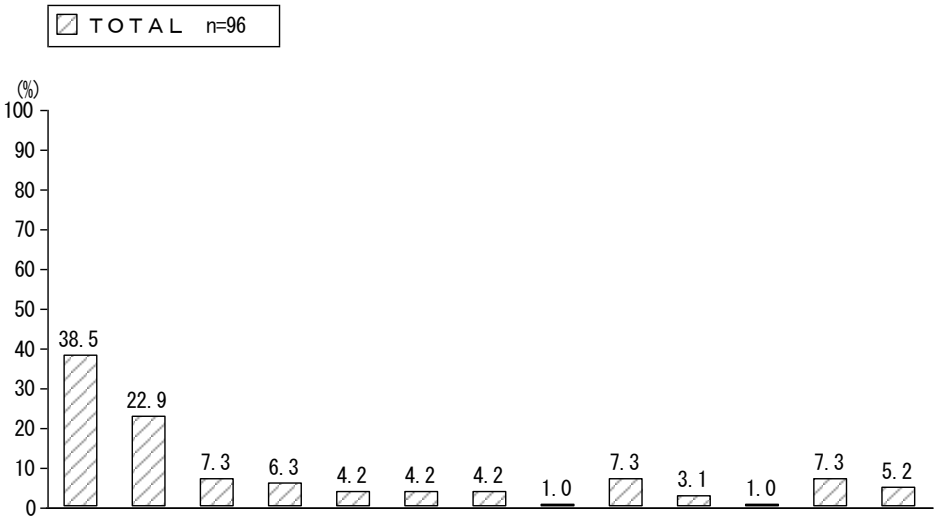
（４）仕事をしていない理由

問 29 仕事をしていない主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

仕事をしていない理由としては、「就学中・技能研修中」が 38.5%と最も多く、次いで「障害が重い」が 22.9%で続いている。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「障害が重い」が 37.0%と最も多く、「病気」、「施設に入所していて、行う作業がない」、「自分の希望する仕事が見つからない」の３項目がそれぞれ 13.0%となっている。



	問３ 年齢（３区分）	n	8 就学中・技能研修中	1 障害が重い	2 病気	3 施設に入所していて、行う作業がない	4 職場がない	7 通勤が困難	10 高齢	5 賃金が低いから	12 その他	13 仕事をしたくない	14 仕事をする必要がない	15 自分の希望する仕事が見つからない	16 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	96	38.5	22.9	7.3	6.3	4.2	4.2	4.2	1.0	7.3	3.1	1.0	7.3	5.2
1	１８歳未満	40	82.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0
2	１８～６４歳	46	8.7	37.0	13.0	13.0	8.7	8.7	2.2	2.2	4.3	6.5	2.2	13.0	6.5
3	６５歳以上	8	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
4	無回答	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

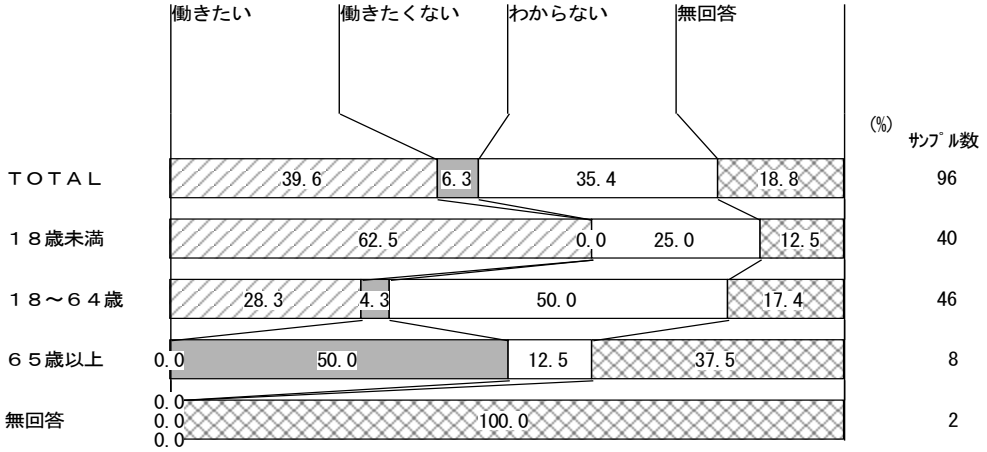
（５）就労意向

問 30 今後、自分の健康や通勤の可能性等、条件が整っていれば働きたいと思いますか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

現在、収入を伴う仕事をしていない人のうち約４割は、条件が整えば「働きたい」（39.6%）と考えている。

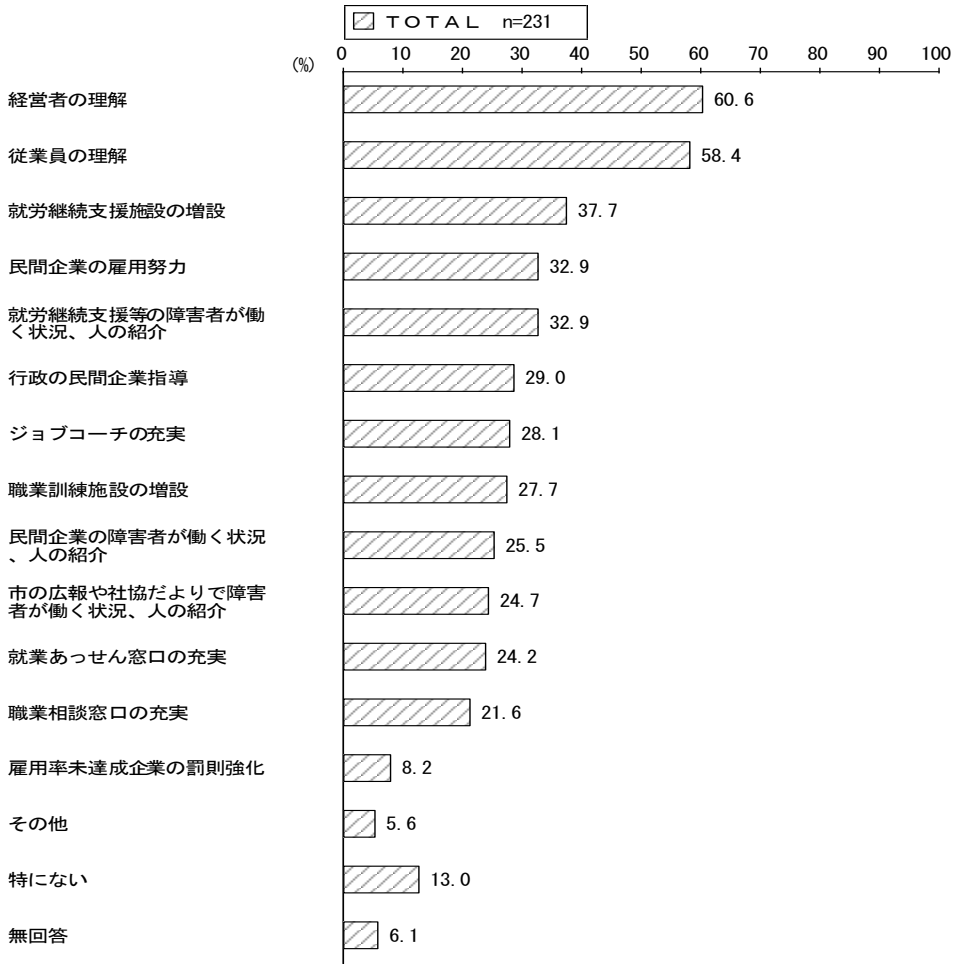
年代別にみると、「18～64 歳」では、28.3%の人が「働きたい」と考えていることがわかる。また、「18 歳未満」では、今後「働きたくない」と回答した人は１人もいなかった。



（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

問 31 障害のある人の就業を促進するために、あなたはどのようなことを希望されますか。（○はいくつでも）

障害のある人の就業促進のために希望することとしては、「経営者の理解」をあげる人が60.6%と最も多く、次いで「従業員の理解」（58.4%）、「就労継続支援施設の増設」（37.7%）と続いている。

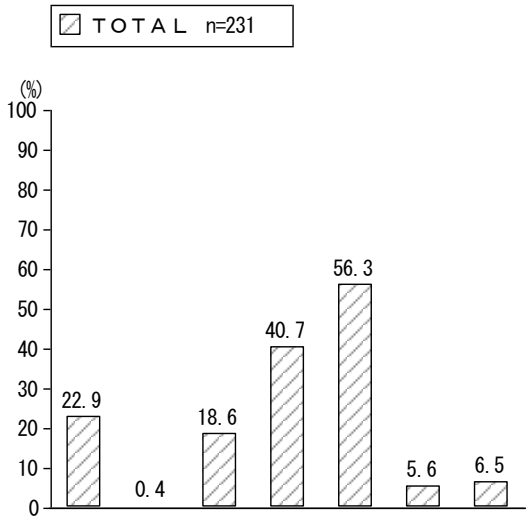


（７）生活を支える収入

問 32 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支えている収入としては、「年金、障害者年金、生活保護など」が 56.3%と最も多く、次いで「家族からの仕送り・援助」が 40.7%で続いている。

年代別にみると、「18～64 歳」では、約７割の人が「年金、障害者年金、生活保護など」（70.1%）をあげ、「家族からの仕送り・援助」は 36.3%、「給与・賃金」は 28.0%、「授産所や作業所の工賃」が 26.1%となっている。



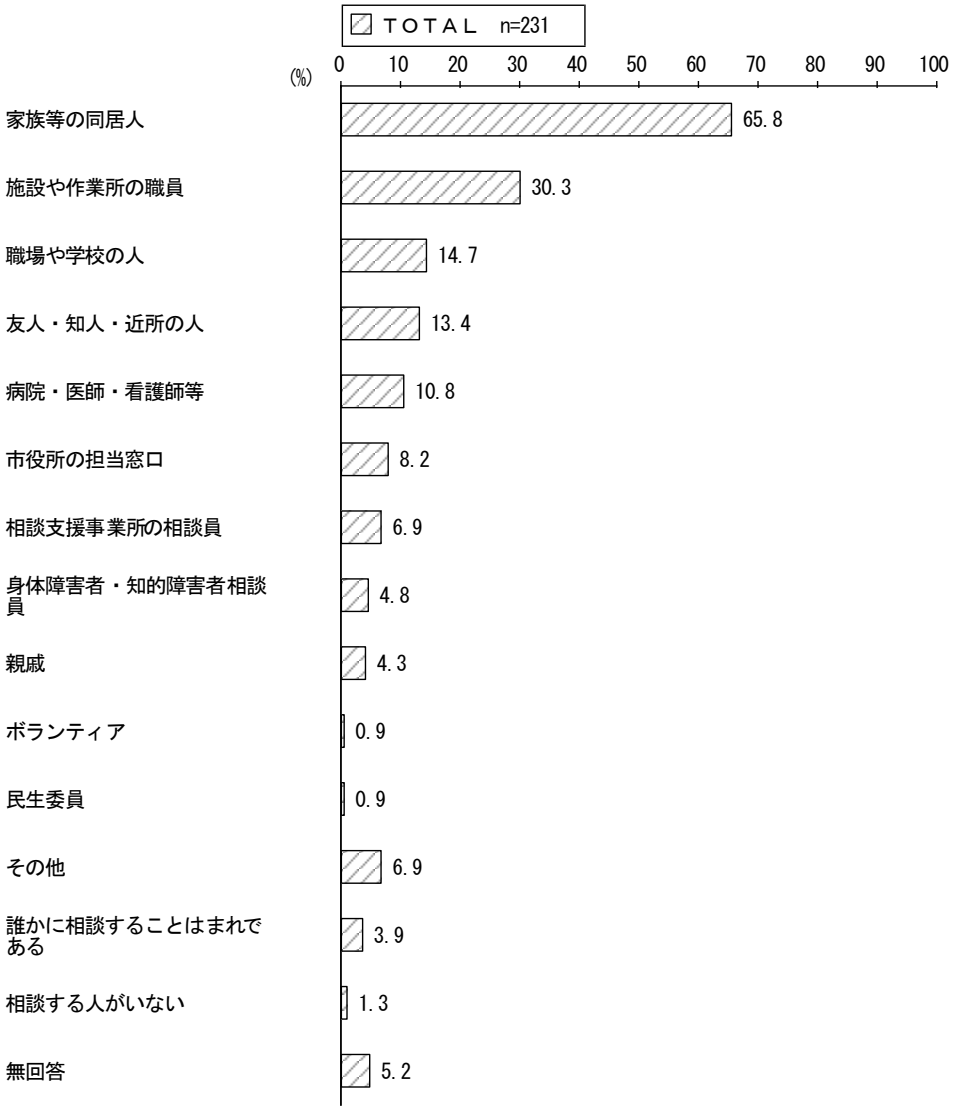
	問３ 年齢（３区分）	n	1 給与・賃金	2 事業収入	3 授産所や作業所の工賃	4 家族からの仕送り・援助	5 年金、障害者年金、生活保護など	6 その他	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	22.9	0.4	18.6	40.7	56.3	5.6	6.5
1	１８歳未満	57	12.3	1.8	0.0	61.4	7.0	15.8	15.8
2	１８～６４歳	157	28.0	0.0	26.1	36.3	70.1	1.9	3.2
3	６５歳以上	12	0.0	0.0	0.0	0.0	91.7	8.3	8.3
4	無回答	5	40.0	0.0	40.0	40.0	100.0	0.0	0.0

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

問 33 普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（○はいくつでも）

悩みや困ったことなどの相談先としては、「家族等の同居人」をあげる人が 65.8%と最も多く、次いで「施設や作業所の職員」（30.3%）、「職場や学校の人」（14.7%）と続いている。



（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 34 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。（自由記入）

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

【相談先】

・ 病院関係の人、訪問看護に来ている人（50 歳以上）
・ 友人（20 代）
・ 作業所、ホームの職員（20 代）
・ 自分の障害の程度をきちんと理解してくれる方を望む。（10 代）
・ 市役所、病院（10 代）
・ 施設、作業員、民生委員（問題発見時、保護者と地域の人との仲介をやってほしい）（20 代）
・ 施設や作業所の職員に相談したい。より専門的な知識のある人に相談したい。（20 代）
・ 同じような人をたくさん見てきた経験のある方に相談したい。個人情報が守られるようにしてもらいたい。また、同じ経験のある方との交流もできるようになるとよい。（10 歳未満）
・ 障害についての専門的知識、経験があり適切な助言のできる人材（20 代）
・ 否定されずに話を聞いてくれる事。（20 代）

【相談体制】

・ 専門的な知識のある人に相談したい。集いの場等交通の便の良い所にあればいいと思う。（20 代）
・ ＜親身になって真剣に考えてくれる人＞が窓口となり、方向性をつけてくれる体制。“どこに行けば良いのか”ではなく、“まずここに行けば”安心できる場所、相談所。（10 代）
・ 市役所に出向いても窓口が混んでいてすぐに対応してもらえない。予約制で相談員が対応してくれるなど、定期的に相談しやすい窓口を作って欲しい。（10 代）
・ 施設以外で施設内の事を相談する場所（機関）がない。（40 代）
・ 保健センターや市役所、病院などで、こういう場合はここへ、と案内してくれるコーディネーターがいたら助かる！生まれたばかりで何もわからない時、そういう人がいたらと思った。（10 歳未満）
・ 県や市の相談員や相談窓口などがあれば相談してみたいと思いますが、時間帯が問題。平日の昼間のみだと仕事していて無理だと思う。（10 歳未満）
・ 電話をしたら、すぐ来てくれて話を聞いてくれる。（20 代）
・ 市、県、国、行政にいつでも相談できるようになればいい。その為には、障害者への理解が必要になってくると感じる。（30 代）
・ 24 時間いつでも相談にのってもらえる体制。（30 代）

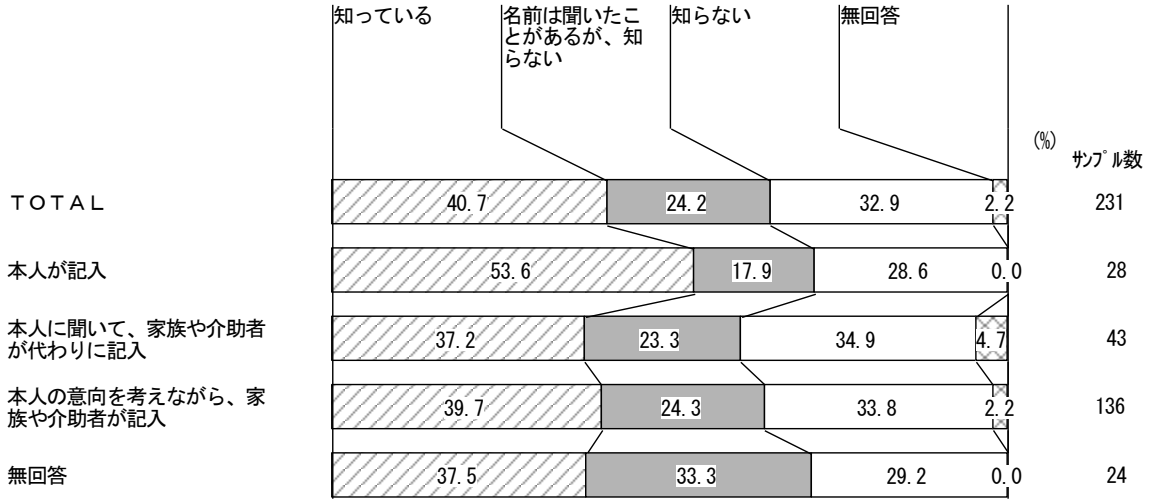
【その他】

・ 家族以外では作業所の人に相談したいが、内容によっては（例えば賃金などについて）相談出来ないこともあるので、その時は市などの適切な窓口に行きたい。その為には（１）特定の相談員と面識があり、ある程度親しいこと（２）窓口へのアクセス（時間・場所・手続など）が容易なことなどが必要だと思う。（20 代）
・ 自分からは相談事をいえず、家族が様子をみて、何かある？と聞いて相談にのる。（20 代）
・ 重度の知的障害のため、字も読めず話す事もできないので相談はできない。（50 歳以上）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

問 35 あなたは、「川越市障害者相談支援センター」を知っていますか。（○は１つ）

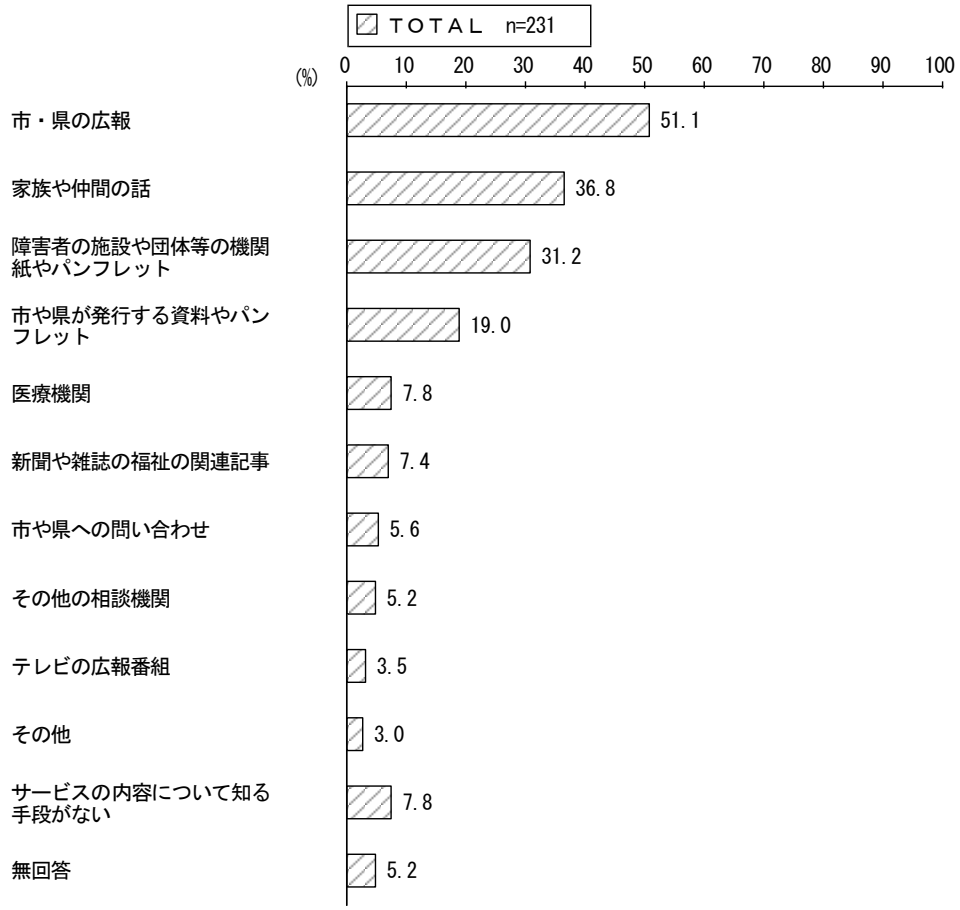
「川越市障害者相談センター」を「知っている」人は約４割（40.7%）である。
調査票の記入者別にみると、「本人が記入した」28 人のうち 15 人が「知っている」（53.6%）と回答している。



（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

問 36 障害のある人のための福祉サービス内容について、どのようなもので知ることが多いですか。（○はいくつでも）

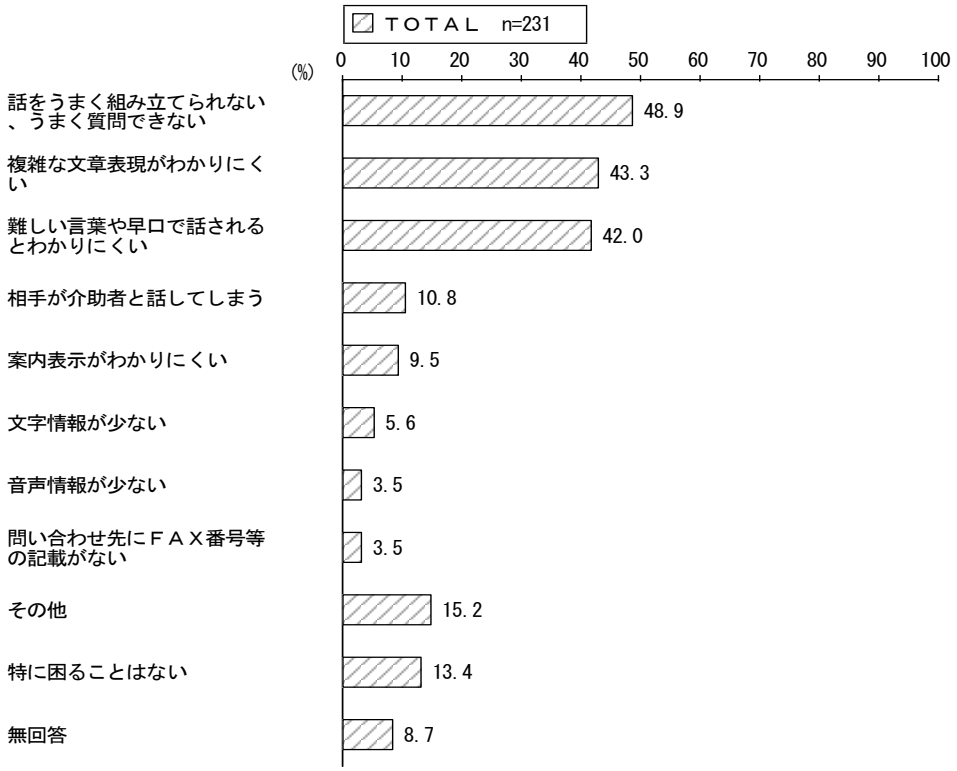
福祉サービスについては、「市・県の広報」で知ることが多いと回答した人が 51.1%と最も多く、次いで「家族や仲間の話」（36.8%）、「障害者の施設や団体等の機関紙やパンフレット」（31.2%）と続いている。また、「サービスの内容について知る手段がない」と回答した人が 18 人（7.8%）みられる。



（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

問 37 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。（○はいくつでも）

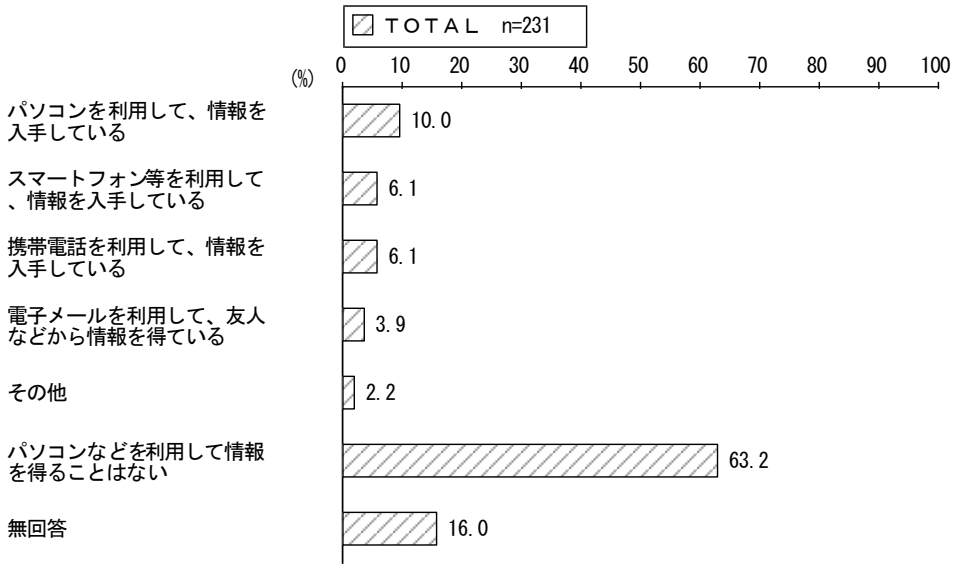
情報の入手やコミュニケーションで困ることとしては、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 48.9%と最も多く、次いで「複雑な文章表現がわかりにくい」（43.3%）、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（42.0%）と続いている。



（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

問 38 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。（○はいくつでも）

63.2%の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」と回答している。

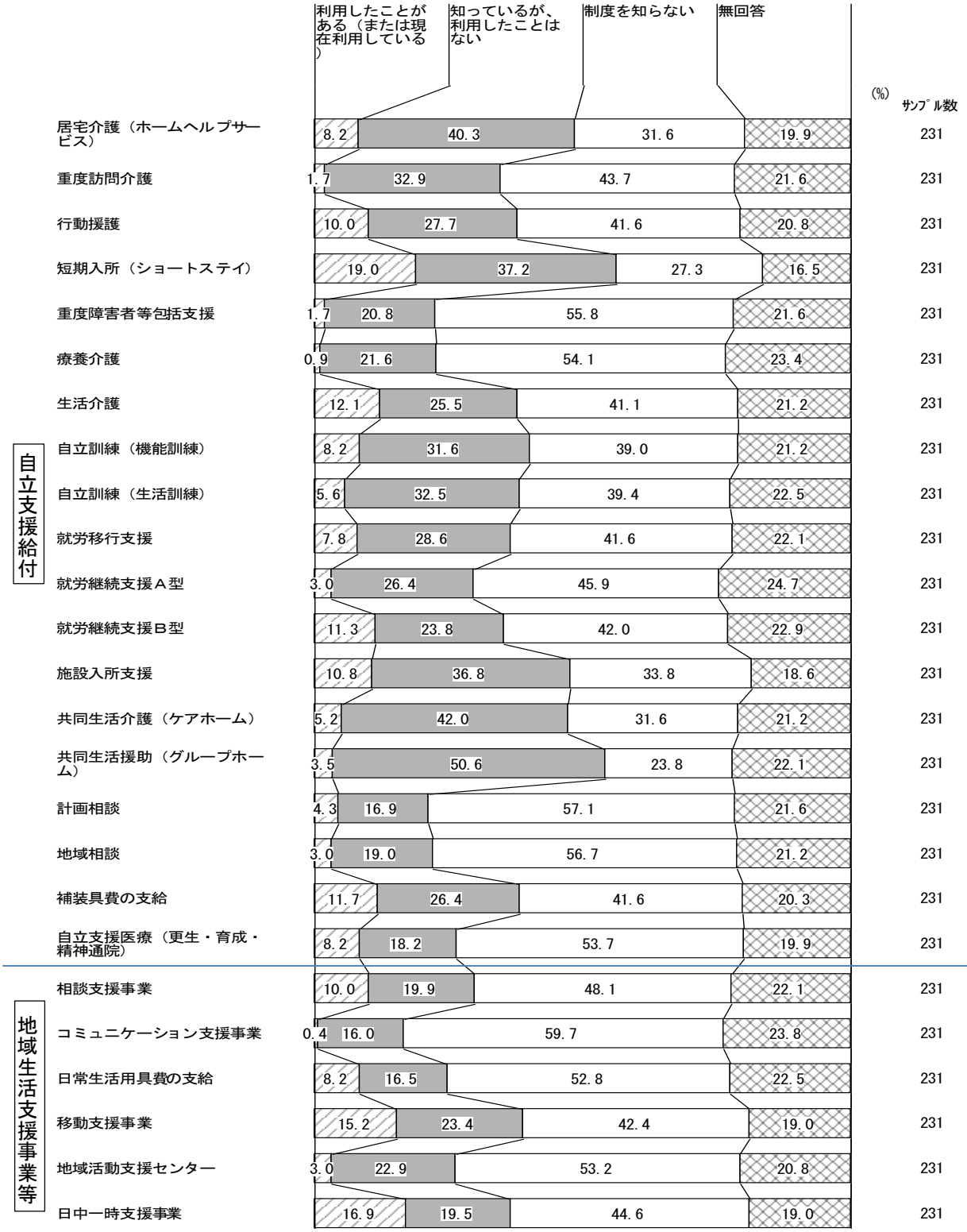


9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 39 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

利用した経験のある人の割合が最も高いサービスは、「短期入所（ショートステイ）」で、19.0%の人が「利用したことがある（または現在利用している）」と回答している。

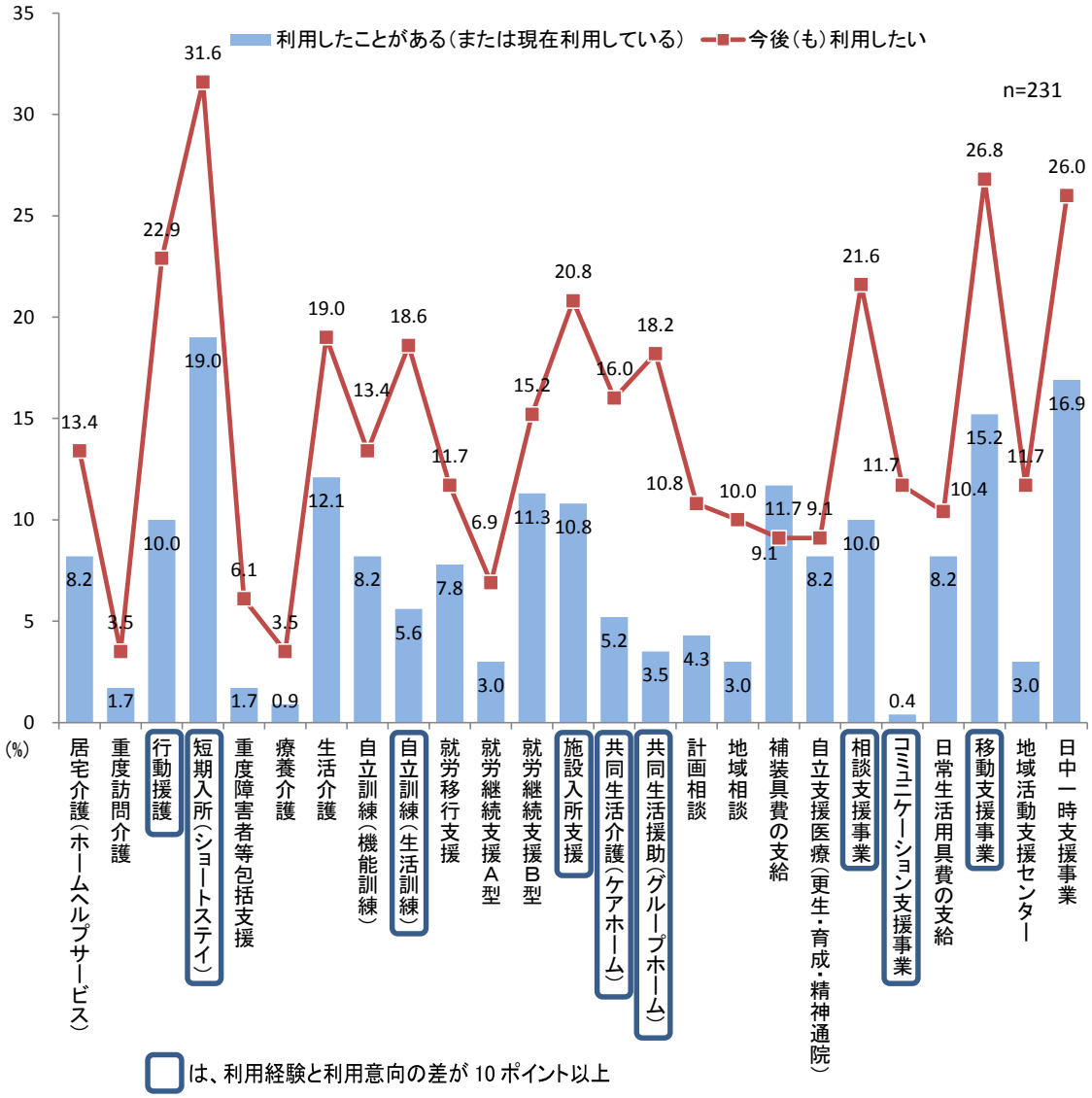


（２）福祉サービスの利用意向

問 40 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは、「短期入所（ショートステイ）」で、31.6%の人が利用したいサービスとしてあげている。

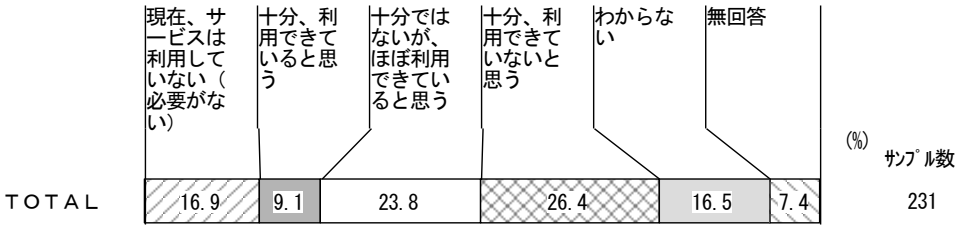
実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較してみると、両者の差が 10 ポイント以上あるのは、「行動援護」（経験 10.0%,意向 22.9%）、「短期入所」（経験 19.0%,意向 31.6%）、「自立訓練（生活訓練）」（経験 5.6%、意向 18.6%）、「施設入所支援」（経験 10.8%、意向 20.8%）、「共同生活介護（ケアホーム）」（経験 5.2%、意向 16.0%）、「共同生活援助（グループホーム）」（経験 3.5%、意向 18.2%）、「相談支援事業」（経験 10.0%、意向 21.6%）、「コミュニケーション支援事業」（経験 0.4%、意向 11.7%）、「移動支援事業」（経験 15.2%、意向 26.8%）の 9 事業である。これらの事業は、実際に利用したことがある人よりも、今後利用したいと思っている人が特に多くなっていることから、潜在的なニーズが大きいと考えられる。



（３）サービス利用についての充足度

問 41 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人が 26.4%みられる。

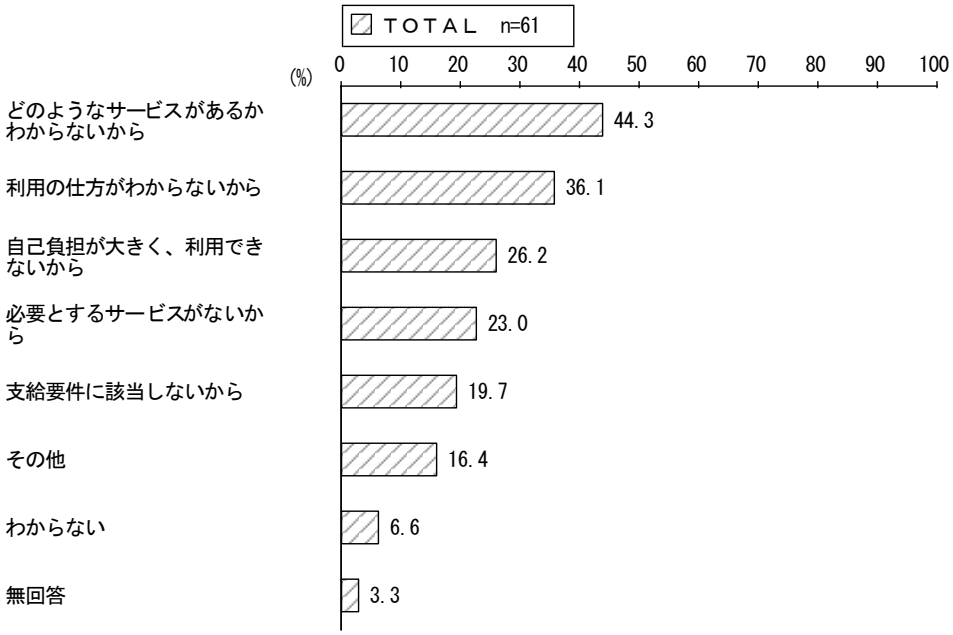


（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 42 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」と回答した人が 44.3%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからないから」が 36.1%で続いている。



（５）必要とするサービス

問 43 必要とするサービスとはどのようなものですか。

［「必要とするサービスがないから」と回答した方におききします］

「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

- 中低度の就労支援訓練施設が少ない。（10 代）
- 制度上、入院していると受けられないサービスが多い。（30 代）
- 入所施設で移動支援が使えない。（30 代）
- 昔で言う「通勤寮」のようなところ。（20 代）

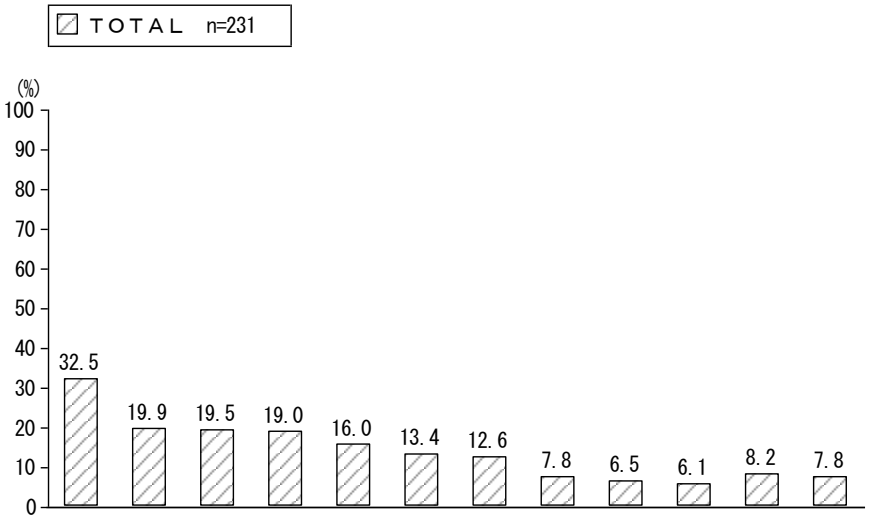
10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

問 44 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後、希望する日中の過ごし方としては、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」と回答した人が 32.5%と最も多く、次いで「自宅でのんびり過ごしたい」（19.9%）、「一般企業などで働きたい」（19.5%）と続いている。

現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」27 人のうち 13 人（48.1%）は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」と考えているが、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」と回答した人が 22.2%、「施設で介護を受けながら、創作的活動などを行いたい」と回答した人が 14.8%みられる。



	問２２ 日中の過ごし方（複数回答）	n	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	9 学校に通いたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	32.5	19.9	19.5	19.0	16.0	13.4	12.6	7.8	6.5	6.1	8.2	7.8
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	60	31.7	10.0	26.7	18.3	30.0	28.3	13.3	23.3	6.7	1.7	6.7	5.0
2	福祉の施設（サービス）に通っている	65	56.9	16.9	9.2	29.2	18.5	16.9	20.0	3.1	7.7	3.1	4.6	3.1
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	13	7.7	15.4	0.0	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	7.7	0.0
4	働いている	57	17.5	22.8	33.3	7.0	7.0	3.5	10.5	1.8	1.8	8.8	12.3	14.0
5	求職中である	5	80.0	0.0	80.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	自宅にいることが多い	27	22.2	48.1	7.4	14.8	3.7	7.4	7.4	7.4	11.1	7.4	14.8	3.7
7	その他	7	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3
8	無回答	8	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5
（別掲）年代別														
1	１８歳未満	57	33.3	12.3	26.3	15.8	31.6	28.1	14.0	26.3	8.8	3.5	7.0	5.3
2	１８～６４歳	157	33.8	22.9	18.5	19.1	10.2	8.3	12.1	1.3	5.7	7.0	8.9	8.3
3	６５歳以上	12	8.3	16.7	0.0	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	16.7

年代別にみると、「18 歳未満」では、31.6%の人が「身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい」、26.3%の人が「一般企業などで働きたい」と回答している。

（２）希望する暮らし方

問 45 将来（今後）、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来、希望する暮らし方としては、52.8%の人が「現在と同じように暮らしたい」と回答している。

居住場所別にみると、現在「自宅」で暮らしている人のうち 10.2%は「共同生活する住居（グループホーム等）で暮らしたい」、8.6%は「施設に入りたい」と考えていることがわかる。

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	共同生活する住居(グループホーム等)で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	231	52.8%	6.1%	3.9%	8.7%	8.2%	0.9%	15.6%	3.9%
自宅	187	51.3%	5.9%	3.2%	10.2%	8.6%	0.5%	16.6%	3.7%
グループホーム	3	33.3%	33.3%	－	33.3%	－	－	－	－
ケアホーム	7	42.9%	14.3%	28.6%	－	－	－	14.3%	－
病院に入院している	4	25.0%	－	－	－	25.0%	－	25.0%	25.0%
施設に入所している	23	73.9%	－	4.3%	－	4.3%	4.3%	8.7%	4.3%
その他	5	60.0%	－	－	－	20.0%	－	20.0%	－
無回答	2	50.0%	50.0%	－	－	－	－	－	－

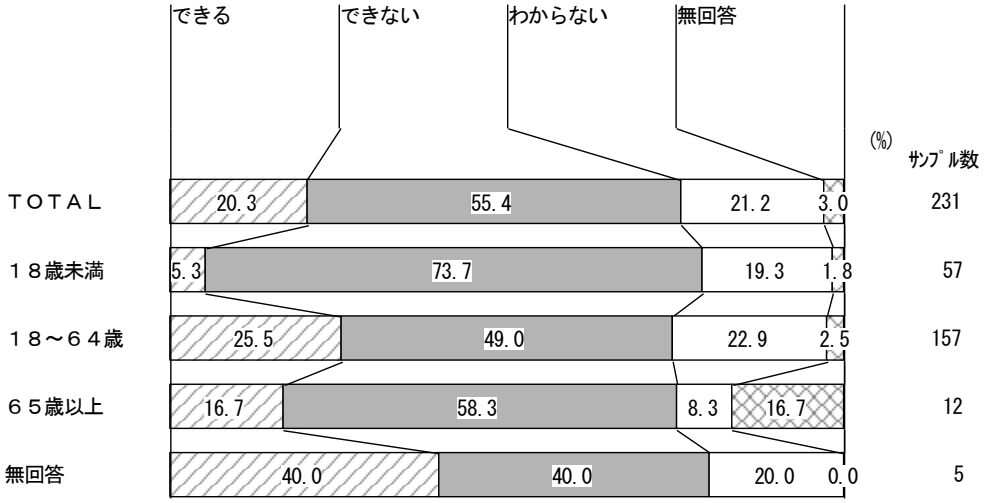
11 災害対策について

（１）災害時の避難について

問 46 火事や地震等の災害時に、あなたは一人で避難できますか。（○は１つ）

災害時に一人で避難「できる」と回答した人は約２割（20.3%）である。

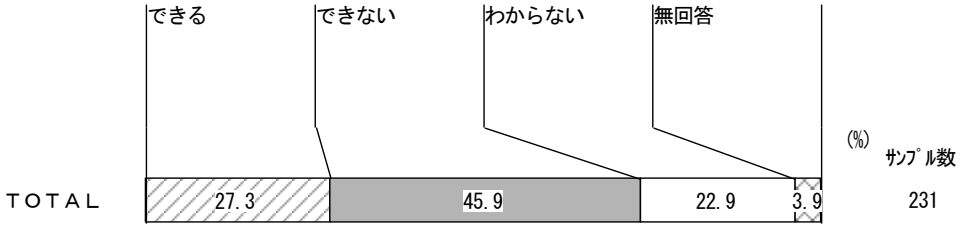
年代別にみると、「18～64 歳」では 25.5%の人が一人で避難「できる」と回答しているが、約半数の人は「できない」（49.0%）と考えている。



（２）災害時の周囲への連絡・通報について

問 47 火事等の非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（○は１つ）

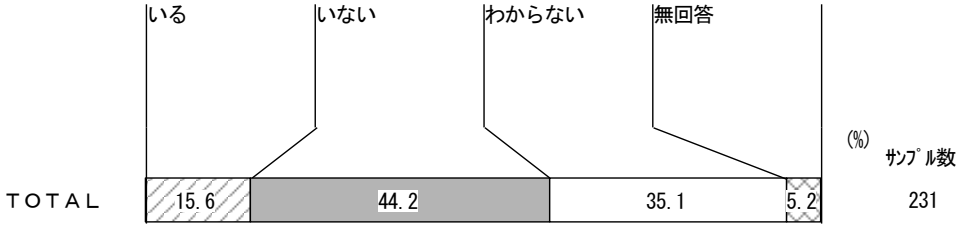
非常時に周囲の人に知らせることが「できる」と回答した人は 27.3%で、45.9%の人は知らせることが「できない」と回答している。



（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

問 48 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。（○は１つ）

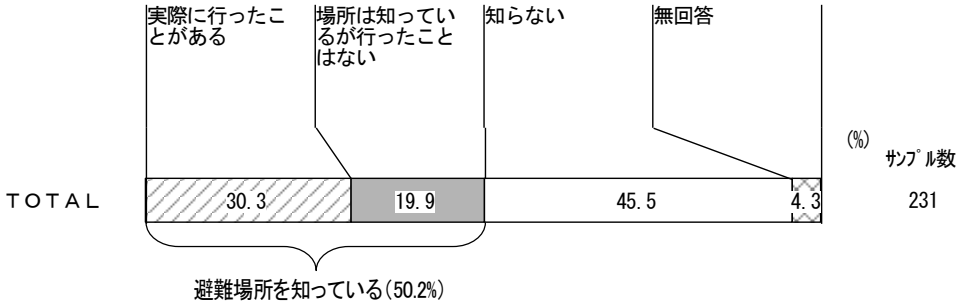
近所に助けてくれる人が「いる」人は 15.6%で、44.2%の人は近所に助けてくれる人が「いない」と回答している。



（４）避難場所の認知状況

問 49 お住まいの周辺の災害時の避難場所を知っていますか。（○は１つ）

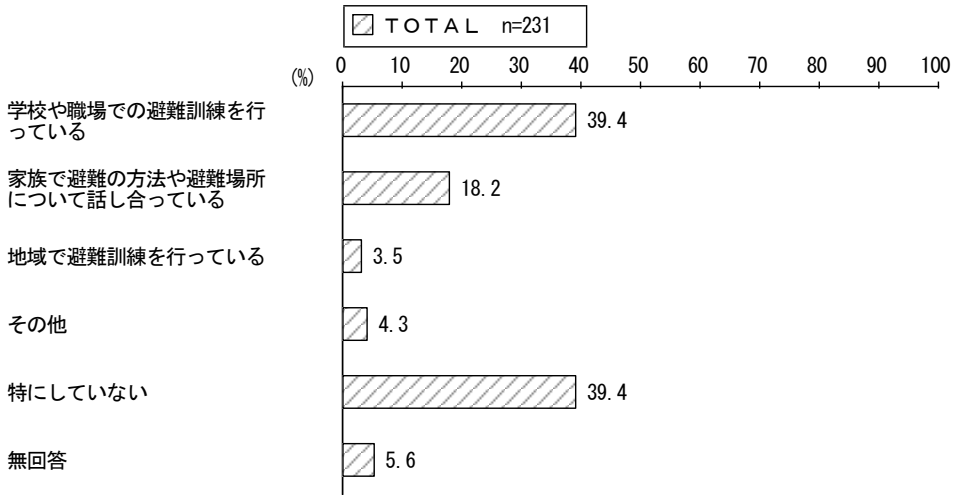
約半数は災害時の避難場所を知っているが、「実際に行ったことがある」人は約３割（30.3%）である。



（５）避難に関する準備状況

問 50 災害時の避難について、以下のようなことをしていますか。（○はいくつでも）

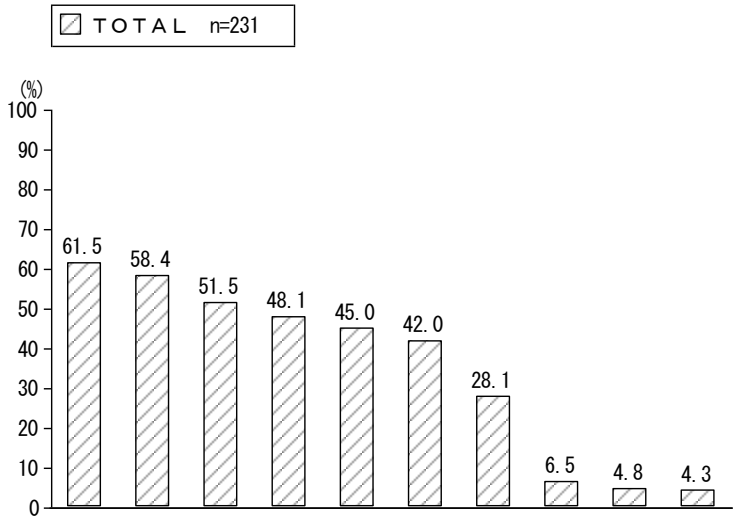
「学校や職場での避難訓練を行っている」人が 39.4%、「家族で避難の方法や避難場所について話し合っている」人が 18.2%で、約４割の人は避難の準備を「特にしていない」（39.4%）状況である。



（６）災害時に必要とする支援・援助

問 51 災害時にどのような支援・援助があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

災害時にあるとよいと思う支援・援助としては、「避難するのを手助けしてくれる」ことをあげる人が 61.5%と最も多く、次いで「避難所の設備（トイレ等）を充実させる」（58.4%）、「救助や避難時に声かけをしてくれる」（51.5%）と続いている。



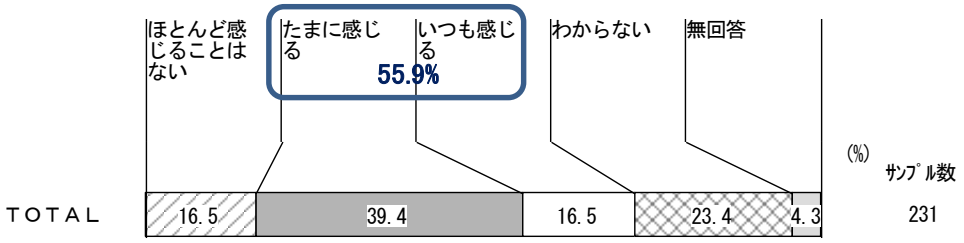
	問３ 年齢（３区分）	n	4 避難するのを手助けしてくれる	7 避難所の設備（トイレ等）を充実させる	3 救助や避難時に声かけをしてくれる	1 必要な投薬や治療が受けられる	6 コミュニケーションがとれるよう手助けしてくれる	5 被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる	2 必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる	8 その他	9 特にない	10 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	231	61.5	58.4	51.5	48.1	45.0	42.0	28.1	6.5	4.8	4.3
1	１８歳未満	57	68.4	61.4	66.7	36.8	63.2	49.1	31.6	10.5	3.5	1.8
2	１８～６４歳	157	58.6	59.2	47.8	52.2	39.5	40.1	27.4	5.7	5.1	3.8
3	６５歳以上	12	58.3	33.3	16.7	41.7	25.0	41.7	25.0	0.0	8.3	25.0
4	無回答	5	80.0	60.0	80.0	60.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 52 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

差別や疎外感を「たまに感じる」人が 39.4%、「いつも感じる」人が 16.5%となっており、半数以上の人は障害があることによる何らかの差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 53 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

【言葉や視線】

- 話の輪に入れてくれない時、無視される時、大声で悪口を言われる時。（20 代）
- 振り返って見る人がいる。個人の医院の待ち合い室でとてもいづらい。（20 代）
- 外出をして、親といっしょにバスなどを待っている時、じろじろ見たりへんな目で見ている人がいる時。（30 代）
- 親類の人に自分が居るために結婚が決まらないと言われる。（40 代）
- 特別な目でみられるとき。（30 代）
- 外出先で見知らぬ人に見られたり、指さされたりする。（20 代）
- 病院で診察を断わられたりする。（20 代）
- 外見は普通なのに、やったことが場違いだったりした時に周囲の雰囲気が変わること。（30 代）
- 外出時、人混みの中で大きな声を出したり、奇異な行動をとった時の周囲の反応。（20 代）

【就労・職場】

- 一般企業で働いても給料が少ない。障害をもっていると時給が上がらない為、最低賃金制を見直してほしい。（40 代）
- 公衆の場でパニックがおこった時、まわりの人が障害のある人だという目でみられたり、職場でも同じ作業をしているのに時給が低い。（20 代）
- 仕事をさがして面接に行くとき、履歴書に養護学校卒と書いてあるだけで、不採用になってしまう。働きたい場所が見つからない。（20 代）
- 会社での仕事が一人職場なため、なかなか話す人がいない。（20 代）

【学校】

・ 学校で、普通学級の子との差を感じる。（10 代）
・ まだ他者との交流が少ないので、そういった事は感じてはいないと思いますが、保育園等に入園した時にそうなってしまうのではないかと不安です。（10 歳未満）
・ 将来の事が心配なだけ、やっぱり特別支援学級にいたら考える事は周りの目とか色々あるのではないでしょうか。今はそれなりに出来ているが。（10 代）
・ 周囲の目や雰囲気。ふつう級のお友達の輪に入れてもらえない時など。（10 歳未満）

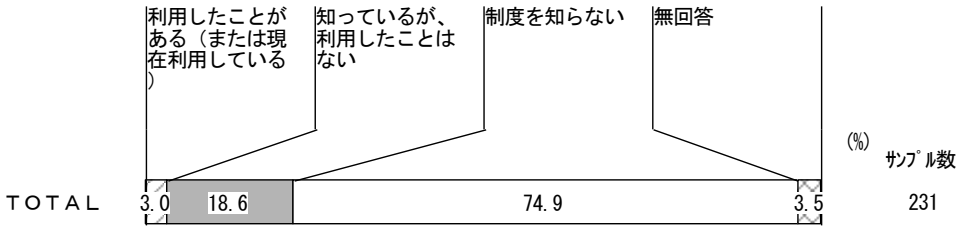
【その他】

・ 買物や公共（図書館・プール）施設に行って行動する時。（40 代）
・ 多数の健常者の中で、同じ行動をしなければならない時（40 代）
・ 一部介助で歩行ができる子供なので、移動時など子供の手が離せず、周囲からは「自由にしろ」的な言葉や対応がかえってくる。「障害があるので」と言っても周囲は理解できない様子。「どうすればいいか？」など親に聞いて半助けしてくれる人は一部で、ほとんどの人が障害と聞くと遠ざかってしまう。もっと障害者との交流の機会があるとよいと思う。（10 歳未満）
・ 他の人ができているのに、できないことがある時（10 歳未満）
・ 仲間達に対する視線や言動、町中で歩いていても気になることがあります。また、障害者基本法に言われている“できる限り”という言葉。障害を持った人達の人権は“できる限り”の範囲なのか、根本的なところが違うように感じる。（30 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 54 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

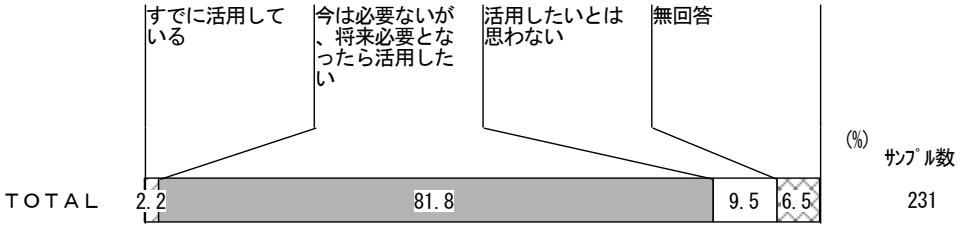
「あんしんサポートねっと」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 7 人（3.0%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 55 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

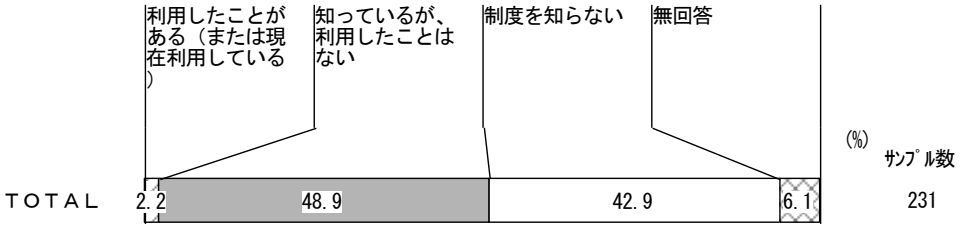
「あんしんサポートねっと」については、約８割の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」（81.8%）と考えており、「活用したいとは思わない」（9.5%）人は１割未満となっている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 56 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

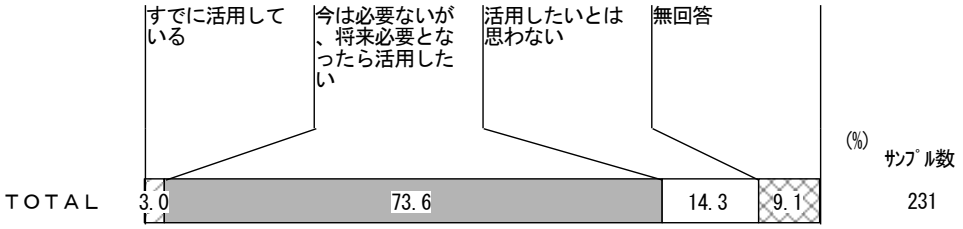
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は５人（2.2%）である。



（６）成年後見制度の利用意向

問 57 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、73.6%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。

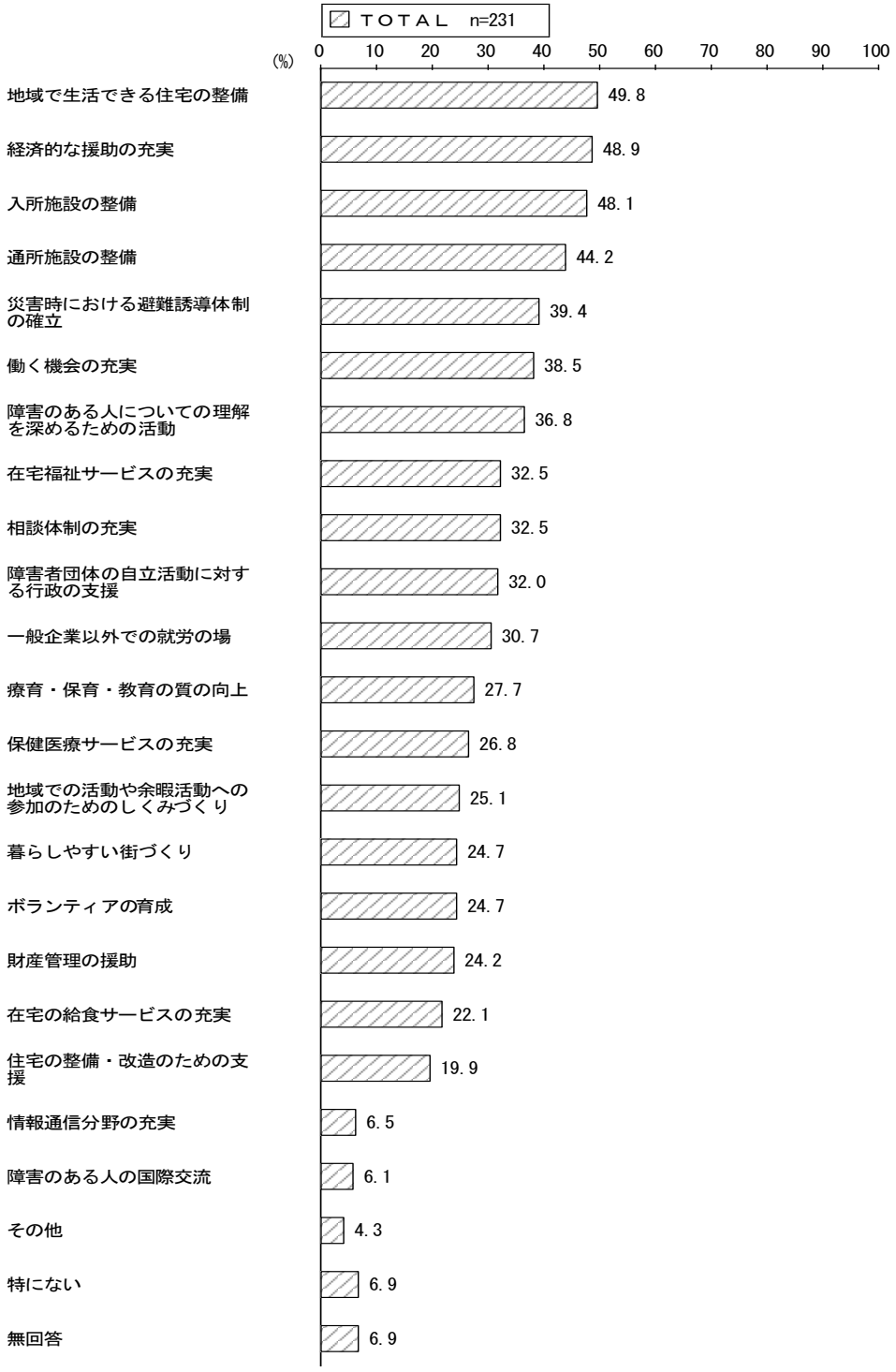


13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

問 58 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

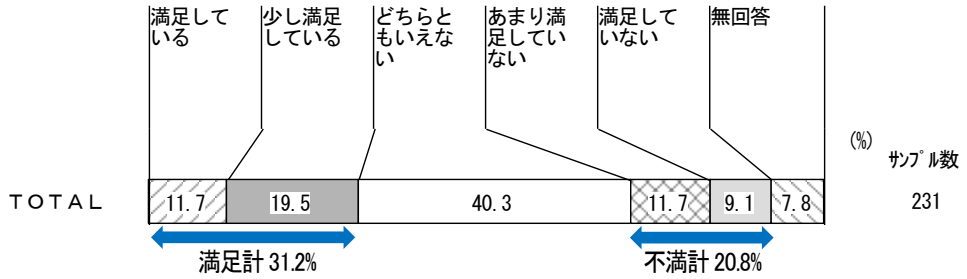
市が充実させていくべきこととしては、「地域で生活できる住宅の整備」をあげる人が 49.8%と最も多く、次いで「経済的な援助の充実」（48.9%）、「入所施設の整備」（48.1%）、「通所施設の整備」（44.2%）と続いている。



（２）福祉サービス全般の満足度

問 59 川越市の福祉サービス全般について、満足していますか。（○は１つ）

福祉サービス全般について、「満足している」人は 11.7%、「少し満足している」人は 19.5%で、合わせると約３割の人は概ね満足していることがわかる。一方、「満足していない」は 9.1%、「あまり満足していない」は 11.7%で、満足していない人は約２割となっている。



（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【相談、手続き、情報提供に関すること】

- 定期的な訪問（相談）があるとよい。悩みなどがあった時に聞いてくれる人はいても、毎回聞いてくれるわけではないので、相談員や市役所の担当の人が定期的に訪問してくれると助かる。（20 代）
- いざという時に相談できるようなシステムが欲しい。ボーダーラインに近い人は、制度の間に落ちてしまうことも多く、支援の手が届きにくい。重度の人より行動範囲も広いことで、目が届かず、問題が起きても、すぐに見つけられなかったり、隠すことも知っている分、ややこしいところもある。（20 代）
- 福祉サービスは、制度もわかりにくく、手続きも簡単とは言えないので、制度や手続きの仕方をもっとわかりやすくした方がよい。（10 代）
- 利用できるものについて知らないことも多く、どのように情報をとるのかも分かりません。（50 歳以上）
- 福祉サービスの内容について説明を受けることがほとんどない。表で項目を知った程度のものが多い。当該事業に対するわかりやすい説明が必要です。（40 代）
- 現在は自宅で、主に私が一人で面倒を見ているので、サービスの内容とかどの様な支援が受けられるのかという情報が皆無な状態になっています。（30 代）

【各種サービスに関すること】

- サポート事業は、10 分利用でも 1 時間分払わないとならない。30 分単位とかにならないのか。（10 代）
- 移動支援、日中一時支援など、使いたいときに使えるように事業者を増やしてください。（20 代）
- 電車で移動中や外出中、本人が困った時にカードを提示して援助を求めることができるよう、他の自治体にあ

る「ヘルプカード」を是非作ってほしい。（10 代）

- 入所を使っていると移動支援を使えないので、通院もヘルパーも使えず困っています。また、電車やバスを使ったとしても移動は体力的に大変で、安全面も確保できない。ぜひ車での移動支援を認めて下さい。（30 代）
- 入所施設利用者にも移動支援が受けられる様にしていただきたい。（20 代）
- 入所施設で生活していますが、移動支援が使えないことで家にも帰れず、通院も出来ない状況。（30 代）
- 現在、入所施設で生活しているため、移動支援を利用することができません。移動支援が使えれば生活の幅も広がり、仲間の生活が充実するきっかけになります。（30 代）
- この前は誤ってどこかの会社の駐輪場にとめてしまい、チェーンをかけられて困ったことがありました。そんな急でちょっとしたことの対応をお願いしたい時に頼めるところがあると助かります。（30 代）
- 制度がこまぎれで使いづらい。移動支援でプールを頼んでも、プールの中の支援は利用できない。（20 代）
- 入院中も福祉援助が受けられるようにして下さい。制度上受けられないことが多くて困っています。（30 代）
- 体験のため入所施設のショートステイができるように。（30 代）
- 入所しているとヘルパーが使えないため余暇活動がないままです。自由がないのと同じです。（20 代）
- 「あんしんサポートねっと」について調べてみたら失望した。利用料があまりにも高額で、「成年後見人制度」の後見人を弁護士などに依頼することと、さほど変わりない。（20 代）
- 移動援助を利用したいが、契約できる事業所が少なく、選択できないしヘルパーさんのレベルがまちまちであわない人がいる。（20 代）
- 親が病気になった時、障害児と兄弟（未就園児）を同じ所で一時預かりしてほしい。病気で動けないのに、別々の場所に預けに行かなければならないのは負担。（10 歳未満）
- 福祉タクシー利用券の交付を、タクシー券とガソリン券の選択ができるようにしてほしい。（10 歳未満）
- オアシスの心身障害児一時保護事業ですが、利用時間が火～土、9 時から 6 時半では、短い。冠婚葬祭など、都内では間に合わず、毎回利用できない。（10 歳未満）
- 自立支援法施行以来、在宅サービスが充実してきました。一方、受けにくくなった一面もあります。支給時間を増やしてもらえても、受け入れ先がありません。予約もとりにくく、費用もかさんでしまいます。又、ホームヘルパー事業所も増えましたが、すぐにヘルパーさんがやめてしまったり、男性ヘルパーが不足していて、思うように利用できません。ヘルパー育成等にも行政側でも関わってもらいたいと思います。（20 代）
- 学齢期になってからは、生活サポート・行動援護・放課後等児童デイ等全てにおいて、利用制限や定員があり、利用者側は時間が足りない、事業所側は常に手一杯という現状。また、努力をしなくても利用者が集まるので本人側（障害児）にとっては、そこそこか、預ってもらうだけ、程度の質のサービスしか提供されず、不幸だなあと思います。もっと学齢期の子供たちに対応出来る事業所が増え、それぞれが特色を持って運営し、利用者は選択出来て、事業所は努力を重ねてくれるようになるといいと思います。（10 代）

【施設の整備などに関すること】

- 共同生活介護（ケアホーム）、共同生活援助（グープホーム）を作って下さい。（40 代）
- 現在、通所で作業所に通っているが、高齢の親の一人が亡くなった時、入所施設又はグループホーム等へ入ることも浮上すると思われる。計画的な施設（ホーム等）作りが望まれる。（40 代）
- グループホーム、ケアホームに市営住宅の一階を利用することをぜひお願いします。（30 代）
- 少しでも早い入所施設やグループホームなどができますことを願っています。（30 代）
- 特別支援学校の卒業生の行き場が足りない。早急に福祉施設の増設等準備をして頂きたい。（20 代）
- 市には重心の生活ホームがない。安心して地域で暮らせるように重心の生活ホームの設立を希望します。（20 代）

・ 入所では医療が充実してないので、何かあった時心配です。ぜひ医療ケアが充実している病院の併設を考えてもらいたいです。（30 代）
・ 施設職員さんの待遇を市の職員さんと同じにして安定した身分保障をして欲しい。（20 代）
・ ケアホームへの援助をお願いします。支援員さんが確保され、財政的な援助があれば有難いです。（30 代）
・ 施設の運営も余裕がないため、職員は長時間働いたり、多く仲間を担当して労働条件が悪くなりがちです。市の予算を少しでも多く付けて施設運営が良くなる様にお願い致します。（20 代）

【経済的な援助に関すること】

・ 知的障害軽度だと、受けられる援助が少なく、個人的な負担が大きい。（10 代）
・ 18 歳以上でも生活サポートを利用しやすいような利用料の制度にしてもらえたらうれしいです。（20 代）
・ 障害者年金が収入源です。生活サポートを利用したいが、利用料金が高いので、利用できないでいる。非課税の人は割引してほしいと、せつに願っています。（20 代）

【療育、教育に関すること】

・ 発達障害のある子どもが 2 次障害を抱え苦しんでいます。まずは乳幼児健診のスキルアップとその後のフォロー、療育の充実を図ってください。特に通園施設の専門性の向上をお願いします。（20 代）
・ 地元の中学校に通えるよう特別支援学級が増えてほしいと願っています。（10 歳未満）
・ 全ての学校に支援級を設置していただきたい。（10 歳未満）
・ 経済的に不安定な家庭の子供は近場に福祉サービスがないと、子供にきちんとした療育を受けさせてあげられる機会が少なくなってしまう。（10 歳未満）
・ 小学校に入学してしまうと、言語療法などの療育施設（病院）に通うことができなくなってしまうことが多く、大変困っています。川越市は、このような療育施設が少ないと思います。（10 歳未満）

【就労に関すること】

・ 市の施設（市役所その他）で、身体障害者だけでなく、知的・発達・精神の障害者も積極的に雇用してほしい。民間に雇用をうながすだけでなく、まず市から例を示すべき。（10 代）
・ 働く場所が近くにあるとよい。（40 代）
・ 特別支援学級に通っていますが、卒業後の就職について相談できる所があると良いと思います。（10 代）
・ 作業所の活動内容を知る機会が少ない。学生の「企業説明会」のような、「市内（又は近隣の）作業所合同説明会」のように、1 日で数ケ所の活動内容を知ることができる場があれば良いと思う。（10 代）

【障害に対する理解や権利擁護に関すること】

・ 障害をもっている人と積極的に関わることのできる機会、（福祉施設への実習の義務づけ等）を増やしていくといったことも大事なのではないでしょうか。（30 代）
・ 障害者への真の理解を得られるよう、小さい頃からの教育を充実されてほしい。（10 代）
・ 障害者の施設を作ろうとすると近所の反対がある。一般の方の理解が欲しい。（30 代）
・ 障害のある人（子供）への理解・教育を小中学校だけでなく、高校、大学一般人まで広げてほしい。文字だけでなく対応を具体的に教育してほしい。（20 代）
・ 約 20 年前より施設生活しているが、その頃に比べ障害への理解も深まったと思う。対応も一様ではなくなり、本人も家族も生活しやすくなりました。これも川越市（役所等）のおかげだと感謝しております。（40 代）

【非常時、緊急時の対策に関すること】

・ 災害の時、大勢の中に居られないので、一時預かりの場所があるといいのですが。（30 代）
・ 震災等の避難所も重度障害（手帳Ⓐ、Aや１級）は特別に場所（自治会館や公民館や支援学校など）を指定しておき、介助者が救援物資を取りに行かなくてもいいようにするとか、配慮すべき事を考えてほしいです。福祉課から「特別避難場所」のお知らせが届けば安心すると障害の重い親同士でよく話しています。（10 代）
・ 本人（重心障害）と母２人きりなのでとても不安です。緊急通報システム等あるといいと思う。（20 代）
・ 要援護者名簿を作られましたが、どう活用されるつもりですか。日常生活の中でも活用できるようにして下さい。例えば救急車を呼んだ時に要援護者であることが明確に伝わるよう、システムを作ってもらうとか。（20 代）

【将来の不安などに関すること】

・ 家族が居なくなったら施設に入りたいが生活ができるか心配です。将来のことを考えると不安です。（30 代）
・ 親の亡き後がとても不安です。（50 歳以上）
・ 親も 70 才であり、今後が不安。成年後見制度やヘルパーの活用とも思うが、ごまかされた話を耳にするのでそれも心配です。（40 代）
・ 親が元気であるうちに一人で生きていける状態になることが最大の幸せと思います。障害者、一人ひとりにきめ細かな将来設計の指導、制度、体制を整えていただきたい。（30 代）

【親など、介護者への支援に関すること】

・ 保護者支援（我が子の障害受容）の充実を図ってください。（20 代）
・ 介護している者に対しても手当てが出ても良いのではないか。（50 歳以上）
・ 市内にデイサービスが少なすぎて、片道 40 分以上かけて通っている。母が仕事をしているので勤務の状況にあわせて利用できるサービスが少なすぎて、パート以上の仕事ができない。むずかしいとは思うが校内にボランティアの方などが来て児童デイみたいなことが、毎日ではなくても週に１回程度あってもよいと思う。（10 歳未満）
・ 重度の障害児者の就労、日中活動の場の確保、生活の場の確保に関して、あまりにも学校まかせ、施設まかせ、親まかせだと思います。（10 代）
・ 障害児のいる親も働くことができるようにしてほしい。放課後の預かりがない、送迎しなければならない、定期的に病院や訓練等に通わなければならないので、働く時間がとても制約される。（10 歳未満）

【人材育成に関すること】

・ 何をするにも人の見守りや声がけが必要な障害者には、その障害者を理解してくれる支援者が絶対に必要です。まず、ボランティア、ヘルパーの育成にしっかり取り組んでほしいです。（20 代）
・ 相談しようにも発達障害について正しい認識を持った人材が居ません。使えるサービスも不足しています。発達障害についての研修などを市の責任において実施してください。（20 代）
・ 相談員に対する研修を深め、対応力を深めて頂きたい。（40 代）

【アンケートに関すること】

・ 今回のアンケートのように私たちの声をもっときいてもらうきかいを沢山作って下さい。（20 代）
・ 調査票には、本人に説明しやすいアドバイスの様なものが欲しかったと思います。家族は、頭の中で分っていても説明出来ないものがあります。本人に回答を要求するのであれば、やさしくアンケートして下さい。（20 代）

【その他】

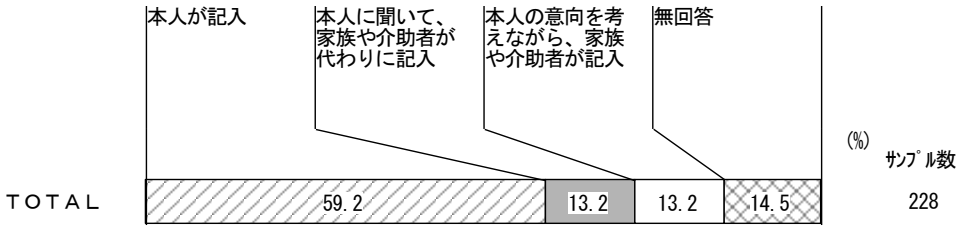
・ 市のバスを利用して仲間と遊びに行きたい。（40 代）
・ 高齢者と共有の施設（オアシスなど）では、どうしても数の少ない障害者の意向は後向しになっている様に思います。（10 代）
・ 軽度の障害のある者は、支援が必要なのにもかかわらず、適格な診断が出ず、支援が受けられない現状があるのでもっと幅広い判定基準を設けてほしい。（10 代）
・ 障害をもつ、乳児をもつ保ご者から、お年よりまで、皆さんが何を求めているか、正確に耳をかたむけ、適切なサービス、施設をつくって下さい。（10 代）
・ 障害者は生命保険にはなぜ加入出来ないのでしょうか、障害があるからこそ、安心して、入院し、治療をしたいのに、なぜなのでしょうか。障害者でも入れる保険があったらおしえて下さい。（30 代）
・ 家にきてくれる人声を掛けてくださる人で本当に助けられています。（20 代）
・ 入り口というか障害を受け入れざるを得なくなった時の相談先・療育先・預け先等が充実していて、なおかつ選択肢があると、ずっと楽だった気がします。（10 代）
・ 例え少数であっても、児童が通学している道路は、早急にガードレールの設置や歩道の整備をしていただきたい。（10 歳未満）
・ 障害者の暮らしやすい社会は、お年寄、子供さん、老若男女にも暮らしやすい社会と思います。いじめもない社会となるでしょう。（20 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

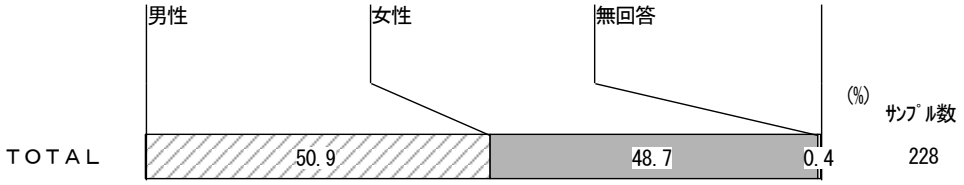
「本人が記入」が 59.2%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 13.2%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 13.2%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

男性が 50.9%、女性が 48.7%である。

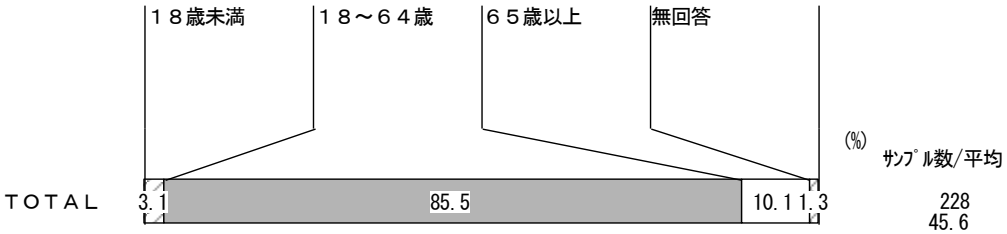


（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

年齢構成は、「10 代」3.9%、「20 代」8.3%、「30 代」20.6%、「40 代」28.1%、「50 代」18.9%、「60 代」11.8%で、平均年齢は 45.6 歳である。

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
n=228	0.4%	3.9%	8.3%	20.6%	28.1%	18.9%	11.8%	5.3%	1.3%	1.3%



（４）居住場所

問４　現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は１つ）

「自宅」で暮らしている人が 85.1%である。

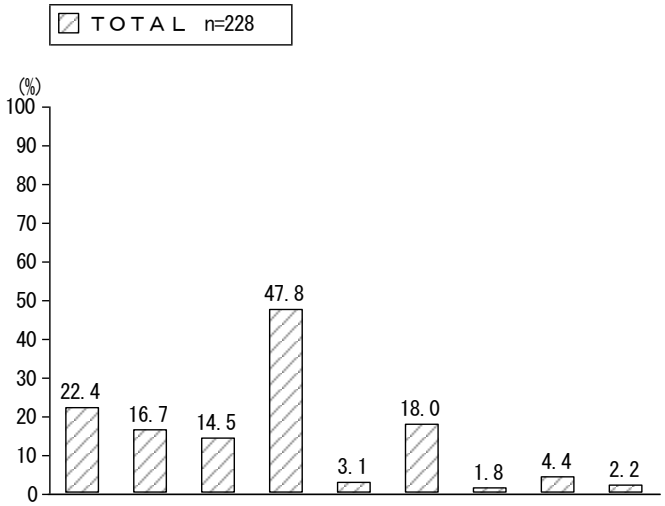
	自宅	グループホーム	ケアホーム	病院に入院している	施設に入所している	その他	無回答
n=228	85.1%	0.4%	0.9%	9.6%	1.8%	1.8%	0.4%

（５）同居者

問５　現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「父、母」と暮らしている人が 47.8%、「配偶者」と暮らしている人が 16.7%、「子ども」と暮らしている人が 14.5%である。なお、22.4%の人が「自分一人だけで暮らしている」。

年代別にみると、「自分一人だけで暮らしている」人の割合は、30 代では 19.1%、40 代では 21.9%、50 代では 25.6%となっている。

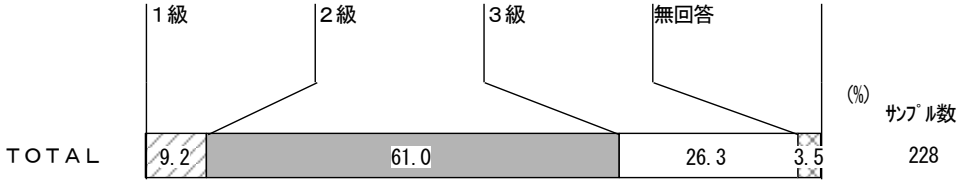


	問３　年齢（１０歳刻み）	n	1 自分一人だけで暮らしている	2 配偶者（夫または妻）	3 子ども（子どもの配偶者も含む）	4 父、母	5 祖父、祖母	6 兄弟、姉妹	7 その他の親せき	8 その他	9 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	228	22.4	16.7	14.5	47.8	3.1	18.0	1.8	4.4	2.2
1	１０歳未満	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	１０代	9	0.0	0.0	0.0	88.9	44.4	66.7	0.0	0.0	11.1
3	２０代	19	10.5	5.3	0.0	84.2	10.5	36.8	0.0	0.0	0.0
4	３０代	47	19.1	12.8	4.3	68.1	2.1	19.1	4.3	0.0	0.0
5	４０代	64	21.9	15.6	21.9	51.6	0.0	10.9	0.0	4.7	3.1
6	５０代	43	25.6	14.0	11.6	37.2	0.0	16.3	2.3	7.0	2.3
7	６０代	27	44.4	33.3	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	3.7	0.0
8	７０代	12	8.3	50.0	41.7	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0	0.0
9	８０歳以上	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	無回答	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3

（６）障害程度

問６ お持ちの「精神障害者保健福祉手帳」の等級は何級ですか。（○は１つ）

精神障害者保健福祉手帳に記載されている障害の程度は、「２級」が 61.0%と最も多い。

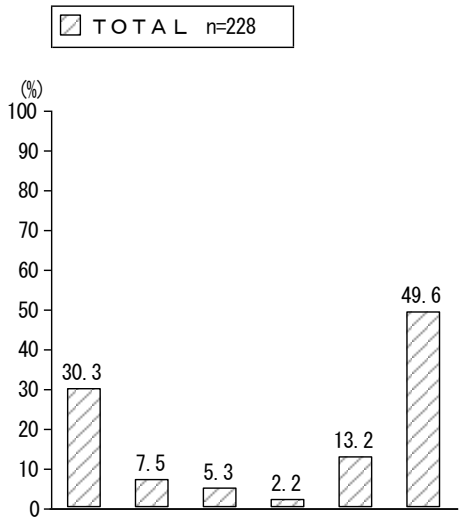


（７）他の障害の状況

問７ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

精神障害以外の障害との重複状況をみると、「身体障害者手帳を持っている」人が 30.3%、「発達障害と診断されたことがある」人が 13.2%いることがわかる。

年代別にみると、18 歳未満の 7 人のうち 5 人（71.4%）は、「発達障害と診断されたことがある」と回答している。

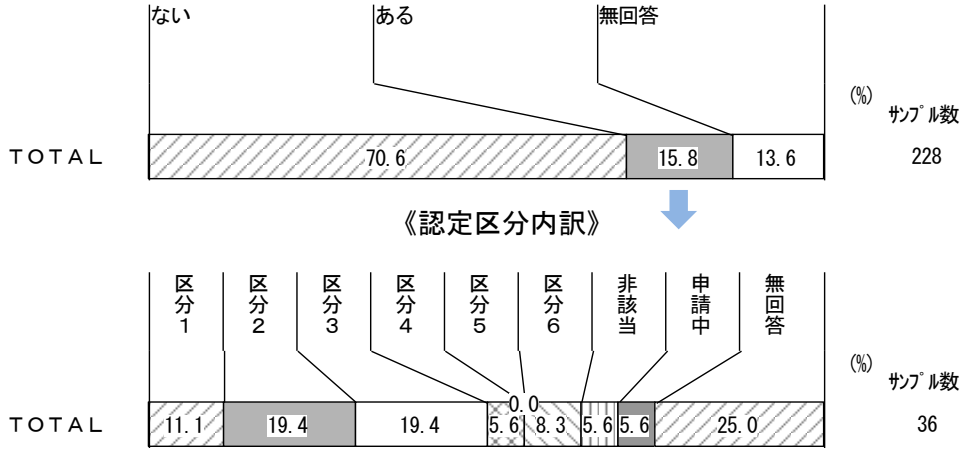


	問３ 年齢（３区分）	n	1 身体障害者手帳を持っている	2 持っているみどりの手帳（療育手帳）を	3 国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	4 高次脳機能障害と診断されたことがある	5 発達障害と診断されたことがある	6 上記にあてはまるものはない（無回答含む）
0	ＴＯＴＡＬ	228	30.3	7.5	5.3	2.2	13.2	49.6
1	１８歳未満	7	14.3	28.6	0.0	0.0	71.4	0.0
2	１８～６４歳	195	31.3	6.7	3.6	2.6	12.8	49.7
3	６５歳以上	23	30.4	8.7	17.4	0.0	0.0	60.9
4	無回答	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7

（８）障害程度区分

問８ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことがある人は 15.8%で、区分としては「区分２」と「区分３」がそれぞれ19.4%と最も多い。



《精神障害者保健福祉手帳の障害程度と認定区分との関係》

障害程度	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	申請中	無回答
１級	6	16.7%	16.7%	－	－	－	33.3%	－	－	33.3%
２級	22	13.6%	27.3%	27.3%	9.1%	－	4.5%	－	4.5%	13.6%
３級	6	－	－	－	－	－	－	33.3%	16.7%	50.0%

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問９ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は 28.9%で、約７割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「親」が 35.1%と最も多い。なお、具体的な介助・援助者を選択した人でみると、「親」が 53.3%を占めている。

年代別にみると、「配偶者」が主な介助・援助者である人の割合は、30 代では 8.5%、40 代では 7.8%、50 代では 9.3%である。

	n	特に介助・援助は受けていない	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	その他の親せき	近隣の人、知人・友人	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
TOTAL	228	28.9%	35.1%	10.5%	2.6%	4.8%	0.4%	0.9%	4.4%	0.4%	6.6%	5.3%
10歳未満	1	－	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－
10代	9	22.2%	77.8%	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20代	19	21.1%	78.9%	－	－	－	－	－	－	－	－	－
30代	47	29.8%	51.1%	8.5%	－	－	－	－	4.3%	－		6.4%
40代	64	34.4%	39.1%	7.8%	1.6%	－	－	－	3.1%	－	10.9%	3.1%
50代	43	32.6%	11.6%	9.3%	2.3%	11.6%	－	2.3%	9.3%	－	9.3%	11.6%
60代	27	29.6%	11.1%	22.2%	7.4%	14.8%	－	－	3.7%	3.7%	7.4%	
70代	12	16.7%	－	41.7%	－	－	8.3%	8.3%	8.3%	－	16.7%	
80歳以上	3	－	－	－	66.7%	－	－	－	－	－		33.3%
無回答	3	－	－	－	－	66.7%	－	－	－	－	－	33.3%

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	その他の親せき	近隣の人、知人・友人	ホームヘルパー	ボランティア	その他
主な介助・援助者に記入あり n=150	53.3%	16.0%	4.0%	7.3%	0.7%	1.3%	6.7%	0.7%	10.0%

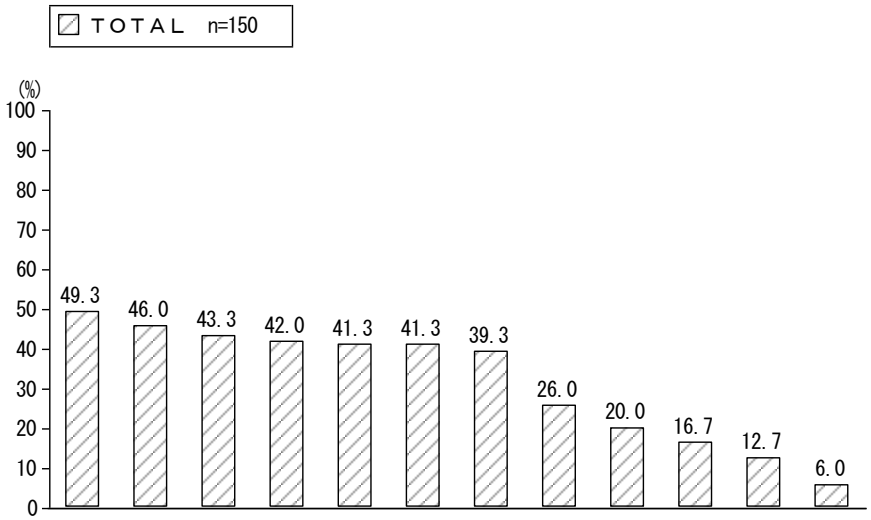
（２）介助・援助を受けている場面

問 10 どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「食事をつくるとき」が 49.3%と最も多く、次いで「通院のとき」（46.0%）、「掃除をするとき」（43.3%）、「お金の管理をするとき」（42.0%）と続いている。

障害の程度別にみると、精神障害者保健福祉手帳１級の所持者 20 人のうち 13 人（65.0%）は「通院のとき」に介助・援助を受けていることがわかる。また、「お金の管理をするとき」（60.0%）、「外出をするとき」（60.0%）、「買い物をするとき」（55.0%）の３項目は、いずれも１級所持者のうち半数以上の人が介助・援助を受けている状況となっている。



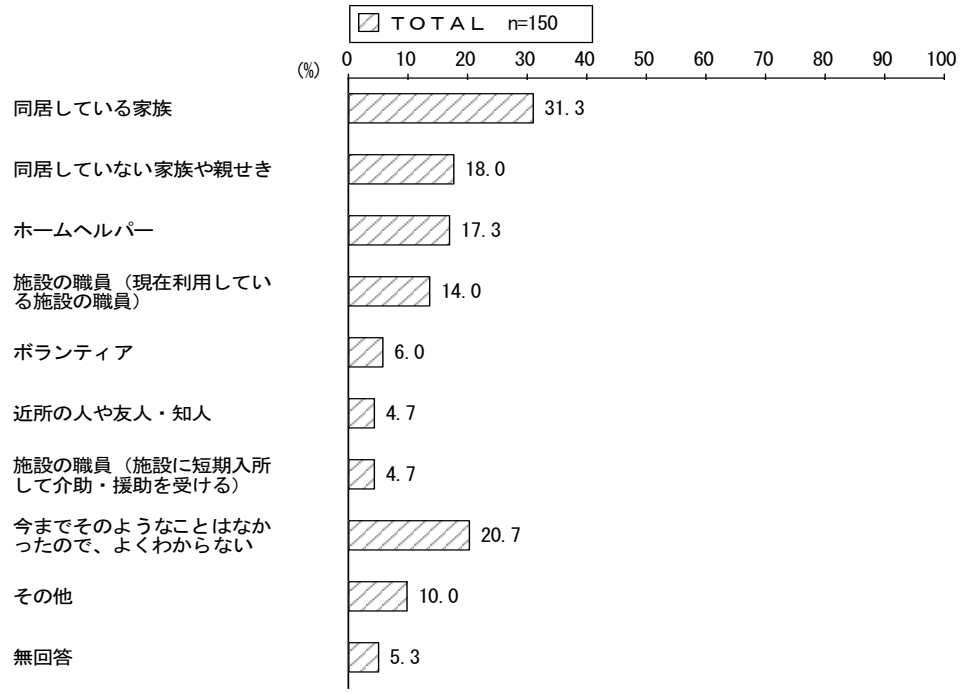
問６ 精神障害者手帳に記載の障害の程度		n	2 食事をつくるとき	4 通院のとき	3 掃除をするとき	8 お金の管理をするとき	6 買い物をするとき	7 洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき	9 外出をするとき	10 人とコミュニケーションをとるとき	5 服薬をするとき	1 食事をするとき	11 その他	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	150	49.3	46.0	43.3	42.0	41.3	41.3	39.3	26.0	20.0	16.7	12.7	6.0
1	１級	20	45.0	65.0	45.0	60.0	55.0	40.0	60.0	30.0	25.0	30.0	10.0	10.0
2	２級	95	50.5	46.3	44.2	41.1	38.9	38.9	35.8	24.2	21.1	16.8	14.7	5.3
3	３級	30	43.3	30.0	33.3	33.3	36.7	46.7	26.7	26.7	10.0	3.3	6.7	6.7
4	無回答	5	80.0	60.0	80.0	40.0	60.0	60.0	100.0	40.0	40.0	40.0	20.0	0.0

（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

問 11 あなたを主に介助・援助している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、替わりに誰に介助・援助してもらいたいと思いますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

主な介助・援助者が不在のときには、替わりに「同居している家族」の介助・援助を希望する人が31.3%と最も多い。



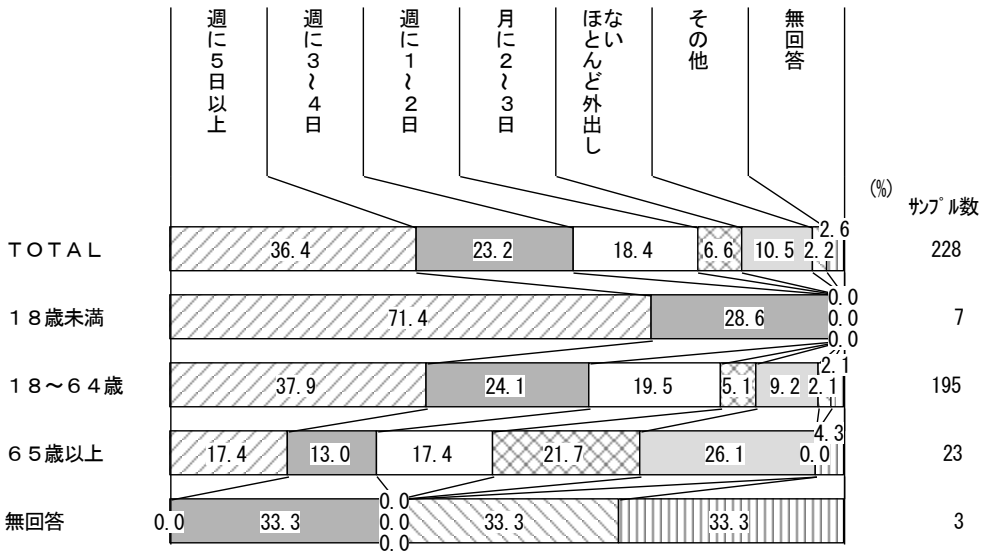
3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

問 12 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。（○は１つ）

外出の頻度は、「週に５日以上」が 36.4%、「週に３～４日」が 23.2%で、週に３日以上外出している人が約６割を占めるが、「ほとんど外出しない」人も約１割（10.5%）みられる。

年代別にみると、「ほとんど外出しない」人の割合は、「18～64 歳」では9.2%、「65 歳以上」では26.1%である。

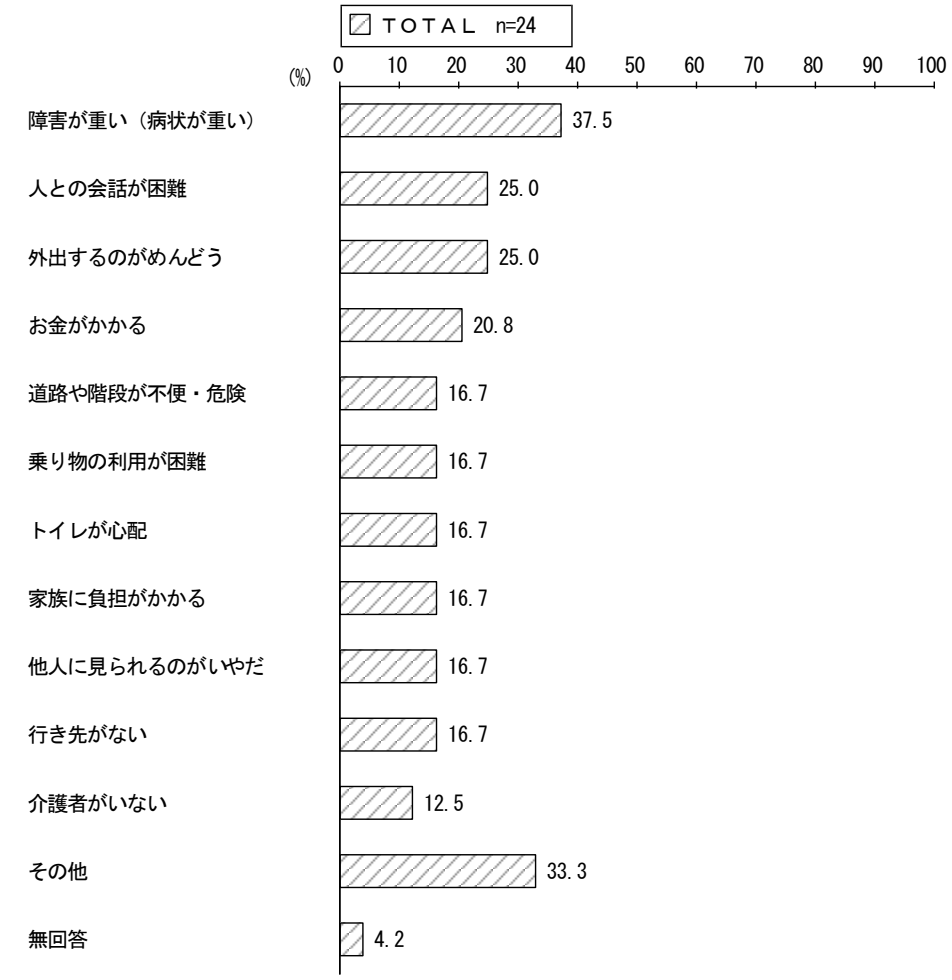


（２）外出をしない理由

問 13 外出をしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［ほとんど外出しない方におききします］

外出をしない理由としては、「障害が重い（病状が重い）」ことをあげる人が 37.5%と最も多い。

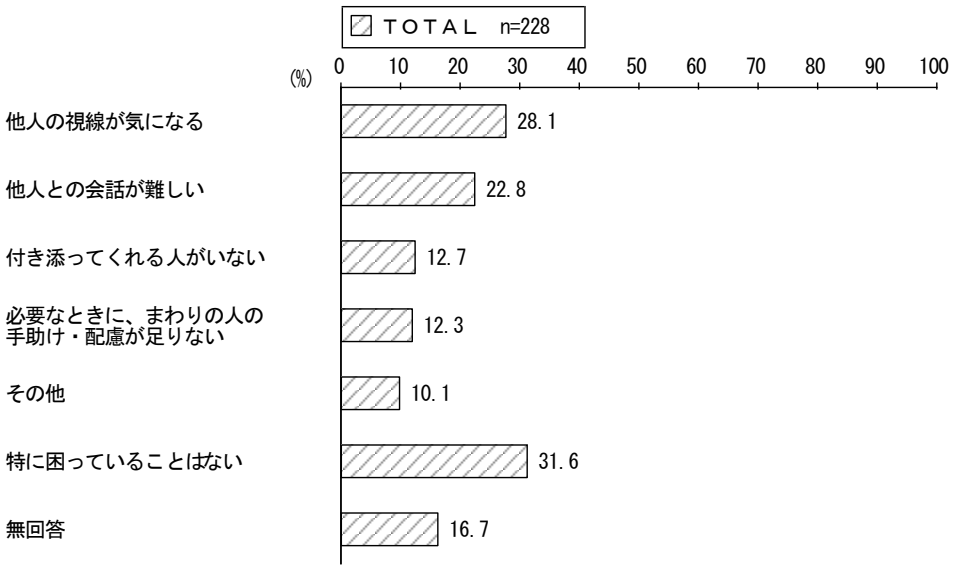


（３）外出の際に困っていること

問 14 外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、「他人の視線が気になる」ことをあげる人が 28.1%と最も多く、次いで「他人との会話が難しい」が 22.8%で続いている。

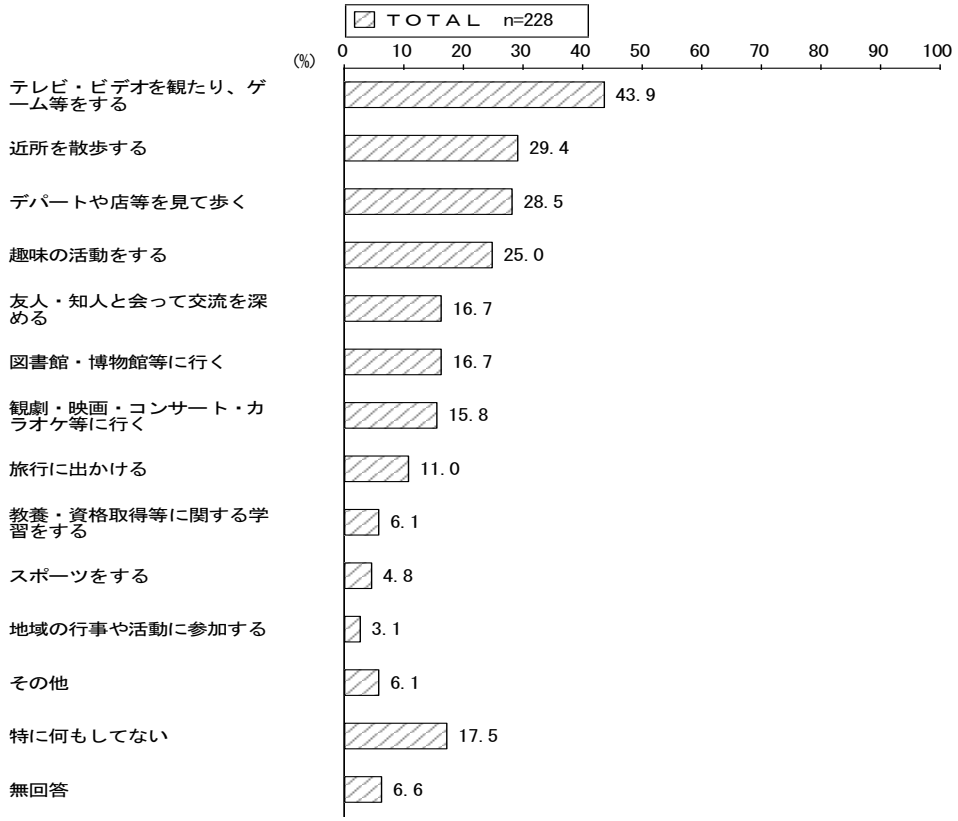
なお、その他の回答として、発作時の不安や緊張をあげる人が複数みられた。



（４）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

問 15 どのような生涯学習活動や余暇活動をしていますか。（○はいくつでも）

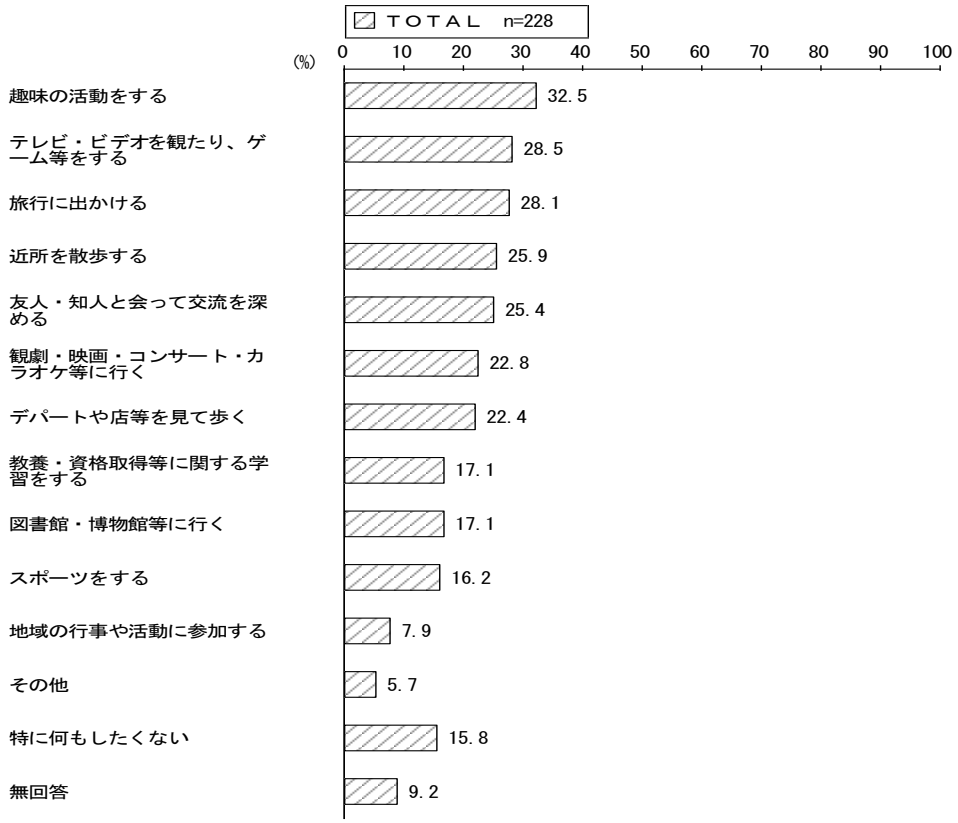
現在行っている生涯学習活動・余暇活動としては、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人が 43.9%と最も多く、次いで「近所を散歩する」（29.4%）、「デパートや店等を見て歩く」（28.5%）と続いている。



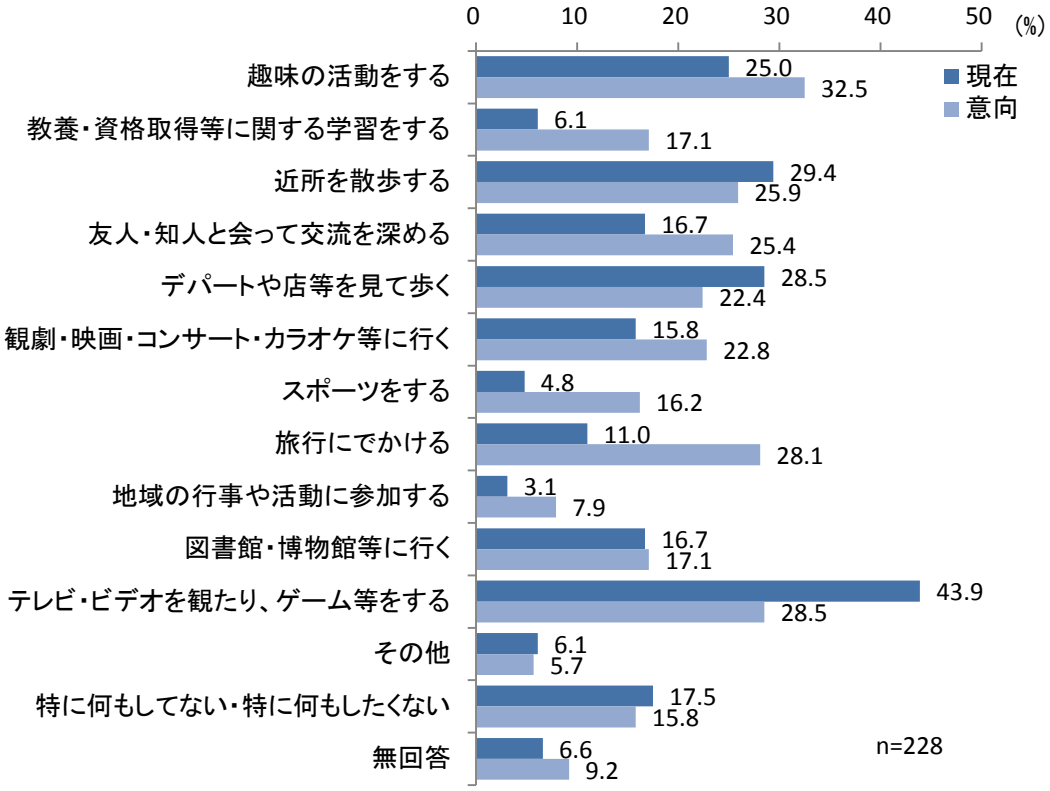
（５）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

問 16 今後、どのような生涯学習活動や余暇活動をしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、「趣味の活動をする」をあげる人が 32.5%と最も多く、次いで「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」（28.5%）、「旅行にでかける」（28.1%）と続いている。



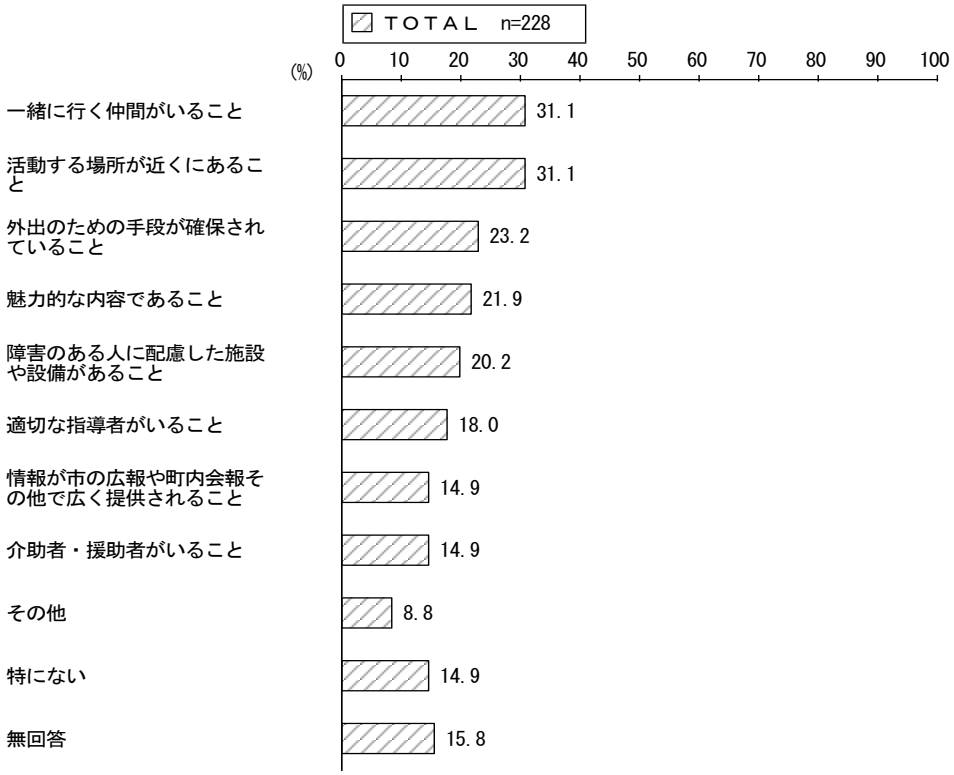
実際の活動状況と今後の意向を比べてみると、「旅行」については、実際に出かけている人は 11.0%（意向は 28.1%）にとどまっており、「旅行に出かけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。同様に、「教養・資格取得等に関する学習をする」（現状 6.1%、意向 17.1%）、「スポーツをする」（現状 4.8%、意向 16.2%）などは、特に意向に比べて実際に行っている人が少ない状況となっている。



（６）希望する活動を行うために必要な条件

問 17 あなたは、上記のような活動をするために、どのような条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

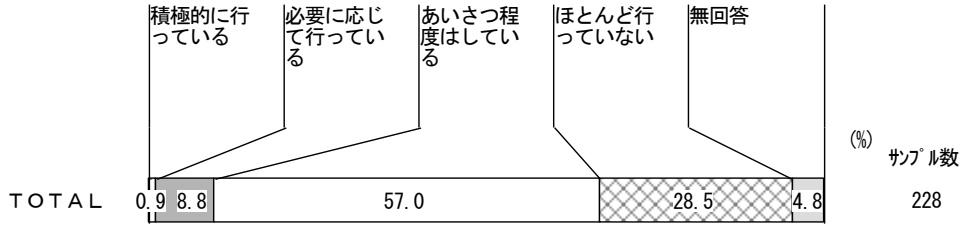
希望する活動を行うために必要な条件としては、「一緒に行く仲間がいること」と「活動する場所が近くにあること」をあげる人がそれぞれ 31.1%で最も多い。



（７）近所とのつきあいの程度

問 18 ご近所とのおつきあいは、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

近所とのつきあいの程度は、「あいさつ程度はしている」が 57.0%と最も多いが、「ほとんど行っていない」人が約３割（28.5%）みられる。



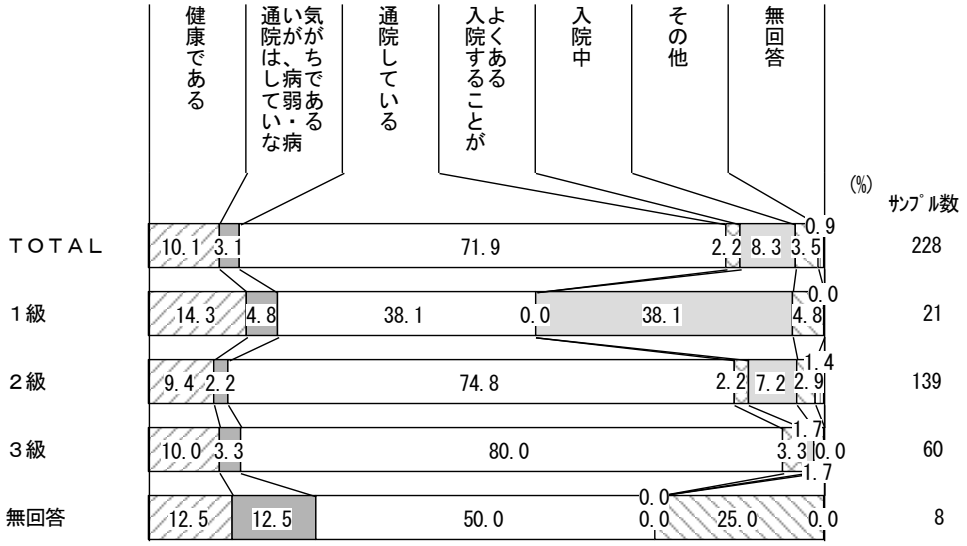
4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

問 19 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は１つ）

71.9%の人が現在「通院している」。

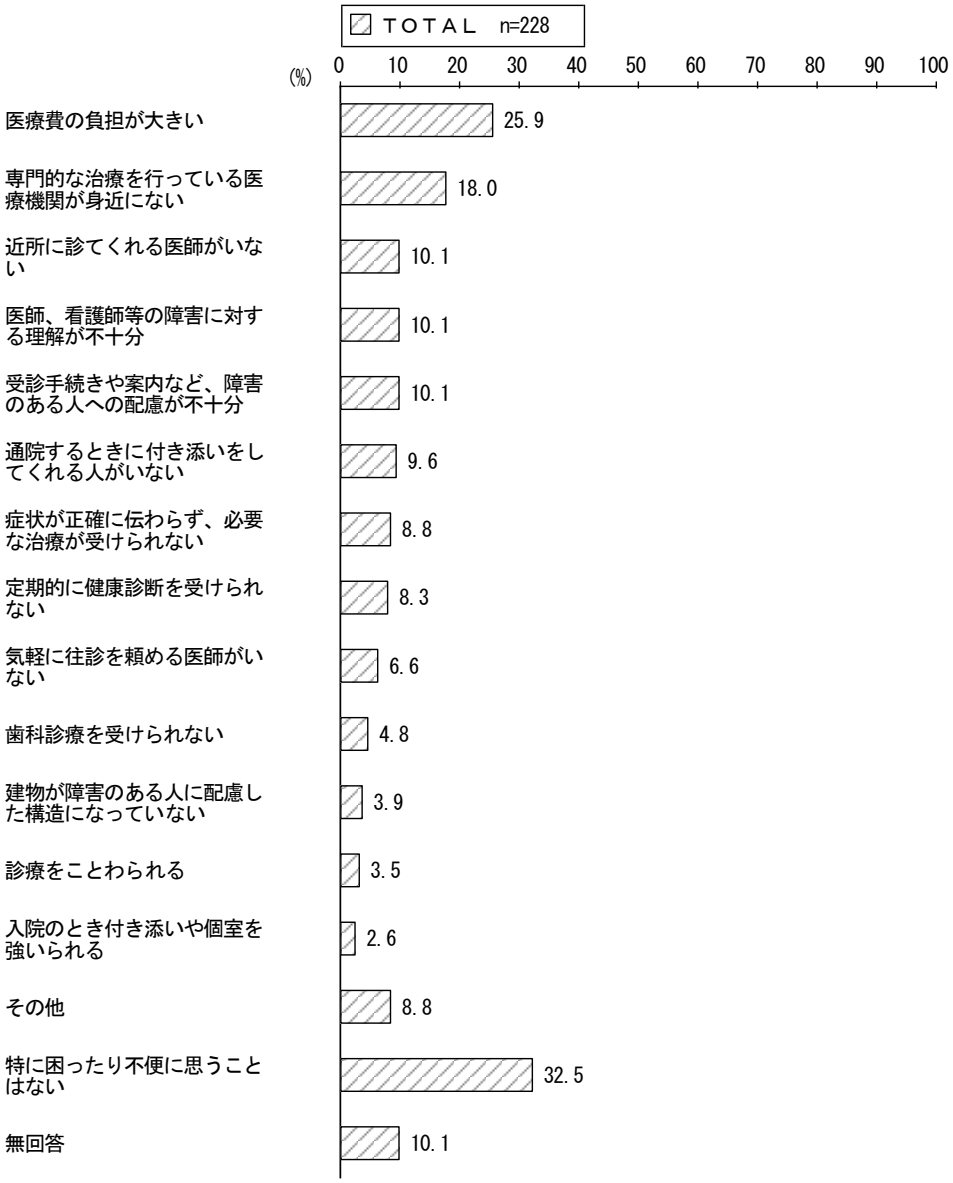
障害の程度別にみると、精神障害者保健福祉手帳１級所持者 21 人のうち８人（38.1%）は、「入院中」と回答している。



（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 20 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。（○はいくつでも）

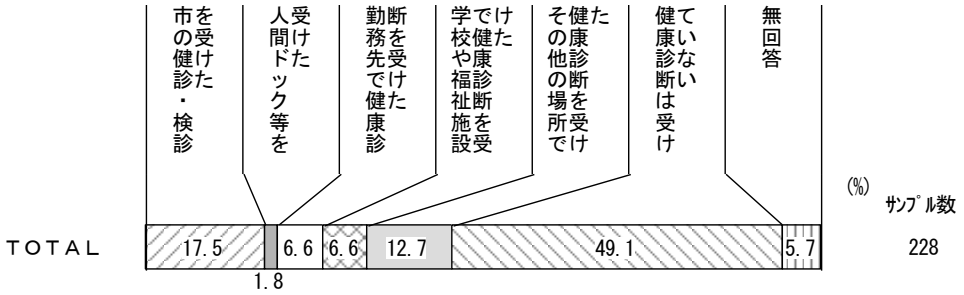
健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、32.5%の人が「特にない」と回答しているが、４人に１人は「医療費の負担が大きい」（25.9%）ととらえていることがわかる。



（３）健康診断（健康診査）の受診状況

問 21 過去１年間に健康診断（健康診査）を受けましたか。（○は１つ）

過去１年間に、「市の健診・検診を受けた」人は 17.5%で、約半数の人は「健康診断は受けていない」（49.1%）状況である。



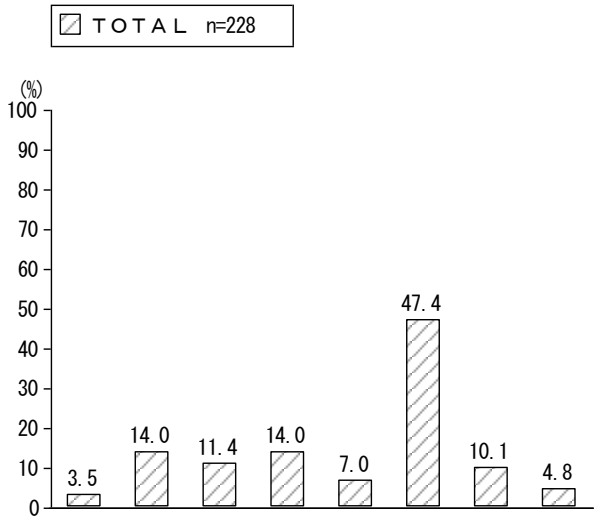
5 日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方

問 22 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。（利用しているものに○）

全体でみると、約半数の人は「自宅にいることが多い」（47.4%）状況である。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「自宅にいることが多い」人が 51.3%、「働いている」人が 15.9%、「福祉の施設（サービス）に通っている」人が 14.4%である。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 幼稚園や保育園、学校などに通っている	2 福祉の施設（サービス）に通っている	3 病院や施設などで看護・介護を受けている	4 働いている	5 求職中である	6 自宅にいることが多い	7 その他	8 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	228	3.5	14.0	11.4	14.0	7.0	47.4	10.1	4.8
1	１８歳未満	7	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
2	１８～６４歳	195	1.0	14.4	8.2	15.9	8.2	51.3	10.3	4.6
3	６５歳以上	23	0.0	17.4	39.1	4.3	0.0	30.4	8.7	4.3
4	無回答	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

6 幼稚園・保育園・学校について

（１）通園・通学先

問 23 通っているのは次のうちどれですか。（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

幼稚園や保育園、学校などに通っている 8 人の通園・通学先は、6 人が「小学校、中学校、高等学校」（75.0%）である。

	小学校、中学校、高等学校	特別支援学校	専門学校・高等技術専門学校
n=8	75.0%	12.5%	12.5%

（２）幼稚園・保育園・学校に関して困っていること

問 24 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。（○はいくつでも）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

学校などで困ることとしては、「通うのがたいへん」をあげる人が 4 人（50.0%）などとなっている。

	通うのがたいへん	家族の同伴を求められる	授業についていけない	トイレ等の設備が不十分	友だちができない	職員の理解が得られない	その他	無回答
n=8	50.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	25.0%

（３）学校教育修了後の希望

問 25 将来、学校教育を修了後の希望を教えてください。（ご本人がまだわからない場合は保護者の方がお答えください。）（○は１つ）

［幼稚園や保育園、学校などに通っている方におききします］

学校修了後の希望としては、「短大・大学・大学院に進学したい」、「障害者施設に通所したい」、「就職したい」がそれぞれ 2 人（25.0%）となっている。

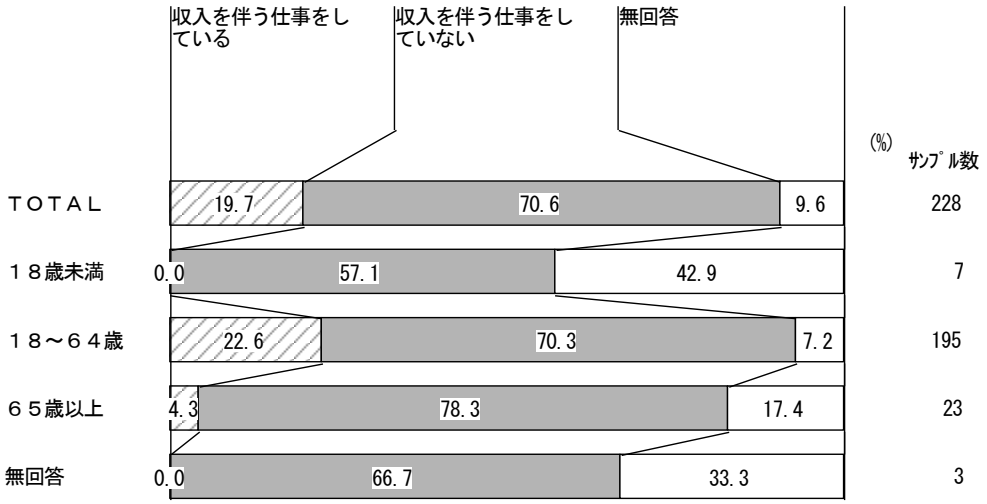
	短大・大学・大学院に進学したい	障害者施設に通所したい	就職したい	専門学校・専修学校に進学したい	その他
n=8	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	12.5%

7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問 26 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、「収入を伴う仕事をしている」人は、19.7%である。
年代別にみると、「18～64 歳」では、「収入を伴う仕事をしている」人は 22.6%である。

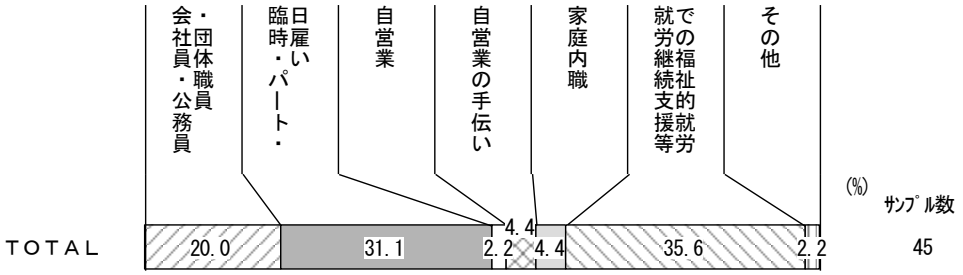


（２）仕事の形態

問 27 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 35.6%と最も多く、次いで「臨時・パート・日雇い」（31.1%）、「会社員・公務員・団体職員」（20.0%）と続いている。

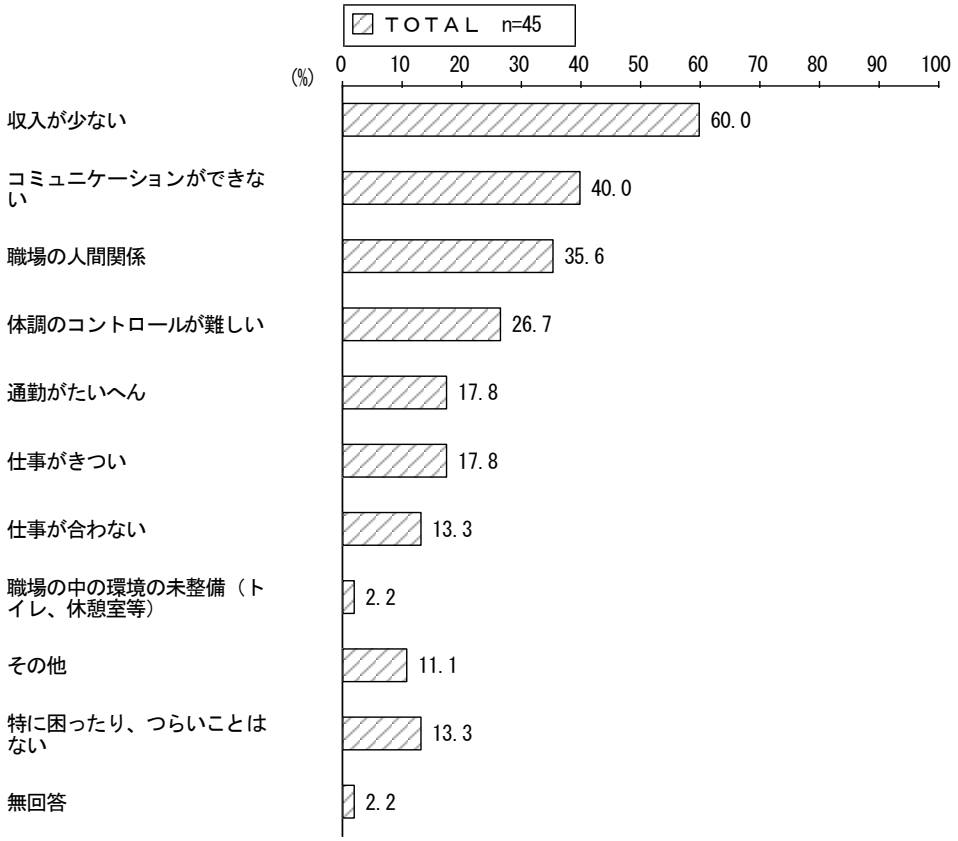


（３）仕事で困ること、つらいこと

問 28 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事とする上で困ったり、つらいこととしては、「収入が少ない」ことをあげる人が 60.0%と最も多く、次いで「コミュニケーションができない」（40.0%）、「職場の人間関係」（35.6%）と続いている。

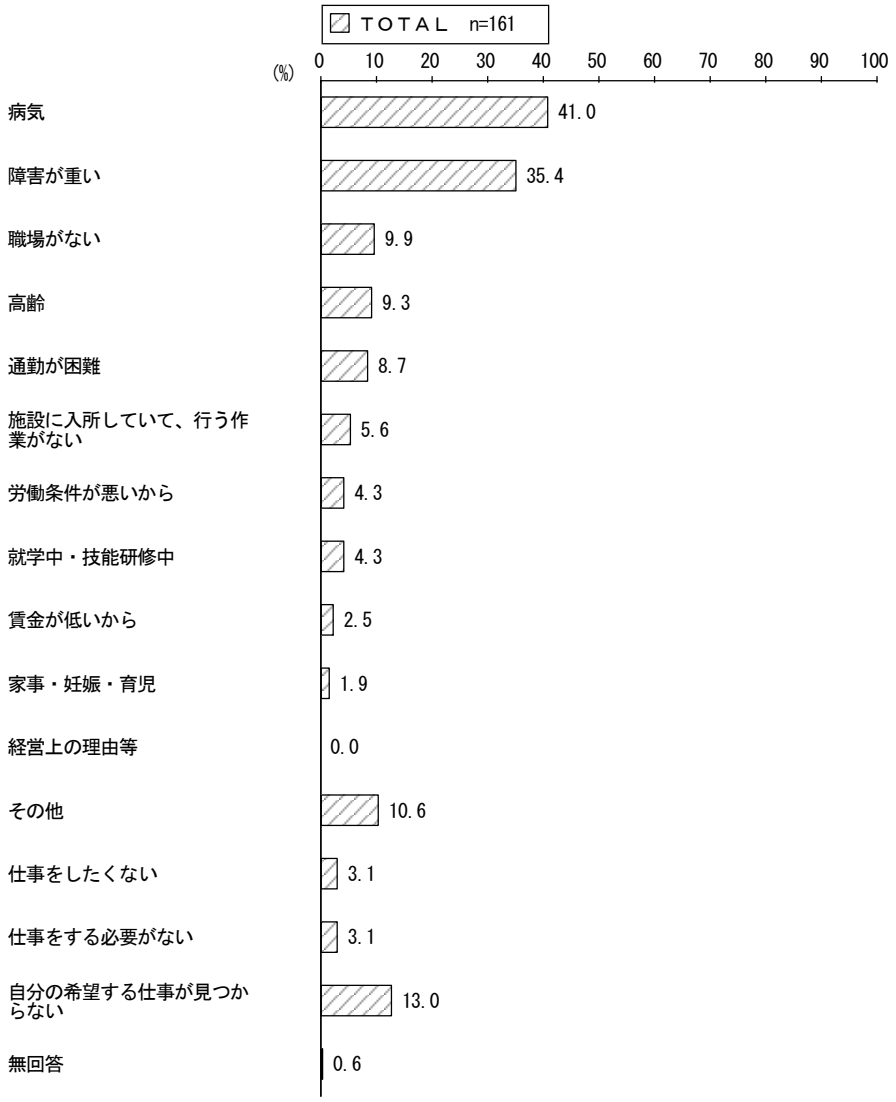


（４）仕事をしていない理由

問 29 仕事をしていない主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

仕事をしていない理由としては、「病気」が 41.0%と最も多く、次いで「障害が重い」が 35.4%で続いている。

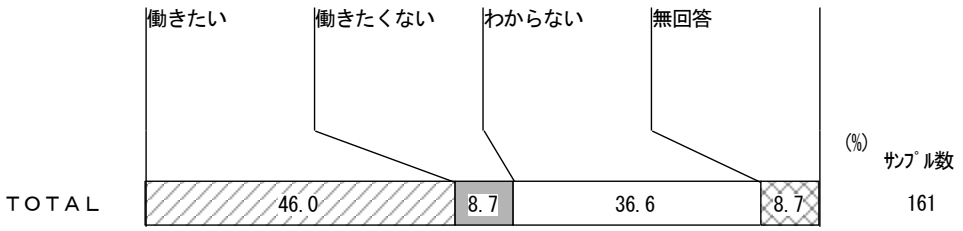


（５）就労意向

問 30 今後、自分の健康や通勤の可能性等、条件が整っていれば働きたいと思いますか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

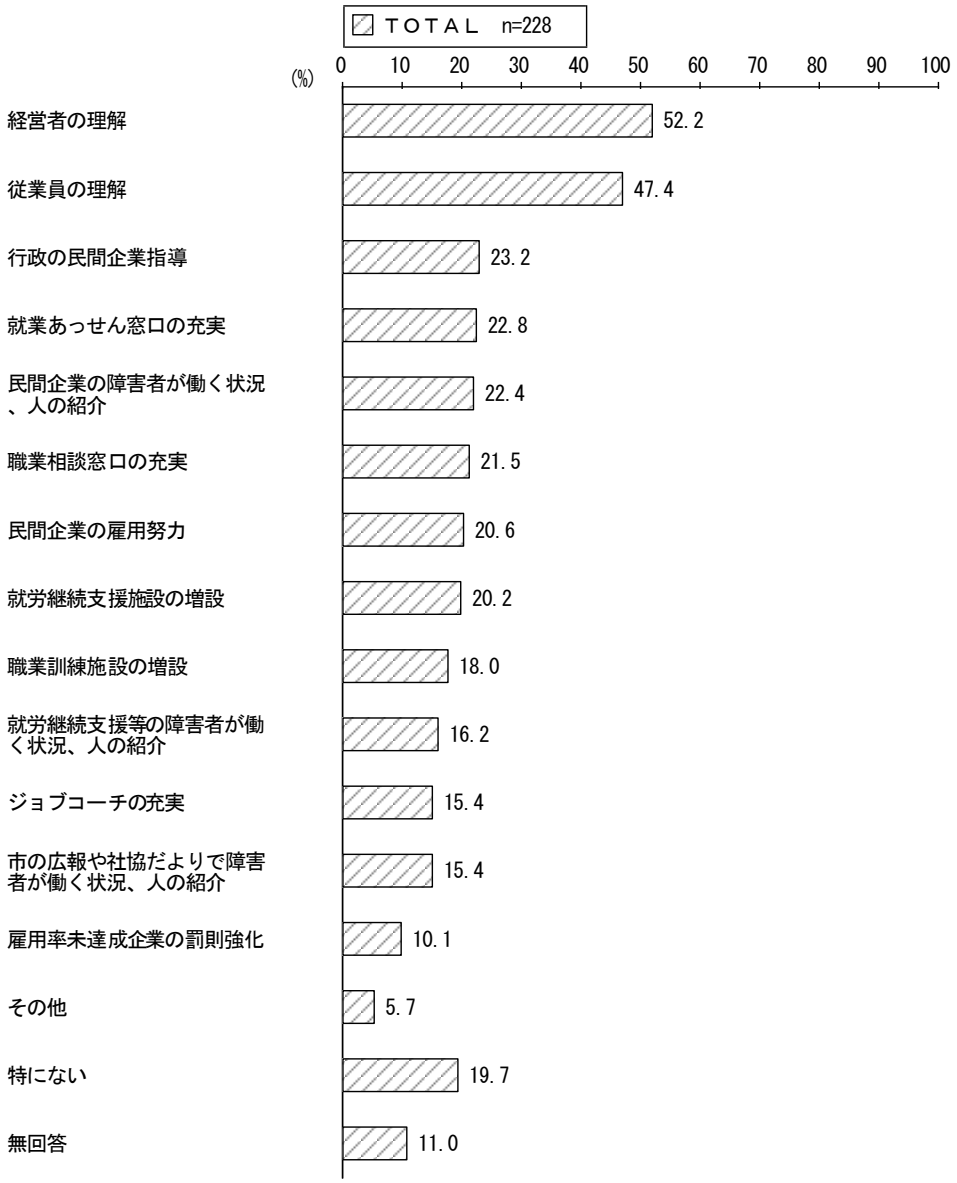
現在、収入を伴う仕事をしていない人のうちの半数近くは、条件が整えば「働きたい」（46.0%）と考えている。



（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

問 31 障害のある人の就業を促進するために、あなたはどのようなことを希望されますか。（○はいくつでも）

障害のある人の就業促進のために希望することとしては、「経営者の理解」をあげる人が 52.2%と最も多く、次いで「従業員の理解」が 47.4%で続いている。

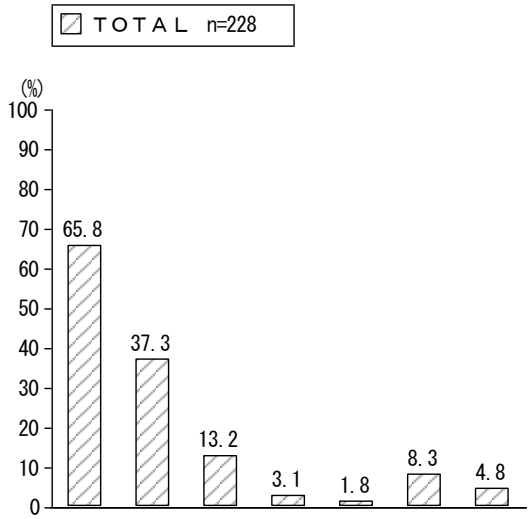


（７）生活を支える収入

問 32 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支えている収入としては、65.8%の人が「年金、障害者年金、生活保護など」をあげている。また、37.3%の人は「家族からの仕送り・援助」を受けている。

年代別にみると、「18～64 歳」で「家族から仕送り・援助」を受けている人は約４割（38.5%）である。



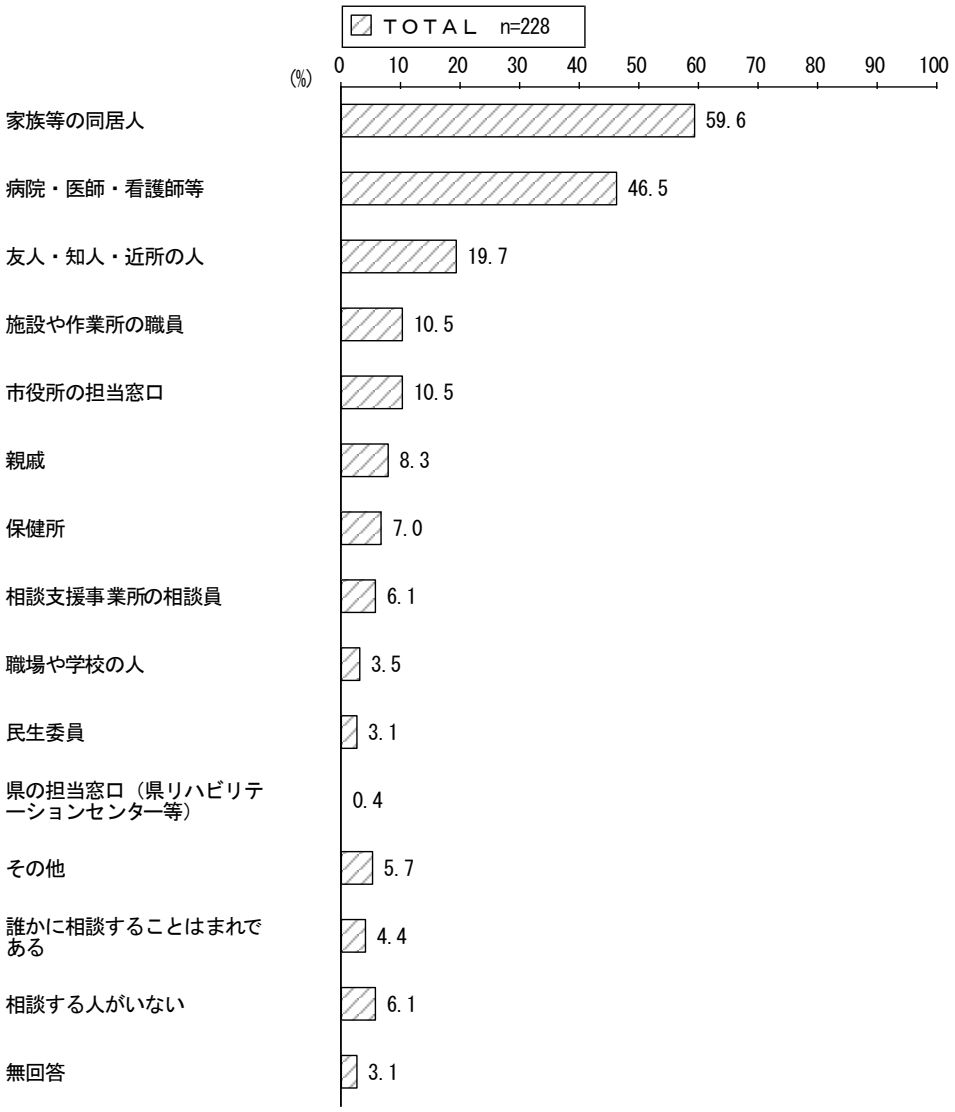
	問３ 年齢（３区分）	n	5 年金など、障害者年金、生活保護	4 家族からの仕送り・援助	1 給与・賃金	3 授産所や作業所の工賃	2 事業収入	6 その他	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	228	65.8	37.3	13.2	3.1	1.8	8.3	4.8
1	１８歳未満	7	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
2	１８～６４歳	195	65.1	38.5	15.4	3.6	1.5	9.2	4.1
3	６５歳以上	23	82.6	17.4	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7
4	無回答	3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

問 33 普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（○はいくつでも）

悩みや困ったことなどの相談先としては、「家族等の同居人」をあげる人が 59.6%と最も多く、次いで「病院・医師・看護師」が 46.5%で続いている。



（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 34 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。（自由記入）

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

【相談先】

- 市役所。専門の人がいてほしい。（30 代）
- 障害者の事をしっかりと把握している専門知識のある人に相談したい。（30 代）
- 本当はやりたい事も、どこか罪悪感があり、心の病だから、生活保護だから…と考えてしまいます。だからそういう事は市の人や周りの人にも言えなく抱えこんでしまいます。『どんなことも相談、話してください』というような、気軽に話せる人が居てほしいです。（20 代）
- 友人。気軽に利用できるなら、公共の窓口も利用したい。（20 代）
- カウンセラー（20 代）
- ハローワーク、保健所、相談支援事務所。（50 代）
- 以前に入院していた事のある病院の看護婦さんや、今通っている病院のデイケアのスタッフの人。（40 代）
- 高次脳機能障害を良く理解している人がいて、話を聞いてくれ、アドバイスして下さる方がいたら。（30 代）
- 精神以外にもたくさん持病があるので、それを理解してくださる人。精神疾患に対して差別的な目で見ないこと、プライバシーをもらさない人。（30 代）

【相談体制】

- 障害（病気）のことをよく理解している人で、相談受け付け時間の制限のない、又は、あまり待たなくていい状況で、家にいても利用できる。（50 代）
- もっと話せる場所をふやしてほしい（40 代）
- 市の相談室など（出かけられないので電話がよい）。自分の担当の人が決まっているとよい。決まっていないと何回も相談できない（毎回人が代わるのでは相談できない）。（30 代）
- メールで相談したい（返信要希望）。できれば携帯のメールだとありがたい。パソコンは親のもので、メールアドレスを持たせてもらえない。（40 代）
- 病院に相談が基本だが、遠方だったり、休みの日などは困るので、電話などで相談できるといい。（30 代）
- 専門性をもった相談員さんの質的量的充実（60 代）
- 医療機関やヘルパーさんなどにも気軽に相談できるような体制を整えて欲しいです。（50 代）
- 精神障害者のための川越市医師会などと連携して、相談支援センターにも配置して欲しい。（20 代）

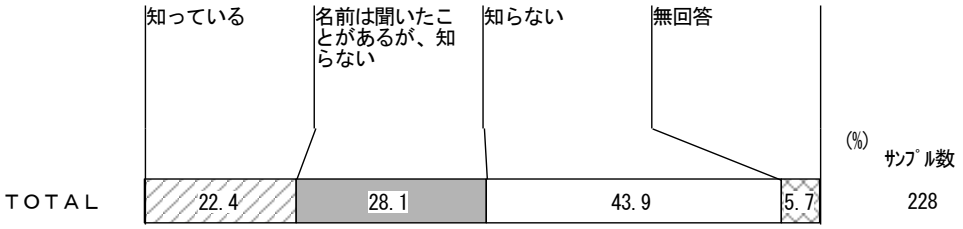
【その他】

- 顔を見て人と話したくないから相談したくない（50 代）
- 心を許せる相手にしか話したくはない。プライバシーの保護や障害への偏見をなくしてほしい。（40 代）
- 他人に相談しにくい。相談したい事もまとめられない、わからない。（20 代）
- まだ手帳を申請する前に連雀町の障害者相談支援センターに 1 回だけ相談に行きました（一般での就職を希望していた時でしたので）。今は、障害者枠でも仕事につきたいと思っているので、就業に結びつく支援センターに行ってみたいと思っています。（30 代）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

問 35 あなたは、「川越市障害者相談支援センター」を知っていますか。（○は１つ）

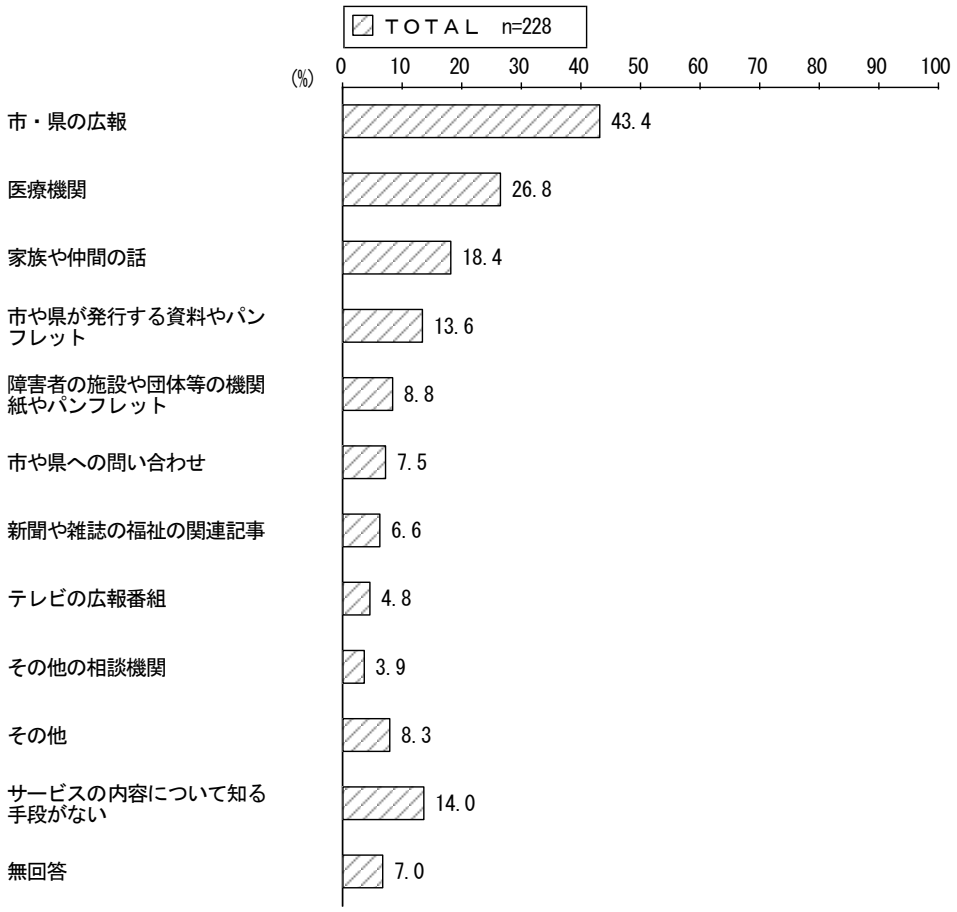
「川越市障害者相談支援センター」を「知っている」人は 22.4%である。



（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

問 36 障害のある人のための福祉サービス内容について、どのようなもので知ることが多いですか。（○はいくつでも）

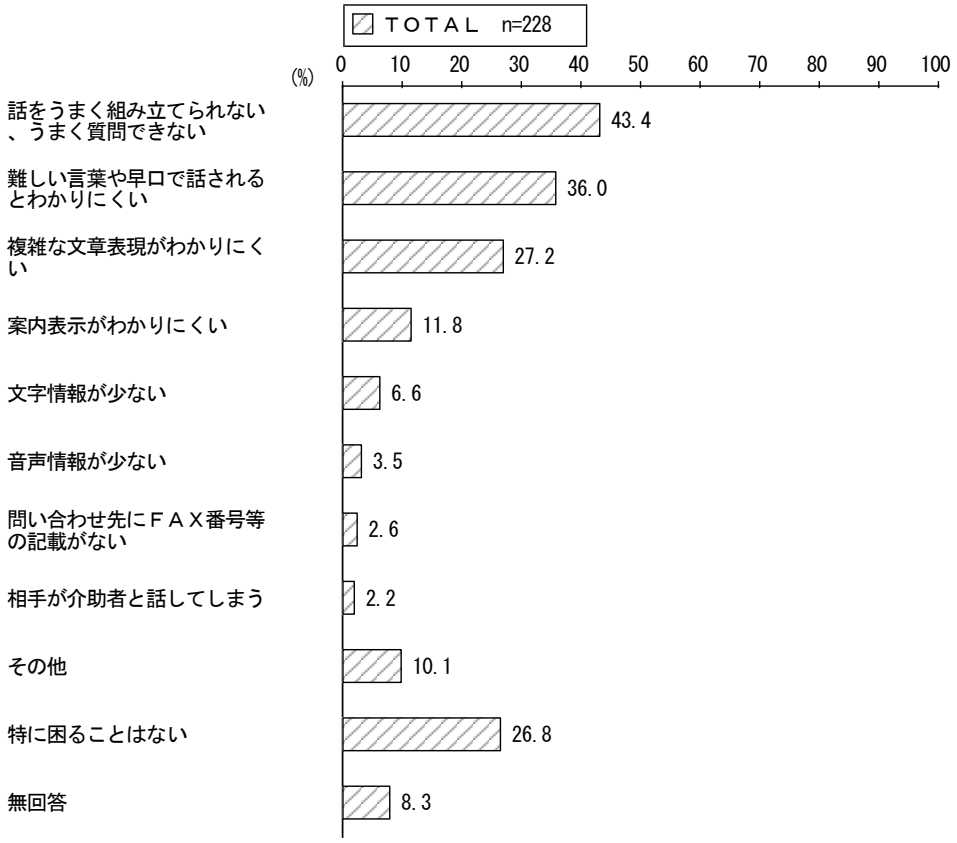
福祉サービスについては、「市・県の広報」で知ることが多いと回答した人が 43.4%と最も多く、次いで「医療機関」が 26.8%で続いている。なお、「サービスの内容について知る手段がない」と回答した人が 14.0%みられる。



（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

問 37 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。（○はいくつでも）

情報入手やコミュニケーションで困ることとしては、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 43.4%と最も多く、次いで「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（36.0%）、「複雑な文章表現がわかりにくい」（27.2%）と続いている。

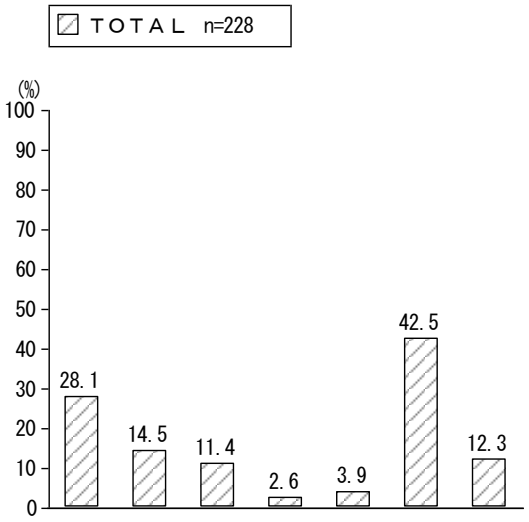


（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

問 38 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。（○はいくつでも）

「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 28.1%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 14.5%、「携帯電話を利用して、情報を入手している」人は 11.4%で、約４割の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」（42.5%）と回答している。

年代別にみると、18 歳～64 歳未満では約３割が「パソコンを利用して、情報を入手している」（30.8%）が、65 歳以上で「パソコンを利用して、情報を入手している」人はいない。



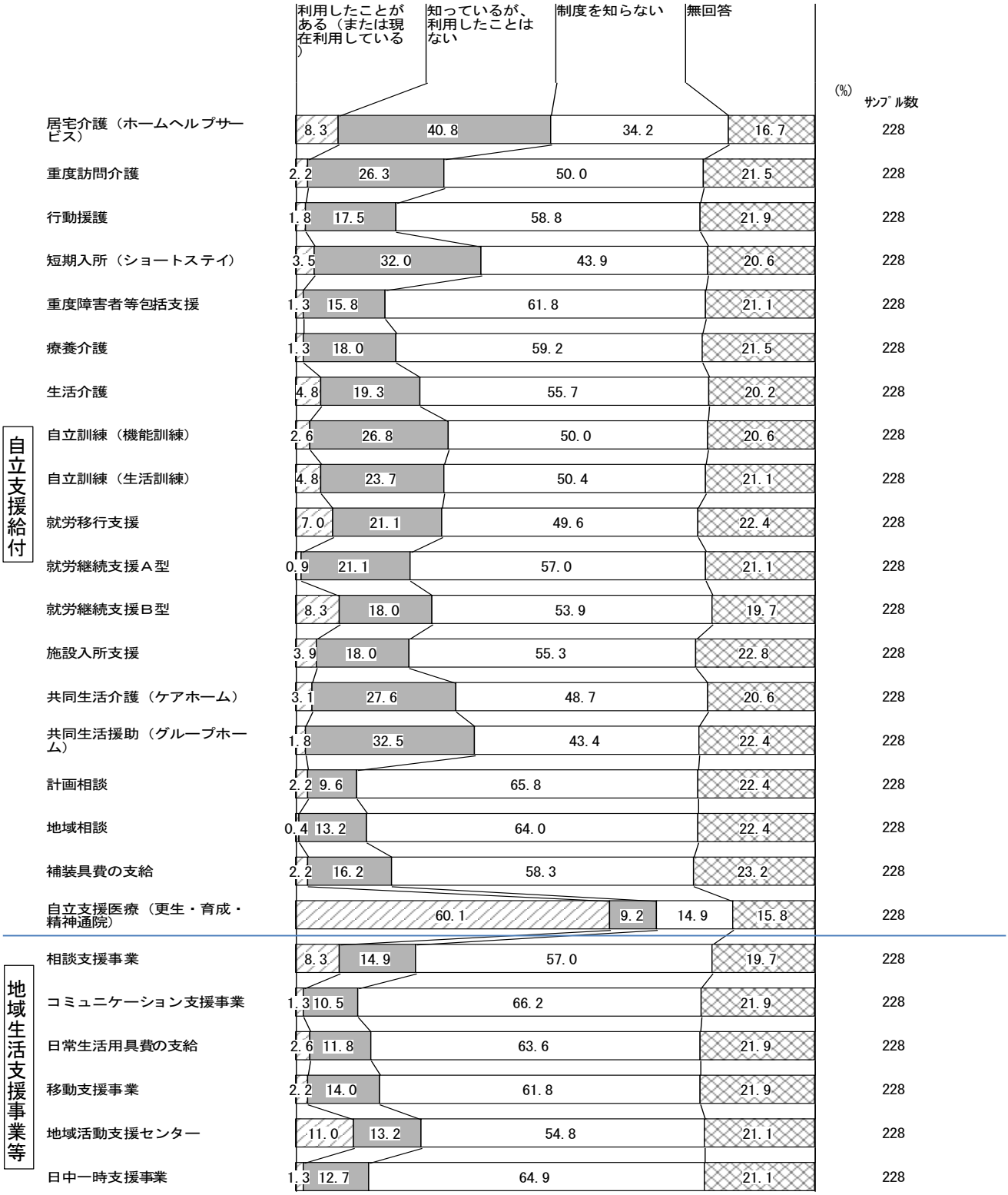
	問３ 年齢（３区分）	n	1 パソコンを利用して、情報を入手している	2 スマートフォン等を利用して、情報を入手している	3 携帯電話を利用して、情報を入手している	4 電子メールを利用して、友人などから情報を得ている	5 その他	6 パソコンなどを利用して情報を得ることはない	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	228	28.1	14.5	11.4	2.6	3.9	42.5	12.3
1	１８歳未満	7	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
2	１８～６４歳	195	30.8	16.4	12.8	3.1	3.6	41.0	9.7
3	６５歳以上	23	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	60.9	30.4
4	無回答	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 39 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

利用した経験のある人の割合が最も高いサービスは、「自立支援医療」で約６割の人が「利用したことがある（または現在利用している）」（60.1%）と回答している。

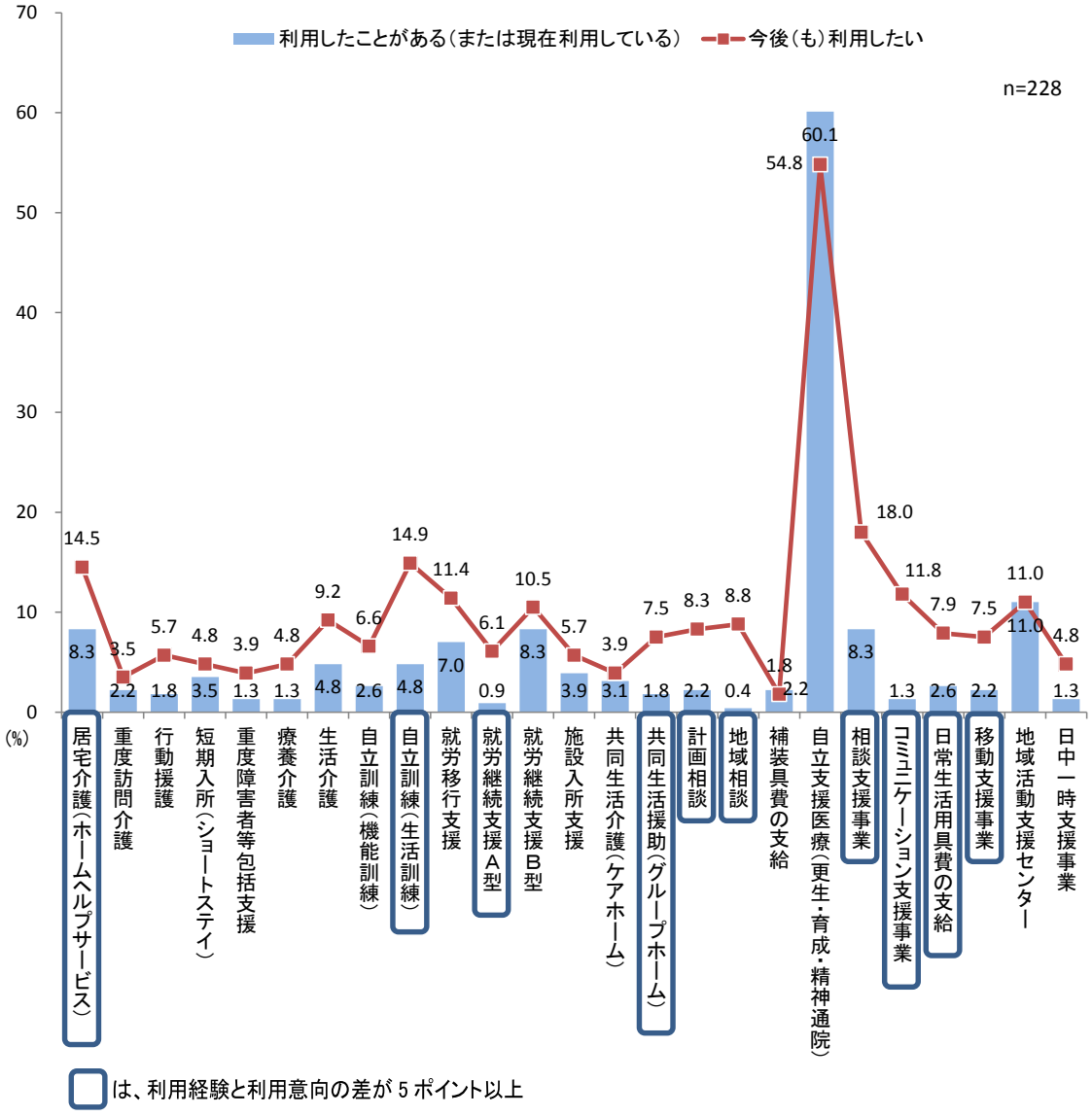


（２）福祉サービスの利用意向

問 40 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

利用したいと考えている人が最も多いサービスは「自立支援医療」（54.8%）で、次いで「相談支援事業」（18.0%）、「自立訓練（生活訓練）」（14.9%）「居宅介護（ホームヘルプサービス）」（14.5%）と続いている。

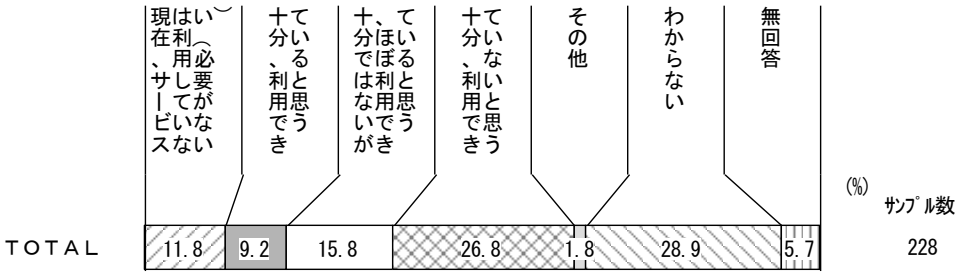
実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較してみると、両者の差が５ポイント以上あるのは、「居宅介護」（経験 8.3%、意向 14.5%）、「自立訓練（生活訓練）」（経験 4.8%、意向 14.9%）、「就労継続支援 A 型」（経験 0.9%、意向 6.1%）、「共同生活援助（グループホーム）」（経験 1.8%、意向 7.5%）、「計画相談」（経験 2.2%、意向 8.3%）、「地域相談」（経験 0.4%、意向 8.8%）、「相談支援事業」（経験 8.3%、意向 18.0%）、「コミュニケーション支援事業」（経験 1.3%、意向 11.8%）、「日常生活用具費の支給」（経験 2.6%、意向 7.9%）、「移動支援事業」（経験 2.2%、意向 7.5%）の 10 事業である。これらの事業は、実際に利用したことがある人よりも、今後利用したいと思っている人の数が特に多くなっていることから、潜在的なニーズが大きいと考えられる。



（３）サービス利用についての充足度

問 41 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人が 26.8%みられる。

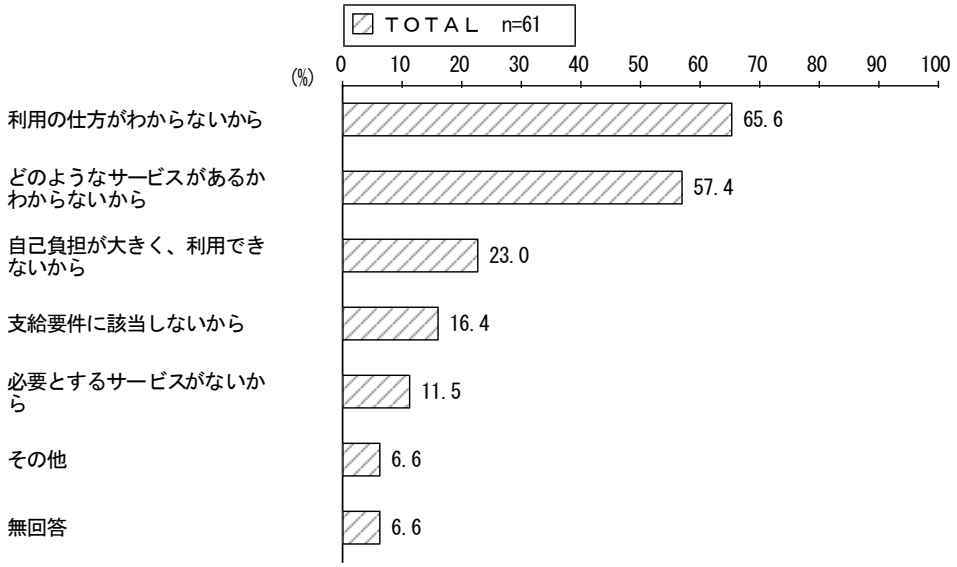


（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 42 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「利用の仕方がわからないから」（65.6%）と「どのようなサービスがあるかわからないから」（57.4%）と回答した人が特に多くなっており、情報不足により利用が進んでいない状況がうかがえる。



（５）必要とするサービス

問 43 必要とするサービスとはどのようなものですか。

［「必要とするサービスがないから」と回答した方におききします］

「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

- 食事の宅配。せめて１～２食。（50 代）
- ＪＯＢトレーニング（障害者向けの訓練学校）（40 代）
- 外出する際、付き添って自動車で送迎してくれる人がほしい。（30 代）

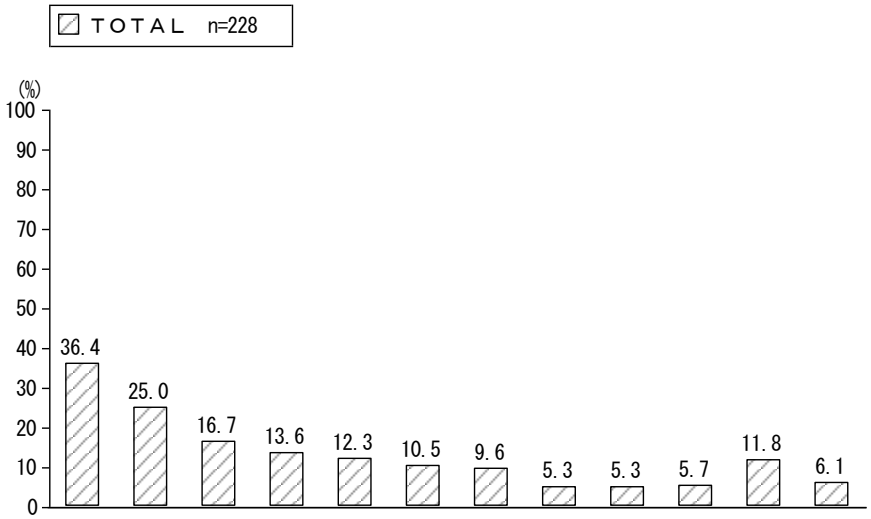
10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

問 44 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後、希望する日中の過ごし方としては、「自宅でのんびり過ごしたい」と考えている人が 36.4%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」（25.0%）、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」（16.7%）と続いている。

現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」人の半数は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」（50.0%）と考えているが、「一般企業などで働きたい」と回答した人が 22.2%、「身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい」と回答した人が 13.9%みられる。



	問２２ 日中の過ごし方（複数回答）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	9 学校に通いたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	TOTAL	228	36.4	25.0	16.7	13.6	12.3	10.5	9.6	5.3	5.3	5.7	11.8	6.1
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	8	12.5	50.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0
2	福祉の施設（サービス）に通っている	32	37.5	37.5	34.4	21.9	28.1	18.8	15.6	3.1	9.4	3.1	0.0	6.3
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	26	19.2	11.5	19.2	15.4	7.7	7.7	30.8	19.2	7.7	3.8	15.4	3.8
4	働いている	32	25.0	37.5	28.1	21.9	12.5	21.9	9.4	6.3	3.1	6.3	15.6	6.3
5	求職中である	16	31.3	81.3	18.8	25.0	31.3	18.8	6.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0
6	自宅にいることが多い	108	50.0	22.2	13.0	13.9	10.2	9.3	6.5	0.9	4.6	5.6	10.2	4.6
7	その他	23	30.4	13.0	8.7	8.7	17.4	8.7	4.3	8.7	0.0	30.4	13.0	4.3
8	無回答	11	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	27.3	36.4

（２）希望する暮らし方

問 45 将来（今後）、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来、希望する暮らし方としては、約半数の人が「現在と同じように暮らしたい」（49.6%）と回答している。

居住場所別にみると、現在「自宅」で暮らしている 194 人のうち 3 人（1.5%）は「共同生活する住居（グループホーム等）で暮らしたい」と回答している。

同居者別にみると、現在「自分一人だけで暮らしている」人のうち、9.8%は「誰かと一緒に暮らしたい」と考えていることがわかる。

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	共同生活する住居(グループホーム等)で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	228	49.6%	12.7%	7.0%	1.8%	2.6%	6.6%	14.0%	5.7%
自宅	194	52.6%	12.4%	6.7%	1.5%	1.0%	7.2%	13.4%	5.2%
グループホーム	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－
ケアホーム	2	－	50.0%	－	－	－	－	50.0%	－
病院に入院している	22	22.7%	13.6%	9.1%	4.5%	18.2%	4.5%	13.6%	13.6%
施設に入所している	4	50.0%	－	25.0%	－	－	－	25.0%	－
その他	4	50.0%	25.0%	－	－	－	－	25.0%	－
無回答	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－
（別掲）同居者別（自分一人だけで暮らしている人のみ表示）									
自分一人だけで暮らしている	51	43.1%	17.6%	9.8%	2.0%	2.0%	5.9%	15.7%	3.9%

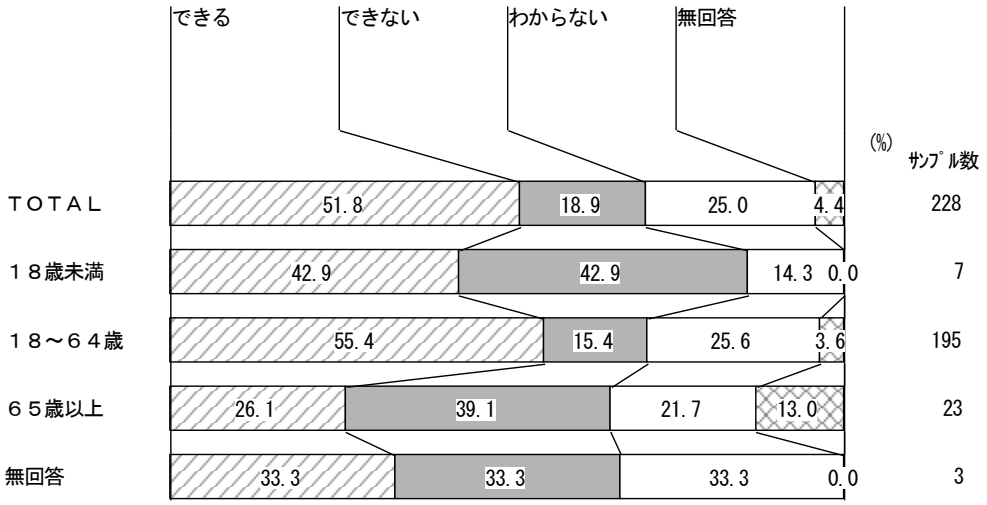
11 災害対策について

（１）災害時の避難について

問 46 火事や地震等の災害時に、あなたは一人で避難できますか。（○は１つ）

約２割の人は、災害時に「一人で避難できない」（18.9%）と考えている。

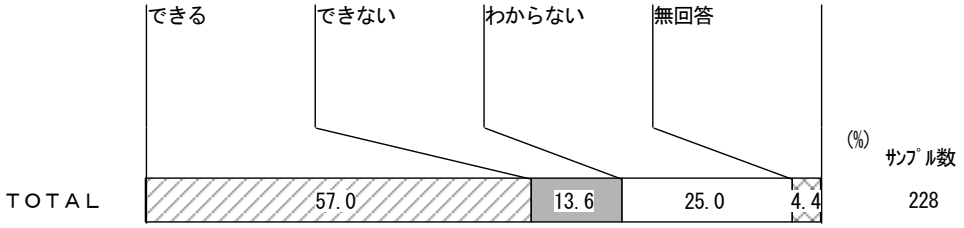
年代別にみると、「18～64 歳」では 55.4%の人が一人で避難「できる」と回答している。



（２）災害時の周囲への連絡・通報について

問 47 火事等の非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（○は１つ）

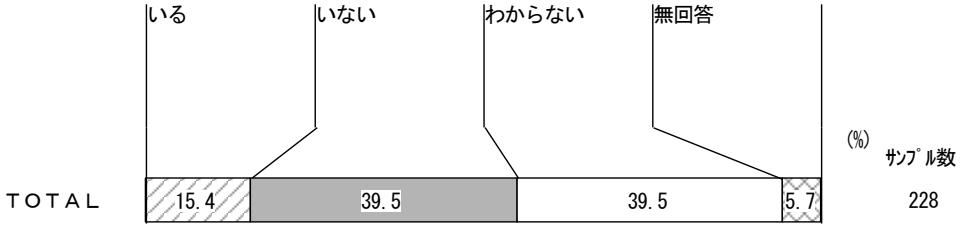
57.0%の人は、非常時に周囲に知らせることが「できる」と考えているが、13.6%の人は知らせることが「できない」と考えている。



（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

問 48 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。（○は１つ）

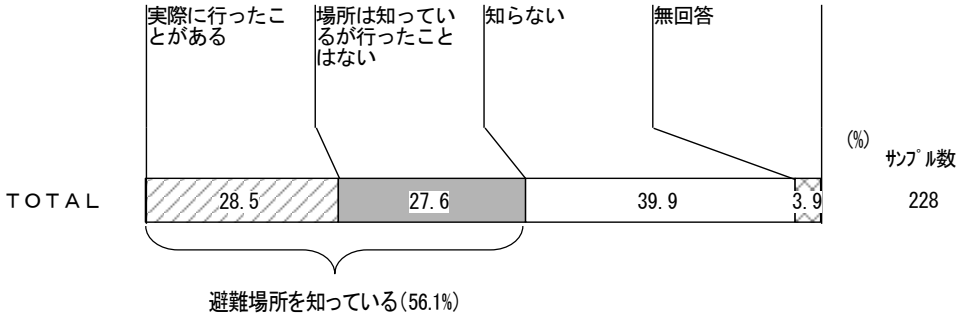
近所に助けてくれる人が「いる」人は 15.4%で、約４割の人は近所に助けてくれる人が「いない」（39.5%）と回答している。



（４）避難場所の認知状況

問 49 お住まいの周辺の災害時の避難場所を知っていますか。（○は１つ）

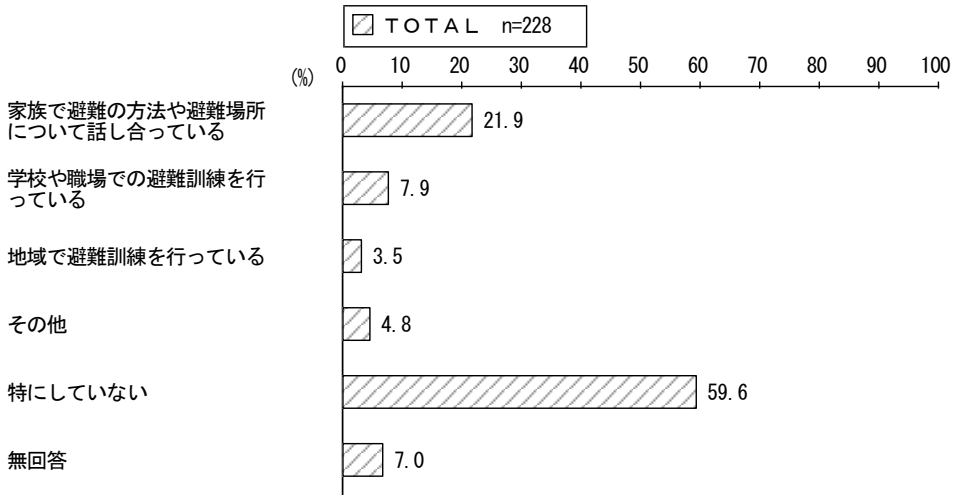
６割弱の人は災害時の避難場所を知っているが、「実際に行ったことがある」人は約３割（28.5%）である。



（５）避難に関する準備状況

問 50 災害時の避難について、以下のようなことをしていますか。（○はいくつでも）

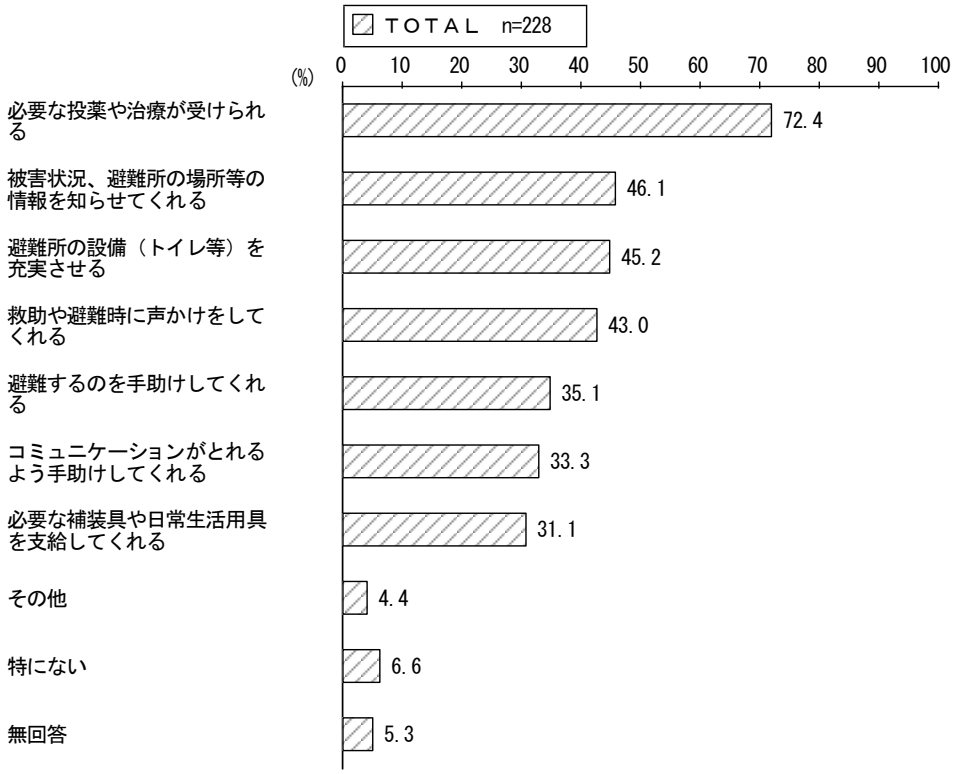
「家族で避難の方法や避難場所について話し合っている」人は 21.9%で、約６割の人は避難の準備を「特にしていない」（59.6%）状況である。



（６）災害時に必要とする支援・援助

問 51 災害時にどのような支援・援助があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

災害時にあるとよいと思う支援・援助としては、「必要な投薬や治療が受けられる」ことをあげる人が 72.4%と最も多く、次いで「被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる」（46.1%）、「避難所の設備（トイレ等）を充実させる」（45.2%）と続いている。

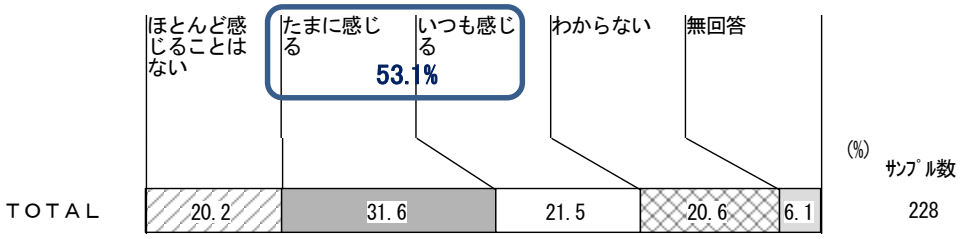


12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 52 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

差別や疎外感を「たまに感じる」人が 31.6%、「いつも感じる」人が 21.5%となっており、半数以上の人は障害があることによる何らかの差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 53 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

【言葉や視線】

- 病院に行っている事を人に言ったら変な顔をされた。（30 代）
- 誰かと話す時冷たく感じる（40 代）
- 他人の視線（80 歳以上）
- 挨拶しても返事がない。仕事が分からないことに対して人に聞いて解決するが、何度も聞くなと言われる。よく、失敗するので何かあるとまたアイツだと誤解される。（40 代）
- 大きい声で私に聞こえるように「おかしい、おかしい」と言っていた時に疎外感を感じました。（40 代）
- いつも不安や不自由を感じる。必要な手助けを受けられず、落ちこむ。困っていることを理解してもらえない。死ぬ気でがんばっていることを「あたりまえ」と捉えられる。（10 代）
- 心ない言葉を浴びせられる。人として尊重されてないと感じる態度で接される。（30 代）

【就労・職場】

- 以前、病気のことをかくして一般企業で働いてみたことがありますが、言動がおかしくて笑われたり、みんなと仲よくできませんでした。（40 代）
- 家族（妻と子供を含む）の中で１人だけである。求職中に、会社面接を受ける際に、実は障害（精神）を持っている話をすると相手の様子に変化があり、不採用になるケースがある。（40 代）
- 身体障害者と比べて精神障害者は雇用されない（20 代）
- 会社で月に１回、順番で話す時、「若い時、脳腫瘍になり、手術中前頭葉の傷で障害者になってしまいましたが、仕事、頑張ります」と全員の前で、知っておいて欲しいので話したのに、上司に後で呼ばれ、「あんな事を話して、皆に同情してもらいたいのか！」と、叱られたようです。（30 代）
- 精神疾患を開示しないで面接を受けると、仕事に就いたあとに精神通院がばれて退職をせまられたり、一方的にクビにされたりした。（30 代）

・ 会社に勤めた時に人が私に聞こえるように障害者の話をする。（60 代）

【交流の機会】

・ 何度合っても人の顔が覚えられない。まわりが健常者ばかりなのでコミュニケーションがとりにくい。（20 代）
・ 話についていけない。（60 代）
・ 近所づきあいができない（30 代）
・ 病名を聞かれて答えると疎外感を感じます。病気を持っていて、社会生活が送れていないこと自体が、良好な人間関係の対象外なのです。（50 代）
・ 意志のそつうがとれないこと。コミュニケーションがとれない。（60 代）
・ 話がうまくできないので、一人になりそう。（30 代）
・ 自分の周りから、人が離れていくのを感じたことがある。（30 代）

【障害に対する理解不足や誤解】

・ インターネット上の生活保護、精神疾患への誹謗、恋人からの精神疾患の無理解。（30 代）
・ 相手方が障害を理解できずに話をすすめるなど（30 代）
・ 体調が崩れやすく症状の変化がある時に他者の目が気になる事がある。（30 代）
・ 病名を話す前と後では、はっきりと差別を感じる。（50 代）
・ 私の場合、“何も起こらなければ”普通に見られるので言わないとわからない。苦痛に感じる事や、できない事も「どこも悪くないように見えるし、皆がやっているからやらないといけない」とたまに言われたり、病気の事を言ってしまうと、人によってはどう接していいかわからないと変に気を使ったり、何でも病気のせいにされたりする。（50 代）
・ 周囲（家族も含めて）になかなか理解されず、ガマンしてしまうとき。（30 代）
・ 相手が無理解で会話が通じない時。（70 代）
・ 他人に症状や悩みを話しても、あまり理解してもらえない。（40 代）

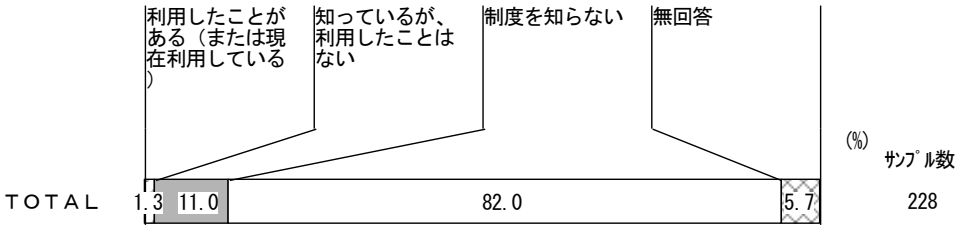
【その他】

・ 障害以外の病気になって、一般の病院に行った時に病院側に障害があることを伝えた後の先方の態度等。（40 代）
・ 精神なので、見えません。周りは知りません。ふとした一言が差別だったりするのです。（30 代）
・ 自分の存在を認めてくれない。病人扱いされた時。（40 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 54 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

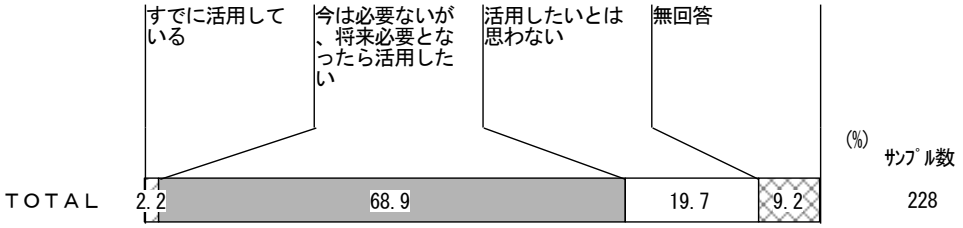
「あんしんサポートねっと」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 3 人（1.3%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 55 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

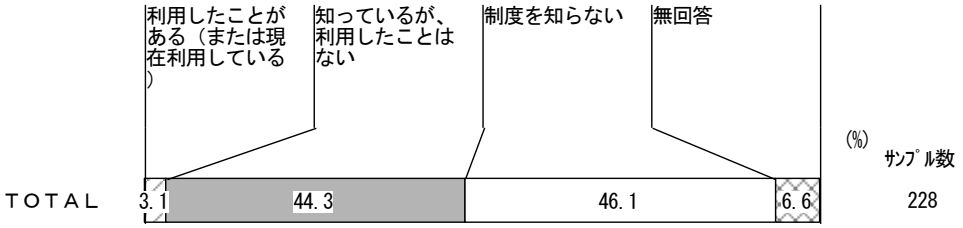
「あんしんサポートねっと」については、約７割の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」（68.9%）と回答している。



（５）成年後見制度の認知状況

問 56 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

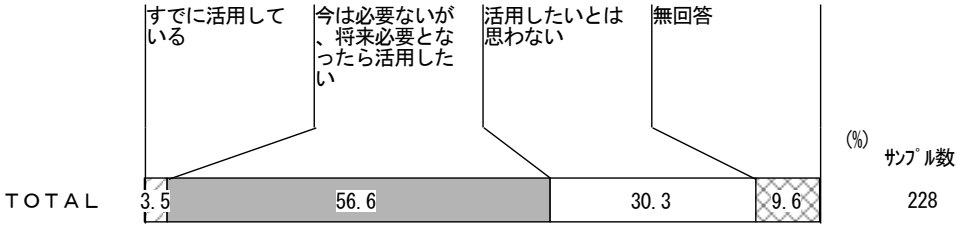
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は７人（3.1%）である。



（６）成年後見制度の利用意向

問 57 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、56.6%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と回答しており、「すでに活用している」（3.5%）を合わせると、約６割の人の制度の利用意向があることがわかる。

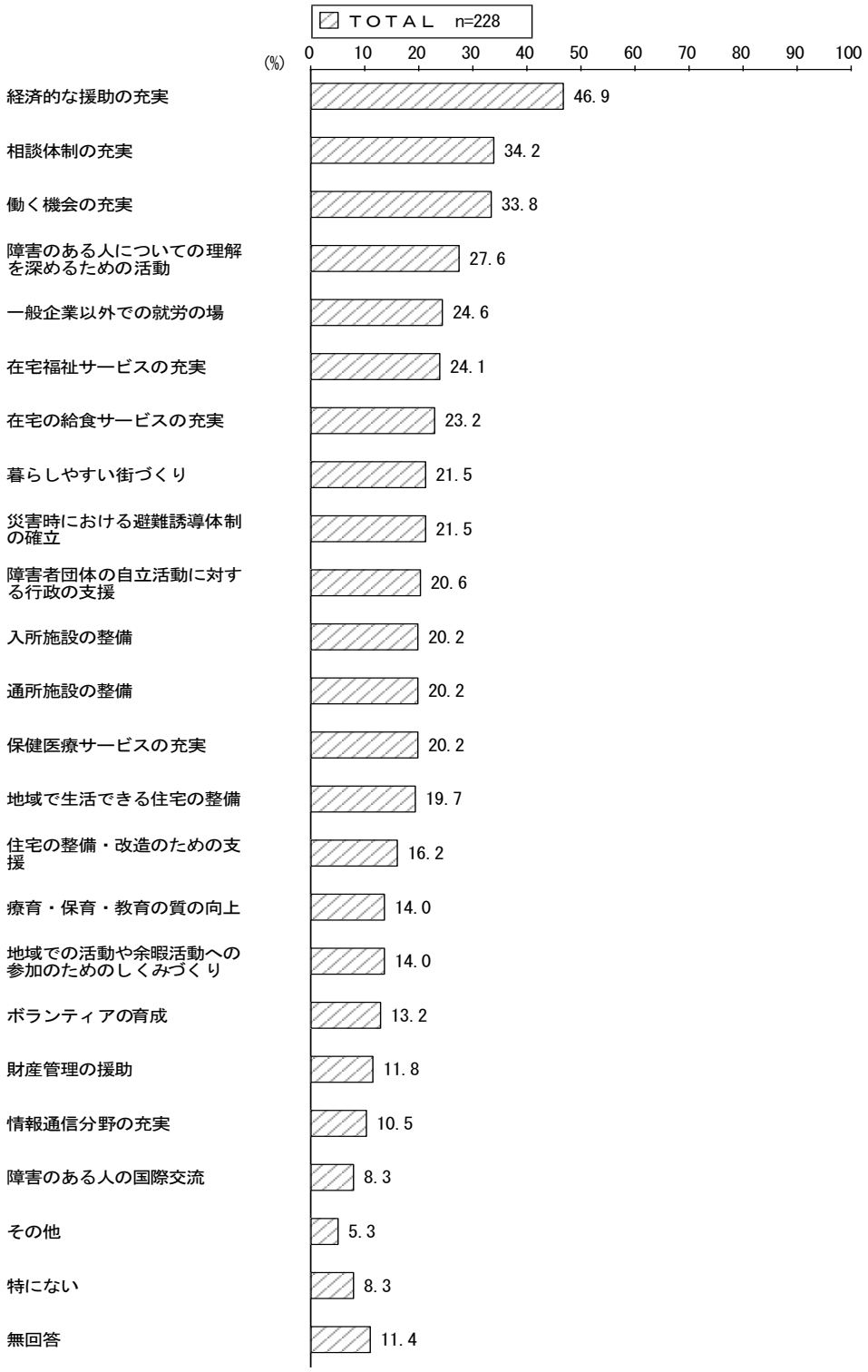


13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

問 58 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

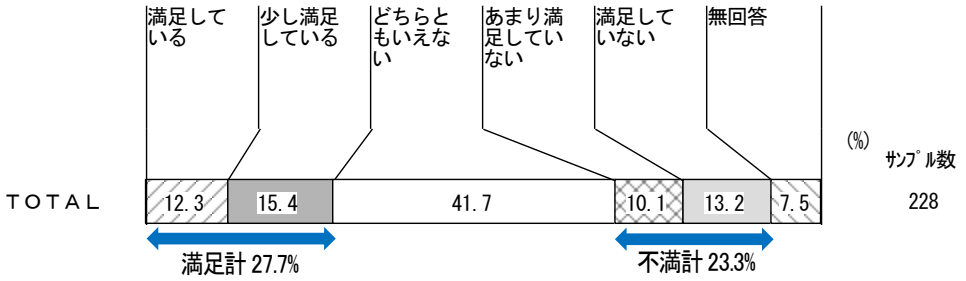
市が充実させていくべきこととしては、「経済的な援助の充実」をあげる人が 46.9%と最も多く、次いで「相談体制の充実」（34.2%）、「働く機会の充実」（33.8%）と続いている。



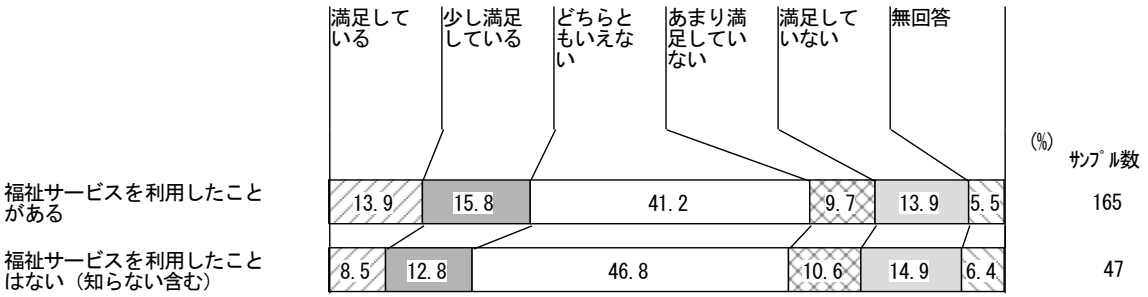
（２）福祉サービス全般の満足度

問 59 川越市の福祉サービス全般について、満足していますか。（○は１つ）

福祉サービス全般について、「満足している」人は 12.3%、「少し満足している」人は 15.4%で、合わせると約３割の人は概ね満足していることがわかる。一方、「満足していない」は 13.2%、「あまり満足していない」は 10.1%で、満足していない人が２割以上いることがわかる。



福祉サービス（自立支援給付・地域生活支援事業等）の利用有無別にみると、実際に福祉サービスを利用したことがある人は、利用したことがない人に比べて、やや満足度が高い。



（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【相談、手続き、情報提供に関すること】

- 福祉サービスの連絡所の電話案内が必要です。どこに行くのかわからない。（60 代）
- ８月に出産し、育児中です。自分から助けを求めることが苦手なのでなかなか電話をかけたりできません。障害のある人が安心して育児できるサポートがほしいです。（30 代）
- 本当につらい時、体調が安定しない時、人に話をできるだけでもずいぶん楽になります。相談業務の拡充をお願いいたします。（30 代）
- アンケートと一緒に、用語の解説や制度周知のための資料が同封されていれば良いと思います。（40 代）

- 自分がその立場になってみないとわからないかもしれない。でも困っている人達のために福祉課がある。わからないと投げるのではなく、こんな方法があるとかこんなサービスがあるとか、わかりやすく説明してほしい。（60 代）
- 市の広報では、わかりにくいので、各々の新しいサービス開始時や、特別に、月に一度、家庭に障害者福祉課から、障害者手帳所有者に連絡が欲しい。（40 代）
- 自立支援医療や精神保健手帳、障害年金などの手続きがとても複雑で大変です。しかも 1 度出向くだけでは済まず、何度も出向かわなければなりません。手続き、更新の負担をもう少し考えてほしい。（30 代）
- できたばかりの川越市障害者相談支援センターでお願いしたところ、手順の確認やポイントアドバイス、宿題など的確に、またどこと連携すべきかも、対応については信頼感がもてました。（60 代）
- いろいろ市でも制度上はあるのもこのアンケートで知ったが、具体的にどこへ相談すればいいのかわからない。市の広報では、その時点での福祉の情報は得られるが、根本的な制度、例えば「あんしんサポートねっと」のことはこのアンケートではじめて知ったので、今後何かあった時には利用したい。（60 代）

【各種サービスに関すること】

- 環境の変化が激しいと不安になる人が多いため、ホームヘルプサービスの充実を望みます。（30 代）
- 入所施設にいるが、近くのコンビニに行くことも、発作の関係もあり一人では行けません。入所にいてもヘルパーさんなどを使える制度を作ってほしいです。（30 代）
- 通院時にタクシーなどで出費してしまう時もあるので、2 級でもタクシー券ぐらいはほしい。（30 代）
- 施設やサービスの利用のしかたがわからない。（50 代）
- 精神障害者が増加している中で緊急状態の場合に「ここへ電話すれば応対してくれる、病院へ運んでくれる」という何かが欲しいと感じています。（40 代）
- 施設入所すると移動支援事業が利用できない。通院や買物等に利用できるようにしてほしい。（30 代）
- 入院していると外泊や外出で移動が多い。ガソリン券やタクシー券を受けられるようにしてほしい。（30 代）
- デイケアを、ジュニア（10～30 代）と中高年（40 代～）に分けていただきたい。（40 代）
- 総合的支援が必要。バラバラにいろいろな支援を探すのはとても大変。すぐに転勤してしまうコーディネーターではなく、長く信頼できる支援者が（又は団体）必要だと思います。（40 代）

【施設の整備などに関すること】

- グループホームなど、もっと増設して欲しい。（50 代）
- 「暮らしの場」を増やして下さい。入所施設やケアホームを市や県・国の責任で設置して下さい。（30 代）
- グループホームのような、親や兄弟などが一緒に暮らせない時の施設をたくさん作って欲しい。（20 代）
- 体験のため入所施設のショートステイができるようにしてほしい。（30 代）
- 認知症で、新しい記憶ができません。しかし、今までの記憶で対応はできます。まわりの方は、1 つのことができないと、全てができない人間だと、思われるようです。まだまだ、できることは沢山あるので、それを減らさないために、元気でいられる専門的な施設をつくってほしいです。（70 代）

【経済的な援助に関すること】

- 精神障害をかかえている人は、車の運転が難しい人も多いので、タクシーの割引が 1 割でなくもう少し割引してもらえると助かる。また、精神障害者も電車の割引があると経済的にも助かる。（40 代）
- 医療費の補助に関しては精神科だけではなく、他の科目もしてほしいです。（30 代）
- 医療費の負担が大きく、カウンセリング費など補助が必要です。よろしくお願いします。回復する為に必要な医療の補助をいただければうれしいです。（30 代）

- 生活保護の支給額を、よりよい生活をするために増やしてほしい。（40 代）
- 時々精神科でカウンセリング療法を行っている所がある。医師との話し合いと投薬以外にいろいろな療法があるがその場合実費で高額なのでなかなか通えない。そのような療法を受けて病気が改善できれば自立につながる。そのような療法も保険治療にして気軽に受けられるようにしてほしい。（50 代）

【就労に関すること】

- 一般企業でも働きたいが、てんかん発作が多くあり、今はまだ理解が浅く働くことができません。今後、制度が充実して、会社の中でも見守ってくれる人が近くにいるなど、希望が叶えられることを願っています。（30 代）
- 今後の就労に向けて、職場見学・職場体験をする機会を多くもっていただきたいです。（10 代）
- 会社は今まで正社員として扱いをしてきたが、障害者になると正社員から、契約社員として制度を変更した。そのことに納得がいかない。こういうことは許されることなのか。（40 代）
- 国からの障害者に対する雇用対策はあるが、県や市町村レベルでの雇用対策を充実させてほしい。例えば、市町村から地元企業へ障害者の雇用促進を働きかけるとか。（40 代）
- 現在は、パート社員として、午前中のみ仕事をしています。1 日勤務できるように努力はしていきますが、今は、午前中のみしか勤務できない状況です。給料と障害者年金だけでは医療費で全部お金が消えていってしまうため、貯金したくてもなかなかできません。（30 代）
- 職業訓練を受けています。我々の様な人たちの就労支援をもっと充実してほしいです。例えば、私たちの要望や希望を受け入れ、就労が出来るシテスム作り。（30 代）
- 就労支援（移行、A 型、B 型）関連施設についてなかなか個人で見学に行く機会がないので、定期的に公開という形で見学できるようになると行きやすくなり、また利用しやすくなると思う。（30 代）
- 自立した生活を送るために、就労をめざしています。職業訓練に行っています。障害があっても充分仕事をする意欲のある者に対しては働く場を与えてほしいと思っています。（30 代）
- 障害者が自立して生きて行くには、障害年金だけではとても足りません。障害者でも安心して働ける職場を拡充して欲しいと思います。（40 代）

【障害に対する理解などに関すること】

- 精神障害はまわりの人にわかりにくいので理解されにくい。ばかにされたり、利用されたり、仲間はずれにされたり、何度か経験したので、人とのコミュニケーションをとることがこわくて無理。今まで一度も相談をしたことがない。誰かに訪ねてもらったこともない。福祉サービスもまったく知らなかった。（20 代）
- パッと見だけでは障害がわからず差別や偏見又は嘲笑の対象となり大変辛い人生を送っています。（20 代）
- 同じ病名でも、見え方、つらさには違いがあります。また、できることも一人一人同じではありません。病識をもっていただければ、わかります。どうぞ、正しい病識を持ってください。（50 代）
- 自立支援の制度を利用しながら会社で働いていた。少したって障害者だとわかって差別を受けた。（60 代）
- 障害者を理解するのは難しいですが、わかってくれる方が増えれば、心強いと思います。（30 代）
- てんかんの人が事故を起こしたとき、今まできちんとしてきた人とは別に考えてほしかった（一緒にしてほしくなかった）。くやしかった。（50 代）
- 障害はその障害で苦しむことより理解・支援されないことで苦しむことの方がはるかに大きい。（10 代）

【将来の不安などに関すること】

- 皆と仲良くすること、コミュニケーションをとるのが苦手なため、親亡き後のことがとても心配です。（40 代）
- 今は親がいるけれど親が死亡したら 1 人暮らしになったら心配。（40 代）

【余暇活動に関すること】

・「生活保護」「心の病」の二つを抱える人でも、好きなこと（ギャンブルは含みません）ができるような環境が欲しいです。「心の病」を抱える人にとって現実はとても厳しいものです。（20 代）
・ 精神障害者同士で、話をしたい。卓球やマージャン等をしたりして楽しみたい。（60 代）

【その他】

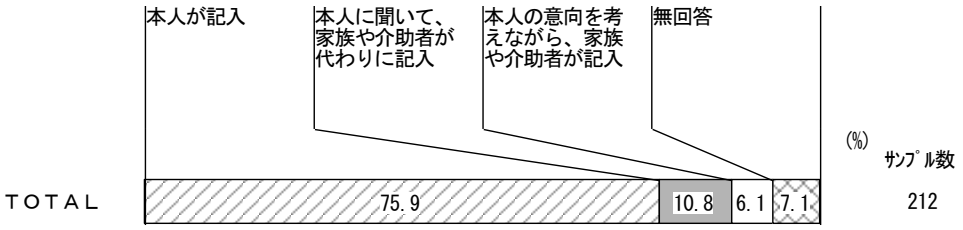
・ 障害に負い目を感じ、ひとり苦しみを抱え込んでしまう人たちの声を引き出せる福祉。ひいてはその苦しみを解消できる社会の実現を希望します。（20 代）
・ 外で発作が起き、倒れた時は周りの人々が助けてくれて、いつも感謝しています。（40 代）
・ 障がい者、支える家族をバックアップする体制を、色々な自治体から良い所を学んで欲しい。（20 代）
・ 精神障害を含めて、医療の質の低下により、状態が悪化するケースが多いので、障害者、健常者等の話や内容を分け隔てなく理解できる人間を増やして欲しい。（20 代）
・ これは私と家族の夢ですが、障害者のための家があればとか、住宅があり、皆がわかり合える地区があり、住めればと思っています。（30 代）
・ かなりの精神疾患を抱えた人、家族、子供が地域の中に多数存在するのにもかかわらず潜在化している様に思う。ほとんど隠れて暮らしているもしくは家族が隠しているようにさえ思う。（50 代）
・ 父と生活保護のため同居をしているがＤＶによる支配がすごく、この１ヶ月は、病院以外、外出していない。警察を呼んだこともある。正直数日前まで自殺を考えていた。何か助けてくれる制度があれば嬉しい。（30 代）
・ 非常にデリケートな個人情報に関わることについての窓口であるにもかかわらず、本人確認もせずに全くの他人へ相手が違うことにも気づかずに、様々な事を他人へ話を進めてしまったことに怒りを覚えた。（10 代）
・ シャトルバスが、細かく路線整備され、運行回数も増えると外出活動が充実すると思う。（10 代）
・ ケースワーカーがきついことを言う。精神病を理解していない。（50 代）
・ 精神障害者の私と、足が悪い母の２人で力を合わせて生活しております。これも、２人の年金と川越市の福祉サービスのお陰だと思っております。（50 代）
・ 障害者のサービスは、各自治体によって異なるのは、何故なのか。政府で、障害者へ対する法整備が必要と思います。（40 代）
・ 本人は援助を受けることは、いやなようです。家族としては、お願いしたいと思いますが、本人はどうしても話を受けてくれません。（70 代）
・ 中核市である川越市でありながら、独自の「療育支援センター」がない。診断を受けても、今後学校・地域社会と共通理解を得ながら一社会人として自立していくかという指導・支援が全くない。（10 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

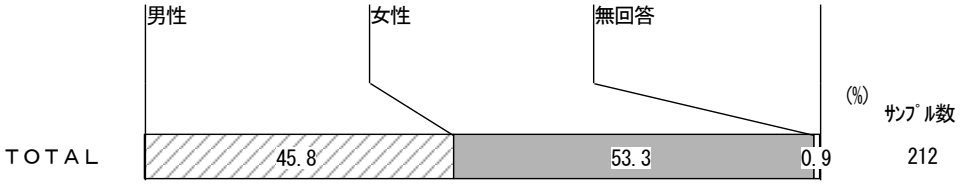
「本人が記入」が 75.9%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 10.8%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」は 6.1%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

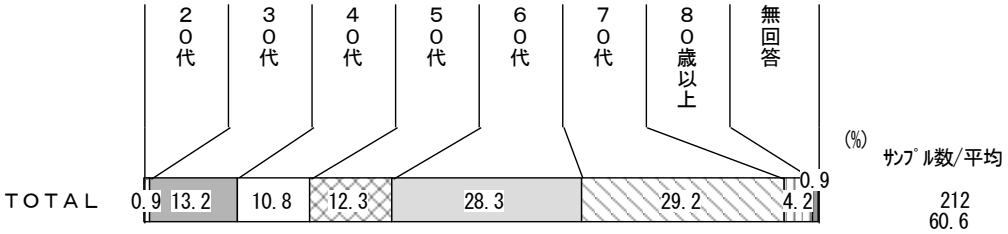
男性が 45.8%、女性が 53.3%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

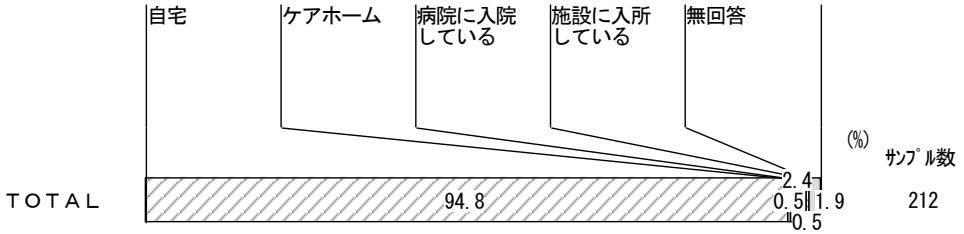
60 代が 28.3%、70 代が 29.2%を占め、平均年齢は 60.6 歳である。



（４）居住場所

問４　現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は１つ）

「自宅」で暮らしている 94.8%、「ケアホーム」が１人（0.5%）、「病院に入院している」が５人（2.4%）、「施設に入所している」が１人（0.5%）、「無回答」が４人（1.9%）である。



（５）同居者

問５　現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「配偶者」と暮らしている人が約７割（71.2%）、「子ども」と暮らしている人が約４割（40.6%）である。

	自分一人だけで暮らしている	配偶者（夫または妻）	子ども（子どもの配偶者も含む）	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他の親せき	その他	無回答
n=212	3.3%	71.2%	40.6%	19.8%	0.5%	6.1%	0.9%	2.4%	0.9%

（６）特定疾病の種類

問６　あなたの特定疾病はなんですか。差し支えなければ疾病名をお書きください。

「潰瘍性大腸炎」35 人、「パーキンソン病関連疾患」21 人、「全身性エリテマトーデス」20 人などである。

潰瘍性大腸炎	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病関連疾患	全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ	強皮症･皮膚筋炎･多発性筋炎	後縦靭帯骨化症	橋本病
35	21	20	14	11	11
特発性血小板減少性紫斑病	原発性胆汁性肝硬変	多発性硬化症	脊髄小脳変性症	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	ベーチェット病
8	8	7	5	5	4
サルコイドーシス	クローン病	間脳下垂体機能障害	ﾓﾔﾓﾔ病(ｳｨﾘｽ動脈輪閉塞症)	多系統萎縮症	広範脊柱管狭窄症
4	4	4	3	3	3
混合性結合組織病	網膜色素変性症	筋萎縮性側索硬化症	大動脈炎症候群	悪性関節リウマチ	特発性大腿骨頭壊死症
3	3	2	2	2	2
重症筋無力症	スモン	再生不良性貧血	結節性動脈周囲炎	ﾋﾞｭﾙｶﾞｰ病【ﾊﾞｰｼﾞｬｰ病】	重症急性膵炎
1	1	1	1	1	1
特発性間質性肺炎	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	原発性抗ﾘﾝ脂質抗体症候群	その他		
1	1	1	2		

※複数回答はそれぞれの疾病にカウント

（７）他の障害の状況

問７　次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

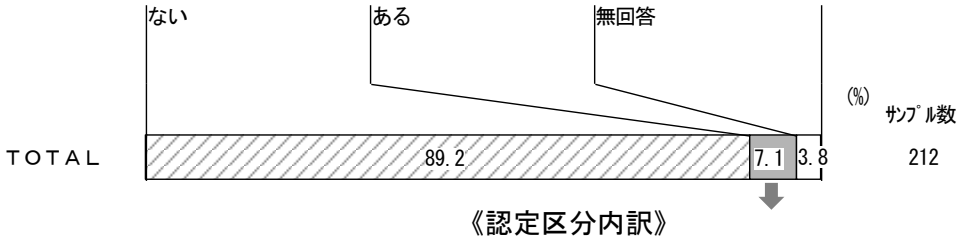
「特定疾病」以外の障害との重複状況をみると、４人に１人は「身体障害者手帳を持っている」（24.1%）ことがわかる。

	身体障害者手帳を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない	無回答
n=212	24.1%	1.4%	1.4%	69.3%	4.7%

（８）障害程度区分

問８ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことがある人は 7.1%である。



	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	申請中	無回答
n=15	13.3%	26.7%	20.0%	－	6.7%	13.3%	－	6.7%	13.3%

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問９ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

約６割の人は「特に介助・援助は受けていない」（61.3%）が、主な介助・援助者は「配偶者」が 25.0%と最も多い。なお、具体的な介助・援助者を選択した人でみると、「配偶者」が 77.9%を占めている。

	特に介助・援助は受けていない	配偶者	親	子ども	ホームヘルパー	その他	無回答
n=212	61.3%	25.0%	2.4%	2.4%	1.4%	0.9%	6.6%

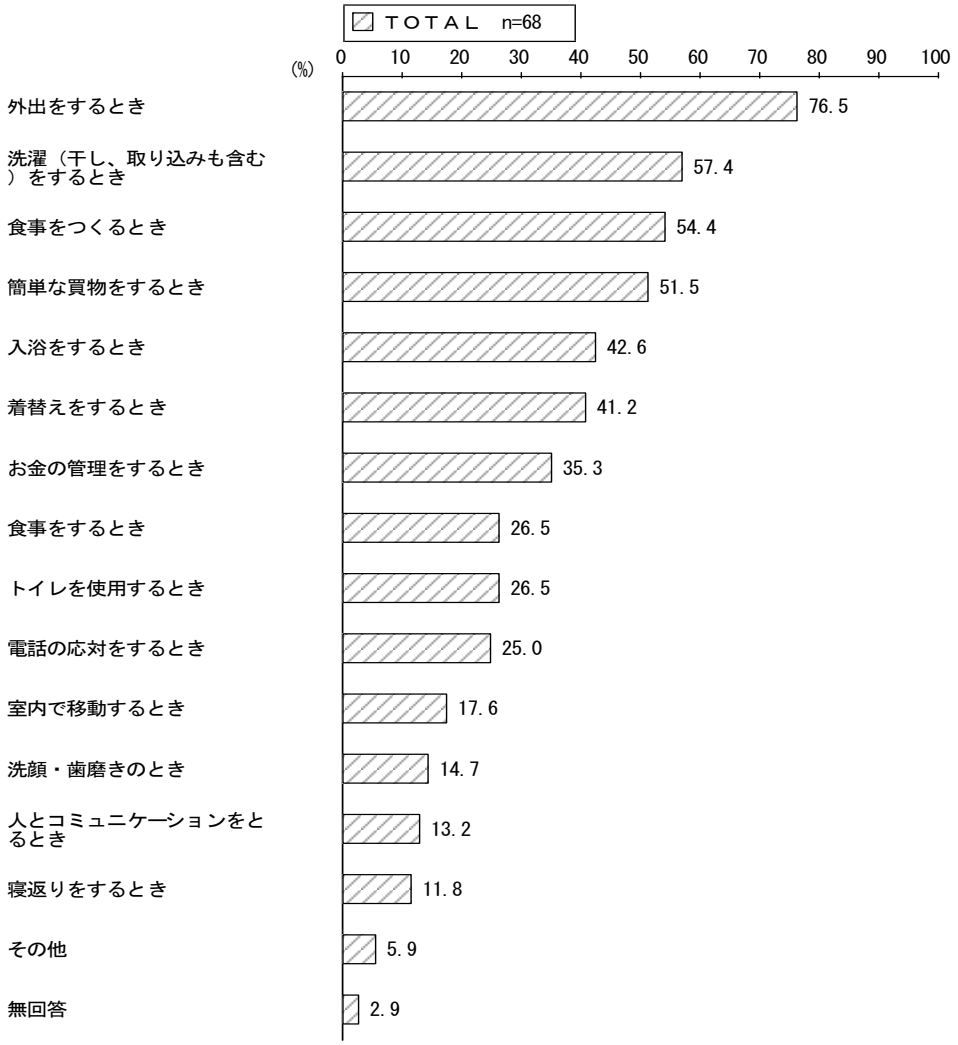
	配偶者	親	子ども	ホームヘルパー	その他
主な介助・援助者に記入あり n=68	77.9%	7.4%	7.4%	4.4%	2.9%

（２）介助・援助を受けている場面

問 10 どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「外出をするとき」をあげる人が 76.5%と最も多く、次いで「洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき」（57.4%）、「食事をつくるとき」（54.4%）と続いている。

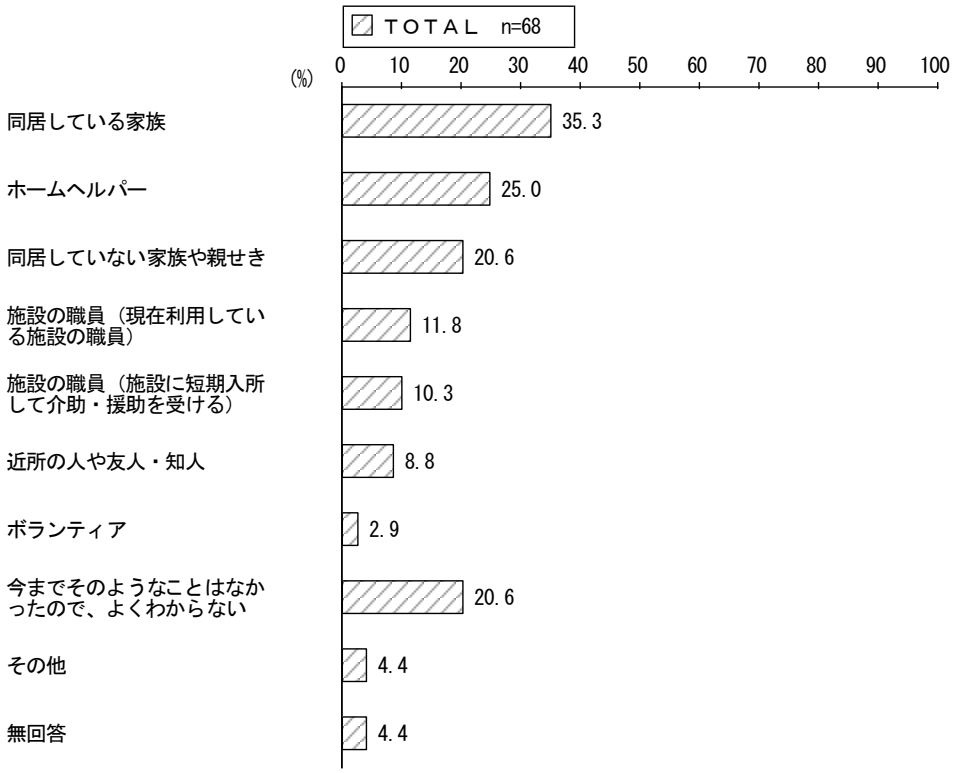


（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

問 11 あなたを主に介助・援助している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、替わりに誰に介助・援助してもらいたいと思いますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

主な介助・援助者が不在のときには、替わりに「同居している家族」の介助・援助を希望する人が 35.3%と最も多いが、「ホームヘルパー」を希望する人も 25.0%みられる。

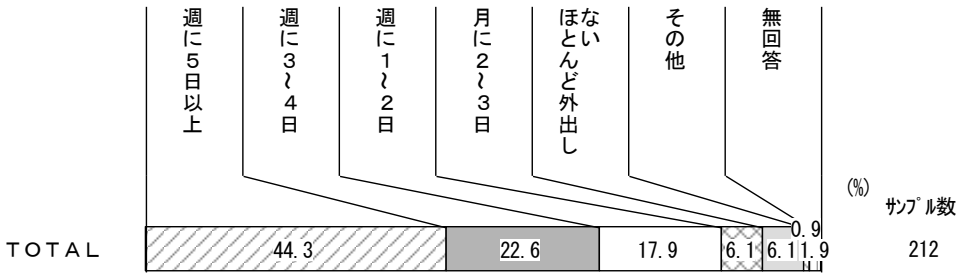


3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

問 12 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。（○は１つ）

外出の頻度は、「週に５日以上」が 44.3%、「週に３～４日」が 22.6%で、「ほとんど外出しない」人は 6.1%である。



（２）外出をしない理由

問 13 外出をしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［ほとんど外出しない方におききします］

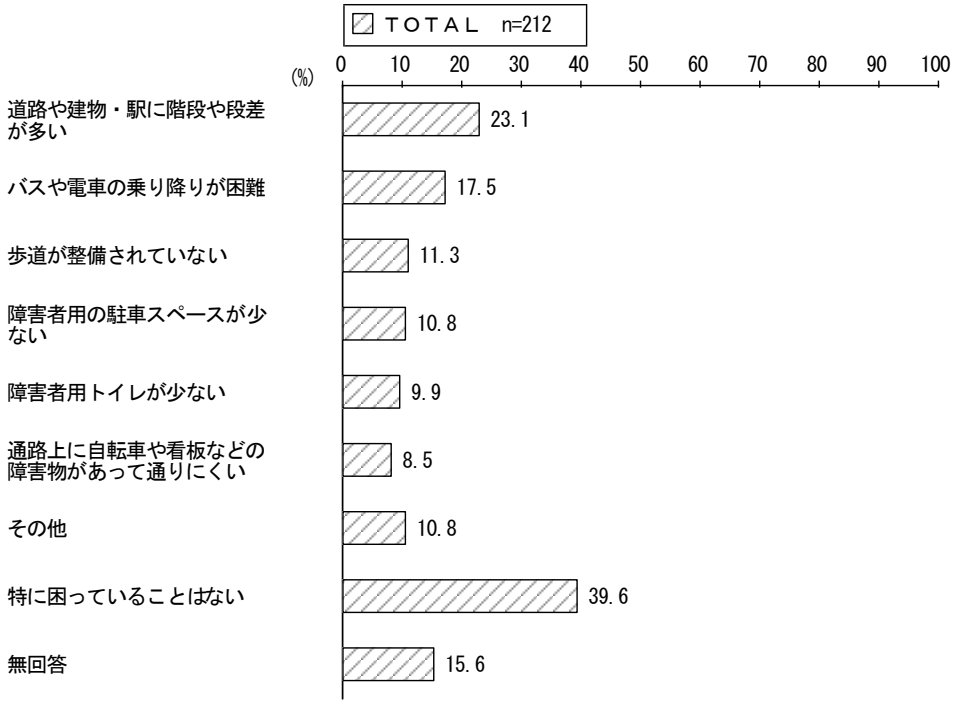
外出をしない理由としては、「乗り物の利用が困難」と「障害が重い（病状が重い）」をあげる人がそれぞれ 13 人中 6 人（46.2%）と最も多い。

	乗り物の利用が困難	障害が重い（病状が重い）	道路や階段が不便・危険	トイレが心配	介護者がいない	お金がかかる	家族に負担がかかる	他人に見られるのがいやだ	人との会話が困難	外出するのがめんどう	行き先がない	その他
n=13	46.2%	46.2%	38.5%	30.8%	30.8%	23.1%	23.1%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	15.4%

（３）外出の際に困っていること

問 14 外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、約４割の人が「特に困っていることがない」（39.6%）と回答しているが、あげられた項目としては、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が 23.1%と最も多く、次いで「バスや電車の乗り降りが困難」が 17.5%で続いている。



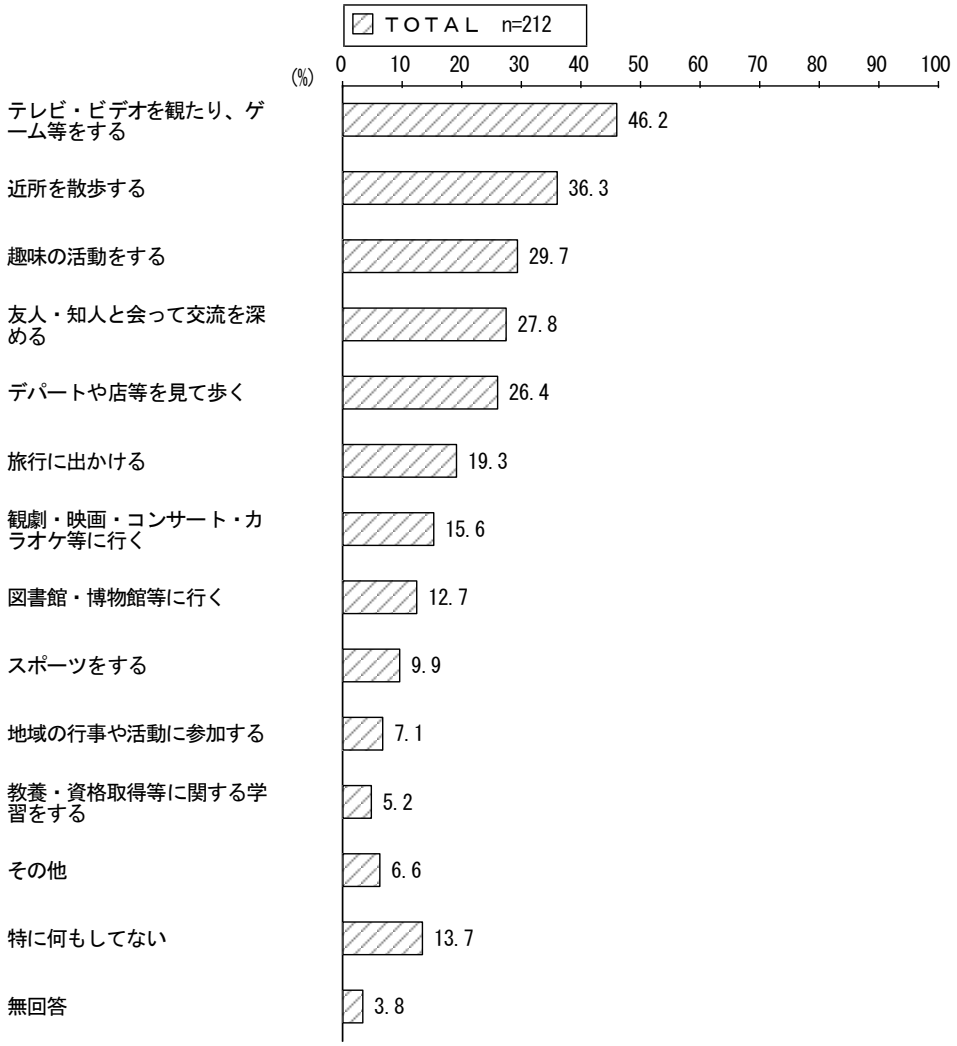
なお、その他の回答としては、次のような記入があった。

- 見た目は健常者なので、具合が悪い時シルバーシートに座りづらい（50 代）
- 外見では障害の有無を理解してもらえないので、時々誤解される（30 代）
- 太陽に当たると体に影響を受けるので昼間の外出が困難です（70 代）
- すぐに便意をもよおす為、トイレがある場所でないと外出できない。（30 代）

（４）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

問 15 どのような生涯学習活動や余暇活動をしていますか。（○はいくつでも）

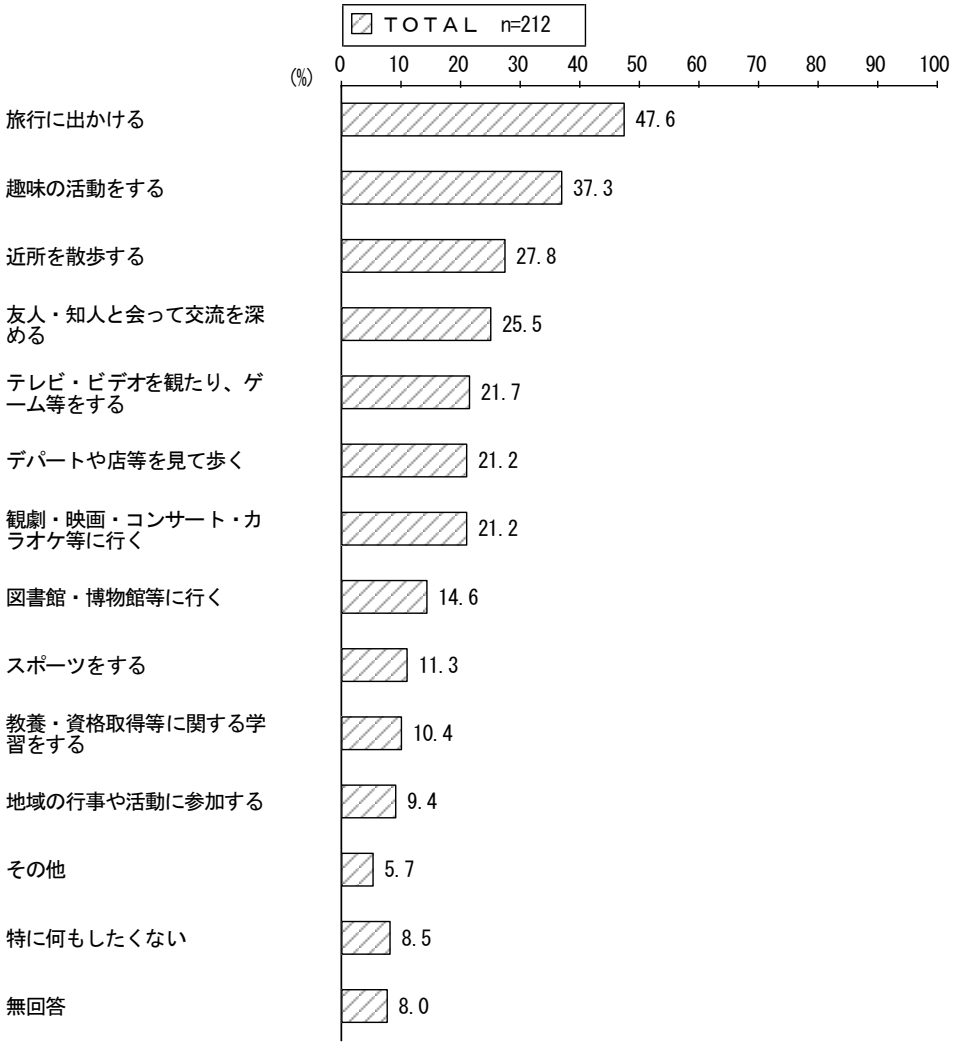
現在行っている生涯学習活動・余暇活動としては、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人が 46.2%と最も多く、次いで「近所を散歩する」（36.3%）、「趣味の活動をする」（29.7%）と続いている。なお、「特に何もしてない」人が 13.7%みられる。



（５）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

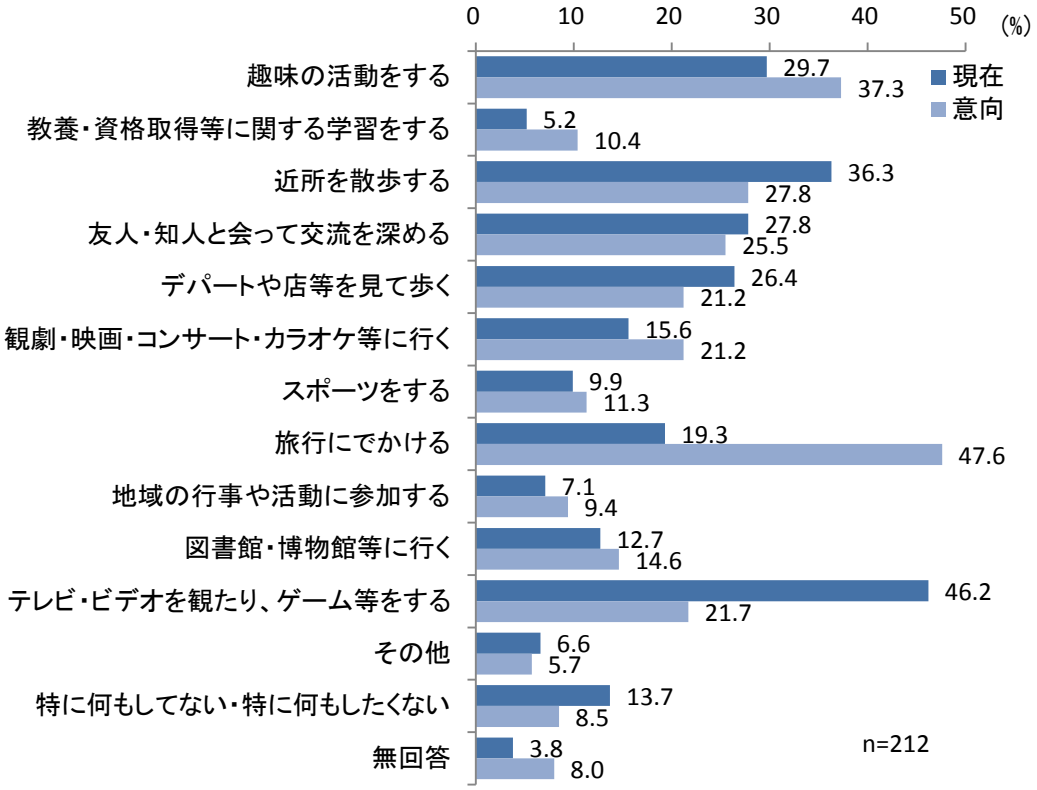
問 16 今後、どのような生涯学習活動や余暇活動をしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、「旅行に出かける」をあげる人が 47.6%と最も多い。



実際の活動状況と今後の意向を比べてみると、「旅行」については、実際にでかけている人は 19.3%（意向は 47.6%）にとどまっており、「旅行にでかけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。

《実際の活動状況と今後の意向の比較》



また、現在「特に何もしてない」と回答した 29 人について、今後の意向をみてみると、13 人（44.8%）は今後も「特に何もしたくない」と回答しているが、「無回答」を除く残り 15 人（51.7%）は、今後は何らかの活動を行っていきたいと考えていることがわかる。

《現在「特に何もしてない」人の今後の意向》

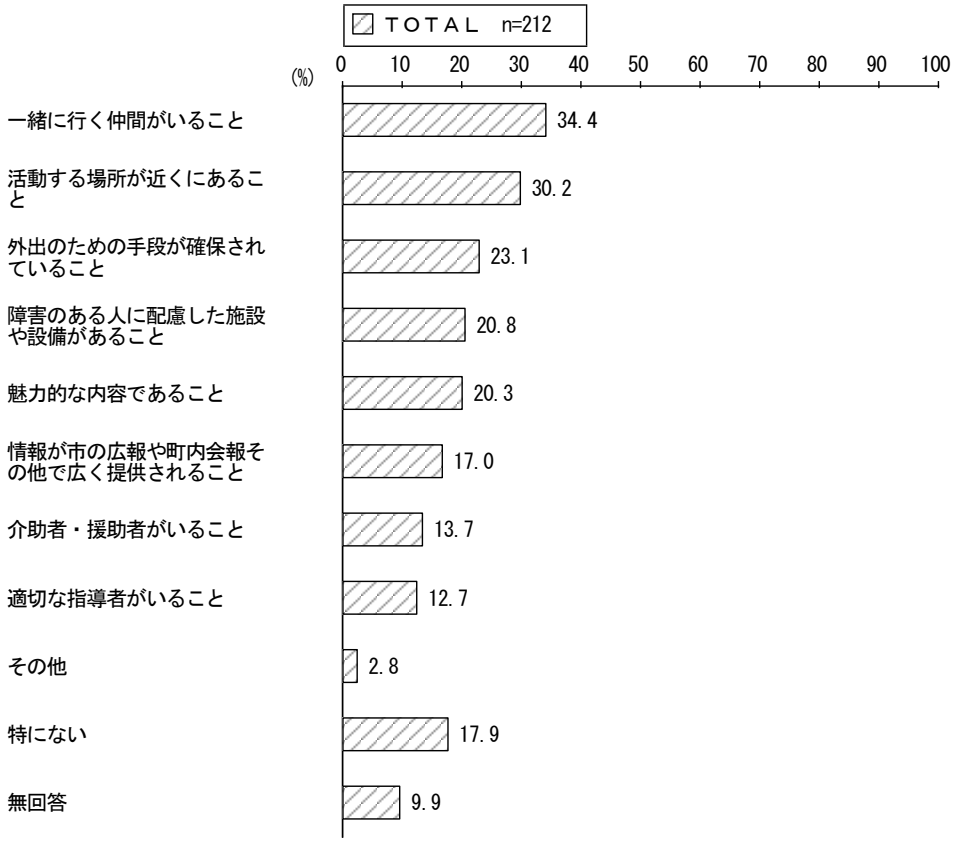
	旅行に出かける	趣味の活動をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	スポーツをする	教養・資格取得等に関する学習をする	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	特に何もしたくない	無回答
現在「特に何もしていない」と回答 n=29	24.1%	13.8%	13.8%	10.3%	10.3%	10.3%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	44.8%	3.4%

29 人中 15 人は「今後は活動したい」と回答

（６）希望する活動を行うために必要な条件

問 17 あなたは、上記のような活動をするために、どのような条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

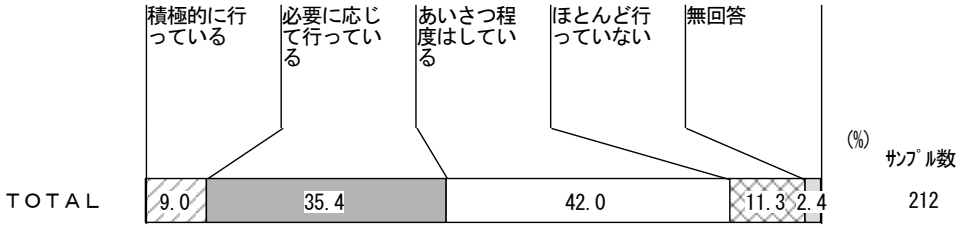
希望する活動を行うために必要な条件としては、「一緒に行く仲間がいること」をあげる人が 34.4%と最も多く、次いで「活動する場所が近くにあること」（30.2%）、「外出のための手段が確保されていること」（23.1%）と続いている。



（７）近所とのつきあいの程度

問 18 ご近所とのおつきあいは、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

近所とのつきあいの程度は、「あいさつ程度はしている」が 42.0%と最も多く、次いで「必要に応じて行っている」が 35.4%で続いている。

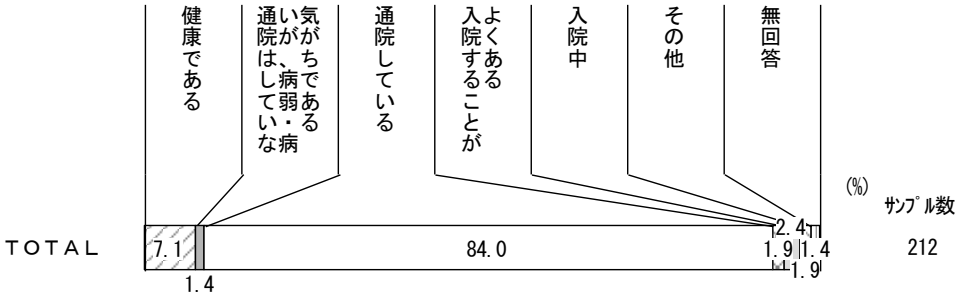


4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

問 19 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は１つ）

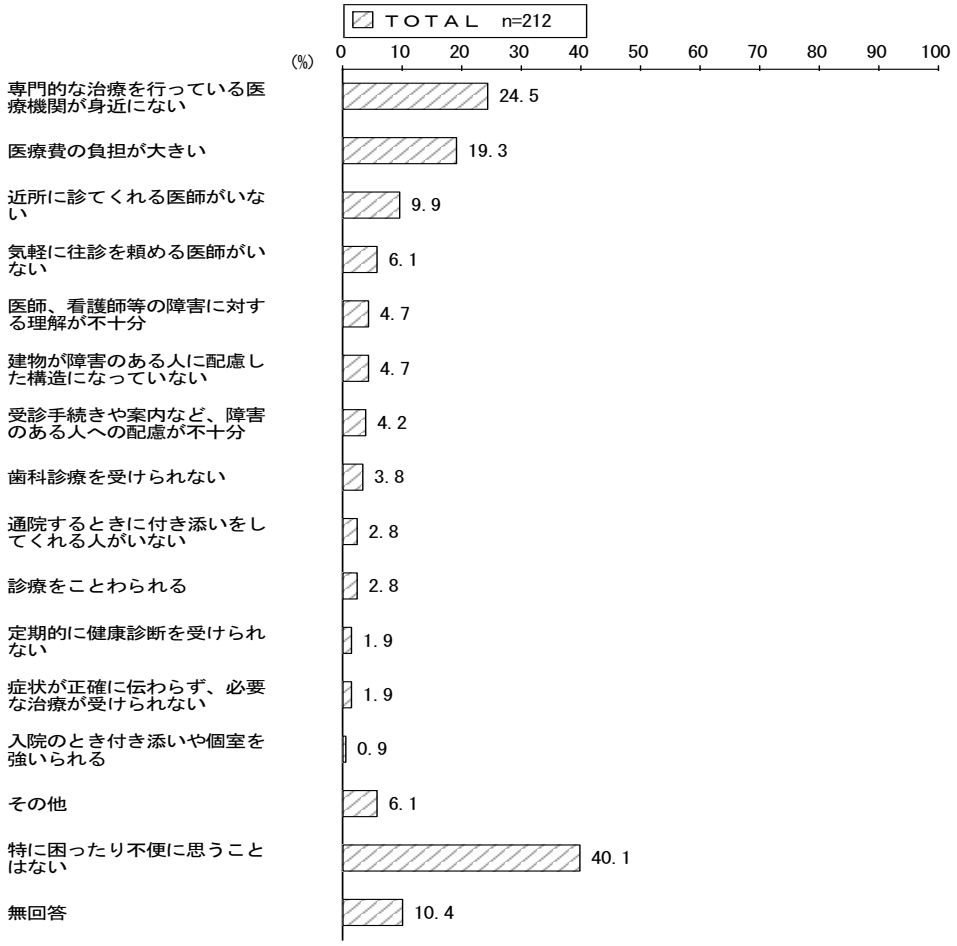
現在「通院している」人が 84.0%、「入院中」の人が 2.4%である。



（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 20 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。（○はいくつでも）

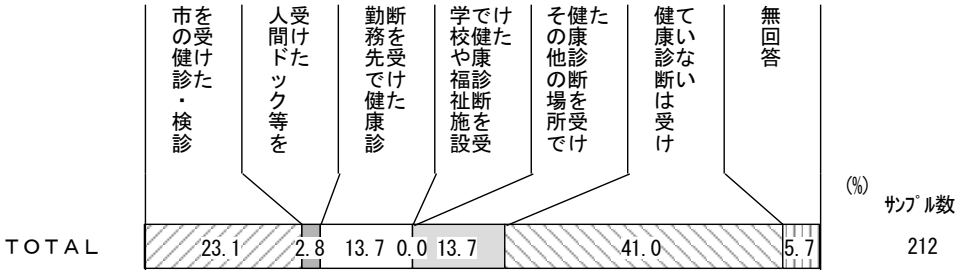
健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、約４割の人が「特にない」（40.1%）と回答しているが、約４人に１人は「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（24.5%）、約５人に１人は「医療費の負担が大きい」（19.3%）と感じている。



（３）健康診断（健康診査）の受診状況

問 21 過去１年間に健康診断（健康診査）を受けましたか。（○は１つ）

約４割の人は過去１年間に「健康診断は受けていない」（41.0%）。



5 日中の過ごし方

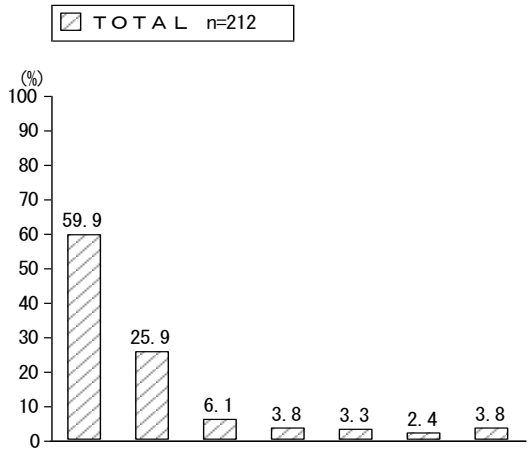
（１）日中の過ごし方

問 22 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。（利用しているものに○）

全体でみると、約６割は日中「自宅にいることが多い」（59.9%）状況である。

年代別にみると、40 代では「働いている」（65.2%）人が最も多く、30 代と 50 代では「自宅にいることが多い」と「働いている」が同数となっている。

また、65 歳以上では「福祉の施設（サービス）に通っている」人が約１割（11.4%）いることがわかる。



	問３ 年齢（１０歳刻み）	n	6 自宅にいることが多い	4 働いている	2 福祉の施設（サービス）に通っている	3 病院や施設などで看護・介護を受けている	5 求職中である	7 その他	8 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	59.9	25.9	6.1	3.8	3.3	2.4	3.8
3	２０代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	３０代	28	42.9	42.9	3.6	0.0	14.3	3.6	0.0
5	４０代	23	30.4	65.2	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0
6	５０代	26	46.2	46.2	0.0	0.0	3.8	3.8	3.8
7	６０代	60	71.7	21.7	1.7	1.7	0.0	3.3	1.7
8	７０代	62	74.2	3.2	16.1	8.1	1.6	0.0	6.5
9	８０歳以上	9	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2
10	無回答	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
（別掲）	６５歳以上	105	72.4	6.7	11.4	6.7	1.0	1.9	5.7

6 幼稚園・保育園・学校について

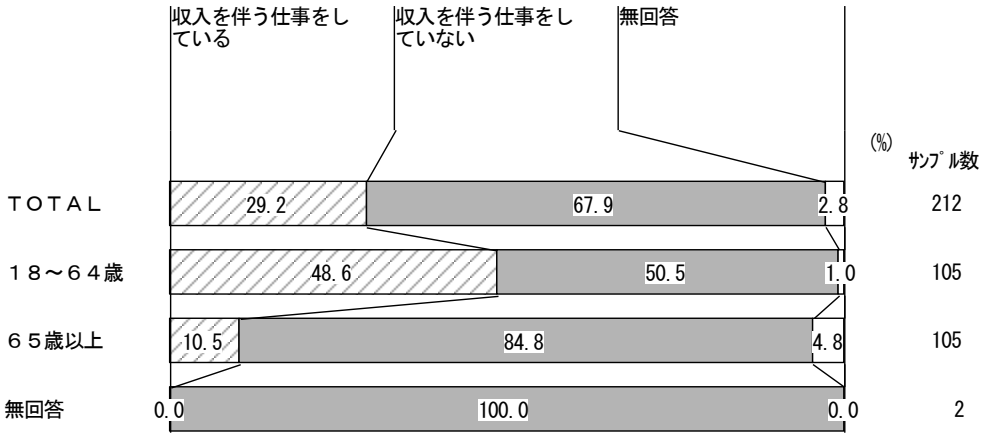
今回の調査では、幼稚園・保育園・学校に通っている回答者はいなかった。

7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問 26 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、「収入を伴う仕事をしている」人は約３割（29.2%）である。
年代別にみると、「18～64 歳」では、約半数の人が「収入を伴う仕事をしている」（48.6%）。

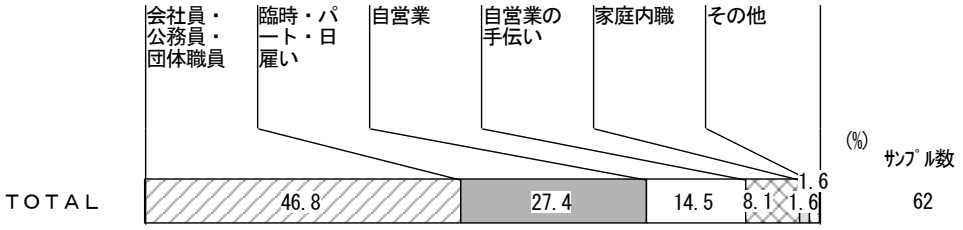


（２）仕事の形態

問 27 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事の形態は、「会社員・公務員・団体職員」が 46.8%、「臨時・パート・日雇い」が 27.4%、「自営業」が 14.5%となっている。



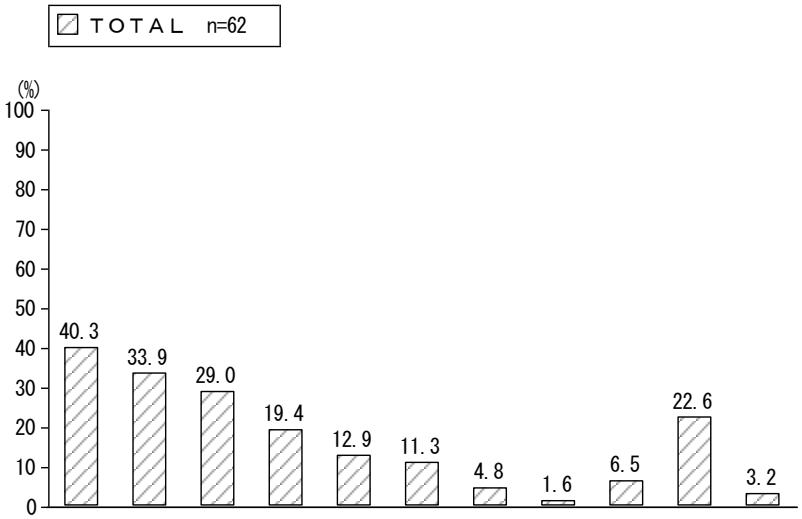
（３）仕事で困ること、つらいこと

問 28 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事をする上で困ったり、つらいこととしては、「体調のコントロールが難しい」ことをあげる人が 40.3%と最も多く、次いで「収入が少ない」（33.9%）、「仕事がきつい」（29.0%）と続いている。

仕事の形態別にみると、「会社員・公務員・団体職員」では、「通勤がたいへん」が 34.5%と２番目に多くあげられている。



	問２７ 就労形態	n	9 体調のコントロールが難しい	2 収入が少ない	3 仕事がきつい	1 通勤がたいへん	5 職場の人間関係	6 職場の中の環境の未整備（トイレ、休憩室等）	4 仕事が合わない	8 コミュニケーションができない	10 その他	11 特に困ったり、つらいことはない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	62	40.3	33.9	29.0	19.4	12.9	11.3	4.8	1.6	6.5	22.6	3.2
1	会社員・公務員・団体職員	29	48.3	27.6	31.0	34.5	17.2	20.7	3.4	3.4	6.9	17.2	0.0
2	臨時・パート・日雇い	17	41.2	52.9	35.3	11.8	17.6	5.9	11.8	0.0	0.0	17.6	5.9
3	自営業	9	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	11.1
4	自営業の手伝い	5	40.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
5	家庭内職	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
7	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

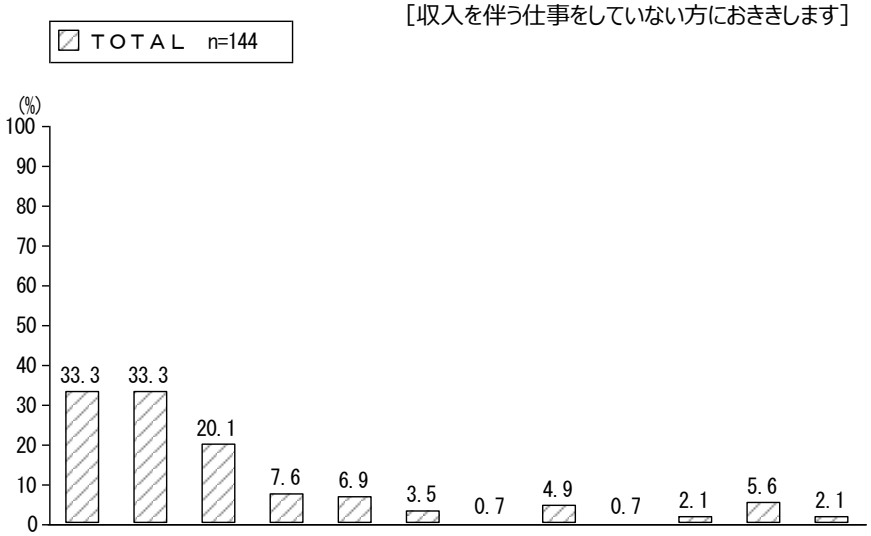
（４）仕事をしていない理由

問 29 仕事をしていない主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

仕事をしていない理由としては、「病気」と「高齢」がそれぞれ 33.3%と最も多い。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「病気」をあげる人が 43.4%と最も多く、次いで「障害が重い」が 17.0%で続いている。



	問３ 年齢（３区分）	n	2 病気	10 高齢	1 障害が重い	4 職場がない	9 家事・妊娠・育児	7 通勤が困難	6 労働条件が悪いから	12 その他	13 仕事をしたくない	14 仕事をする必要がない	15 自分の希望する仕事が見つからない	16 無回答
0	TOTAL	144	33.3	33.3	20.1	7.6	6.9	3.5	0.7	4.9	0.7	2.1	5.6	2.1
2	１８～６４歳	53	43.4	5.7	17.0	13.2	13.2	7.5	1.9	11.3	0.0	1.9	11.3	1.9
3	６５歳以上	89	27.0	48.3	21.3	4.5	3.4	1.1	0.0	1.1	1.1	2.2	2.2	2.2
4	無回答	2	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

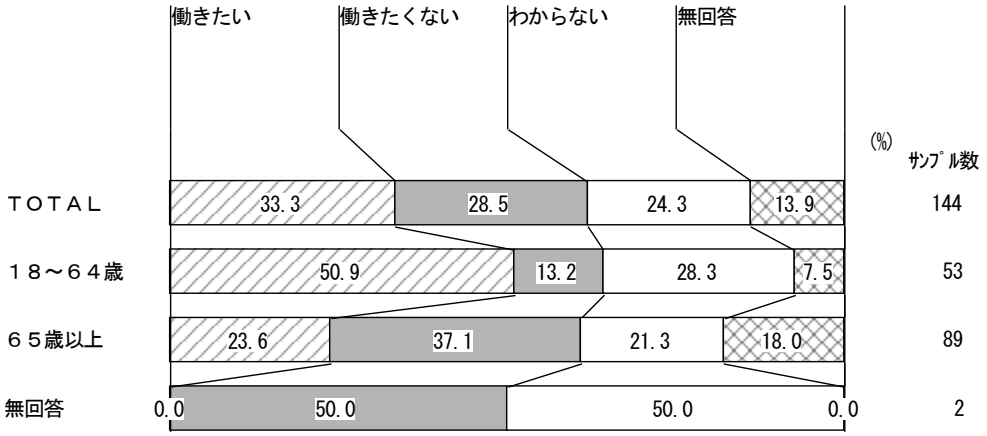
（５）就労意向

問 30 今後、自分の健康や通勤の可能性等、条件が整っていれば働きたいと思いますか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

現在、収入を伴う仕事をしていない人のうち 33.3%の人は、条件が整えば「働きたい」と考えている。

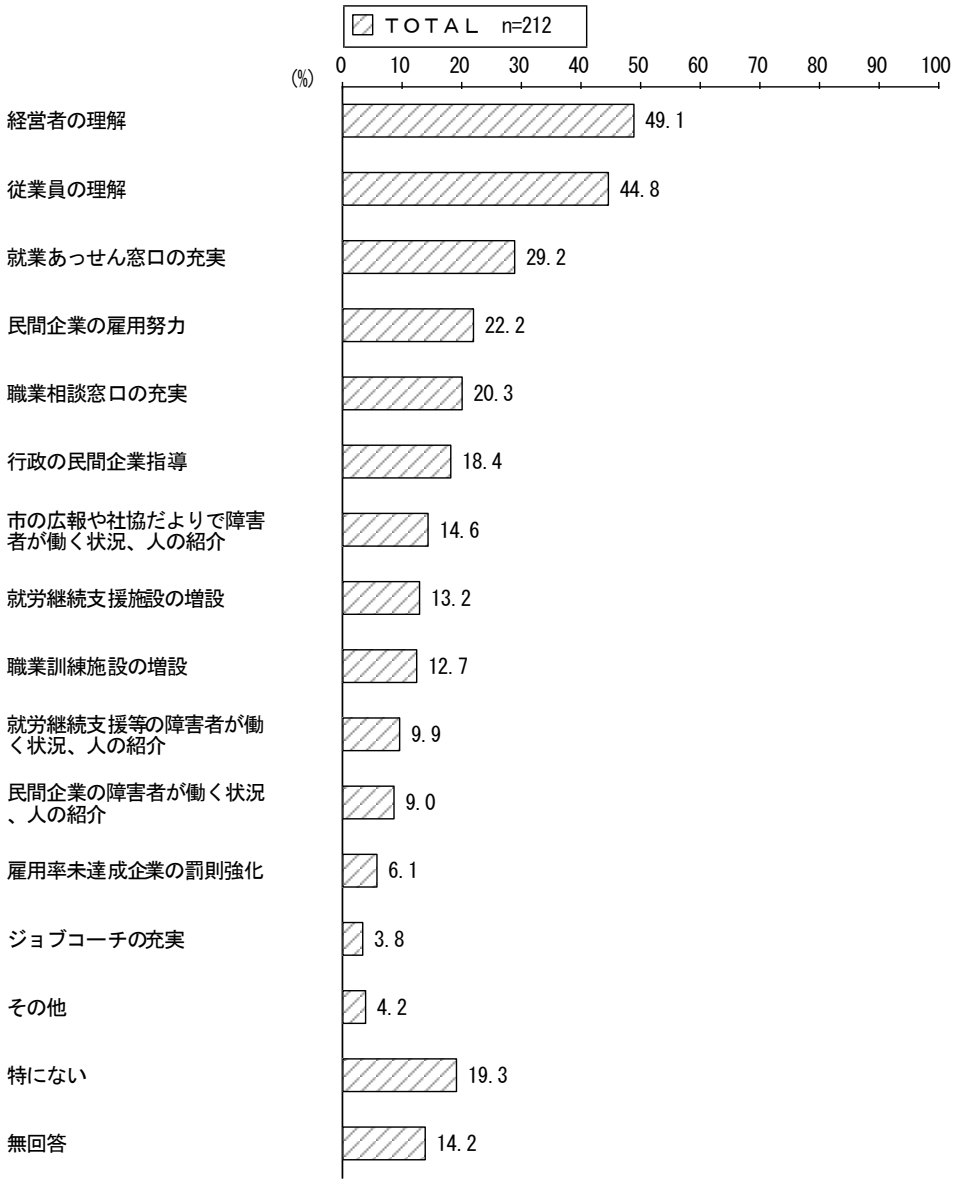
年代別にみると、「18～64 歳」では、約半数の人に就労意向がある（「働きたい」50.9%）ことがわかる。



（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

問 31 障害のある人の就業を促進するために、あなたはどのようなことを希望されますか。（○はいくつでも）

障害のある人の就業を促進するために希望することとしては、「経営者の理解」をあげる人が49.1%と最も多く、次いで「従業員の理解」（44.8%）、「就業あっせん窓口の充実」（29.2%）と続いている。

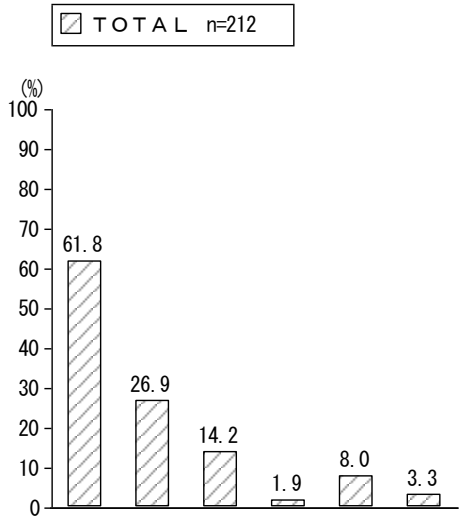


（７）生活を支える収入

問 32 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支えている収入としては、約６割の人が「年金、障害者年金、生活保護など」（61.8%）をあげている。

年代別にみると、「65 歳以上」では、95.2%の人が「年金、障害者年金、生活保護など」をあげている。また、「18～64 歳」では、「給与・賃金」が 48.6%と最も多く、次いで「年金、障害者年金、生活保護など」（27.6%）、「家族からの仕送り・援助」（24.8%）と続いている。



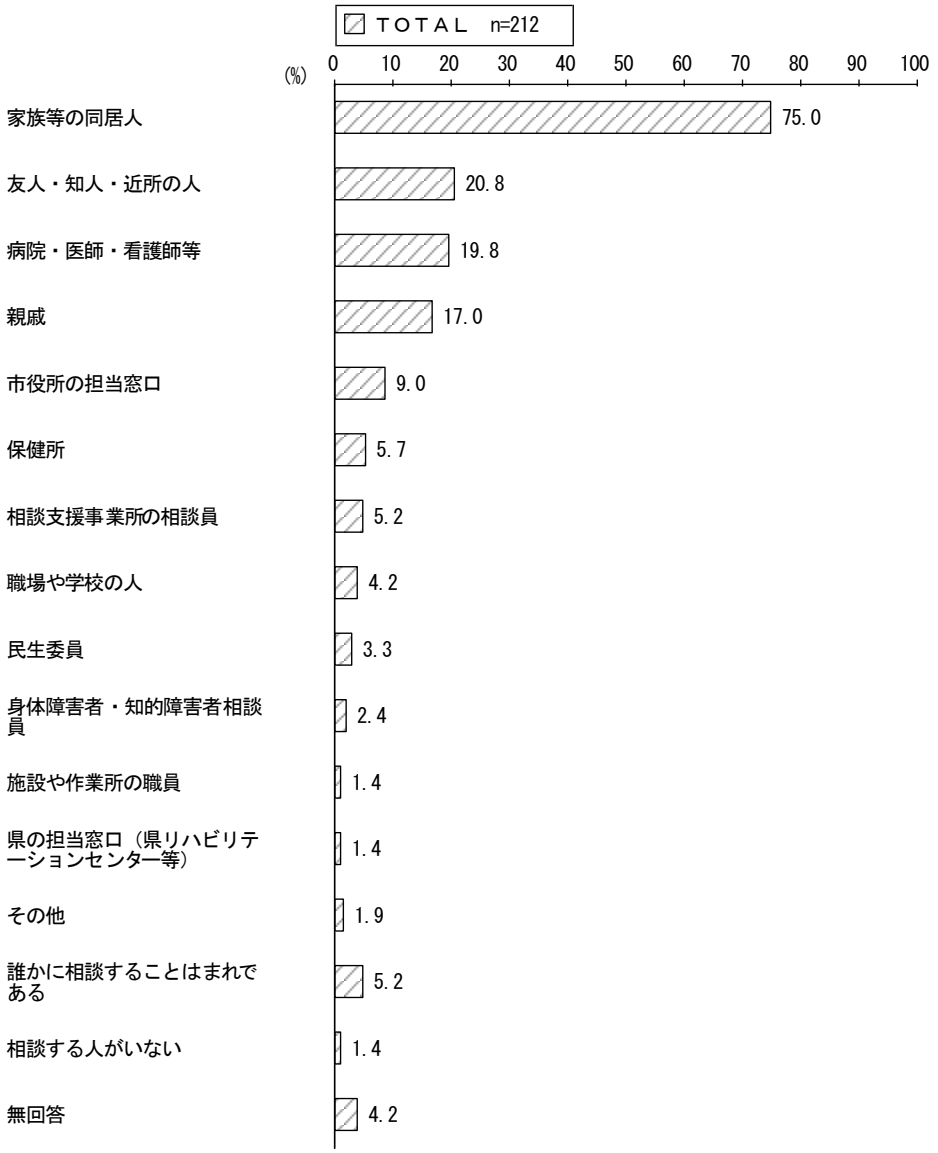
	問３ 年齢（３区分）	n	5 年金など、障害者年金、生活保護	1 給与・賃金	4 家族からの仕送り・援助	2 事業収入	6 その他	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	61.8	26.9	14.2	1.9	8.0	3.3
2	１８～６４歳	105	27.6	48.6	24.8	1.9	13.3	5.7
3	６５歳以上	105	95.2	5.7	3.8	1.9	2.9	1.0
4	無回答	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

問 33 普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（○はいくつでも）

悩みや困ったことなどの相談先としては、「家族等の同居人」をあげる人が75.0%と最も多く、次いで「友人・知人・近所の人」（20.8%）、「病院・医師・看護師等」（19.8%）と続いている。なお、「相談する人がいない」人が３人（1.4%）みられる。



（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 34 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。（自由記入）

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

【相談先】

- かかりつけの病院で相談できれば安心です。（40 代）
- 定期的に病院に行っているので、相談窓口が病院にあると良いと思います。（50 代）
- 若い相談員には相談したくない。人生経験と、ある程度見聞の広い方に相談したい。（30 代）

・ 公共機関の窓口相談室（70 代）
・ 通っているデイサービスやケアマネージャーに相談したい。（70 代）
・ 民生委員に相談するつもり。（70 代）
・ 市の窓口があって、それぞれの病気の理解者や専門家が対応してほしい（30 代）
・ 各種の相談窓口。相談窓口の連絡先がすぐにわかる様な情報。（60 代）
・ 市役所の担当窓口で後からはそれなりの仕事をしている人が良いと思います（60 代）
・ 友人。病気・障害への理解。（40 代）

【相談体制】

・ 市・町・村等の窓口の充実(電話（フリーダイヤル等）での相談）。カウンセラーの充実。（60 代）
・ 茶のみ相手が欲しい。（70 代）
・ （小児慢性疾患児）ピアカウンセリングの制度を県では作ったが、中核市である川越市は対象外となっている。県並みの制度を整えるか、県の制度に相のりする様にしてほしい。（30 代）
・ 個人情報をしっかり守ること。（40 代）
・ 病院・市役所の担当者より、受けられるサービスを細かく教えてほしい。（60 代）
・ 数年前、保健センターの保健師さんで、住んでいる地区の担当の方から電話連絡があり、特定疾患で困ったことなどの相談の窓口になっているという内容でした。このような体制があるならありがたいと思います。（50 代）
・ 「相談支援事業所」なんてあるんですか？何でも相談でしょうか？手紙で相談できるのもいいかも。どこに相談して良いかわからない時「総合相談」みたいな所にＴｅｌすれば最適な所につないでくれるシステム。（50 代）
・ 病気に関することは医師に相談しますが、診察時間が短く相談しきれないこともあります。病気に関してまた精神的に落ち込むことがあるので、相談出来るカウンセリングが出来る所があれば良いと思います。（30 代）
・ 電話が出来ると良いです。（60 代）
・ 難しいかもしれませんが、臨床心理士や精神保健福祉士等、（それぞれの分野で）ある程度専門的な知識を持った人に（継続的に）相談をしたい。費用がかかってしまうと負担となってしまうので、できれば無料で、平日だけでなく、土日にも相談できる体制が整っていると良いと思う。（30 代）
・ 市役所。関連する事は聞かなくても、役所の担当の方から紹介頂きたい。質問に対して、許可するかしないかだけでなく。（60 代）

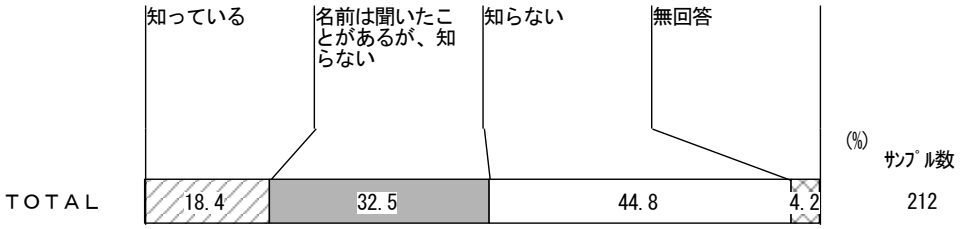
【その他】

・ 誰に相談してよいかわからない。家族の理解がないので辛い。（50 代）
・ 信用できる場所であると良いが、ないと思う。（50 代）
・ 気軽に相談できる雰囲気がない。（30 代）
・ 忙しいと思いますが、保健所の方がＴＥＬなどして様子を伺って欲しいです。（40 代）
・ 行政機関（市役所、保健所）を利用したいと思うがまだあまり利用したことがない。たらい回しにされないか不安である。（40 代）
・ 川越は市役所、保健所等すべてがバラバラにあり、手続がとても大変です。交通機関が不便。（50 代）
・ 友人・知人には話したくない。その他の窓口などに行くヒマはない。（30 代）
・ 市役所・保健所・病院に相談にのってほしいです。“あんしんサポートねっと”充実してもらって、今は必要ないがたよりにしています。（70 代）
・ 相談しても解決には至らない。（60 代）
・ あまり他者に相談したいと思わない。（50 代）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

問 35 あなたは、「川越市障害者相談支援センター」を知っていますか。（○は１つ）

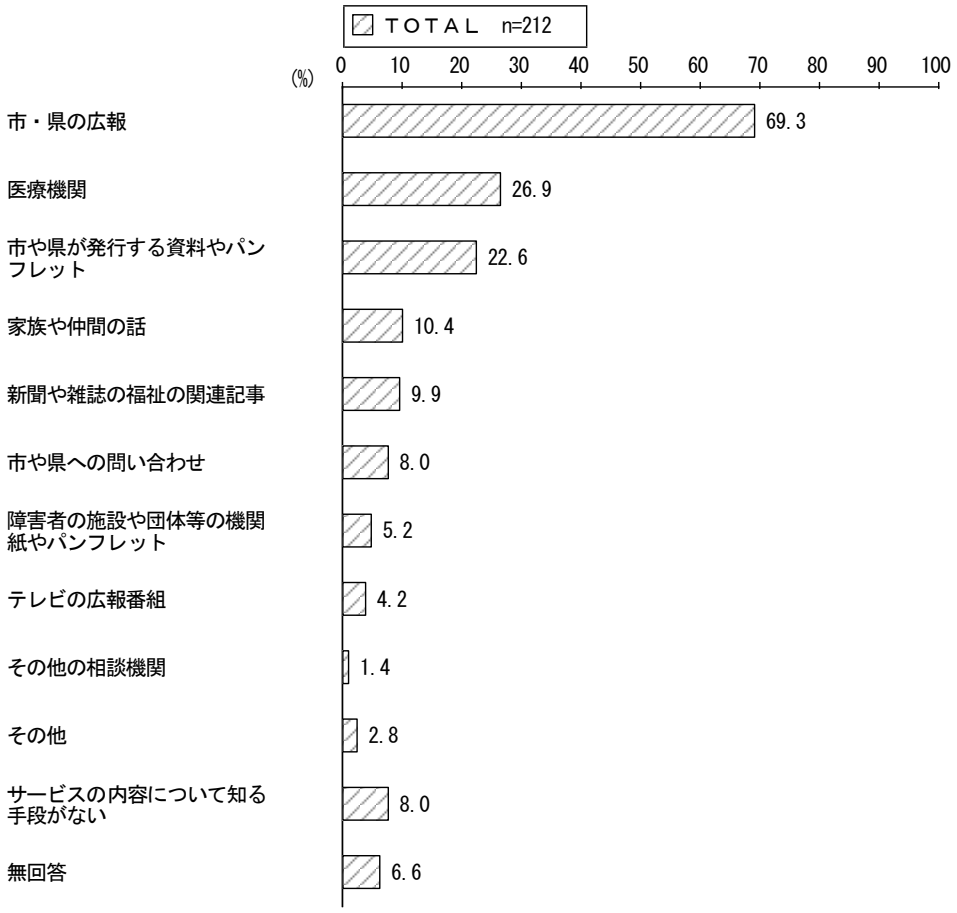
「川越市障害者相談支援センター」を「知っている」人は 18.4%である。



（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

問 36 障害のある人のための福祉サービス内容について、どのようなもので知ることが多いですか。（○はいくつでも）

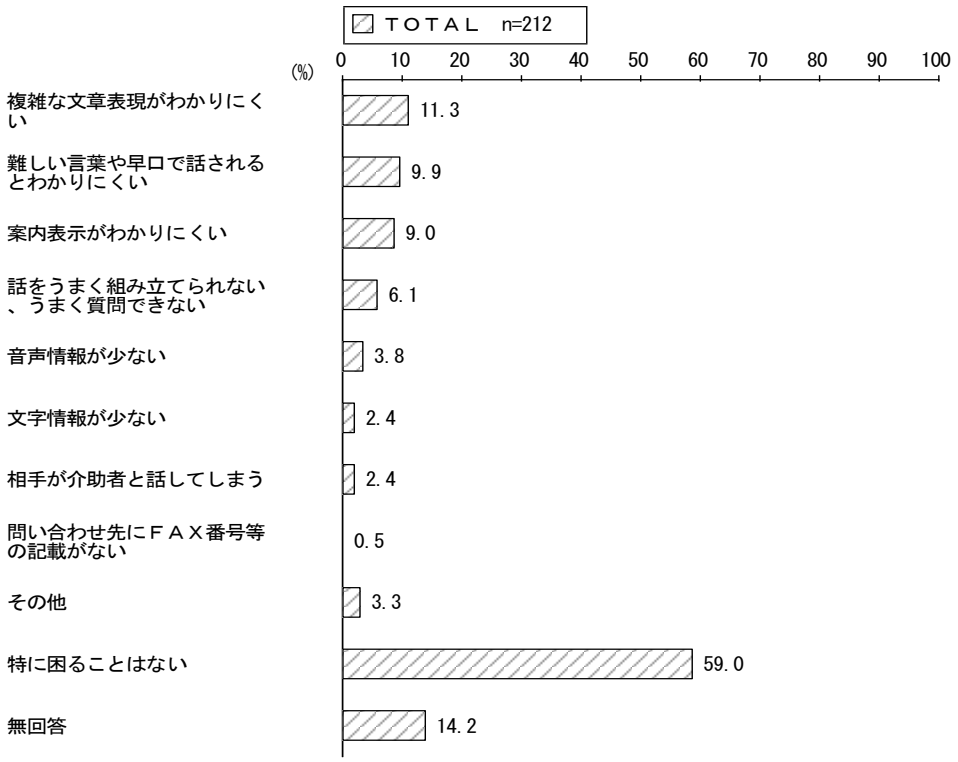
福祉サービスについては、約７割の人が「市・県の広報」（69.3%）で知ることが多いと回答している。そのほかには、「医療機関」が26.9%、「市や県が発行する資料やパンフレット」が22.6%あげられている。なお、「サービスの内容について知る手段がない」と回答した人が 8.0%みられる。



（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

問 37 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。（○はいくつでも）

約６割の人は、情報の入手やコミュニケーションで困ることは「特にない」（59.0%）と回答している。

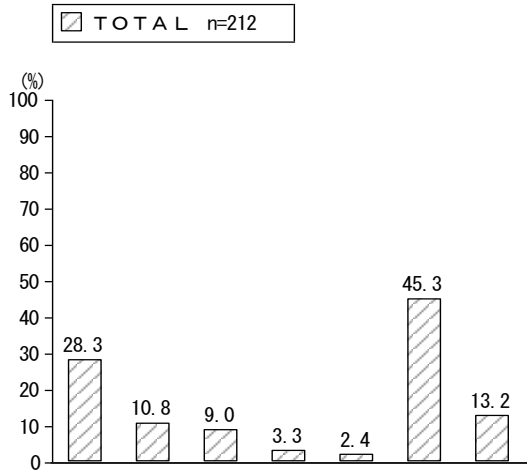


（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

問 38 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。（○はいくつでも）

「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 28.3%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 10.8%で、45.3%の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」と回答している。

年代別にみると、「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」人の割合は、「18～64 歳」では約３割（31.4%）だが、「65 歳以上」では約６割（59.0%）にのぼる。



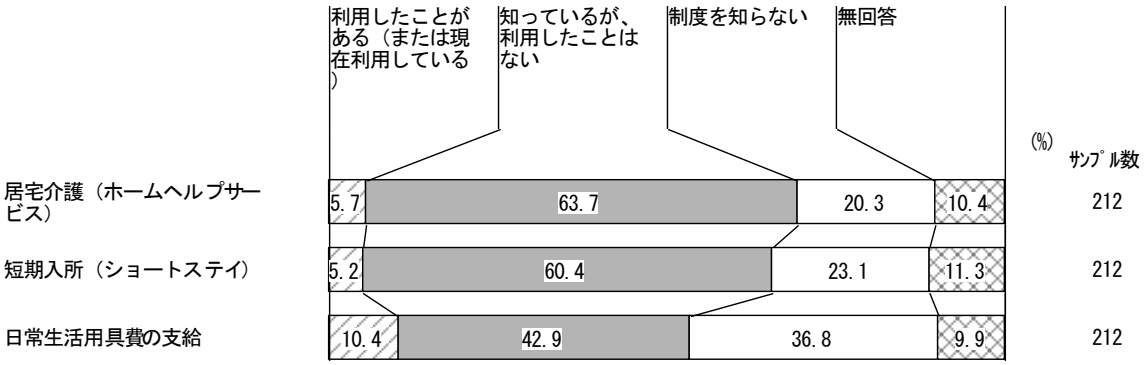
	問３ 年齢（３区分）	n	1 パソコンを利用して、情報を入手している	2 スマートフォン等を利用して、情報を入手している	3 携帯電話を利用して、情報を入手している	4 電子メールを利用して、友人などから情報を得ている	5 その他	6 パソコンなどを利用して情報を得ることはない	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	28.3	10.8	9.0	3.3	2.4	45.3	13.2
2	１８～６４歳	105	43.8	21.0	12.4	4.8	1.9	31.4	5.7
3	６５歳以上	105	12.4	1.0	5.7	1.9	2.9	59.0	21.0
4	無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 39 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

「居宅介護（ホームヘルプサービス）」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 5.7%、「短期入所（ショートステイ）」は 5.2%、「日常生活用具費の支給」は 10.4%である。



それぞれのサービスについて、利用経験者の年齢をみると、「居宅介護」では 12 人中 11 人が 65 歳以上、「短期入所」は 11 人中 10 人が 65 歳以上となっている。

サービス名	利用経験人数	18～64 歳	65 歳以上	年齢無回答
居宅介護（ホームヘルプサービス）	12 人（100.0%）	1 人（ 8.3%）	11 人（91.7%）	－
短期入所（ショートステイ）	11 人（100.0%）	1 人（ 9.1%）	10 人（90.9%）	－
日常生活用具費の支給	22 人（100.0%）	3 人（13.6%）	17 人（77.3%）	2 人（ 9.1%）

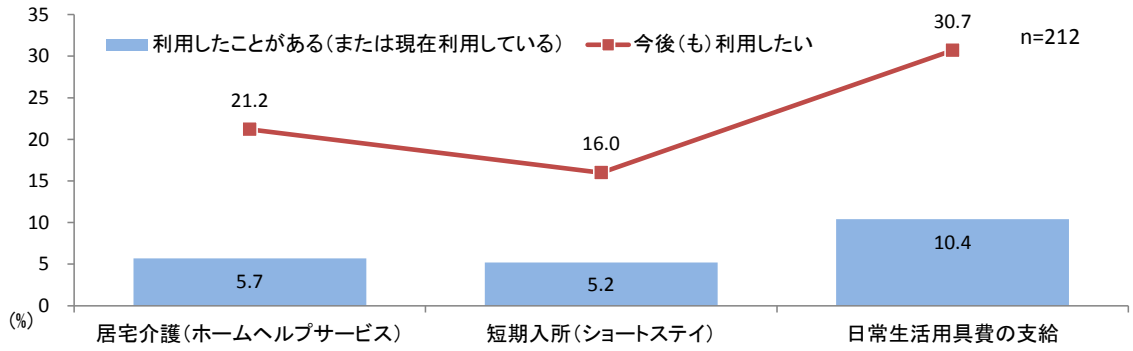
（２）福祉サービスの利用意向

問 40 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「居宅介護」を利用したいと考えている人は 21.2%、「短期入所」は 16.0%、「日常生活用具費の支給」は 30.7%である。

実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較すると、３サービスとも 10 ポイント以上利用意向のほうが高くなっており、潜在的なニーズが大きいと考えられる。

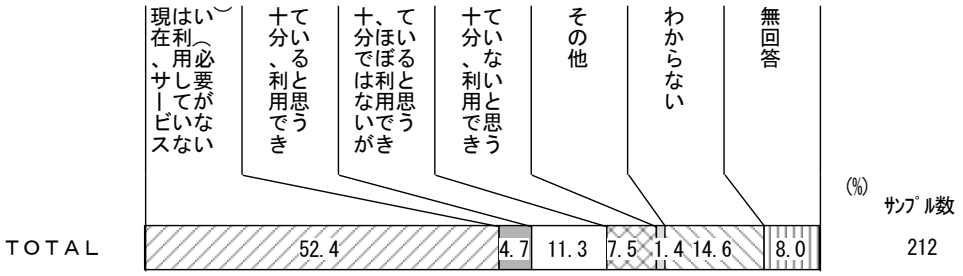
《サービスの利用経験と利用意向》



（３）サービス利用についての充足度

問 41 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人が 7.5%みられる。

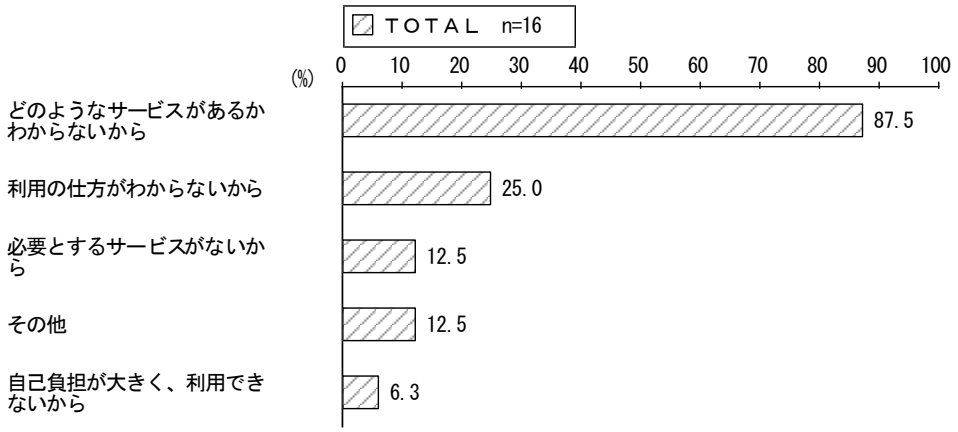


（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 42 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、16 人中 14 人が「どのようなサービスがあるかわからないから」（87.5%）という理由をあげている。



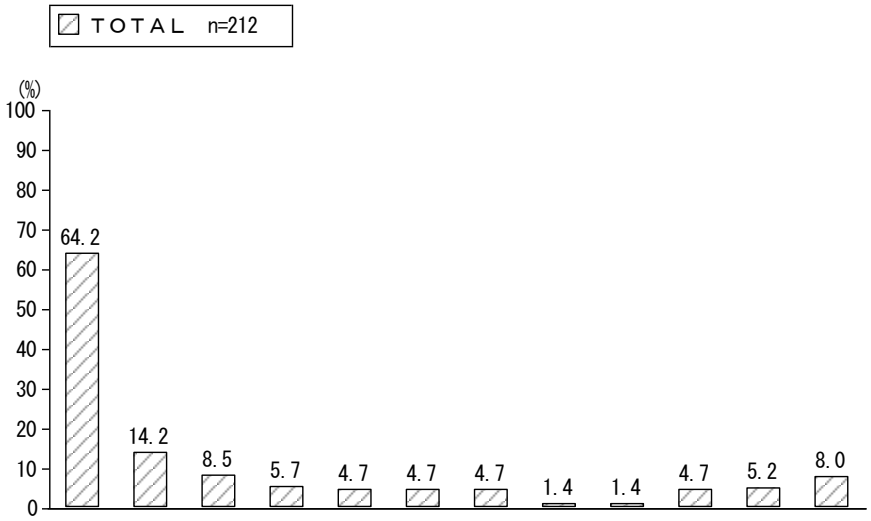
10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

問 44 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後、希望する日中の過ごし方としては、64.2%の人が「自宅でのんびり過ごしたい」と回答している。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「自宅でのんびり過ごしたい」が 57.1%と最も多いが、「一般企業などで働きたい」と回答している人が 26.7%みられる。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	9 学校に通いたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	64.2	14.2	8.5	5.7	4.7	4.7	4.7	1.4	1.4	4.7	5.2	8.0
2	１８～６４歳	105	57.1	26.7	4.8	2.9	4.8	1.9	4.8	2.9	1.9	5.7	5.7	6.7
3	６５歳以上	105	71.4	1.9	12.4	7.6	4.8	6.7	4.8	0.0	1.0	3.8	4.8	9.5
4	無回答	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（２）希望する暮らし方

問 45 将来（今後）、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来、希望する暮らし方としては、約８割の人が「現在と同じように暮らしたい」（80.7%）と回答している。

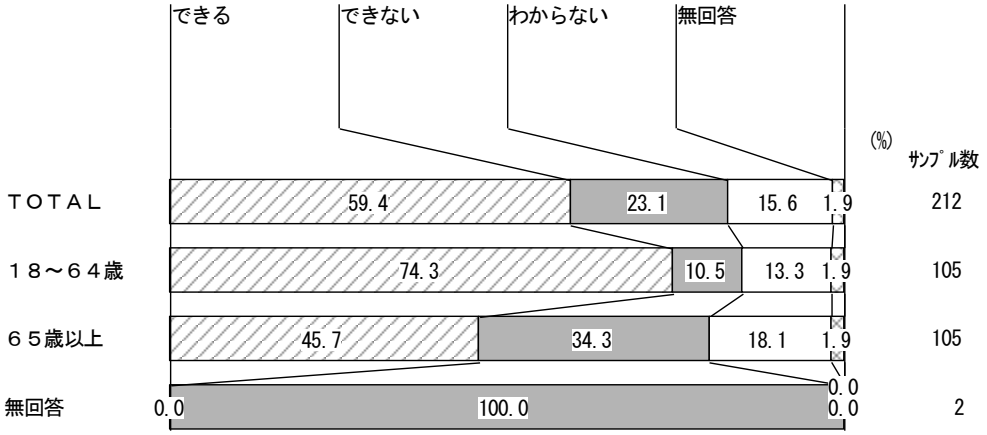
	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	共同生活する住居(グループホーム等)で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	212	80.7%	2.4%	1.9%	1.4%	0.9%	0.5%	7.5%	4.7%

11 災害対策について

（１）災害時の避難について

問 46 火事や地震等の災害時に、あなたは一人で避難できますか。（○は１つ）

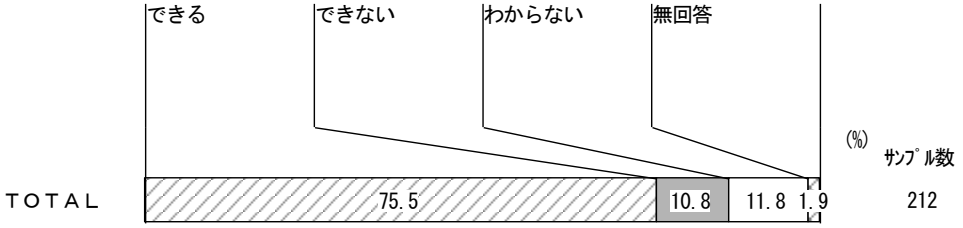
約６割の人は、災害時に一人で避難「できる」（59.4%）と考えている。
年代別にみると、「65 歳以上」では、一人で避難「できる」人の割合が 45.7%にとどまる。



（２）災害時の周囲への連絡・通報について

問 47 火事等の非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（○は１つ）

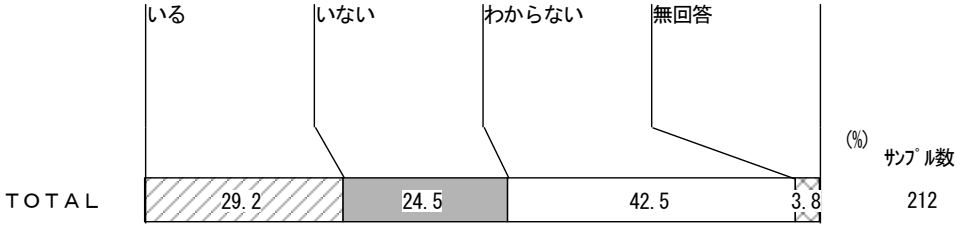
75.5%の人は、非常時に周囲に知らせることが「できる」と考えている。



（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

問 48 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。（○は１つ）

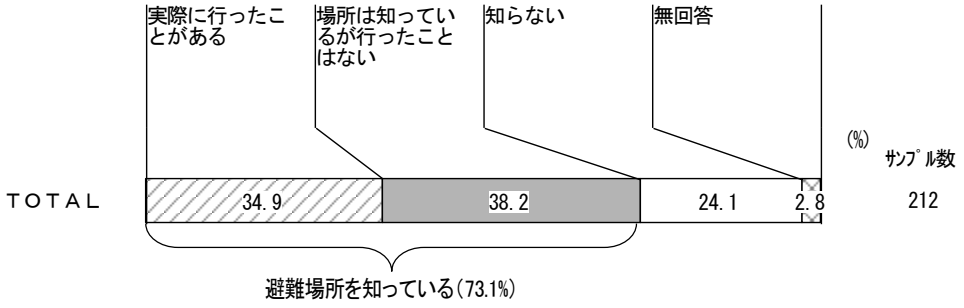
近所に助けてくれる人が「いる」人は約３割（29.2%）で、24.5%の人は近所に助けてくれる人が「いない」と回答している。



（４）避難場所の認知状況

問 49 お住まいの周辺の災害時の避難場所を知っていますか。（○は１つ）

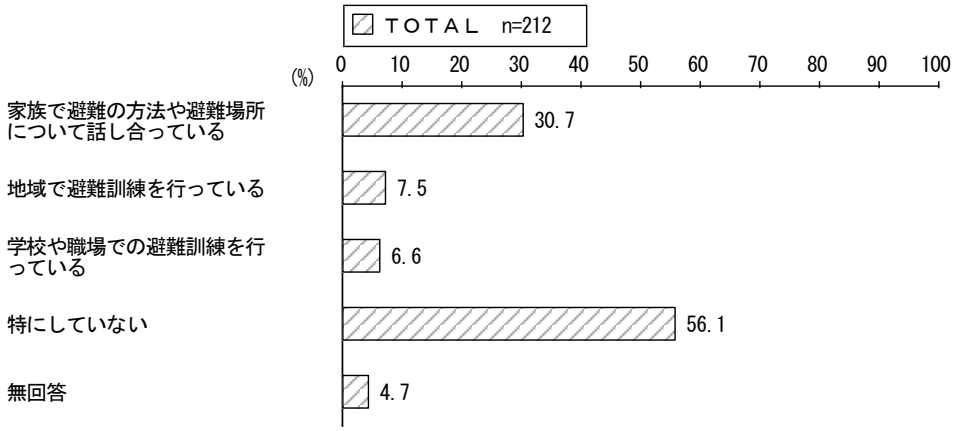
避難場所に「実際に行ったことがある」人は 34.9%で、38.2%の人は「場所は知っているが行ったことはない」と回答している。



（５）避難に関する準備状況

問 50 災害時の避難について、以下のようなことをしていますか。（○はいくつでも）

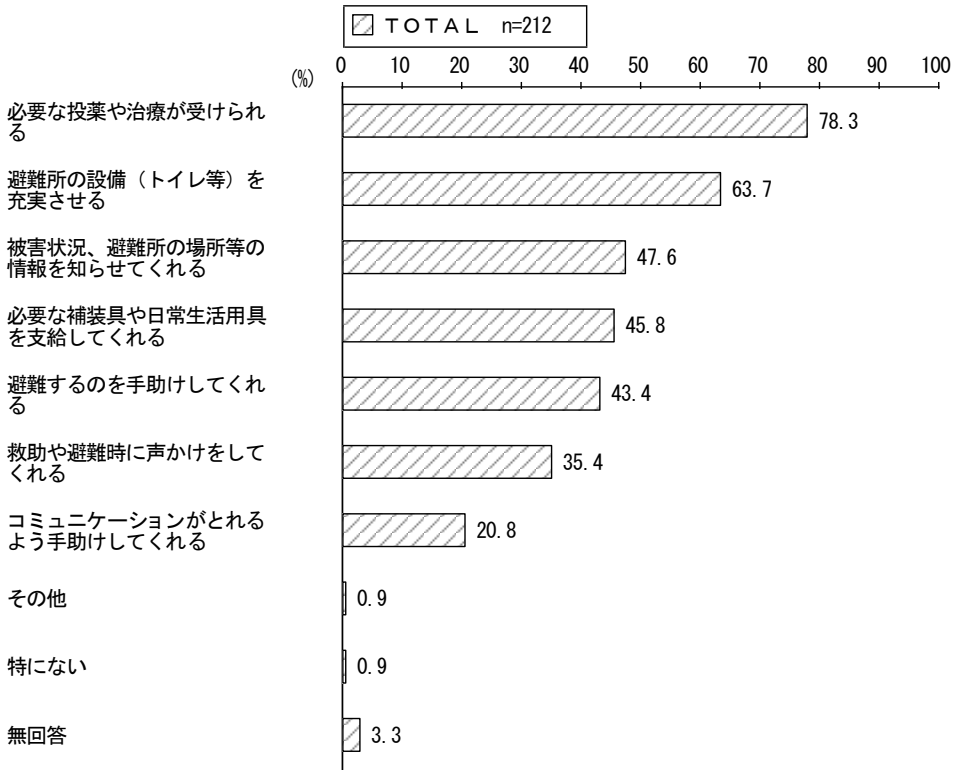
「家族で避難の方法や避難場所について話し合っている」人は約３割（30.7%）で、56.1%の人は避難の準備を「特にしていない」状況である。



（６）災害時に必要とする支援・援助

問 51 災害時にどのような支援・援助があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

災害時にあるとよいと思う支援・援助としては、「必要な投薬や治療が受けられる」ことが 78.3%と最も多く、次いで「避難所の設備（トイレ等）を充実させる」が 63.7%で続いている。

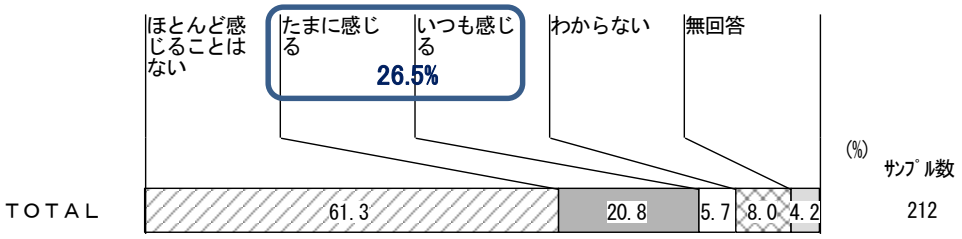


12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 52 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

約６割の人は、障害があることによる差別や疎外感を「ほとんど感じることはない」（61.3%）と回答しているが、「たまに感じる」（20.8%）と「いつも感じる」（5.7%）を合わせると、26.5%の人は差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 53 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

【言葉や視線】

- すくみ足や前傾姿勢で歩いているところを見られた時。（60 代）
- 近所の人と話していて、かわいそうにと言われた時。（40 代）
- すれちがってふり返られた時（50 代）
- 杖をついていると目線が気になる（50 代）
- 足を引きずって歩いているので変な目で見られる。（70 代）

【就労・職場】

- 以前勤めていた所を、入院をきっかけに解雇された。（40 代）
- 仕事がない。お金がない。理解がない。（50 代）
- 会社の人事（30 代）
- 就職、結婚（30 代）
- 他人から見れば健常者にしか見えないので、仕事上健常者と同様の事を行っているが、持久力がないので体力的にきつい場合がある。（40 代）
- 就活の時（30 代）
- ストレスをかかえると症状が悪化するので、就職時に長く続けられますか？と疑われるのが嫌（30 代）

【交流の機会】

- 会話が通じない時など（30 代）
- 話をしても無視される。（70 代）
- 集団で行動する時に動作が鈍いため。（60 代）
- 人と同じ物が食べられないため、食事会など誘われなくなったし、自分からも言えない。（50 代）
- 自然に対応できない。コミュニケーションのとり方。（60 代）
- 病気を気にして自分からも相手からも気安く誘えない。（40 代）
- 身内の結婚式や法事、あるいは同窓会などに出席できない時など。（60 代）

【障害に対する理解不足・誤解】

- 外見では障害の有無を理解してもらえないため、嫌味を言われたり誤解されてしまう。（30 代）
- 周囲の人には自分の病状の変化がわかりづらく、本当に病気なのかわかってもらえない時に感じる。（50 代）
- 見た目では分からない為。（体調の良い時と悪い時の差が激しい。）（30 代）
- 見た目に何でもなく一見普通に見えるので、体の悪いところ（肩に岩がのっている感じとか、しびれ、まひ）がわからず、悲しい思いをしています。（70 代）
- トイレに行く回数が多い為、またトイレかと白い目で見られる。（30 代）
- 聞きなれない病名なので、理解してもらえないことがある。（50 代）

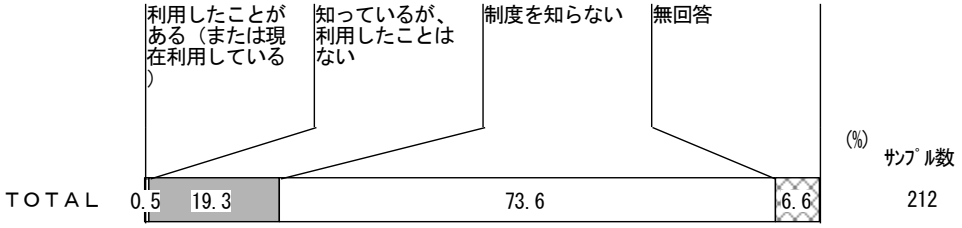
【その他】

・ 膠原病以外の事で他の病院に行くと大抵、診察する事なく「主治医にみてもらえ」と断わられる時疎外感を感じます。（30 代）
・ 自由に体が動かない時。（60 代）
・ このアンケートに答えること。（30 代）
・ 難病や障害を持つ大変さは本人にしかわからず、体調の悪い時が続くと、心細く不安な気持ちになる。病院に行っても治る訳でもなく、不安感は強い。（70 代）
・ 私の場合、視野が極端に狭く中心部しか見えません。他人がすぐに認識できる物を、私はなかなか認識できない現実を突きつけられた時。（50 代）
・ 病状が重度の時（30 代）
・ 障害者の人のほうがすごく大事にされて、難病患者は軽くしか思っていないのでくやしい（30 代）
・ 私はもともと、子供を持つことを希望していませんし、私の病気では、出産は可能なのですが、難病指定の病を患っていると、子供を産めないのではないかと思い込んでいる人がいる。また、そのことについて詮索しようとする人がいる。非常に不快である。（30 代）
・ 自治会の当番等は順番でやるのはあたりまえだと。（60 代）
・ この病気になって車を運転中、てんかんをおこし事故をおこしました。それで運転免許は取り消しになりました。免許は無理（医師）→本人確認の時に運転免許がないと変な目で見られる。（50 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 54 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

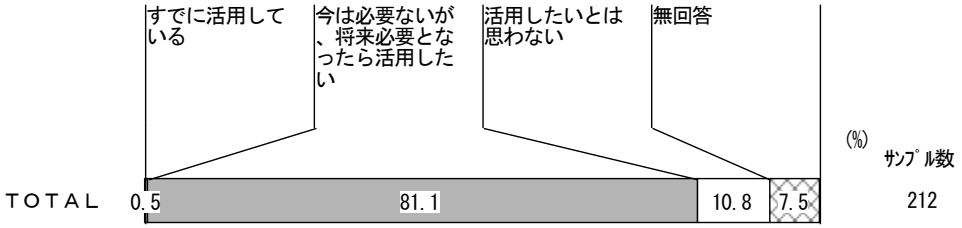
「あんしんサポートねっと」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 1 人（0.5%）、「知っているが、利用したことはない」人は 19.3%で、合わせると事業のことを知っている人は約２割（19.8%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 55 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

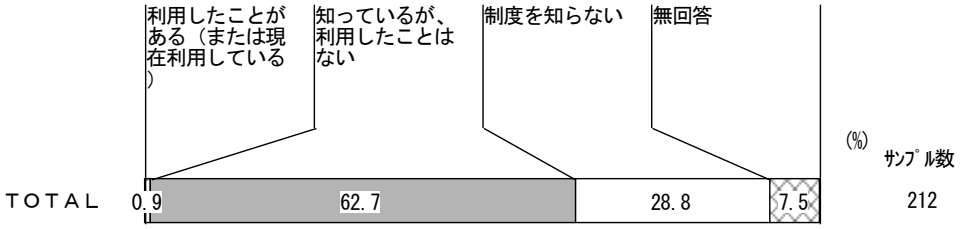
「あんしんサポートねっと」については、約８割の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」（81.1%）と考えている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 56 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

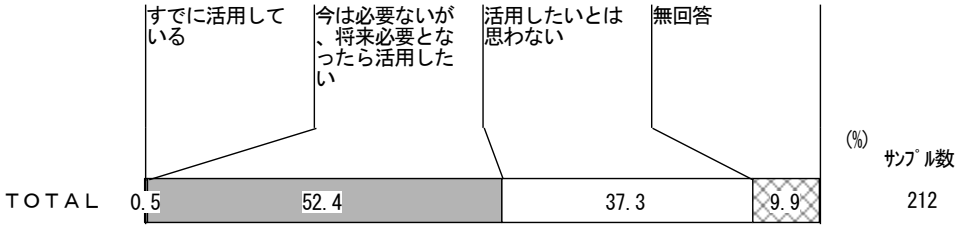
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 2 人（0.9%）、「知っているが、利用したことはない」人は 62.7%で、合わせると制度のことを知っている人は６割強（63.5%）である



（６）成年後見制度の利用意向

問 57 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、52.4%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。

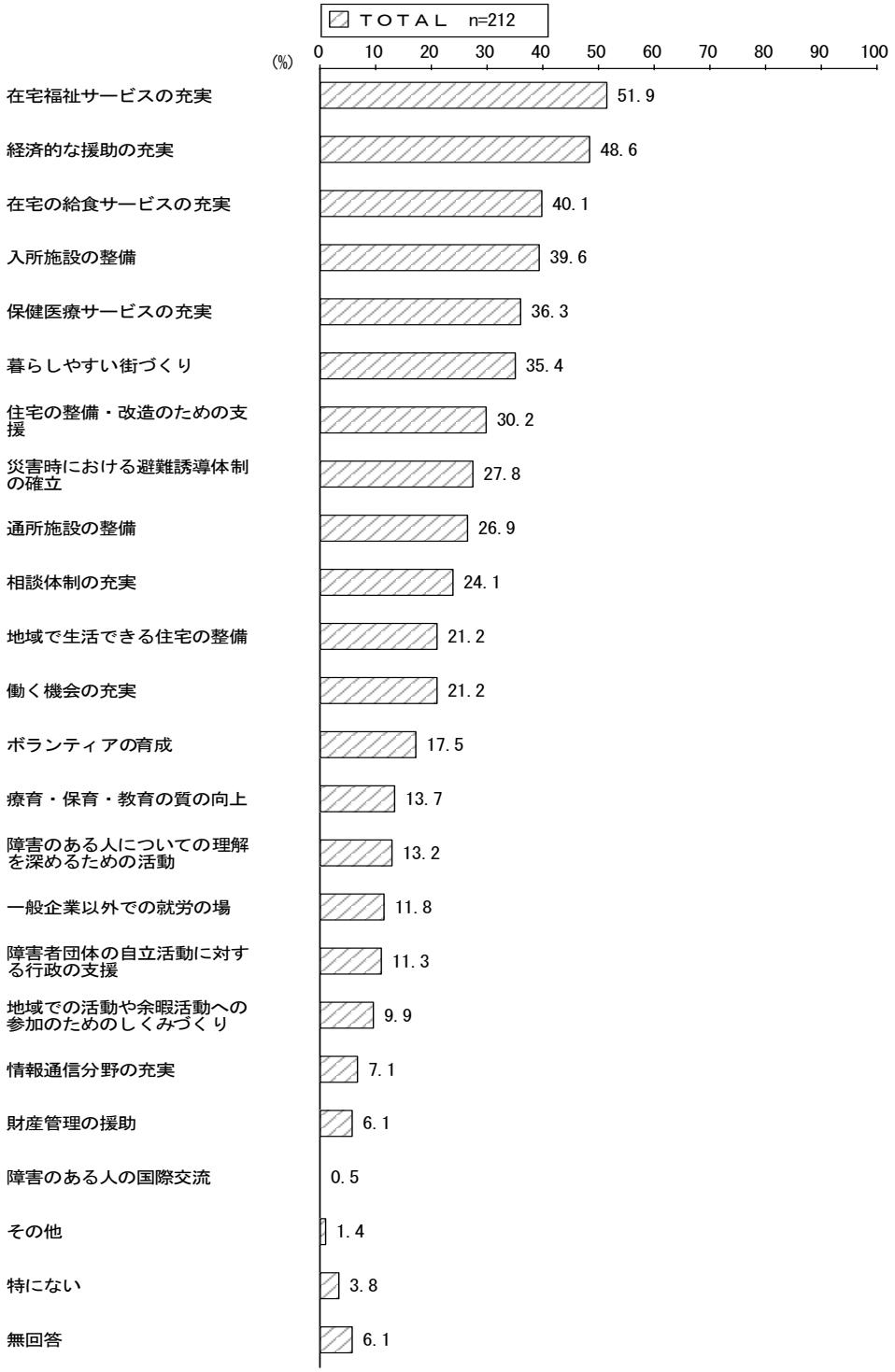


13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

問 58 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

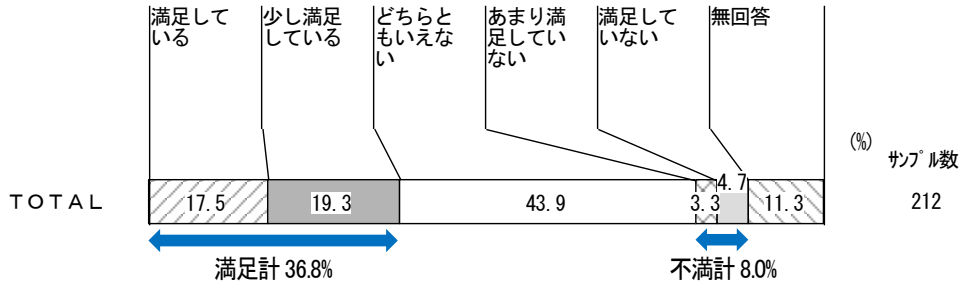
市が充実させていくべきこととしては、「在宅福祉サービスの充実」をあげる人が 51.9%と最も多く、次いで「経済的な援助の充実」（48.6%）、「在宅の給食サービスの充実」（40.1%）、「入所施設の整備」（39.6%）と続いている。



（２）福祉サービス全般の満足度

問 59 川越市の福祉サービス全般について、満足していますか。（○は１つ）

福祉サービス全般については、「満足している」人は 17.5%、「少し満足している」人は 19.3%で、合わせると36.8%の人は概ね満足していることがわかる。一方、「満足していない」は 4.7%、「あまり満足していない」は3.3%で、満足していない人は 8.0%となっている。



（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【環境整備などに関すること】

- シャトルバスの便が減って不便になった。（60 代）
- 障害者用の公共駐車場の位置や造り方がおかしい。どうしたら使いやすくなるのか障害者に相談してほしい。（40 代）

【相談、手続き、情報提供に関すること】

- 申請の受け付けは、毎日、各エリアでしてほしい。（40 代）
- 市の福祉サービスの内容全般についてはもっと広報活動を望む。（70 代）
- 川越市の方から障害者、難病の患者に情報を伝えて欲しい。（40 代）
- パソコンも携帯もないため、近ごろは病気や福祉サービスだけでなく、すべてにおいて、情報難民になりつつあります。せめて市の情報は「詳細はホームページで・・・・」なんてしないで下さい。（50 代）
- いろいろな制度やお知らせなど、もう少しわかりやすく書いてほしいです。簡単なことでも書類になるとむずかしい言葉が使ってあったりしてわかりにくいです。（40 代）
- 日常生活用具費について詳しく知りたいです。役所窓口に行かずに教えていただきたいと思います。（30 代）
- 昨年難病の再成不良性貧血になりました。病気になると、その人の回りの家族までもが、精神的に悩んだりするので、その時に気軽に相談できるそして前向きに指導してくださる方をたくさん、雇って欲しい。（40 代）

【各種サービスに関すること】

- 今の状態を維持できるよう、機能訓練を受けたい。（60 代）
- 障害者等生活サポート事業の件で要望します。使用するのに不便を感じています。希望する時間帯に事業者がいない、個人負担が高い。事業者を多くし、個人負担を低くしてくれることを要望します。（60 代）
- 在宅福祉サービスの充実。ヘルパーさんの教育で、レベルアップ。（60 代）
- 自宅を 16 年前に建てました。当時より病気を持っていたため、将来、車椅子生活になる不安もあったのでエレベーターをつけたり、車椅子でも生活が出来る様に設計したので標準より少し大きめな家になってしまいました。それ故、固定資産税等が高額になってしまいました。障害を受け、家を改築する場合には税の優遇があるのに、あらかじめ家を作った場合は何もありません。納得できません。（50 代）
- 一見障害者に見えない人へのサポートをしてほしい。（60 代）

【経済的な援助に関すること】

- 退職が前堤のため、資格取得の費用が自費になるため補助がほしいと思います。（40 代）
- 母親 88 才と一緒に暮らしています。お互いに生活をたすけあって暮らしています。生活費は、母親の年金でやっています。年 1 回の難病患者見舞金がどれほどたすかっているかわかりません。（50 代）
- 回復の見込みのない現状で、将来に対する不安は多々あります。現在は、通院し、服薬していれば安定した生活を送れていますが、病院が遠いので、将来、1 人で通院できるのか、医療費の負担が増えないか、ということがいつも気になっています。（50 代）
- 私は難病ではあるが障害者ではないので一般の人と同じ扱いのことも多い。けれどやはり普通では無いのでその差が辛い。たとえば、病気のせいで仕事もなかなか出来ず収入も無いけれど、障害者ではないので公共料金などは一般の人と同じです。行きたい所があっても運賃のことなど考え諦めてしまうことも多い。（40 代）

【就労に関すること】

- 仕事が欲しい。妻にやしなってもらっている状況。お金も足りない。さらに病気が重なって、医療費がきびしい。妻の理解もなく、おいつめられている。死んでしまいたい。（50 代）
- 現在は、体調も安定しているので、病気をかかえていない方と同じように勤務していますが、このように生活できるのも、家族や友人、同僚たくさんの周りの方の協力があってこそなのだと、日々実感しています。（30 代）

【障害に対する理解に関すること】

- 障害者のマークが車イスなので、車イスに乗らない人は多目的トイレに入りづらいです。また、オストメイトはトイレの利用に時間がかかるため、順番を待っていた車イスの方にどなられたり、ケンカになります。「時間がかかる」ことが示せる方法があったら助かります。（30 代）
- 見た目は健康な方と変わらないため理解されにくい。日によって体調の変化（倦怠感・関節痛・微熱等その他）がはげしく満足に働くことができません。体がこんなでなければ思いっきり働きたいのですができません。（30 代）
- 膠原病から心臓を悪くして 2 年半前に手術をして、障害者 1 級となりました。重たい物が持てず体調がすぐれない時、スーパーへの買い物に障害者専用駐車場に止めることがありますが、見た目では健常者のため専用駐車場に止めた時（マークは車につけてた）罵声をあびせられたことがありました。（50 代）

【医療に関すること】

- 私の病気は、近くの病院でみてもらえないので、近くに専門の病院があったら良いなと思いました。（30 代）
- 膠原病で長く通院また入院していますが、この病気以外で他病院にかかると、ろくにみてないのに「主治医の先生にみてもらって下さい」で終わってしまい、高い初診代を払って終わってしまいます。どこか 1 ヶ所でたらい回しにすることなく包括的にみてみもらえる施設があると良いと思います。（30 代）

【認定基準に関すること】

- 甲状腺刺激ホルモンの基準値を満たしていないため、継続承認されず、ホルモン補充の薬が自己負担になった。主治医からはこれからも投薬を続けなければいけないのに、認定されないのはおかしいと言われた。（50 代）
- パーキンソン病は天候や自分の気分により、障害のあらわれ方が違うので、30 分程度見るだけで支援ランクを決めないでほしい。だんだん体が動かなくなるのが不安です。（70 代）
- 病名で区切るのではなく、あくまでも生活上の支障を基準に支援をするべきだと思います。（60 代）

【その他】

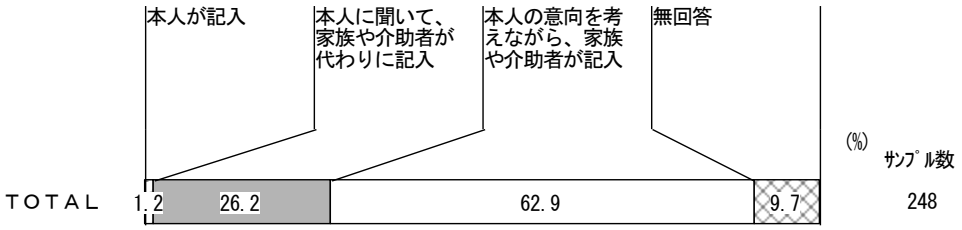
- 住みやすい町づくり、暮らしやすい行政を推進していただきたい。（60 代）
- 川越市の福祉サービスにはとても満足しております。（60 代）
- 潰瘍性大腸炎で腸を全摘し、胃癌、前立腺癌と不自由な体ですが、どうにか生活しています。市や障害福祉課の温かなことを今回いろいろと知ることができ、今後心強いです。（70 代）
- 多方面にわたって取組んで下さっている市の福祉課の方々に本当に感謝しています。（70 代）
- 「障害者」ではなく「障がい者」と表記するのが適切と思われます。今後ご検討いただきたい。（40 代）
- 高齢化に伴い、体の機能がますます衰えていくので不安を感じます。（60 代）
- 災害時に家にいる場合は、歩けないため家から出られません。（70 代）
- 病気が悪くなり、いろいろな面で大変だと思う。（60 代）
- 川越駅でタクシーを利用した時、ドライバーの思いやりのない態度に、利用したくないという気持ちになります。なんであんなに横柄な口のきき方、態度ができるのでしょうか。（30 代）
- 在宅高齢者と市との通信窓口開設と実施。（70 代）
- 皆様の負担にならぬよう、自分で出来ることは、進んでやりたいと思います。自助が第一と存じます。（70 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

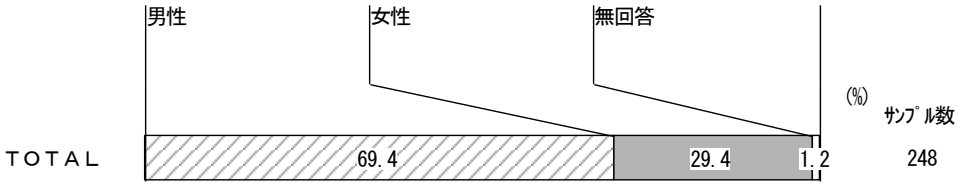
「本人が記入」が 1.2%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 26.2%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 62.9%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

男性が 69.4%、女性が 29.4%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

30 代が 31.9%、40 代が 33.1%、50 代が 12.9%で、平均年齢は 44.6 歳である。

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
n=248	0.4%	6.0%	31.9%	33.1%	12.9%	8.9%	4.8%	0.4%	1.6%

（４）障害の状況

問４ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体でみると、「身体障害者手帳を持っている」人は 28.2%、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人は 82.3%である。

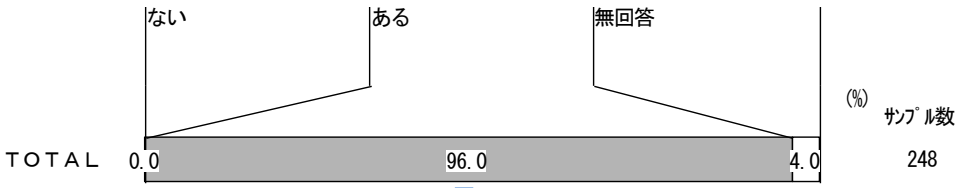
障害の重複状況をみると、「身体障害者手帳」所持者 70 人のうち 33 人（47.1%）は「みどりの手帳」も所持している。また、「みどりの手帳」所持者 204 人のうち 58 人（28.4%）は「発達障害と診断されたことがある」ことがわかる。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳(療育手帳)を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患(難病)を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	248 100.0%	70 28.2%	204 82.3%	2 0.8%	2 0.8%	2 0.8%	64 25.8%	4 1.6%
身体障害者手帳を持っている	70 100.0%	70 100.0%	33 47.1%	1 1.4%	－ －	2 2.9%	7 10.0%	－ －
みどりの手帳(療育手帳)を持っている	204 100.0%	33 16.2%	204 100.0%	－ －	1 0.5%	－ －	58 28.4%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	2 100.0%	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	
国・埼玉県が指定する特定疾患(難病)を患っている	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －
高次脳機能障害と診断されたことがある	2 100.0%	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	64 100.0%	7 10.9%	58 90.6%	－ －	1 1.6%	－ －	64 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	4 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	4 100.0%

（５）障害程度区分

問５ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ない」と回答した人はいない。区分としては、「区分６」が 65.5%、「区分５」が 23.1%を占める。



《認定区分内訳》

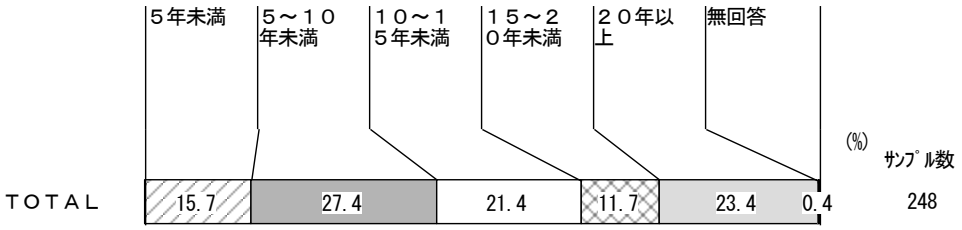
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	申請中	無回答
n=238	0.4%	0.8%	2.1%	5.9%	23.1%	65.5%	0.4%	0.4%	1.3%

2 施設入所の状況

（１）入所期間

問６ 現在の施設に入所してからの期間をお答えください。（○は１つ）

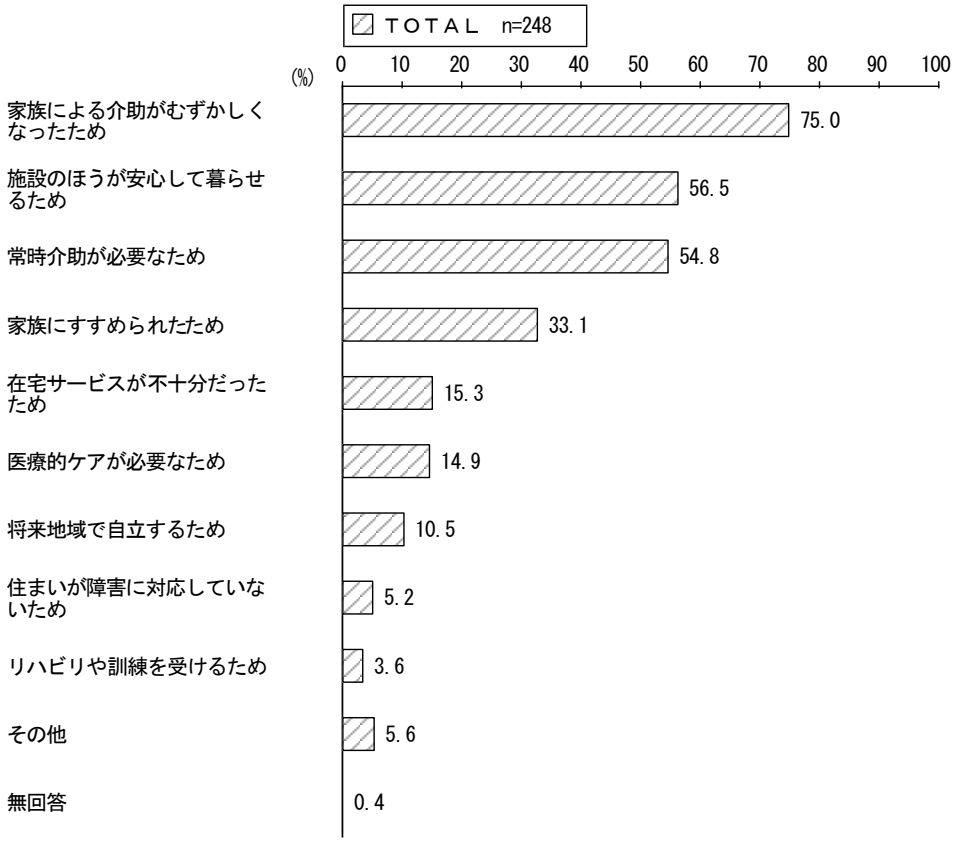
入所期間は、「5 年未満」が 15.7%、「5～10 年未満」が 27.4%、「10～15 年未満」が 21.4%、「15～20 年未満」が 11.7%、「20 年以上」が 23.4%である。



（２）入所を決めた理由

問７ 現在の施設へ入所することを決めた理由はなんですか。（○はいくつでも）

入所を決めた理由は、「家族による介助がむずかしくなったため」が 75.0%と最も多く、次いで「施設のほうが安心して暮らせるため」（56.5%）、「常時介護が必要なため」（54.8%）と続いている。

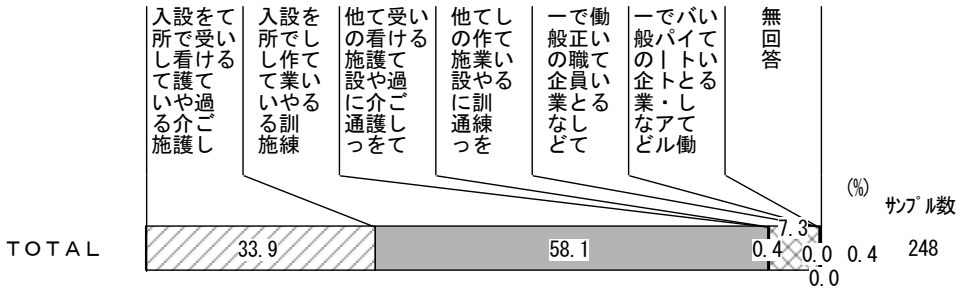


3 施設での生活状況

（１）日中の過ごし方

問８ あなたはふだん、主に日中をどのように過ごしていますか。（○は１つ）

日中の過ごし方としては、「入所している施設で作業や訓練をしている」人が 58.1%、「入所している施設で看護や介護を受けて過ごしている」人が 33.9%である。



（２）自宅へ帰る頻度

問９ 最近１年間、どのくらい自宅に帰りましたか。（○は１つ）

最近１年間で、「10 回以上」自宅に帰った人が 52.8%いる一方で、「この１年間は帰っていない」人が約２割（20.6%）いる状況である。

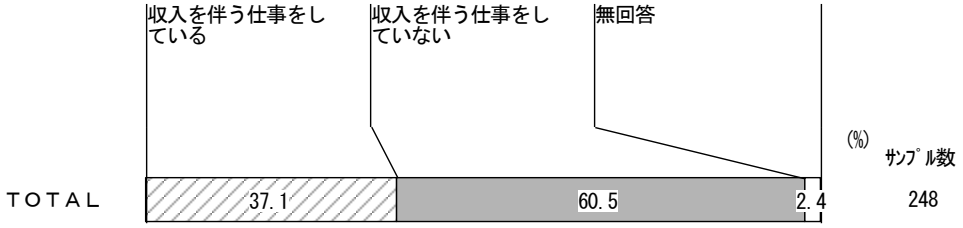
入所期間別にみると、「20 年以上」入所している人は、「10 回以上」自宅に帰った人の割合が高く、約８割（81.0%）を占めている。また、入所期間が「5 年未満」の人のうち約１割は「帰る自宅はない」（10.3%）と回答している。

入所期間	n	10回以上	6～9回	3～5回	1～2回	この1年間は帰っていない	帰る自宅はない	無回答
TOTAL	248	52.8%	2.4%	7.3%	12.5%	20.6%	4.0%	0.4%
5年未満	39	33.3%	2.6%	12.8%	15.4%	25.6%	10.3%	－
5～10年未満	68	48.5%	4.4%	4.4%	19.1%	20.6%	2.9%	－
10～15年未満	53	43.4%	3.8%	11.3%	13.2%	20.8%	5.7%	1.9%
15～20年未満	29	48.3%	－	3.4%	10.3%	34.5%	3.4%	－
20年以上	58	81.0%	－	5.2%	3.4%	10.3%	－	－
無回答	1	100.0%	－	－	－	－	－	－

（３）収入を伴う仕事の有無

問 10 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

37.1%の人が、現在「収入の伴う仕事をしている」と回答している。

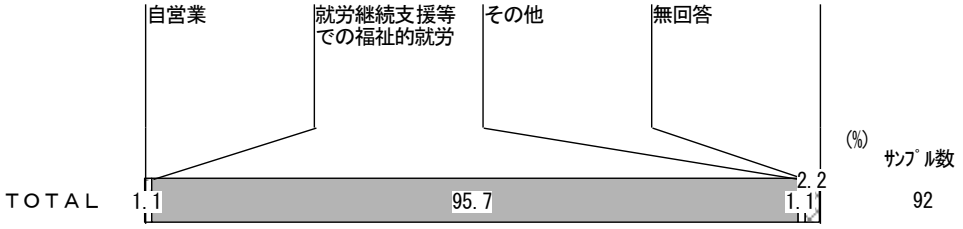


（４）仕事の形態

問 11 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

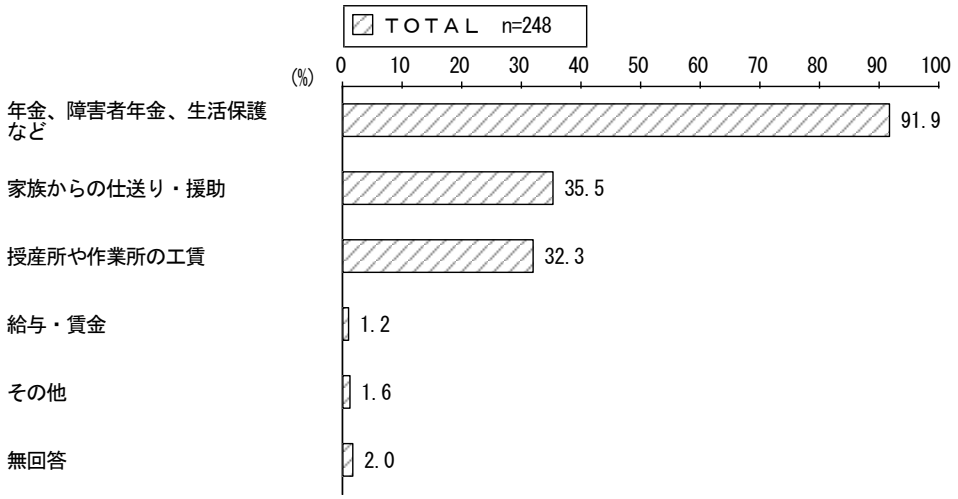
仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 95.7%を占める。



（５）生活を支える収入

問 12 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

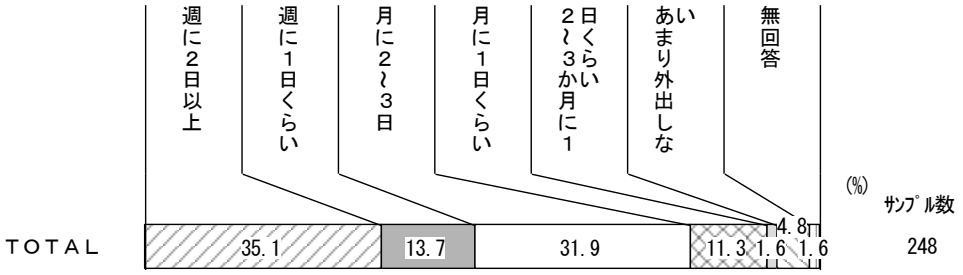
生活を支えている収入としては、「年金、障害者年金、生活保護など」をあげる人が 91.9%、「家族からの仕送り・援助」が 35.5%、「授産所や作業所の工賃」が 32.3%である。



（６）外出の頻度

問 13 どのくらい外出していますか（施設の敷地内での散歩などは含めないでください）。（○は１つ）

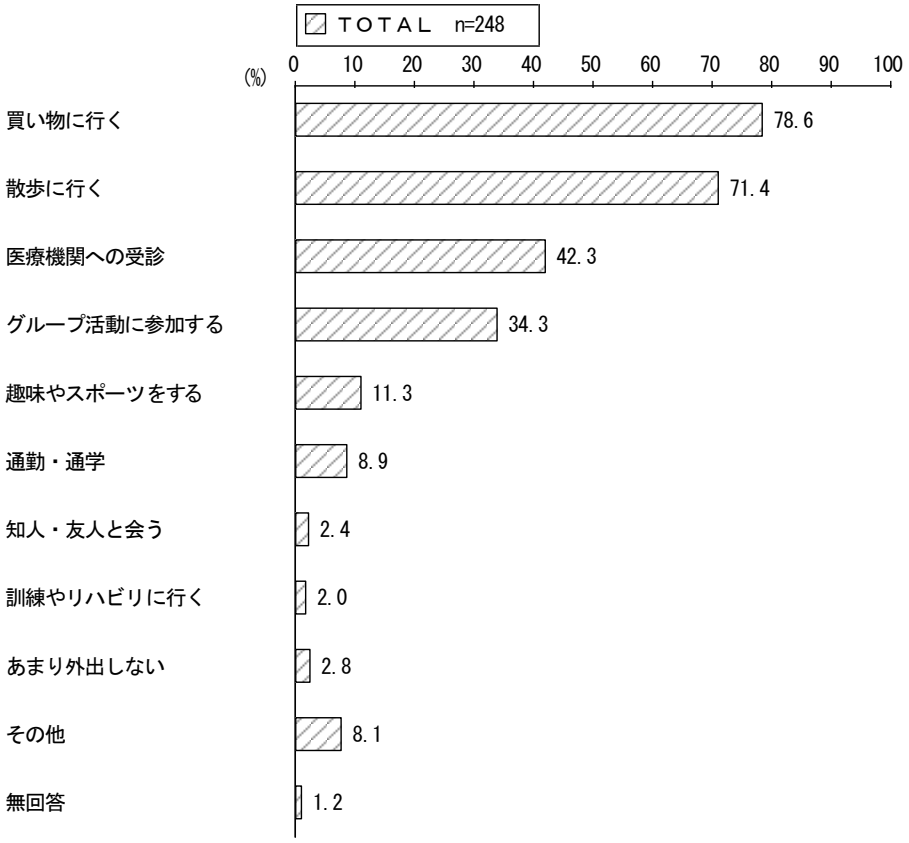
外出の頻度は、「週に２回以上」が 35.1%、「週に１日くらい」が 13.7%で、約半数の人は週に１回以上は外出しているが、約３割の人は「月に２～３日」（31.9%）の外出状況となっている。



（７）外出の目的

問 14 どのような目的で外出することが多いですか。（○はいくつでも）

外出の目的は、「買い物に行く」（78.6%）と「散歩に行く」（71.4%）がそれぞれ７割を超えて特に多い。

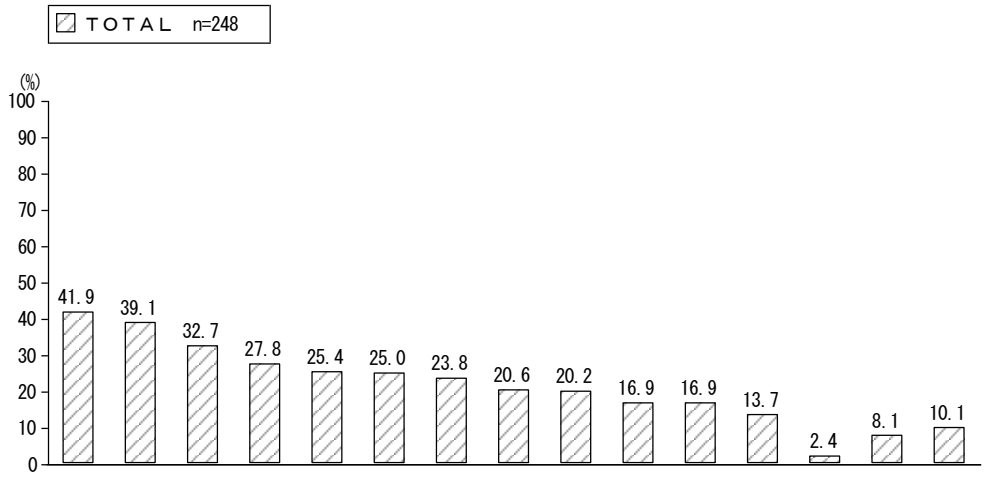


（８）外出の際に困っていること

問 15 外出するときに困っていることがありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、「外出の機会が少ない」ことをあげる人が 41.9%と最も多く、次いで「まわりの人助け・配慮が足りない」（39.1%）、「駅構内の移動・乗り換え」（32.7%）と続いている。

障害の種類別にみると、「身体障害者手帳を持っている」人では、「建物の階段・段差」（38.6%）、「歩道・道路の段差」（37.1%）、「トイレの利用」（32.9%）をあげる人が３割以上と多い。また、「発達障害と診断されたことがある」人では、「駅構内の移動・乗り換え」（53.1%）と「まわりの人の手助け・配慮が足りない」（51.6%）が５割以上と特に多くなっている。



	問４ 障害、疾病状況（複数回答）（あてはまるものはない＋無回答）	n	1 外出の機会が少ない	11 足りないまわりの人の手助け・配慮が	7 駅構内の移動・乗り換え	9 トイレの利用	3 歩道・道路の段差	6 建物の階段・段差	2 付き添ってくれる人がいない	4 歩道・道路の障害物	12 周囲の目が気になる	5 バスやタクシーなどの乗り降	10 駅の券売機の利用	8 にくいエレベーターの場所がわかり	13 とくに困っていることはない	14 その他	15 無回答
0	TOTAL	248	41.9	39.1	32.7	27.8	25.4	25.0	23.8	20.6	20.2	16.9	16.9	13.7	2.4	8.1	10.1
1	身体障害者手帳を持っている	70	44.3	20.0	15.7	32.9	37.1	38.6	14.3	28.6	12.9	11.4	12.9	12.9	5.7	2.9	7.1
2	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	204	43.6	44.6	37.7	28.9	25.0	24.0	26.0	20.1	23.5	19.1	18.6	13.7	1.5	8.8	9.3
3	精神障害者保健福祉手帳を持っている	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
4	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
5	高次脳機能障害と診断されたことがある	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	発達障害と診断されたことがある	64	18.8	51.6	53.1	12.5	20.3	20.3	20.3	14.1	14.1	17.2	9.4	7.8	1.6	12.5	12.5
7	上記にあてはまるものはない（無回答含む）	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0

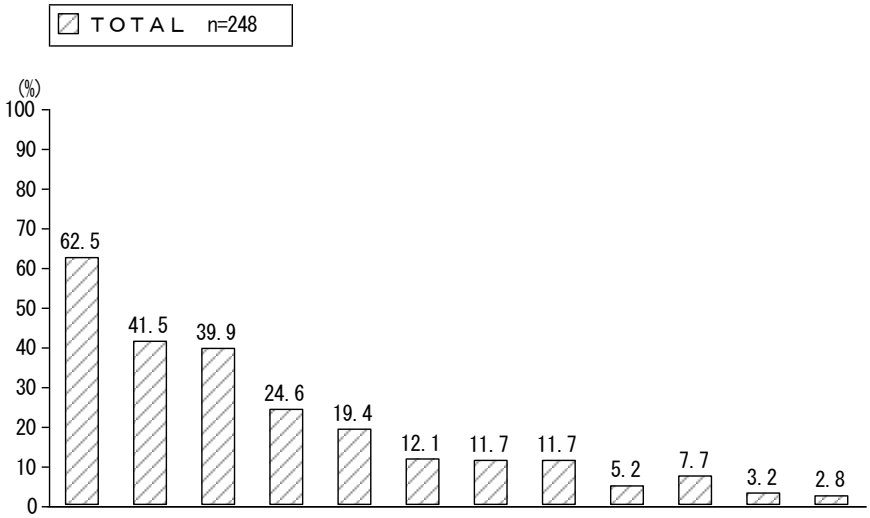
※ 複数の障害がある場合はそれぞれにカウント

（９）日常生活で困っていること

問 16 日常生活で困っていることがありますか。（○はいくつでも）

日常生活で困っていることとしては、「自分の身のまわりのことができない」ことをあげる人が 62.5%と最も多く、次いで「健康状態に不安がある」（41.5%）、「外出の機会が少ない」（39.9%）と続いている。

入所期間別にみると、「家族とあまり会えない」ことをあげた人の割合は、入所期間が短いほど高くなっている。また、入所期間が「５年未満」と短い人では、「施設での生活内容に不満がある」（28.2%）や「施設職員や入所者との関係がうまくいかない」（20.5%）をあげる人の割合が、５年以上の入所期間の人に比べて高くなっている。

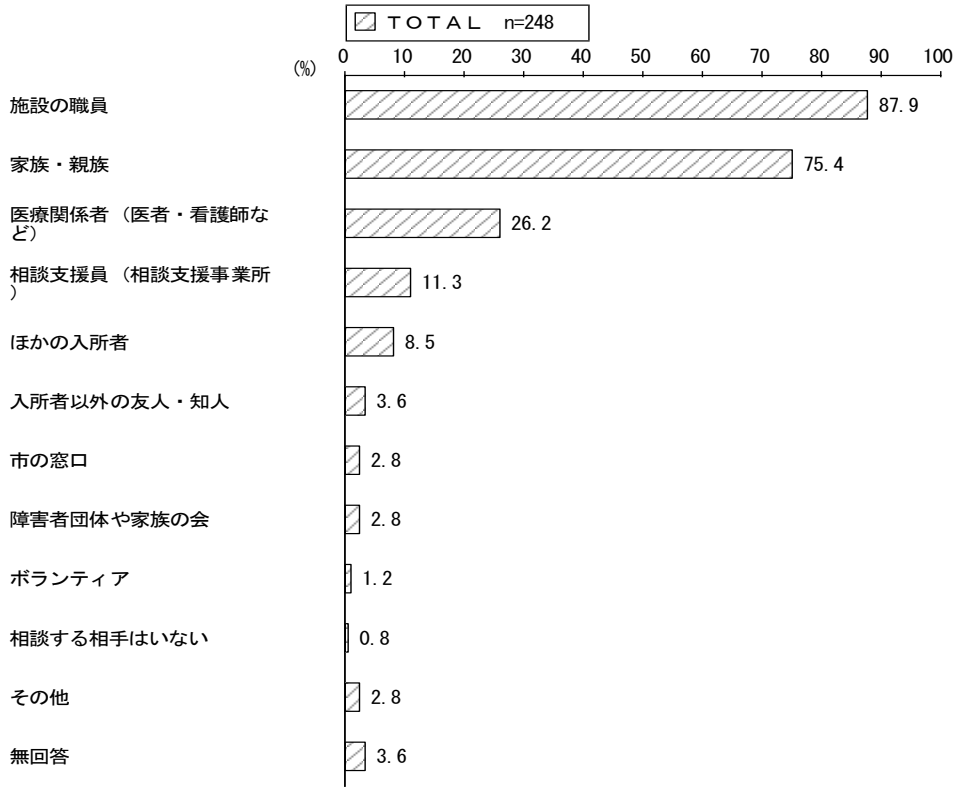


	問６ 施設への入所期間	n	1 自分で身のまわりのことができない	2 健康状態に不安がある	6 外出の機会が少ない	8 家族とあまり会えない	9 将来の生活に不安を感じている	5 プライバシーが十分保てない	3 施設での生活内容に不満がある	7 施設職員や入所者との関係がうまくいかない	4 施設での作業や訓練に不満がある	10 とくに困っていることはない	11 その他	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	248	62.5	41.5	39.9	24.6	19.4	12.1	11.7	11.7	5.2	7.7	3.2	2.8
1	５年未満	39	59.0	35.9	43.6	35.9	17.9	10.3	28.2	20.5	7.7	12.8	0.0	0.0
2	５～１０年未満	68	66.2	51.5	69.1	32.4	23.5	10.3	8.8	5.9	8.8	7.4	4.4	0.0
3	１０～１５年未満	53	49.1	47.2	43.4	26.4	11.3	17.0	13.2	11.3	3.8	7.5	1.9	5.7
4	１５～２０年未満	29	62.1	34.5	13.8	13.8	34.5	13.8	6.9	13.8	3.4	6.9	3.4	0.0
5	２０年以上	58	74.1	31.0	13.8	12.1	15.5	10.3	5.2	12.1	1.7	5.2	5.2	6.9
6	無回答	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（10）困ったときの相談先

問 17 あなたが困ったときに相談する相手はだれますか。（○はいくつでも）

困ったときに相談する相手は、「施設の職員」が 87.9%、「家族・親族」が 75.4%と特に多い。

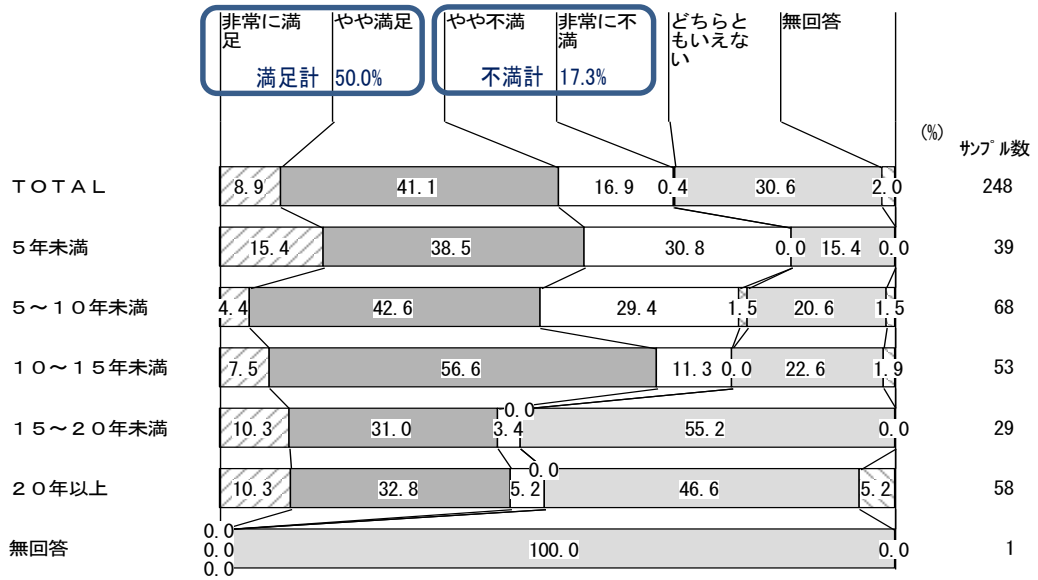


（11）施設生活の満足度

問 18 現在入所している施設の生活に満足していますか。（○は１つ）

現在入所している施設の生活に「非常に満足」している人は 8.9%、「やや満足」している人は 41.1%で、合わせると約半数の人は概ね満足していることがわかる。

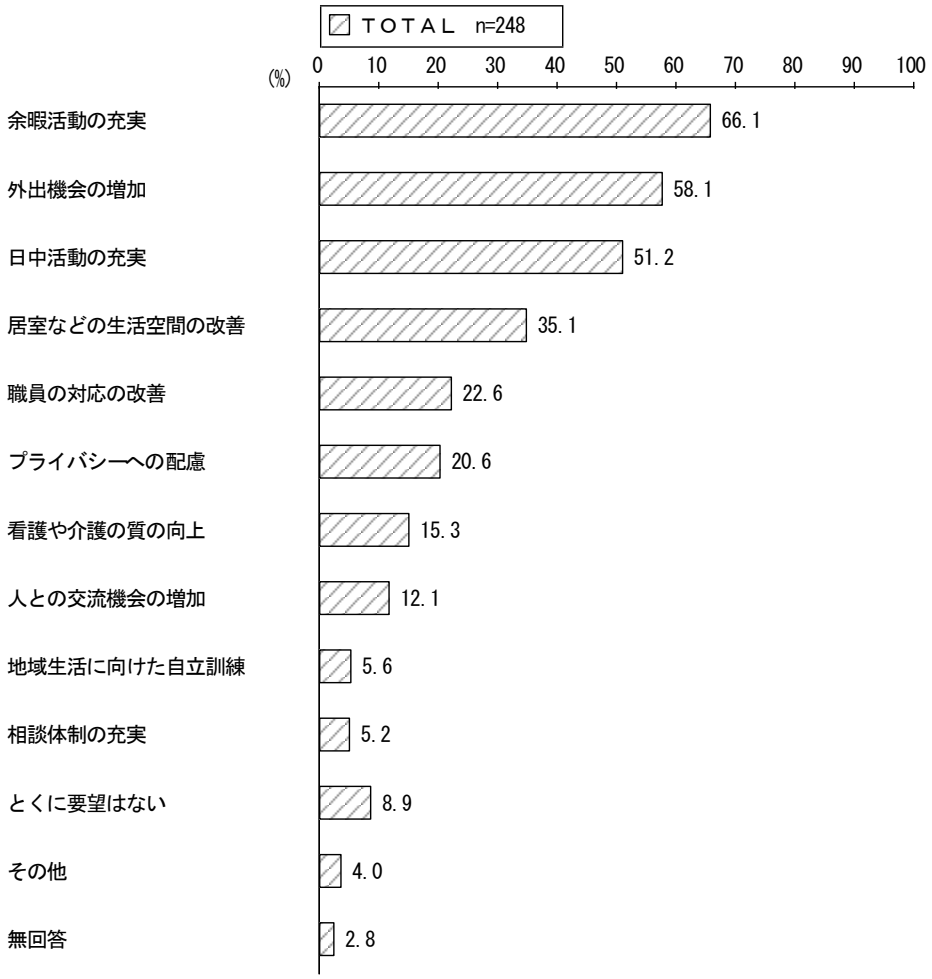
入所期間別にみると、入所期間が「5 年未満」、「5～10 年未満」では、「やや不満」と感じている人が約 3 割みられるが、「10～15 年未満」では約 1 割（11.3%）、「15～20 年未満」、「20 年以上」では数パーセントと、不満を感じている人の割合が低くなっている。



（12）施設への要望

問 19 入所している施設に対してどのような要望がありますか。（○はいくつでも）

入所している施設への要望としては、「余暇活動の充実」をあげる人が 66.1%と最も多く、次いで「外出機会の増加」（58.1%）、「日中活動の充実」（51.2%）と続いている。

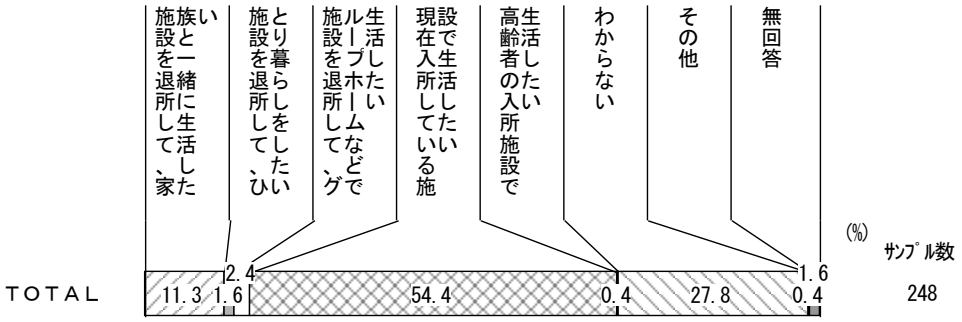


4 将来の希望

（１）将来希望する生活

問 20 あなたは将来、どのような生活をしたいと思いますか。（○は１つ）

将来は、「現在入所している施設で生活」したいと考えている人が 54.4%と最も多いが、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」人が６人（2.4%）、「施設を退所して、ひとり暮らしをしたい」人が４人（1.6%）みられる。

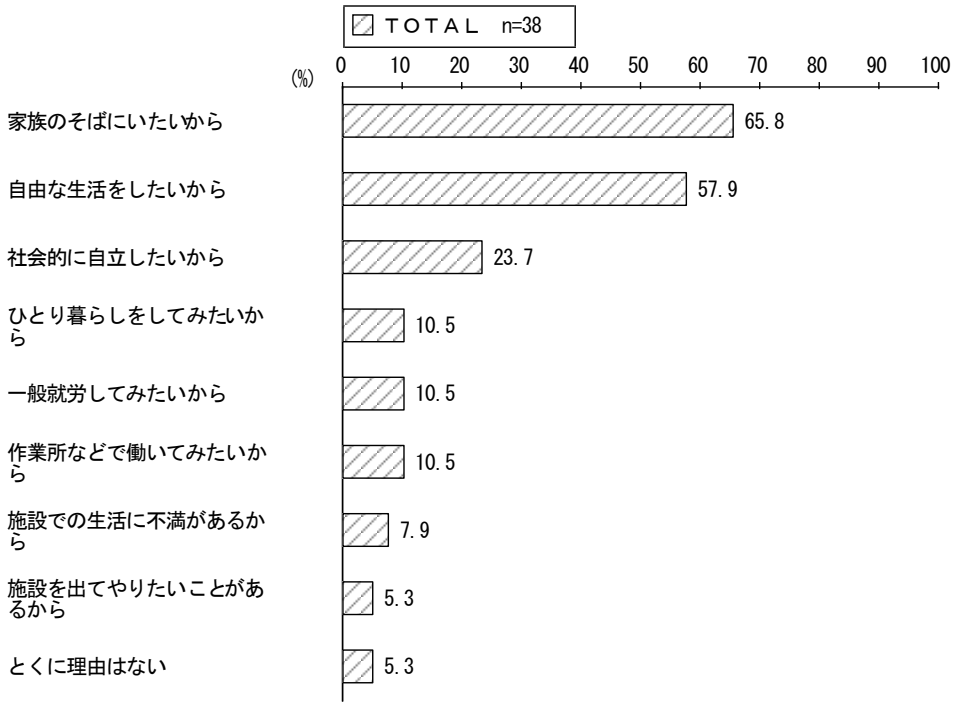


（２）施設を退所したい理由

問 21 施設を退所したい理由はなんですか。（○はいくつでも）

［退所をしたいと思われている方におききします］

施設を退所したいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「家族のそばにいたいから」（65.8%）、二番目に多かった理由は「自由な生活をしたいから」（57.9%）である。

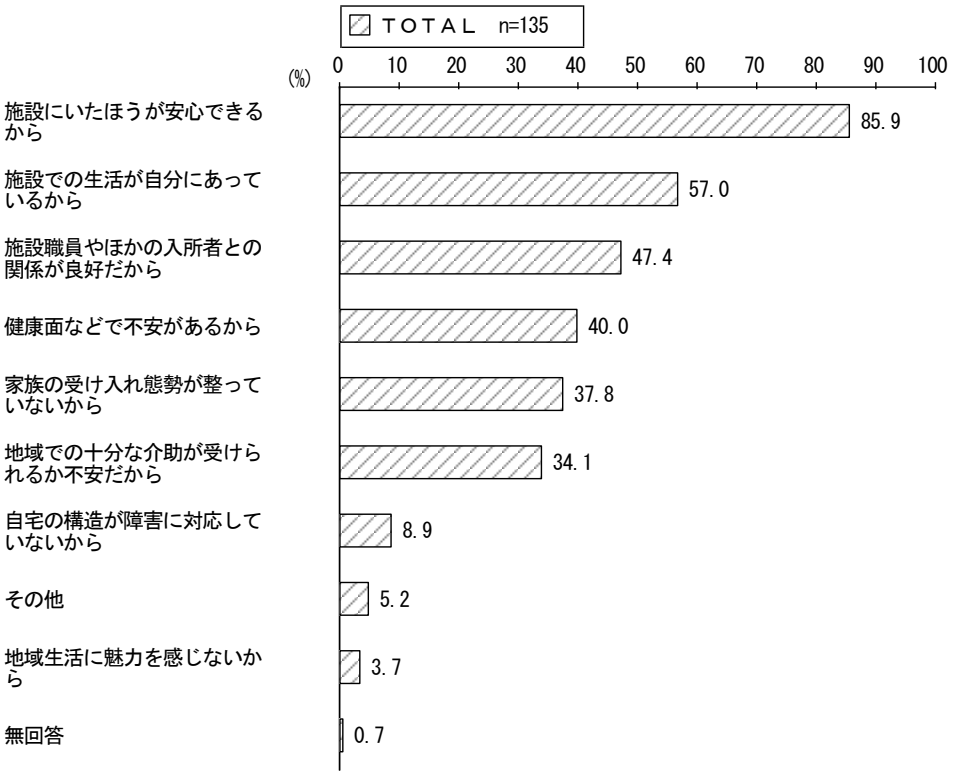


（３）施設での生活を続けたい理由

問 22 今の施設での生活を続けたい理由はなんですか。（○はいくつでも）

［現在入所している施設で生活したいと思われている方におききします］

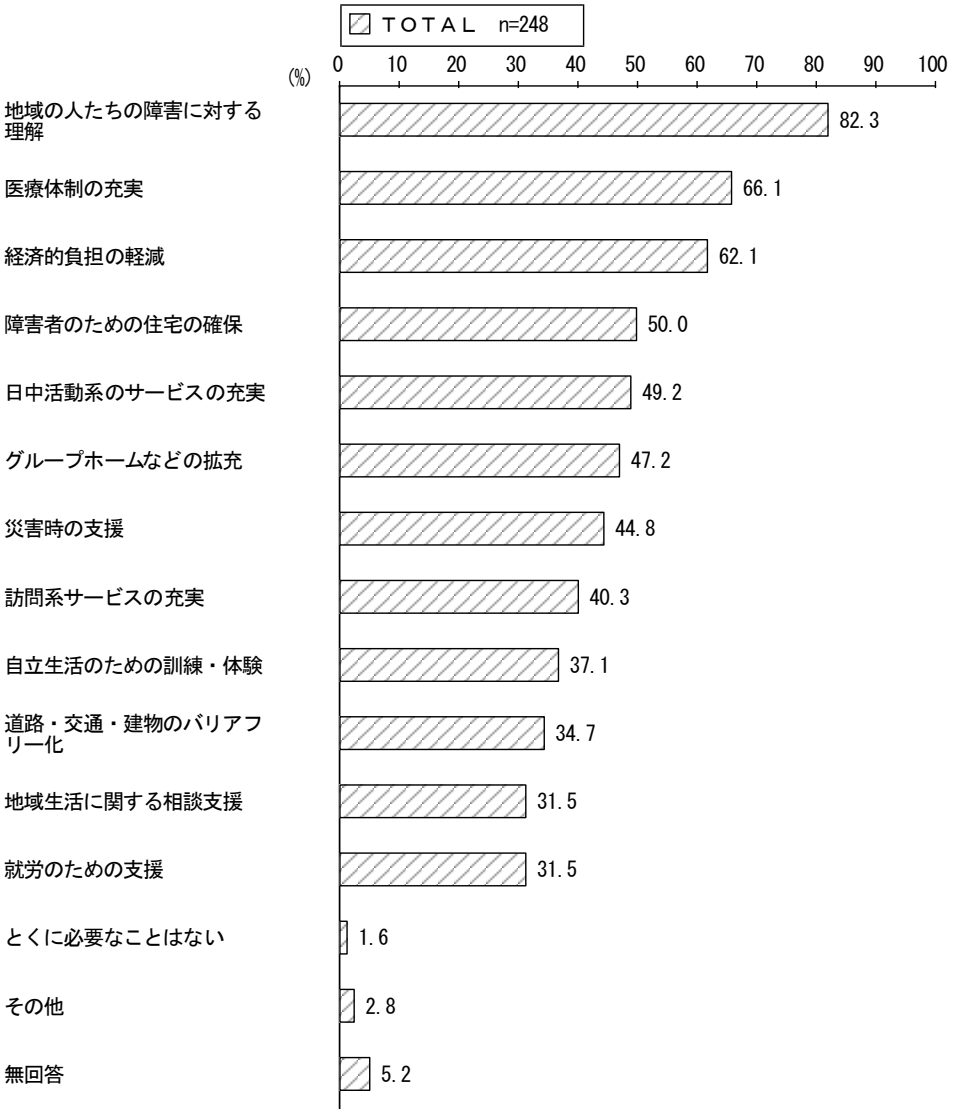
現在入所している施設で生活を続けたいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「施設にいたほうが安心できるから」（85.9%）、二番目に多かった理由は「施設での生活が自分にあっているから」（57.0%）である。



（４）障害のある人が地域で生活するために必要なこと

問 23 障害のある人が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

障害のある人が地域で生活していくために必要だと思うこととしては、「地域の人たちの障害に対する理解」をあげる人が 82.3%と最も多く、次いで「医療体制の充実」（66.1%）、「経済的負担の軽減」（62.1%）と続いている。



（５）意見・要望等

最後に、行政へのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【環境整備などに関すること】

- 体力の低下もあり、川越市内の段差等が、転倒のおそれもあり、不安です。川越市内を見回り、バリアフリーが必要な所には、改善をして下さい。（40 代）
- 横断歩道での障害者用の押しボタンが少ない。（身体障害者、全盲の人のためにもっと数を増やして欲しい）（40 代）

【各種サービスに関すること】

- ボーリングが好きだが、自分１人では外出することができません。現在はまだ母が元気で、外出につれていってもらっていますが、母が年齢を重ねると、つれていってくれる人がいません。入所施設でもヘルパーを使えるようにしていただき、楽しくすごしていきたいです。（30 代）
- 外に洋服を買いに行きたいのですが、相談できる人もおらず、職員も足りず、なかなか、買いに行けません。気軽に、買いに行けるよう、入所施設にいても、ヘルパーを使い、外出できるようにして下さい。（40 代）
- 通院が家族や施設職員だけでは厳しく手が足りていないのでヘルパーを使えるようにして頂きたい。（30 代）
- 入所利用者も気軽に移動支援を使える様にして欲しい。（40 代）
- 入所施設なのでヘルパーが使えず外出の機会が少ない。入所職員だけでは手が足りない。（30 代）
- 福祉に対するサービスの充実をしてほしい。（40 代）
- 多動で自閉症の人々のためのサポート内容の所が少なく、有料でも良いので、あるとありがたい（30 代）
- てんかん発作が多く、やりたいことがあっても発作によって生活が制限されてしまう。外出時は付き添いが必要だが、個別の動きにはなかなか施設は対応出来ないため、夕方少しコンビニに行くだけでも、ヘルパーを使えるようにしてほしい。（30 代）
- てんかん発作があるため毎日朝と夕方に服薬が必要であるが自分では忘れてしまうことがあるため付きそいが必要。休日の外出時にサポートがないと不安。（20 代）
- 通院している病院が遠いため、高齢の両親がつれていかなくてはならない。近くの医療を充実させて欲しい。また、通院も、施設の職員と行ける様にして欲しい。（30 代）

【施設の整備などに関すること】

- 入所施設やグループホーム等、障害をもった方々が暮らせる場所を作って下さい。親に支えてもらっている人達は親が高齢になると、生きて行く場所がなくなっていきます。（30 代）
- 同じような障害を持った仲間が地域でしっかりと生活をしていくためのグループホーム、入所施設等の住宅を増設して欲しい。（30 代）
- 現在、入所施設を利用したくても利用出来ない障害者が増加しています。障害者のための住宅の確保を至急お願いします。（40 代）

・ 家族と自宅で生活することが難しく、入所施設で生活をしている。それでも、まわりの利用者の声が気になったり、調子の悪い人がいると、自分も不調になってしまう。利用者の人数がもっと少ない、静かな環境のグループホームで生活がしたい。（20 代）
・ 施設を減らすのではなく、増やしながら障害者の自立を考えていく行政のやりかたをしてほしい。理由はすべての障害者が自立できるわけではないからと、入所希望待機者が多くいるのが現実だからです。（50 代）
・ 入所施設をもっと増やしてほしい。（30 代）

【工賃などに関すること】

・ 障害をもった方々が作った商品を売るために、市役所販売等、販売場所をもっと作って下さい。また作業所の工賃、年金だけでは、なかなか生活ができません。（40 代）
・ 作業所の工賃、年金だけでは、お金が足りません。障害を持った方々が、安心してくらせるように、経済的負担をなくして下さい。また、工賃があがるよう、作業所の商品の販売場所などの提供をして下さい。（20 代）
・ 作業所の工賃をもっと増やして欲しい。（30 代）

【経済的な援助に関すること】

・ 電動車イスの日本製は使いにくく、海外製の物を使用しているがとても高額なため、もっと助成金を出して負担を軽くして欲しい。（40 代）
・ 障害者年金や作業所工賃で生活をしているので、経済的負担の軽減など見直しを行ってほしい。（40 代）
・ 年金を増やしてほしい。（40 代）
・ もっと助成金関係を増やしてほしい。（50 代）
・ 施設利用にあたり、障害者の経済的負担が大きくなっており、生活するためのお金が足りない状況です。経済的負担を軽減してほしい。（50 代）

【余暇活動などに関すること】

・ 休日、障害者が利用できる講座を増やして下さい。また、その講座が、誰でも利用できるように、送迎等もして下さい。（40 代）
・ 余暇活動の充実のため、入所でも、生活サポートを使えるようにしてほしい。職員も少なく、生活サポートを使えないのでは、何もできなくなってしまう。（30 代）
・ 施設だけではすべてを解決できないので、オアシス等で自閉症の人達や重度の人を対象にした、休日の取り組みを作ってほしい。（30 代）
・ 障害者にも高齢者の様に健康づくりの場所がもう少し増えたらと欲張ってしまいます。（40 代）
・ 普段は、入所施設で生活をしており、週末は帰宅して、家族と過ごしています。それでも家族も体調が悪く、自宅の中で過したり、近所に買い物へ行くくらいのことしかできず、なかなか同年代の友達と活発に行動できるような機会が少ないので、余暇活動が充実できるような支援をつくって欲しい。（20 代）
・ 行動障害のために常に手厚い支援の体制が必要。生活の場面における食事入浴等は体制を厚くしているが、休日の過ごし方まではなかなか出来ず、外出の機会が少ない。障害の重い人でも利用できる余暇の取り組みを作ってほしい。（40 代）

【施設の職員体制などに関すること】

・ 職員が足りず、悩み等の相談をしたい時に、なかなか話せず、調子をくずしてしまう時があります。職員がしっかり配置できるよう、何か対策をとって下さい。（40 代）

- 休日、職員が入ってくれる事が少ないです。気持ちが不安定になり、話しを聞いてもらいたい時、何かをお願いしたい時もあります。また、何かあった時に、対応してほしいです。職員が、配置できるように、補助金の制度等、対策を考えて下さい。（30 代）
- 糖尿のため、毎日注射を打っていますが、看護師が少ないため、休日に入所で注射がうてず、休日入所に利用できません。もっと、職員や看護師が増えるよう、補助金等の充実をはかって下さい。（30 代）
- 入所施設で働いている際に、仲間を担当している職員が、常にその仲間のユニットに入って支援することが難しいのが現状なので、行政の運営・管理を見直してほしい。（20 代）
- 自閉症への専門性を持った職員が不足していて生活のしづらさを抱えている。（20 代）
- 施設の職員の数をもっと増やして欲しい。（40 代）
- 障害ゆえに精神的な発作が月に数回あり、１度の発作で、長いと 12 時間以上かかる時があります。その際は夜間含め通常の職員体制に１～２人多く配置し、マンツーマンで対応しています。現状の職員体制では、まだまだ人が足りず、障害の重い人への支援が十分とはいえません。（30 代）
- 自閉症者には１対１の対応が必要なので職員の増員を切にお願いします。（40 代）
- 夜間、土日は看護師がおらず、発作等あった時に不安。（30 代）
- 心臓が弱くペースメーカーが入っています。入所で生活していますが夜間に看護師がいません。いつ何があるか分からない状態です。医療体制を考えてほしいです。（30 代）

【その他】

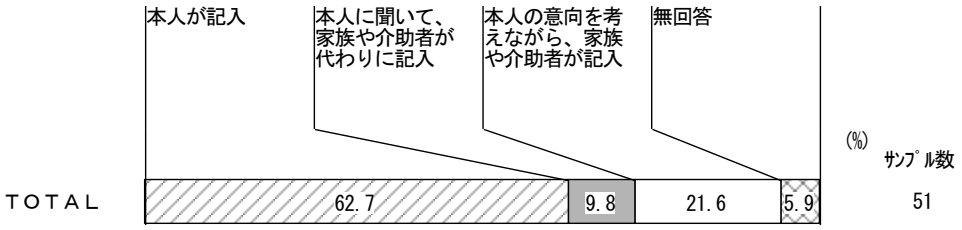
- 障害者を支援するためには、経済的負担の軽減、医療体制の充実はもちろん、地域の人々の障害に対する理解を広めていくことが必要です。地域の人々と障害者の交流の場所の提供のみならず、交流するためのイベントや障害者を理解してもらう機会を積極的に増やして欲しいと思います。（30 代）
- 地域移行を訴えることが多いが、現状では家族でみることが出来ない環境が背景にあることを知って欲しい。あくまで施設生活は最後の手段としていることを考えてもらいたい。
- 障害のある人がグループホーム等地域で暮らすにはまだまだ制度が不十分。入所施設を利用している人が地域移行するには難しい。（30 代）
- 親子での面会なども支えてくれる機会が欲しい。（40 代）
- 行政の方にはもっと現場に足を運び現場、現状を知って欲しいと思います。そこから何が不足しているのか、何が大切なのかを見い出して改善につなげて欲しいです。（20 代）
- 制度が変わる度に手続き等が複雑になり、障害者や高齢者の親は付いて行けません。親の亡き後、残された障害者の人たちが生きにくいことにならない様願っています。（40 代）
- 災害時に施設だけでは対応しきれない。利用者だけでなく、地域の方の避難場所にもなれるよう災害対策の設備に行政からも補助をしてほしい。（40 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

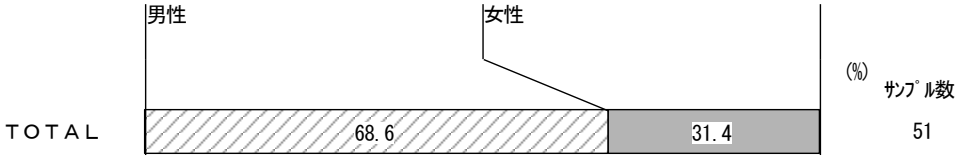
「本人が記入」が 62.7%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 9.8%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 21.6%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

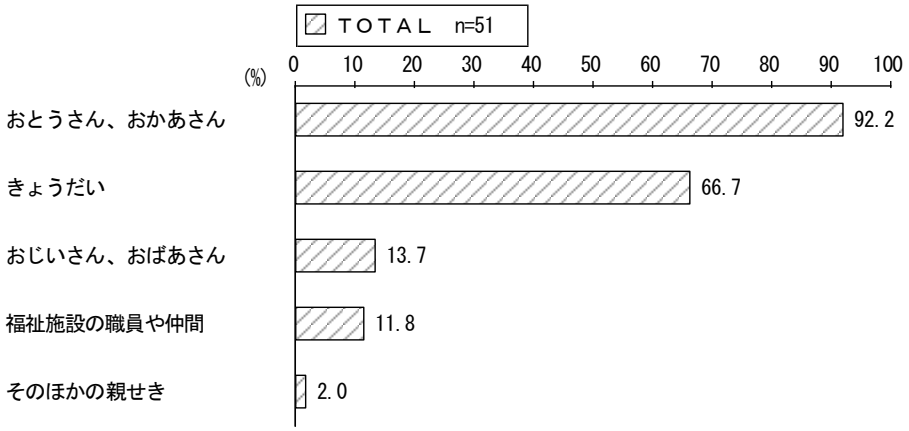
男性が 68.6%、女性が 31.4%である。



（３）同居者

問３ いっしょに暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

92.2%の人が「おとうさん、おかあさん」と暮らしている。また、66.7%の人は「きょうだい」と同居している。



（４）障害の状況

問６ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」生徒が 96.1%である。

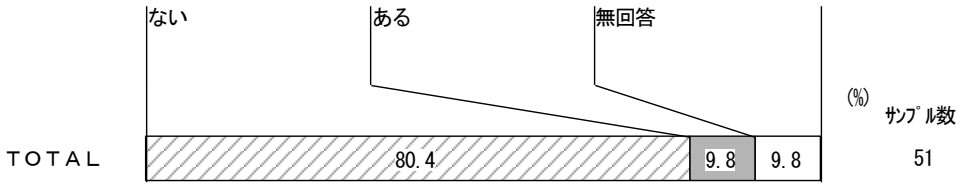
障害の重複状況をみると、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」49 人のうち 10 人（20.4%）は、「発達障害と診断されたことがある」と回答している。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	51 100.0%	5 9.8%	49 96.1%	1 2.0%	10 19.6%	1 2.0%
身体障害者手帳を持っている	5 100.0%	5 100.0%	4 80.0%	－ －	－ －	－ －
みどりの手帳（療育手帳）を持っている	49 100.0%	4 8.2%	49 100.0%	1 2.0%	10 20.4%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	1 100.0%	－ －	1 100.0%	1 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	10 100.0%	－ －	10 100.0%	－ －	10 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	1 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0%

（５）障害程度区分

問７ 障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」生徒は 51 人中５人（9.8%）で、区分としては「区分１」が２人、「区分４」「区分５」「区分６」がそれぞれ１人ずつである。

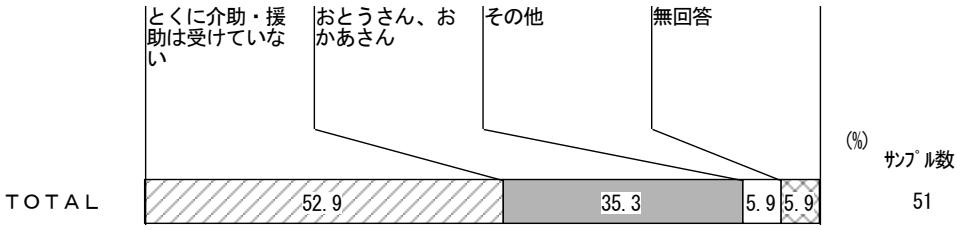


2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問４ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

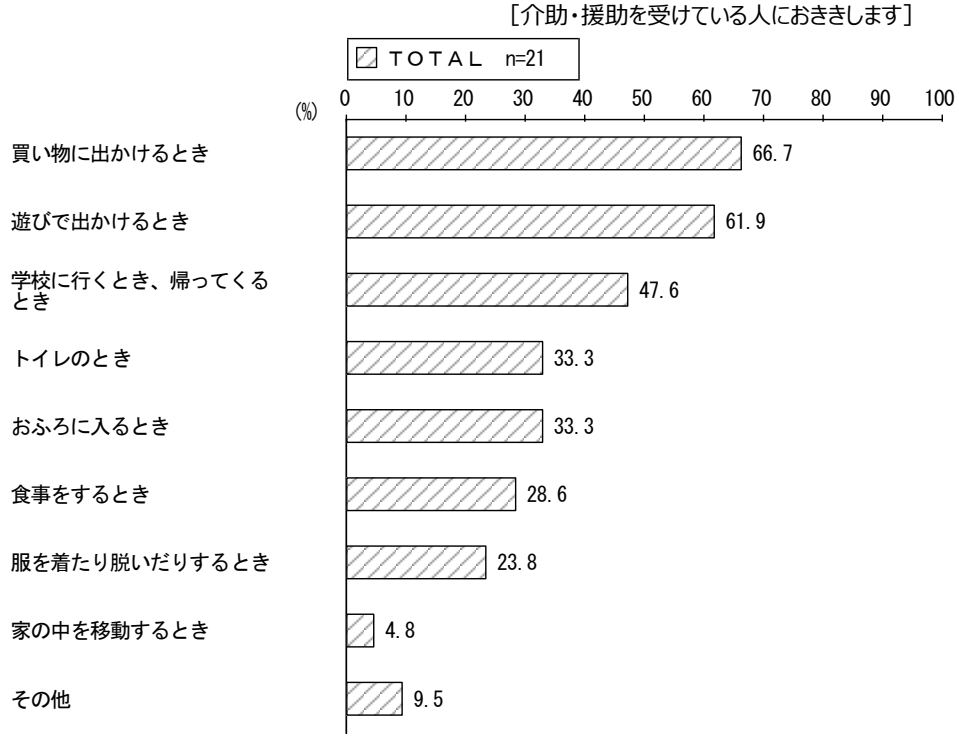
52.9%の生徒は「とくに介助・援助は受けていない」が、主な介助・援助者として「おとうさん・おかあさん」をあげる人が 35.3%いる。



（２）介助・援助を受けている場面

問６ どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

実際に介助・援助を受けている場面としては、「買い物に出かけるとき」が 66.7%と最も多く、次いで「遊びに出かけるとき」（61.9%）、「学校に行くとき、帰ってくるとき」（47.6%）と続いている。



回答者全員（51 人）を母数として、それぞれの場面で実際に援助・介助を受けている生徒の割合をみると、「学校に行くとき、帰ってくるとき」に介助・援助を受けている生徒は全体の約２割（19.6%）ということがわかる。

《回答者全員を母数とした場合の介助・援助を受けている人の割合》

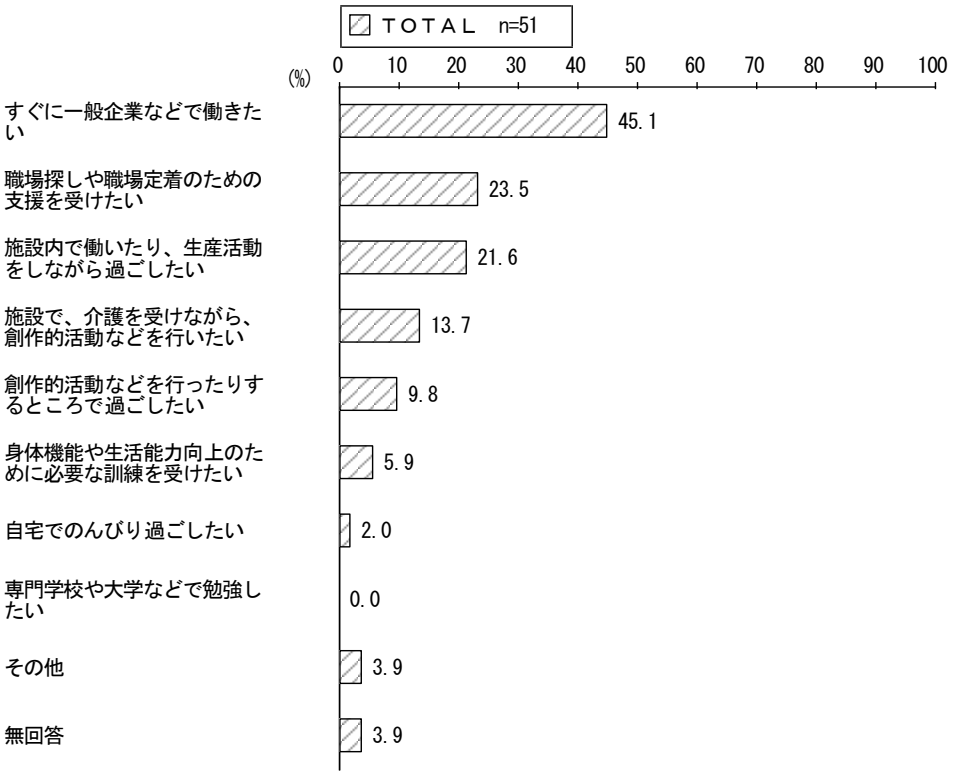
	買い物に出かけるとき	遊びで出かけるとき	学校に行くとき、帰ってくるとき	トイレのとき	おふろに入るとき	食事をするとき	服を着たり脱いだりするとき	家の中を移動するとき	その他
n=51	27.5%	25.5%	19.6%	13.7%	13.7%	11.8%	9.8%	2.0%	3.9%

3 学校卒業後について

（１）学校卒業後の日中の過ごし方

問８　学校を卒業したら、どのように日中を過ごしたいと思いますか。過ごしたいと思うところ（過ごし方）を選んで○をつけてください。過ごしたいと思うところが、いくつもある場合には、いくつも○をつけていただいてかまいません。（○はいくつでも）

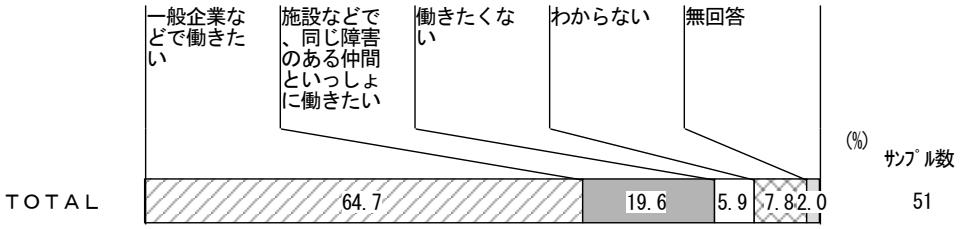
学校卒業後の日中の過ごし方についての希望を尋ねたところ、45.1%の生徒は「すぐに一般企業などで働きたい」と回答している。



（２）就労意向

問９　今後、あなたは、一般の会社などで働いてみたいと思いますか。卒業してすぐにではなく、将来、さまざまな条件・支援が整った場合を想定してお答えください。（○は１つ）

将来、様々な条件・支援が整った場合を想定して、「一般企業などで働きたい」と回答した生徒は 64.7%、「施設などで、同じ障害のある仲間といっしょに働きたい」と回答した生徒は 19.6%で、「働きたくない」と考えている生徒は 5.9%にとどまっている。



（３）働くために整っていればよいと思う環境・支援

問 10 そのような働き方をするためには、どのような環境が整っていればよいと思いますか。また、どのような支援が必要になると思いますか。

[今後、働いてみたい人におききます]

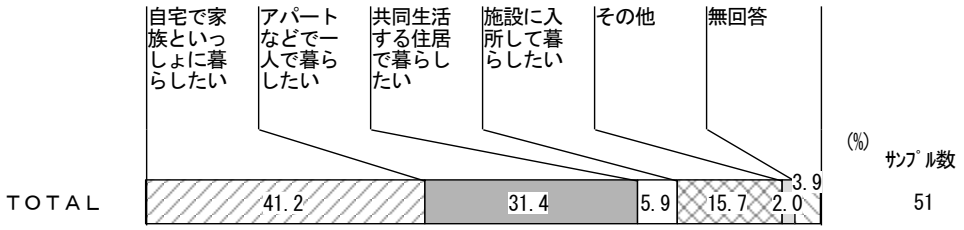
働くために整っていればよいと思う環境・支援等については、具体的に次のような記入があった。

- 時給が高いところで働きたい。
- ふつうに働けるようにしたい。
- あまり遠すぎないところが良い。電車の乗り換えは多すぎない方が良い。
- わきあいあいと人とつき合える環境がいいです。
- やりがいが感じられる職場・仲間。
- だれからも、好かれて、話しやすい、明るい環境。
- あきっぽいところがあるので、勤務時間の配慮がほしいと思っています。
- 仕事をきめておくこと。
- その人にあった仕事内容をさがす。
- 障害の程度を理解して頂き、定期的に面談等の時間を作ってもらいながら、日々働いている様子を見守って頂けたらと思います。困ったことがあったらすぐに相談にのってもらえる体制。
- 指導される職員さんの、その子に適した指導方法で長い目で見守って頂ける環境。
- 相手とどう接したらいいかわからない。仲良くなれる方法を知りたい。
- 人間関係を広めたい。
- 生活について学びたい。
- 雇用形態の安定
- 定着支援
- お金の計算、お金の管理が一人では出来ない。切符を購入する時に手伝ってほしい。
- 障害者の人数に対して福祉施設が不足してきているので新しい施設を作っていただきたい。
- 通所施設（作業所等）への送迎の支援が必要。
- 車いすで移動しやすい道路がたくさんできるといい。

（４）希望する暮らし方

問 11 将来はどこで暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来については、41.2%の生徒が「自宅で家族といっしょに暮らしたい」、31.4%の生徒が「アパートなどで一人で暮らしたい」と考えている。また、「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が 15.7%みられる。



（５）希望する暮らしをするために必要な支援、不安な点

問 12 そのような暮らしをするためには、どのような支援が必要になると思いますか。また、不安な点などがありましたら、自由にお書きください。

必要になる支援や、不安な点などについては、具体的に次のような記入があった。

【必要とする支援】

- お金の計算、お金の管理が一人ではできない。切符を購入する時に手伝ってほしい。
- ガスがつかないようにするにはどうすればいいか知りたい。
- 家族の許可と児童相談所の許可。
- 入浴に際して少し支援が必要。
- 歩行障害があっても暮らしやすいアパートがあるといい。
- 家族にめいわくをかけたくないから、自立してアパートにひっこして暮らしたい。
- 親がいなくなった後、結婚できたとしても、生活していくためには金銭的な面で援助が必要。
- 家族の支援が困難となったときに、支援してくれる（一時入所施設の利用等）環境が必要になる。
- ほとんど全介助なので、入所施設で 24 時間施設の職員の方に見て頂ける施設は、絶対に必要。
- 環境、設備、人手の整った施設が市内に少ない。また、混んでしまって入所できない状態なので、行政の指導のもとでもっと作って欲しい。
- 相談

【不安な点】

- お母さんとお父さんが、いなくなったらどうしようかが不安。
- 不安点は大地震の時どうやって避難するか。
- 家事が少々不安。

（６）意見・要望等

最後に、市へのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、具体的に次のような記入があった。

【環境整備などに関すること】

- 駅を利用する時、困っていたら声をかけてくれる人がいつもいてほしい。歩行者用の道の段差をなくしてほしい。
- 車のマナー違反が多い。盲学校周辺の点字ブロックを直して欲しい。
- 川越市は緑多く、落ち着いた暮らしやすい街だと思いますが、まだまだ障害のある人達が安心して暮らせる十分な施設、道路整備や人力の配置ができていると思えません。

【施設の整備などに関すること】

- 将来結婚できなければ最終的には施設に入って生活していくようになると思いますが、そういう施設が少ないと思うので増やしてほしいです。
- 川越市は、作業所等は多く、選択できるが、日中一時や短期入所を利用できる施設は少ない。

・ 両親が年をとったとき、介助できなくなったときに施設に入れるのか。

【就労に関すること】

・ 雇用の拡大
・ 就職に対しての不安がいっぱいになってきました。いつも、ビクビクしながら生活をしています。就職とは、どんなものかまだ分からない部分があります。でも、いつまでもハッキリさせないでいると、時間ばっかりが過ぎて、もったいないなぁと感じています。たとえ、就職したとしても、長く続けられるかどうか、「辞めて下さい」と言われるか、という不安が自分の中で生まれてきます。もし、就職をしたとしたら、約 40 年近く仕事をしていかないと思うと同じ職場でずっと仕事ができるかというところでまた同じ不安が頭をよぎります。
・ 特別支援学校の在籍している生徒を考えると福祉的就労するための施設が不足しています。皆が安心して働ける場は絶対に必要なため早急に川越市内に施設を作っていただきたいです。
・ 移行支援から企業へと国や行政が言うのなら、市の施設でもっと雇用して下さい。

【障害に対する理解に関すること】

・ 障害者だからってなめないで、ふつうの態度をしてほしい。
・ 職場の方々に見た目だけで判断しないでほしいです。障害者だからといって子ども扱いしないでほしいです。

【その他】

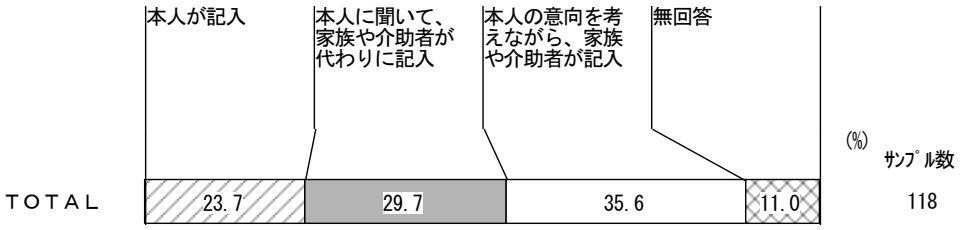
・ もう少しボランティアの数を増やしてください。
・ 学校にクーラーをつけて下さい。
・ 給食の量を増やしてほしい。
・ 市民グラウンドを使用できるようにしてもらいたい。
・ 可能な範囲でできるだけサービス等を利用しながら、自宅で家族と一緒に過ごせたらと思っていますが、家族の支援が困難な状況となった時に、柔軟に対応していただけるようお願いできればと思います。
・ 障害の程度としては重くないかもしれませんが、健常者と同じように働くこともできない。そんな状態の人をなんとか援助（金銭的）してもらえるようにしてほしいです。
・ オアシスの利用、運営について。障害者、障害児、高齢者の区分をきちんと行政が見すえて、ごったにならない福祉を実施して下さい。

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

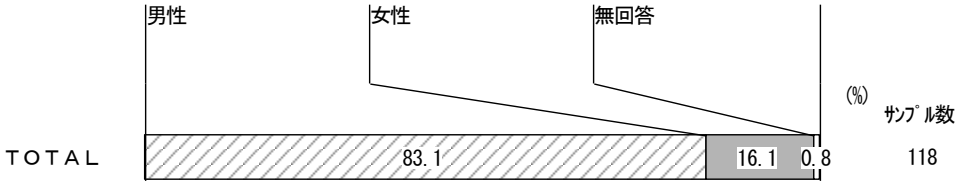
「本人が記入」が 23.7%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 29.7%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 35.6%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

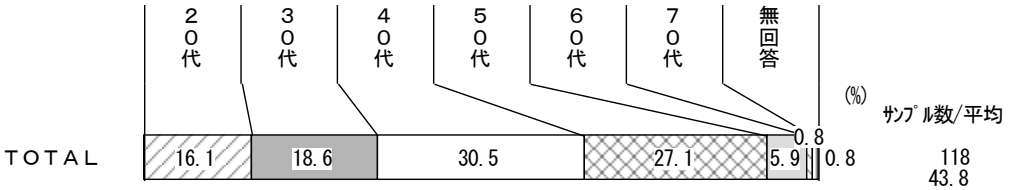
男性が 83.1%、女性が 16.1%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

20 代 16.1%、30 代 18.6%、40 代 30.5%、50 代 27.1%で、平均年齢は 43.8 歳である。



（４）障害の状況

問４ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人が 88.1%である。

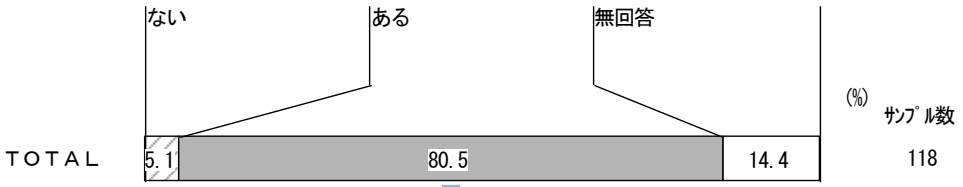
障害の重複状況をみると、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人のうち 27.9%は、「発達障害と診断されたことがある」と回答している。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	118 100.0%	10 8.5%	104 88.1%	5 4.2%	31 26.3%	9 7.6%
身体障害者手帳を持っている	10 100.0%	10 100.0%	9 90.0%	1 10.0%	－ －	－ －
みどりの手帳（療育手帳）を持っている	104 100.0%	9 8.7%	104 100.0%	2 1.9%	29 27.9%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	5 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	31 100.0%	－ －	29 93.5%	－ －	31 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	9 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	9 100.0%

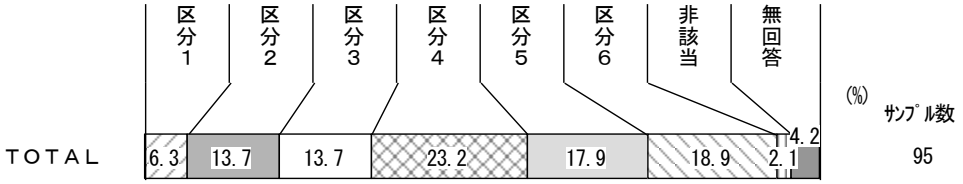
（５）障害程度区分

問５ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」と回答した人は 80.5%で、区分としては「区分４」が 23.2%と最も多い。



《認定区分内訳》

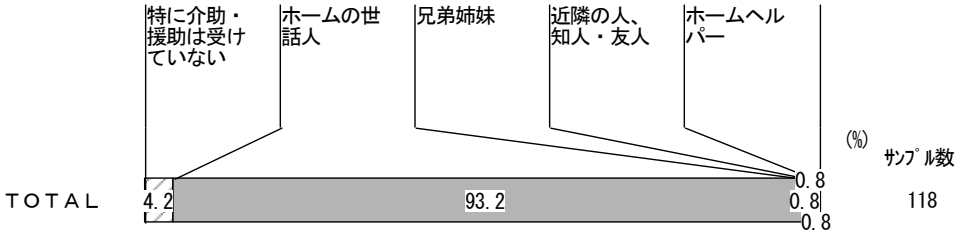


2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問６ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

主な介助・援助者は、「ホームの世話人」が 93.2%である。

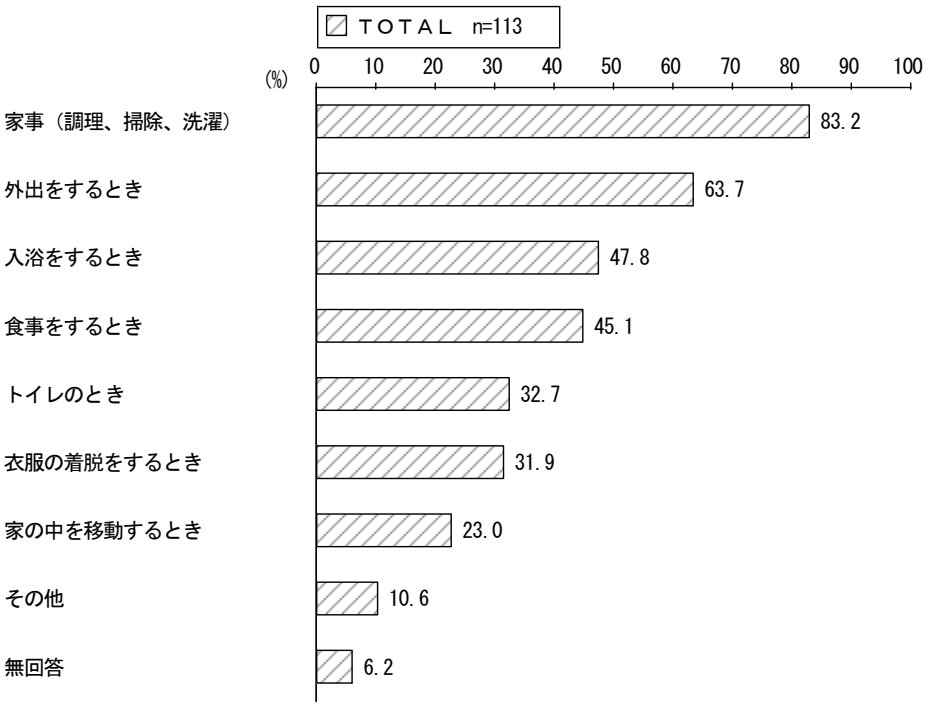


（２）介助・援助を受けている場面

問７ どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「家事（調理、掃除、洗濯）」が 83.2%と最も多く、次いで「外出をするとき」（63.7%）、「入浴をするとき」（47.8%）と続いている。



なお、その他の回答としては、「金銭管理」、「服薬時」などの回答があった。

（３）外出で介助・援助を受けているときの外出目的

問８　どのような目的で外出するときに介助・援助を受けていますか。具体的にお書きください。

［外出するとき、介助・援助を受けている方におききします］

外出目的を尋ねたところ、66 人から具体的に次のような記入があった。

※ １人で複数の記入があった場合には、それぞれにカウント

目的	件数
余暇・レクリエーション	46
買い物	40
通院	26
通勤	6
食事	6
帰寮	6
帰宅	6
その他	14

余暇・レクリエーション内訳	件数
余暇	14
レクリエーション	13
カラオケ	9
映画	5
スポーツ観戦	1
図書館	1
プール	1
ボーリング	1
青年学級	1

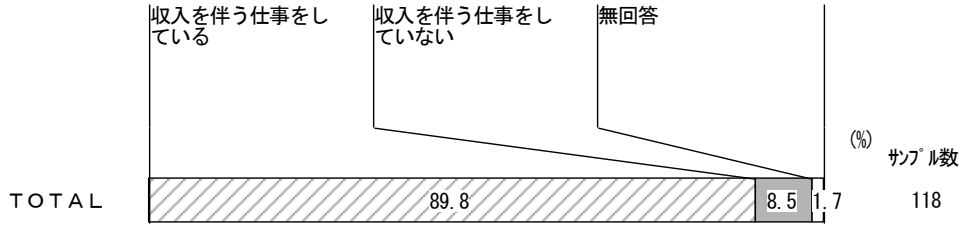
その他内訳	件数
公共交通機関	7
散髪	2
作業所	1
散歩	1
遠出	1
墓参り	1
帰省	1

3 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問９ 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、約９割の人は「収入を伴う仕事をしている」（89.8%）。

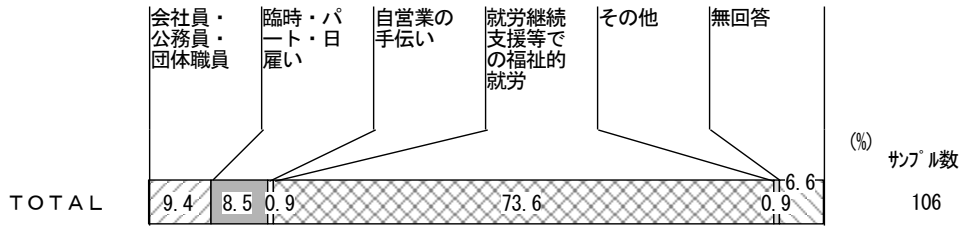


（２）仕事の形態

問 10 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

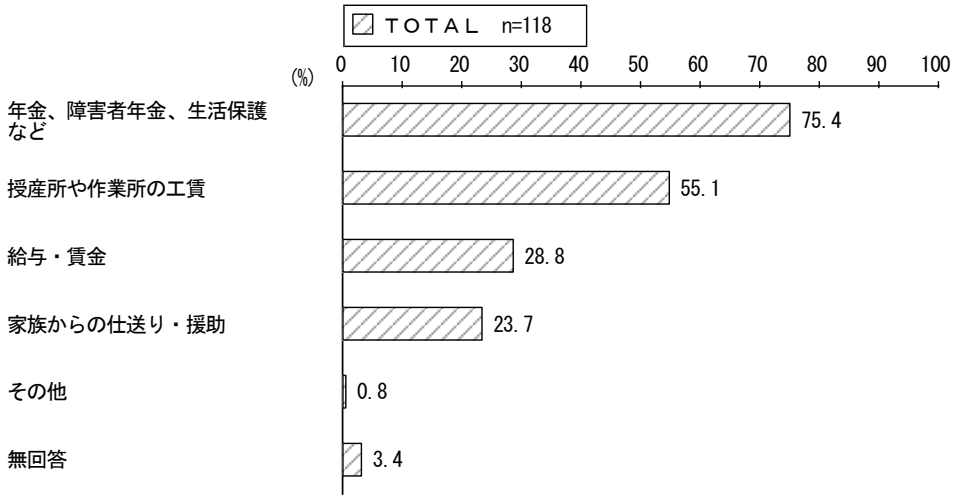
仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 73.6%を占める。



（３）生活を支える収入

問 11 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支える収入としては、75.4%の人が「年金、障害者年金、生活保護」をあげている。

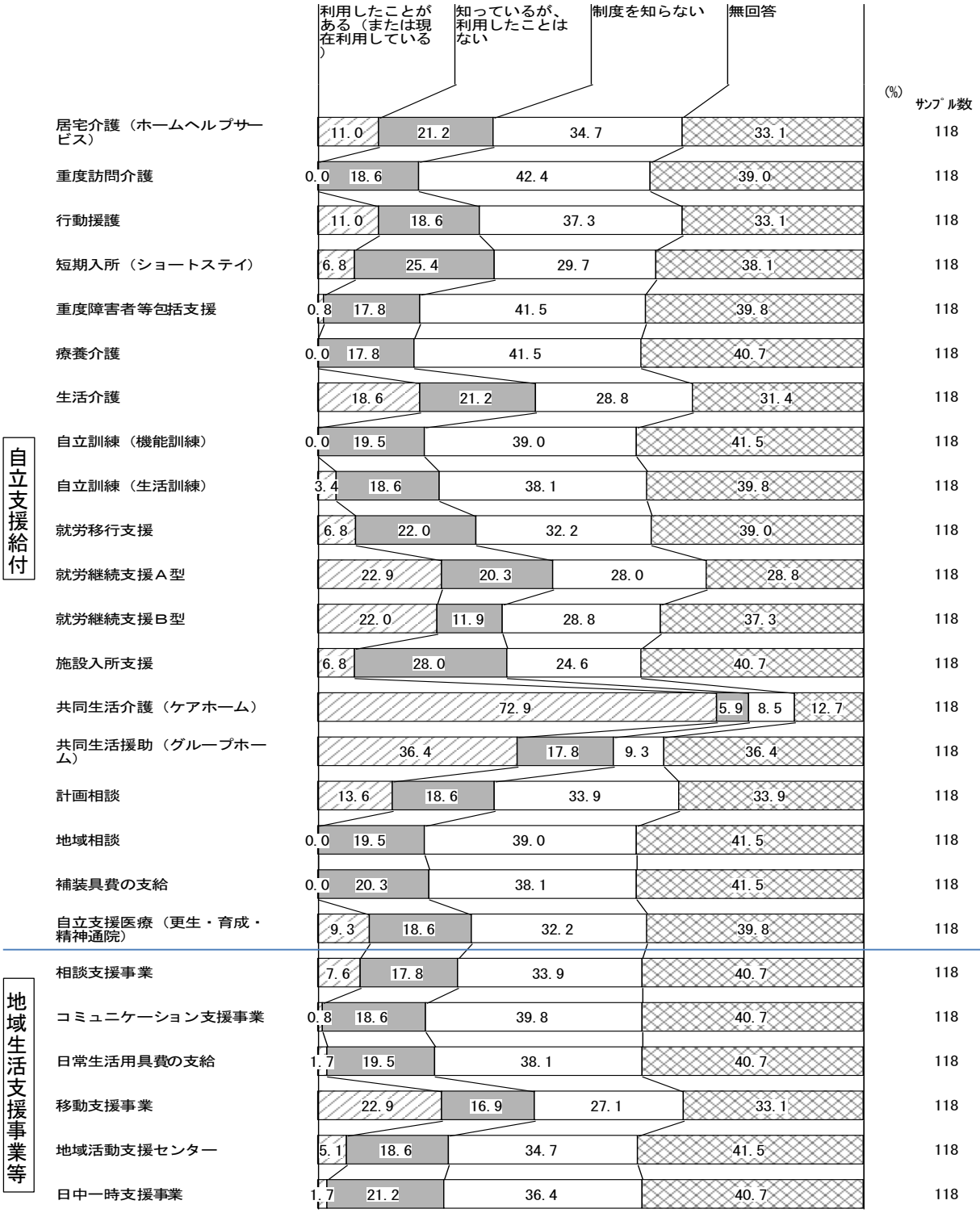


4 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 12 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

利用した経験のある人の割合が最も高いサービスは、「共同生活介護（ケアホーム）」（72.9%）と「共同生活援助（グループホーム）」（36.4%）を除くと、「就労継続支援 A 型」と「移動支援事業」で、それぞれ22.9%の人が「利用したことがある（または現在利用している）」と回答している。



（２）サービスを利用していて困ったこと

問 13 利用したことのあるサービスについて、何か困ったことや不満だったことがありましたら、自由にお書きください。

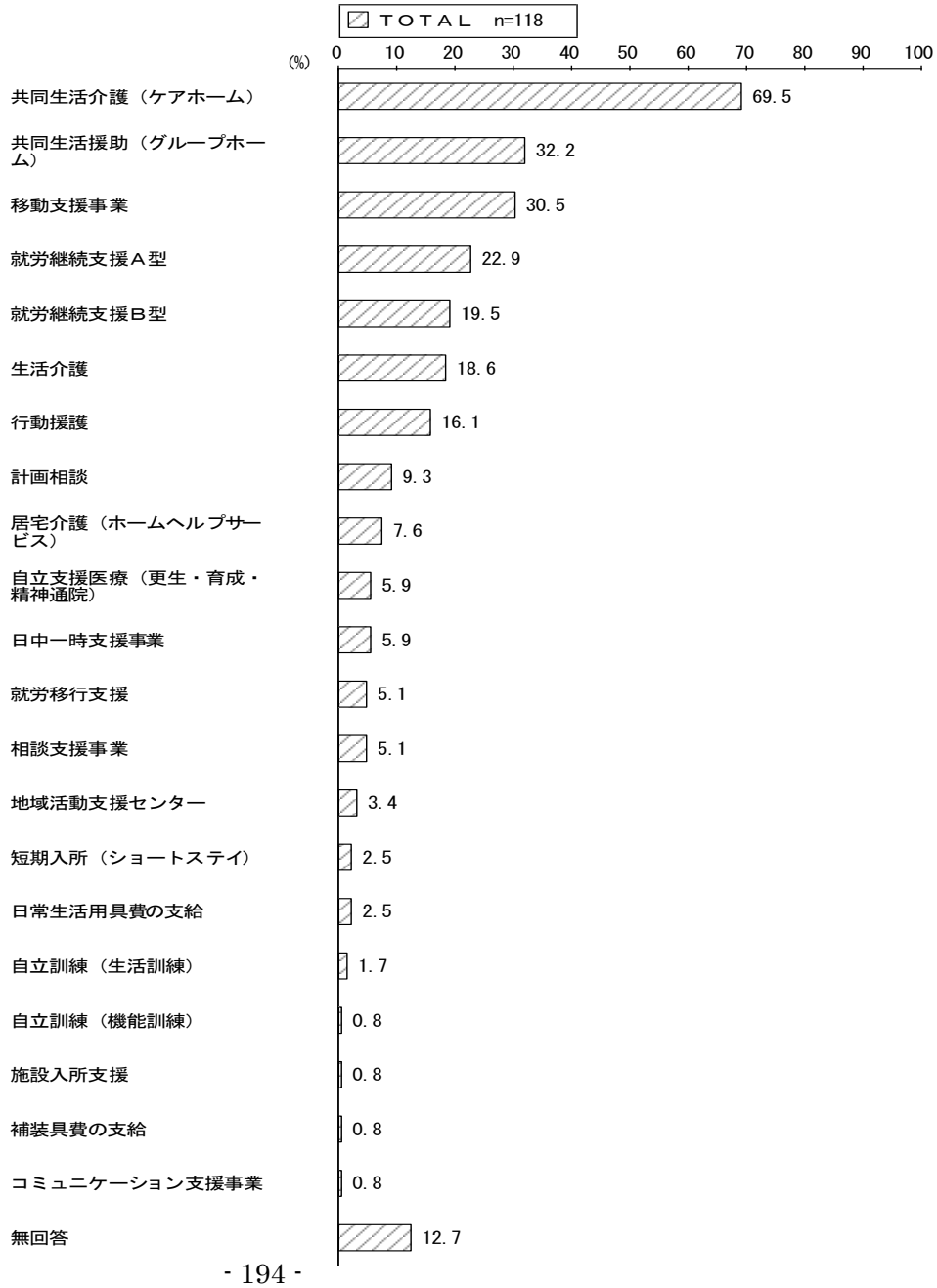
困ったことや不満については、具体的に次のような記入があった。

- デイサービスで風呂に入りたい。（50 代）
- ヘルパーさんをもっと利用したいが、ホームに入っているので制限がある。（40 代）
- 一緒に行きたいヘルパーがいつも忙しくて利用できない。（20 代）
- 休日も平日と同じように世話人や支援員が入ってほしい。（30 代）
- トラブル（けんか）があった。頭をぶつけた。（50 代）

（３）サービスの利用意向

問 14 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは「共同生活介護（ケアホーム）」（69.5%）、次いで「共同生活援助（グループホーム）」（32.2%）、「移動支援事業」（30.5%）と続いている。



（４）利用してみたいサービス

問 15 利用してみたいと思うサービス、このようなサービスがあったらよいと思うサービスがありましたら、自由にお書きください。

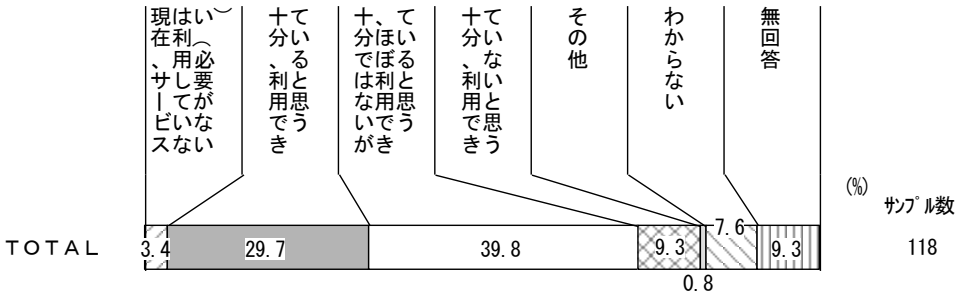
利用してみたいサービス、あったらよいと思うサービスとしては、具体的に次のような記入があった。

- パソコンの初級教室が近くで受けられるとよい。（30 代）
- 得意な折り紙サークルなどが近くにあって、通えたらよい。（40 代）
- 支援員やヘルパーさんと泊りの旅行に行ってみたい。（30 代）
- ホームヘルパーを利用してみたい。（50 代）
- 外出支援をしてもらう。（30 代）
- お風呂に入れるサービス。（50 代）
- 散歩に行きたい。（50 代）

（５）サービス利用についての充足度

問 16 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」と回答した人が 29.7%、「十分ではないが、ほぼ利用できていると思う」が 39.8%で、合わせると約７割の人は概ね必要だと思うサービスを利用できている状況がうかがえるが、「十分、利用できていないと思う」人も 9.3%みられる。

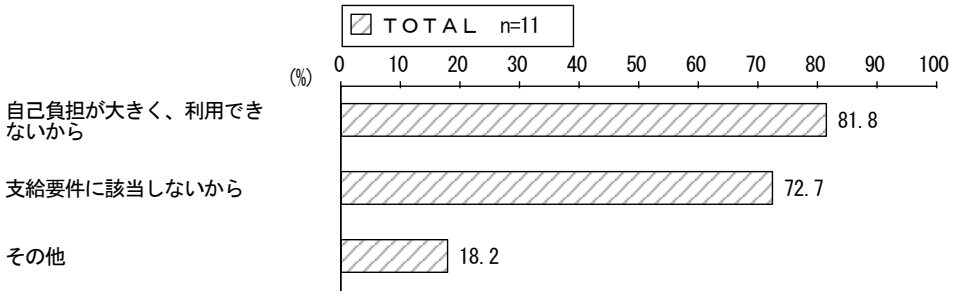


（６）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 17 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「自己負担が大きく、利用できないから」をあげる人が 81.8%と最も多く、次いで「支給要件に該当しないから」が 72.7%となっている。

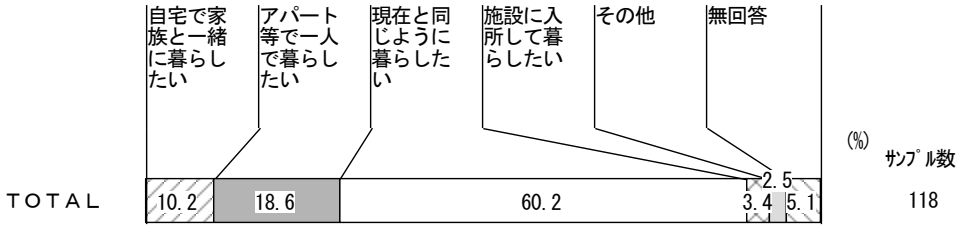


5 将来の希望

（１）希望する暮らし方

問 19 今後は、どこで暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

今後、希望する暮らし方としては、約６割の人が「現在と同じように暮らしたい」（60.2%）と回答しているが、約２割の人は「アパート等で一人で暮らしたい」（18.6%）、約１割の人は「自宅で家族と一緒に暮らしたい」（10.2%）と考えていることがわかる。



（２）希望する暮らしをするために必要な支援

問 20 問 19 でお答えいただいたような暮らしをするためには、どのような支援が必要になると思いますか。また、不安な点などがありましたら、ご自由にお書きください。（○はいくつでも）

必要になる支援や、不安な点などについては、具体的に次のような記入があった。

【必要とする支援】

- お金のやりくり。（20 代）
- 料理ができないので習いたい。（50 代）
- 入院したときの医療的な支援。（50 代）
- 火の取り扱いが心配なので、そこだけ見てほしい。（50 代）
- 近くに相談できるところや人がいてほしい。（40 代）
- 必要なときに相談にのってくれる人が近くにいてほしい。（30 代）
- 入所してもヘルパーを利用したい。（40 代）

【不安な点】

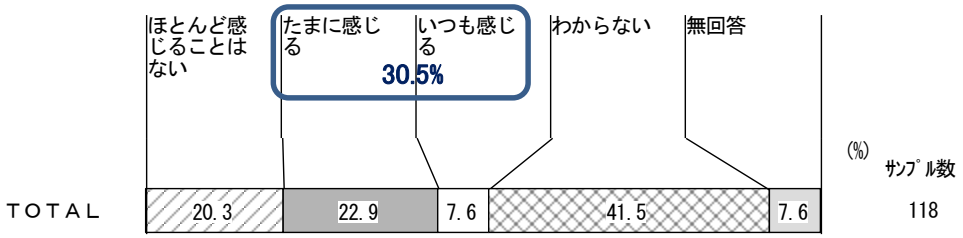
- グループホームの利用者同士がけんかをするのが困る。（20 代）
- 彼女ができなくて困る。（20 代）
- 人の会話になじめないこと。（30 代）
- 入所施設ではヘルパーが利用できないので、映画などにどうやって行ったらよいかわからない。（20 代）

6 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 21 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

約２割の人は、障害があることによる差別や疎外感を「ほとんど感じることはない」（20.3%）と回答しているが、「たまに感じる」（22.9%）と「いつも感じる」（7.6%）を合わせると、約３割の人は差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 22 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

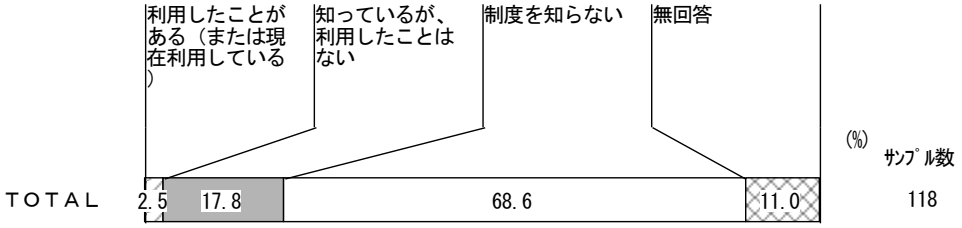
差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

- 友だちと話したいと思うとき。なかなか友だちができないとき。（20 代）
- 話している言葉がわからないとき。（20 代）
- なかなか相手に伝えられないとき。（30 代）
- 支援者がいないとき、買い物を断られたことがある。（20 代）
- 中学生に「しんたい」とばかにされた。（20 代）
- 電車やバスの中で。（20 代）
- 公共交通機関などでの周りのひとの視線。（50 代）
- 歩いているときにやじをとばされる。（20 代）
- 同じホームの人に「ばか」とか言われる。（60 代）
- スケッチスクールの中で疎外感を感じるときがある。（50 代）
- 見た目が普通だからか、できないことがあっても理解してもらえない。（30 代）
- 仕事中（50 代）
- 一生懸命仕事をしているのに、給与が少ないこと。（20 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 23 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

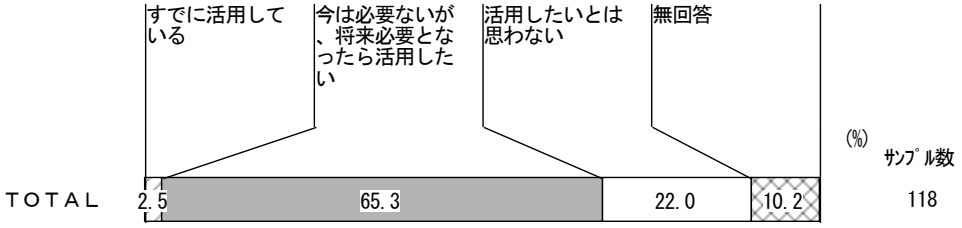
「あんしんサポートネット」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 3 人（2.5%）、「知っているが、利用したことはない」人は 17.8%で、合わせると事業のことを知っている人は約２割（20.3%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 24 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

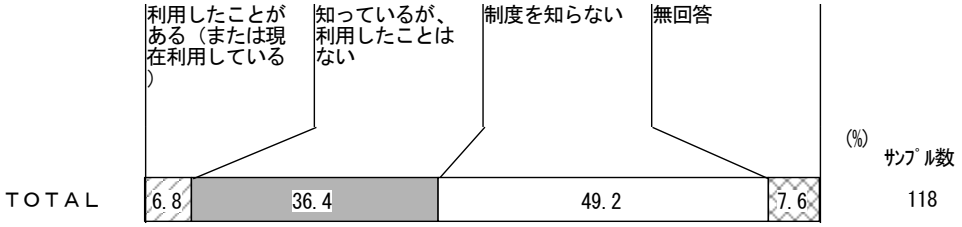
「あんしんサポートねっと」については、65.3%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 25 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

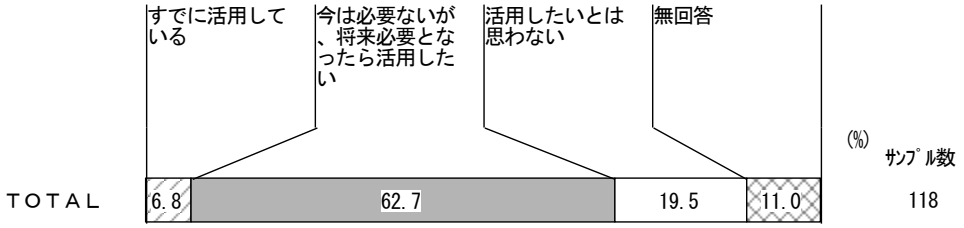
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 8 人（6.8%）で、約半数の人は「制度を知らない」（49.2%）と回答している。



（６）成年後見制度の利用意向

問 26 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、62.7%の人が「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と回答しており、「すでに活用している」（6.8%）人を含めて、約７割の人には制度の利用意向があることがわかる。



7 行政への要望等

（１）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、具体的に次のような記入があった。

- もっと自由にたくさんヘルパーを利用したい。ヘルパーが少ない。制限があり使いたいときに使えない。（50 代）
- アンケートがちょっと難しい。もう少しわかりやすいものにしてほしい。（50 代）
- 作業所の工賃がもっと上がってほしい。（20 代）
- 電車やバスを利用するとき、運転手の対応が適当だと思うことがある。障害者への配慮が足りない。（20代）
- 電車のホームで並んでいるときに、「障害者は後ろに行け、壁側に行け」と言われた。差別をなくしてほしい。（20 代）
- グループホームを増やしてほしいです。（20 代）
- ヘルパーの時間を増やしてほしい。（50 代）
- ここ（現在のグループホーム）にずっと住みたい。（20 代）
- 家族に会いたい。（60 代）
- 歌が好きなので、歌がうたえるところ、機会があるといい。（20 代）
- 社会復帰のアパート探しなどを協力してほしい。（50 代）
- 親の金銭的援助がなくても、一人暮らしができるくらいの経済力を持ちたい。そのための援助があるとよい。（30 代）
- 選挙の議員の名前がわからないから、選挙に行きたくない。（20 代）
- 他の作業所や事業所、ホームを見学してみたい。交流してみたい。（40 代）

1 基本的な属性

（1）調査票記入者

	n	本人が記入	本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入	本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	54.5%	9.1%	18.2%	18.2%

（2）性別

	n	男性	女性
高次脳機能障害者	1	－	100.0%
発達障害者	11	63.6%	36.4%

（3）年齢

	n	10 代	20 代	30 代	平均年齢
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	38.0 歳
発達障害者	11	45.5%	27.3%	27.3%	23.0 歳

（4）居住場所

	n	自宅
高次脳機能障害者	1	100.0%
発達障害者	11	100.0%

（5）同居者

	n	自分一人だけで暮らしている	配偶者（夫または妻）	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他の親せき
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	72.7%	9.1%	45.5%	9.1%

（6）精神障害者保健福祉手帳に記載された障害程度

	n	1級	2級	3級
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	36.4%	54.5%

（7）診断を受けた年齢

	n	10 歳未満	10 代	20 代	30 代
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	36.4%	27.3%	18.2%

（８）日常生活を送る上で特に困ること、その際にあるとよい支援

問８ 発達障害があるために、日常生活を送る上で特に困ることは何ですか。
問９ 問８のようなときに、どのような支援があるとよいと思いますか。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

困ること、また、そのときにあるとよいと思う支援の内容としては、具体的に次のような記入があった。

困ること	あるとよい支援
人とうまく話せない。（10 代）	理解
相手の言っている冗談をつい本気でとらえてしまう。そのせいで会話中にトラブルを起こしてしまう。（20 代）	「もちろん冗談を言っているのですが」という前置き（クッション言葉）を入れる。
気持ちの切り替えがうまくできない。変更ができない。（10 代）	見通しを持たせる。スケジュールを毎日書いておく（変更してもよいと教えておく。）
コミュニケーションがとりにくい。（30 代）	意図を明確にする。視覚化する。
生活が不規則。（10 代）	施設（寮のようなところ）
片付けが苦手。（10 代）	—
音が気になる。会社の電話がとれない。（30 代）	相談できる人がほしい。
知的障害がないため、理解を得るのが難しい。学校などの集団生活、こだわり行動、感覚過敏など。（10 代）	療育手帳があると支援につながりやすいので入手したい。障害に対する理解と、受け入れてもらえる場所と人。
体調の変化が激しい。（30 代）	—

（７）他の障害の状況

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	100.0%	－	－

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	高次脳障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない
発達障害者	11	18.2%	18.2%	－	－	63.6%

（８）障害程度の申請状況

	n	ない	ある	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	100.0%	－	－

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

	n	特に介助・援助は受けていない	親	配偶者	その他の親せき
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%

（２）介助・援助を受けている場面

	n	食事をするとき	食事をつくるとき	掃除をするとき	通院のとき	服薬をするとき	買い物をするとき	洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき	お金の管理をするとき	外出をするとき	人とコミュニケーションをとるとき
高次脳機能障害者	1	100.0%	100.0%	－	100.0%	－	－	100.0%	100.0%	－	－
発達障害者	6	－	50.0%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	83.3%	66.7%	66.7%	50.0%

（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

	n	同居している家族	同居していない家族や親せき	ボランティア	ホームヘルパー	その他
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	100.0%	－
発達障害者	6	66.7%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%

3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

	n	週に 5 日以上	週に 3～4 日	週に 1～2 日	月に 2～3 日
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	63.6%	18.2%	9.1%	9.1%

（２）外出の際に困っていること

	n	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	その他	特に困っていることはない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%	18.2%	36.4%	18.2%

（３）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

	n	趣味の活動をする	教養・資格取得等に関する学習をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	スポーツをする	地域の行事に参加する	図書館・博物館等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	36.4%	9.1%	27.3%	63.6%	9.1%	9.1%

（４）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

	n	趣味の活動をする	教養・資格取得等に関する学習をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	スポーツをする	旅行に出かける	図書館・博物館等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－	100.0%	－	－	－	－
発達障害者	11	45.5%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	36.4%	36.4%	63.6%	9.1%	45.5%	18.2%	9.1%

（５）希望する活動を行うために必要な条件

	n	情報が市の広報や町内広報その他で広く提供されること	一緒に行く仲間がいること	活動する場所が近くにあること	魅力的な内容であること	適切な指導者がいること	障害のある人に配慮した施設や設備があること	介助者・援助者がいること	特にない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	36.4%	54.5%	36.4%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%

（６）近所とのつきあいの程度

	n	積極的に行っている	必要に応じて行っている	あいさつ程度はしている	ほとんど行っていない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	－	－	27.3%	63.6%	9.1%

4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

	n	健康である	通院はしていないが、病弱・病気がちである	通院している
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	54.5%	－	45.5%

（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

	n	近所に診てくれる医師がいない	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	診療をことわられる	気軽に往診を頼める医師がいない	症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	医師、看護師等の障害に対する理解が不十分	入院のとき付き添いや個室を強いられる	受診手続き案内など、障害のある人への配慮が不十分	医療費の負担が大きい	特に困ったり、不便に思うことはない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	27.3%	45.5%	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%	36.4%	9.1	9.1%

（３）健康診断（健康診査）の受診状況

	n	市の健診・検診を受けた	人間ドック等を受けた	勤務先で健康診断を受けた	学校や福祉施設で健康診断を受けた	その他の場所で健康診断を受けた	健康診断は受けていない
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	－	－	27.3%	27.3%	18.2%	27.3%

5 日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方

	n	幼稚園や保育園、学校などに通っている	働いている	自宅にいることが多い
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	54.5%	27.3%

6 幼稚園・保育園・学校について

（１）通園・通学先

	n	小学校、中学校、高等学校	特別支援学校	専門学校・高等技術専門学校
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%

（２）幼稚園・保育園・学校に関して困っていること

	n	友だちができない	職員の理解が得られない	学校の数が少ない	生徒の理解が得られない	その他	特に困っていることはない
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

（３）学校教育終了後の希望

	n	高等技術専門学校に進学したい	障害者施設に通所したい	就職したい
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%

7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

	n	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事をしていない
高次脳機能障害者	1	－	100.0%
発達障害者	11	54.5%	45.5%

（２）仕事の形態

	n	会社員・公務員・団体職員	臨時・パート・日雇い	就労継続支援等での福祉的就労
発達障害者	6	50.0%	33.3%	16.7%

（３）仕事で困ること、つらいこと

	n	通勤がたいへん	収入が少ない	仕事がきつい	仕事が合わない	職場の人間関係	職場の中の環境の未整備（トイレ、休憩室等）	コミュニケーションができない	体調のコントロールが難しい	その他
発達障害者	6	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	50.0%	33.3%	66.7%	83.3%	16.7%

（４）仕事をしていない理由

	n	就学中・技能研修中	自分の希望する仕事が見つからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	5	80.0%	20.0%	－

（５）就労意向

	n	働きたい	働きたくない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－
発達障害者	5	80.0%	20.0%

（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

	n	経営者の理解	従業員の理解	行政の民間企業指導	職業訓練施設の増設	就労継続支援施設の増設	就業あっせん窓口の充実	職業相談窓口の充実
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	81.8%	81.8%	36.4%	45.5%	27.3%	18.2%	27.3%

	民間企業の雇用努力	雇用率未達成企業の罰則強化	ジョブコーチの充実	就労継続支援等の障害者が働く状況、人の紹介	民間企業の障害者が働く状況、人の紹介	市の広報や社協だよりで障害者が働く状況、人の紹介	無回答
高次脳機能障害者	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	45.5%	18.2%	54.5%	45.5%	27.3%	18.2%	9.1%

（７）生活を支える収入

	n	給与・賃金	家族からの仕送り・援助	年金、障害者年金、生活保護など	無回答
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	100.0%	－
発達障害者	11	54.5%	54.5%	9.1%	9.1%

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

	n	家族等の同居人	友人・知人・近所の人	職場や学校の人	ボランティア	相談支援事業所の相談員	病院・医師・看護師等	その他	誰かに相談することはまれである	相談する人がいない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	54.5%	18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%

（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 37 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。
また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

- 職場等に相談窓口を設けることを義務付けるべきである。（20 代）
- 市役所などの窓口。予約なしでも、いつでも相談できる窓口がほしい。（10 代）
- 市の相談員。その日のうちに連絡が返ってきてほしい。（30 代）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

	n	知っている	名前は聞いたことがあるが、知らない	知らない
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	27.3%	45.5%

（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

	n	市・県の広報	市や県が発行する資料やパンフレット	市や県への問い合わせ	医療機関	テレビの広報番組	新聞や雑誌の福祉の関連記事	障害者の施設や団体等の機関紙やパンフレット	家族や仲間の話	その他	サービスの内容について知る手段がない
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	36.4%	45.5%	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%	27.3%	9.1%	18.2%

（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

	n	案内表示がわかりにくい	音声情報が少ない	文字情報が少ない	問い合わせ先にFAX番号等の記載がない	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	相手が介助者と話してしまう	複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	18.2%	18.2%	18.2%	90.9%	9.1%	45.5%	45.5%	9.1%	－

（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

	n	パソコンを利用して、情報を入手している	携帯電話を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	72.7%	27.3%	9.1%	9.1%

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

	利用したことがある（または現在利用している）		知っているが、利用したことはない		制度を知らない		無回答	
	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11
居宅介護(ホームヘルプサービス)	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
重度訪問介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
行動援護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
短期入所（ショートステイ）	－	－	100.0%	36.4%	－	45.5%	－	18.2%
重度障害者等包括支援	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
療養介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
生活介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
自立訓練（機能訓練）	－	9.1%	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	9.1%
自立訓練（生活訓練）	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
就労移行支援	－	18.2%	100.0%	27.3%	－	36.4%	－	18.2%
就労継続支援Ａ型	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
就労継続支援Ｂ型	－	18.2%	100.0%	9.1%	－	54.5%	－	18.2%
施設入所支援	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
共同生活介護（ケアホーム）	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
共同生活援助(グループホーム)	－	－	100.0%	36.4%	－	36.4%	－	27.3%
計画相談	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
地域相談	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
補装具費の支給	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
自立支援医療(更生・育成・精神通院)	－	54.5%	100.0%	9.1%	－	18.2%	－	18.2%
相談支援事業	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
コミュニケーション支援事業	－	－	100.0%	9.1%	－	72.7%	－	18.2%
日常生活用具費の支給	－	－	100.0%	18.2%	－	54.5%	－	27.3%
移動支援事業	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
地域活動支援センター	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
日中一時支援事業	－	－	100.0%	18.2%	－	54.5%	－	27.3%

（２）福祉サービスの利用意向

	n	居宅介護	行動援護	短期入所	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援Ａ型	就労継続支援Ｂ型	共同生活援助（グループホーム）	計画相談
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	27.3%	9.1%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%

地域相談	自立支援医療（更生・育成・精神通院）	相談支援事業	コミュニケーション支援事業	日常生活用具費の支給	移動支援事業	地域活動支援センター	日中一時支援事業	無回答
－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
9.1%	27.3%	27.3%	18.2	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	45.5%

（３）サービス利用についての充足度

	n	現在、サービスは利用していない（必要がない）	十分、利用できていると思う	十分ではないが、ほぼ利用できていると思う	十分、利用できていないと思う	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	18.2%	9.1%	45.5%	9.1%	9.1%

（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

	n	支給要件に該当しないから	どのようなサービスがあるかわからないから	利用の仕方がわからないから	その他
発達障害者	5	20.0%	60.0%	40.0%	20.0%

10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

	n	自宅でのんびり過ごしたい	一般企業などで働きたい	施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	職場探しや職場定着のための支援を受けたい	身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	学校に通いたい	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	36.4%	54.5%	18.2%	27.3%	27.3%	9.1%	27.3%	18.2%

（２）希望する暮らし方

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	その他	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－
発達障害者	11	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%

11 災害対策について

（１）災害時の避難について

	n	できる	できない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%

（２）災害時の周囲への連絡・通報について

	n	できる	できない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%

（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

	n	いる	いない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	54.5%	18.2%	18.2%

（４）避難場所の認知状況

	n	実際に行ったことがある	場所は知っているが行ったことはない	知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	36.4%	18.2%	27.3%

（５）避難に関する準備状況

	n	家族で避難の方法や避難場所について話し合っている	学校や職場での避難訓練を行っている	特にしていない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	27.3%	36.4%	45.5%	9.1%

（６）災害時に必要とする支援・援助

	n	必要な投薬や治療が受けられる	必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる	救助や避難時に声かけをしてくれる	避難するのを手助けしてくれる	被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる	コミュニケーションがとれるよう手助けしてくれる	避難所の設備(トイレ等)を充実させる	特にない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	100.0%	－	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	18.2%	27.3%	18.2%	54.5%	45.5%	54.5%	9.1%	9.1%

12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

	n	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－
発達障害者	11	－	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%

（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 55 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

差別や疎外感については、具体的に次のような記入があった。

- 相手の興味のあることを否定すると、注意されたりすることが多い。（20 代）
- 健常者と同じことができても、障害者扱いをされ、一緒にやらせてもらえない。（10 代）
- 障害と犯罪行為等を結びつけるような偏見。（20 代）
- 障害を理解してもらえない。（10 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

	n	利用したことがある（または現在利用している）	知っているが、利用したことはない	制度を知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	－	9.1%	72.7%	18.2%

（４）あんしんサポートねっとの利用意向

	n	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－
発達障害者	11	81.8%	9.1%	9.1%

（５）成年後見制度の認知状況

	n	利用したことがある（または現在利用している）	知っているが、利用したことはない	制度を知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	－	45.5%	45.5%	9.1%

（６）成年後見制度の利用意向

	n	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－
発達障害者	11	54.5%	36.4%	9.1%

13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

	n	在宅福祉サービスの充実	入所施設の整備	通所施設の整備	保健医療サービスの充実	地域で生活できる住宅の整備	暮らしやすい街づくり	療育・保育・教育の質の向上	働く機会の充実	一般企業以外での就労の場
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	45.5%	63.6%	36.4%

地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実	障害のある人についての理解を深めるための活動	財産管理の援助	災害時における避難誘導体制の確立	障害のある人の国際交流	障害者団体の自立活動に対する行政の支援	無回答
－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
9.1%	27.3%	45.5%	45.5%	9.1%	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%

（２）福祉サービス全般の満足度

	n	満足している	少し満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%

（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

意見・要望などとして、具体的に次のような記入があった。

- 発達障害者と健常者が仲良く協力し合える大学、短期大学があるとよい。（20 代）
- 自閉症の子供がいますが、この川越で不自由さを思うことはありません。市障害福祉課の職員の方はよい人ばかりで感謝しています。（10 代）
- 発達障害に対する誤解がまだまだ多くあると思う。特に障害と犯罪を結びつけるような主張。「自分が今まで接した障害者はこうだったから、あなたも同様の悪さをするはずだ」という無知からくる偏見もある。「社会に出てきちんと評価されている発達障害者の事例」を知ってもらうことが効果のある支援だと思う。（20 代）
- 医療費やカウンセリング費などの補助をいただけると生活が助かります。また、本当に具合が悪いとき、誰かに相談できるだけでも全然違うので、相談業務の拡充をお願いします。（30 代）
- 広汎性発達障害の子どもを育てています。学校では障害を全く理解していない指導がされています。本人がつらく苦しい思いを学校に伝えても、ほとんど理解されずにいます。具体的な例をあげてお願いしても、「○○さんはちゃんとやっている」「時間がとれない」「予算がない」という理由で取り合ってもらえません。これから教師になる人と現在教師をしている人には、発達障害の正しい知識を学び理解することを義務づけてほしい。（10 代）

川越市障害者支援計画アンケート調査
報告書

発行日　　平成２６年３月
発　行　　川越市障害者福祉課
　　川越市元町１丁目３番地１
電　話　　049-224-5785（直通）
ＦＡＸ　　049-225-3033